ルパン三世創作作品集
陽のあたる大通りで
II
JET
83.3.8

これは電話帳ではありません。
安心してお読み下さい…
どこ開けても絵と字ばっかり
な
めー
陽のあたる大通りで
そりゃおめー ヤギの卵さ 食うしか あんめー

目次①

☆ならんでいる順番を 知りたい人のために☆

☆雑誌気分を味わいたい人のために☆

エッセイ・ポエム 他

イラスト

目次②

まんが

小説・シナリオ

ふるさと もたない
あの人の
心の港に なりたいの

死のバトル☆ロイヤル
飯熊逵郎
イッノッキッ ボンバッイエィ!
イッノッキッ ボンバッイエィ!
わわわ
永田フォークリフト
東京プロレス新社
さあ、赤コーナーからは猪木の登場!!
赤コーナー! 燃える闘魂…
ブオッ
闘魂
アントニオ猪木〜〜っ
わーー わーー
イッノッキッ ボンバッイエイ!
イッノッキッ ボンバッイエイ!

青コーナー
大巨人…
ダッ！ダッ！ダッダ！
ダダーダッ！ダッ！ダッダッ
アンドレ・ザ・ジャイアントー！
アンドレのテーマ
輝く太陽おーー
背ェたーうけーてー
レフェリー！
あああああ
あれは何だ
アンドレ・ザ・ジャイアントだよ
鉄の塊りじゃねェか
こんなンに勝てっかよ
!!
鉄人ルー・テーズの例もあるではないの
チュドオン！
あれは鉄でできていたのかよ～～～

さ〜〜アンドレはゴング前から早くも対戦車レーザー攻撃です!!
上等じゃあねーか! よし来い私は誰とでもたたかう!
来いこのヤロー!!
ピ!
同じ手を2度もくうか!
あっ! やっぱし?!
とおおおおおーーっ
あ! 猪木ホントに怒りました! アンドレとガップリ四ツ
むんっ!
猪木はアンドレをもち上げるつもりです
まあームリでしょうねー(ハンセン言って!)アンドレ4トン半ありますからねー
お?

おおっ?!
あーっと猪木!アンドレの巨体を持ち上げた――!!
うおおおおぉぉ
そのままバックドロップの体勢――っ
ぱぱぱぱーん
強いっ!!猪木メチャメチャ強い!殆んどガクラン八年組です!
アンドレピクリとも動かない!ダウンだ
イッノッキッ イッノッキッ
か…勝った!
ニヤッ
イッノッキ!イッノッキ!
ゴゴゴ
あっ……
猪本Vサインです!
キイィ…
わーわー

……
……
ト。
ぎゃ
わーっ
何だ何だ
わっはははははは
ミ…
ミミミ萩原
〜〜〜っ!
ガ。ンガ。ンガ。ン
ブーン
ところでテレビは元気かな?!
てめーっ
リングサイドでは長州藤波がイガミあっております!
いちどその帽子をキザンでみたかった…!
ワメくなキチガイ
今開発中のブルーザ・ブロディーはもっと恐しいのよ!
アパー!!
あーっみかねた馬場が全日本の若手をひきつれて入ってきました!
ブッチャーも暴れています!!
いまや蔵前国技館はだいーこんーらんです——!
エイ!!
end
☆たぶんヨーワカランゆー人もいるだろー。

小林昭夫
1983.1.15

近頃五右ェ門の
元気がない・・・

こゆーシーン描くので快感～

実さい、ハカマはあんな風にめくれないと思う…。でもめくれたらおもしろいね～

GAME

作 菊地 智子
cut まやかおる

かおる 1983.2.17

――遊びが遊びでなくなった時、
ルパン、あなたは一体どうするの？――

風が、果てしなく広がっているような草原の、丈高い草を揺らしていた。栗色のわずかにカールした長い髪を持った女は、風になぶられるその髪を手で押さえ、連れの男に向かって言った。
「あの二人を見捨てるつもり、ルパン？」
女の言葉を聞き流すと、ルパン三世は、そのまま無表情に歩を進めた。女はさらに続けた。
「冷たいのね。仲間が敵にさらわれた割には。……次元と五右エ門――あの二人は、あなたにとってその程度の人間だったの？」
「そんな事言ってやしないさ、カロリーネ。」
ルパンはひょいっと、カロリーネと呼んだ女を振り返えると、どこか悪魔っぽい笑みを浮かべた。
「そうは言わないけど、たださ、おれがこんな所でこうしているのは、探す必要がないからなんだよ。敵の御大将がこうしておれの目の前にいらっしゃるんだ。バタバタ走り回って無駄骨折りたくないのよね。なっカロリーネ。」
話しながらウインクを送ったルパンの顔を見つめる女の顔からは、それまでつくろっていた、全ての虚飾がみるみるはげ落ちていっていた。そしてその下からは、彼女が本来持っているのであろう、賢そうな、それでいて油断のならない表情が現れていた。
「……さすがね、ルパン。」
今では、その口調さえも、以前のものとは違っているように感じられる。女は問うた。
「でも、私が"SRA"の頭である事をいつから気づいていたの？」
「君が、おれの前に再び姿を現わした時から……いや、正確に言うと、三年前、君がおれにさよならを言ったその時から、かな。」
女は一瞬瞳を閉じた、そしてゆっくりそれを開けた。
「"SRA"――影の世界を牛耳る組織内でも、五本の指に入る巨大組織。私の父はその"SRA"の幹部だった。その父がボスを殺し、自分がその地位を手に入れた時、彼は、自分の地位を不動の物とするために、一人娘のこの私を無理矢理自分の片腕にした。……今さら、言いわけにもならないけど、ルパン、私はあの時、彼に逆らえるほどの力はなかったのよ。」
「よそう。よそうよ、カロリーネ。」
ルパンの顔は、微かに悲し気な色をたたえていた。
「昔は昔、今は今……さ。そして今、君は"SRA"のボスで、相棒の次元と五右エ門をかっさらった、おれの敵。」
「そうね……。」
女はルパンを見つめた。
「次元と五右エ門は、私の正体を知っていた？」
「……いや、知らない。」
「……そう。」
「知らなくてよかったのさ。あいつらは、君を好きになりかけてたんだもんな。そんなあいつらにこの仕打、君は昔と変わらず残酷だ。」
女は首を振ってみせた。
「よしましょうよ、こんな遊びは。私は、あなたが私の正体を知っている事も、次元と五右エ門にその事を話さなかった

GAME

のも知っているわ。……そしてあなたは、私がそれらを知っているって事も知っていたんでしょう？」
「まあね。」
ルパンはすらっとぼけた声を出すと、おどけた調子で続けていた。
「おれだって実際、こんな遊びはやめにしたいんだ。だけどあいにく、おれも君も、一筋縄ではいかない人間だ。やめたくてもやめられないじゃんか。」
女はうすく笑った。
「日本風に言うと『狐と狸の化かし合い』ね。あなたと私、一体どちらが上手く、化かせるのかしら？」
「さあね。だけど多分、このお遊びが終わる頃には、わかるだろうさ。」
ルパンは顔を上げると、女を見詰めた。その目には、彼には珍しい事だが真面目な色が宿っている。
「単刀直入に聞いちまうけど、おれの相棒二人はどこに隠しちまったんだ？」
「私の基地の一つに、丁重に預らせていただいてるわ。」
「ついでに、その場所も教えてもらえると、助かるんだけどな。」
「ウフフ、そこまで要求するのは、少しずうずうしいんじゃなくて？それにルパン、あなたもう、自分で場所を探し出してしまっているじゃない。」
ルパンは一寸口をすぼめた。
「あら、きれいな顔してる割に鋭いのね、お宅。」
「あなたという恐しい男を相手にしてるんですもの、この程度の事もわからないようじゃ、この化かし合い、とても勝てやしないわ。ねえ、ルパン三世さん♡」
甘えるようにそう語ったカロリーネを尻目に、ルパンは草原をグルリと見回した。
「ここ。そう、ここなのよね君の基地があるって場所は。地下にあるらしいって事までは、調べてあるんだけど……当然あるんでしょう？地上にも、何かおっかない物」
「もちろんよ。このまわりには、私が一声命令しただけで、あなたを灰にする程度の設備は、備えてあるのよ。次元と五右ェ門という、あなたの両腕を奪っておいて、間髪入れずに、あなたに止めをさそうと、ここまでおびき出したの。」
女は上目づかいにルパンを見る。
「でも、何も細工をしなかったって事も、ないんでしょう？」
手を頭にやると、ルパンは実に嬉し気に笑ってみせた。
「ホ～ント、カロリーネちゃんて察しいいのね。女でなかったら、ぜひともおれの相棒にしたいところよ。実を言うとね、このあたりにあったおっかない物、きのうの内に全部始末しておいたのよね。」
「知ってたわ。だから私もきのうの内に、修理させたの。」
「その修理したのも、もう一度壊しちゃったんだけど。」
「……悪いけど、私もまた修理させといたわ。時間的問題で、完全には無理だったようだけど、半分くらいは使用可能なはず。ためしてみましょうか？」
彼女がほんのわずかに視線をずらせたとたん、ルパンの前を、一筋の光が走り抜けた。次の瞬間、彼のネクタイの下半分は風に舞い、黒のYシャツも鋭い刃物で切り裂かれたように、ぺろりと垂れ下がっていた。
「……ホントのホントに脱帽したよ。素早いのよね。見直したよ、カロリーネちゃん。さすがにおれが、本気でホレた女だけの事はある――なぁんて言ったら、侮辱になるかしら？」

怖れ気もなく、心底嬉しいというように、そう言い放ったルパンに対し、カロリーネもまた嬉しそうな微笑を送った。

「さあどうする気、ルパン？　あなたは今、絶体絶命よ。私の命令一つで、あなたの体は灰になる。頼みの綱の次元と五右ェ門も、今はあなたの下の、私の基地の中よ。どうやってきりぬける気？　……まさか、これでもう　ギブ・アップなんて言わないでしょう？　私を失望させちゃいやよ。」

「そうおっしゃられてもねえ……」

ルパンは頭をかいていた。

「並の男だったら、完全ギブ・アップのケースよこれ。まあ、愛しいカロリーネちゃんの頼みだから、もう少しがんばっちゃうけど、実際しんどいのよね、これ。」

キョロキョロと、まるで逃げ道を求めるように動いている、ルパンの目を、カロリーネは無表情に見つめた。その瞳には微かだが、失望の色が浮かび始めているように思えた。

「次元と五右ェ門の事なんだけどさあ。」

「え？」

突然の話題の転換に、カロリーネはわずかだがとまどったようだった。

「どうやってかっさらったんだっけなあ？」ルパンは言った。

「……私の名を使って、都合のいい場所まで呼び出して捕えさせたわ。でも、なぜそんな事を聞くの？　どうせ知ってるくせに。」

「知ってたけど、カロリーネちゃんの、かわいい声で聞かせてもらいたかっただけなのよ。」

普段と全く変わらぬ、ルパンの様子を目にするに従い、女の目からは先ほどの失望の色は、徐々に消え去って行った。

「君の事だからどうせ、十重二十重の罠張って待ってたんでしょ？　でも、あの二人捕えるのに、実際はどのくらいの罠を、使わなくちゃならなかった？」

「……半分も、使わずにすんだわ……あんまりあっさり捕まりすぎて、気が抜けたくらいよ。あなたが、わざと捕まれと命令したのかとも思ったけど、そんな情報はどこからも入ってこなかったし、あの程度の腕で、よくあなたの相棒がつとまったものね。」

「なあ、カロリーネ。」

ルパンは両手を、ズボンのポケットに突っ込み、首を軽く傾けた。裂けたワイシャツの下の部分は、相変わらずピラピラしたままだ。

「君の情報にある、次元と五右ェ門ていうのは、その程度の人間なのかい？　君を失望させるほど、あっけなく捕っちまう程度の。」

女はハッとしたように、その青みがかった灰色の瞳を見開いた。

「まさか、まさか……」

それはうめくような声だった。

「……でも、まさか。そんな時間はなかったはずよ。あなたたちには四六時中、"SRA"の一流の諜報員に監視させていたのに、偽物と入れ替る時間なんて、なかったはずよ。」

「だから君が、おれたちを監視させ始める以前に、入れ替わらせておいたのさ。」

ルパンは口だけで笑ってみせた。

「カロリーネ、ルパン三世の情報網を甘くみないでもらいたかったね。"SRA"が、おかしな動きを見せ

GAME

始めた時から、おれはこういう日がくるのを予想してたんだけどね。おれは何か月もの間、偽の次元と五右エ門を手元に置いておいた。そして本物の二人は、一体どこに行ったと思う？」

カロリーネは、歯が砕けんばかりに、強く口を結んでいた。だが、徐々にその口をほどいていくと、一つの言葉を口にした。

「S……R……A………」

そして合図を送ろうとしたその瞬間、二人の足元が地鳴りのような音とともに、激しく振動したのだった。二人はあまりの揺れの激しさに、地面につっ伏してしまっていた。揺れが去り、身を起こしかけた二人の目に、ところどころ地面から立ち登る、何条かの煙が映っていた。ルパンはカロリーネを見た。

「カロリーネ、君はおれだけに目を奪われすぎてたな。もっと自分の足元にも、目を向けてさえいれば、この勝負、もう少し違った形で終っていただろう」

二人はゆっくり立ち上がると、瞬きもせず見つめ合った。耐えきれなくなったのか、女の方が目をそらした、と思った瞬間、彼女はけたたましい笑い声をあげていた。

「カロリーネ！」

驚愕したようなルパンの叫びも、耳に入らぬように女は笑い続け、そしてようやくにしてそれがおさまった時、彼女はゆっくり、視線を上げた。

「そうねルパン。勝負は終わり、私の勝ちよ。」

ルパンの目が見開かれた。

「あなたは知っているはず、私があなたを、あなたのお仲間も、殺す気はなかったという事を。それはなぜだと思う？」

カロリーネは、一片のためらいもなく言い放った。

「私があなたを愛しているからよ――あなたを失ないたくない、悲しませたくない。私はそう思ったから誰も殺そうとはしなかった。」

女は一旦言葉を切り、さらに続けた。

「――と、あなたは考えずにいられて？」

女は語った。

「そうではないかもしれない、だけどその可能性がある限り、あなたは私に手をかける事ができて？」

「〝SRA〟は消滅しない。だけどあなたに私が殺せて？あなたをこの上なく愛しているかもしれない、この私を、殺す事ができるのかしら――？」

ルパンは何も言わなかった。ただルパン三世というこの男にとっては、不似合いなほど真剣な眼しで、女を見つめるのみだった。

カロリーネは、勝ち誇ったような笑みを浮かべ、両手をルパンに差しのべた。

「私の勝ちよ、ルパン。あなたには私は殺せない」

女は手を差しのべたまま、足を進めた。

「ルパン、私は………」

女の言葉はそこまでで途切れた。同時に、禍々しい音が草原に響くと、女の額には、小さな穴が出来ていた。女は、信じられぬといった顔をしてみせた。そのまま彼女の体は後に倒れると丈高い草の中へと沈んでいった。まだ硝煙の立ちのぼるワルサーを手に、ルパンは遠くを見つめていた。

「………バイ………」

彼は、誰ともなくつぶやいた。

背後から、聞きなれた二人の男の声がした。ルパンは、ワルサーをホルスターにしまうと振り返えり、

まるで何事もなかったように、　次元と五右エ門に向けて、
大きく手を振っていた。
かおる
1983.2.21

2 Page Comix♡

Period
原/びびんば
画/ぎわわのぎん
ー次元
見て、きれいな星空
あなたの手 大きくて、いつも 温かいのね。
アンジェリカ
やめて!!
わかってるわ!
アンジェ……
あなたは私 なんか必要と していないこと…… あなたが大切に しているのは自由 だけということも… ーけどー
私あなたの 側にいた かった、二人で 神の前で 愛を 誓いた かった!
ーでも あなたに とって愛は 束縛される こと、自由を 失うという ことー
そんな あなたを 私が引き 止めるだけの 力を持って いないことは わかっていたの
アンジェリカ…
次元…
じっさい、作者は一の76話・見たことないのです…。

去って…
……
お願い! 側に… いないで
去って、早く!!
アン…!
バン
もし… 困ったことが あったら いつでも…
—すまない!
……
アンジェリカ
……
カタン
ガー
次元—
察するとイロイロとあったようだが
オレはなロマンチックな話が苦手だ
そりゃもーごっちゃりーっつーよ!
end
生まれて初めて描いたコマ・マンガゆえ、センスの悪さはごかんべんを

とうとう出来た！新しい技が！斬れる
その時そう思った
しかし…
わざ
魅開拓
とりゃあ！
ボョン
パスッ
こんにゃくは切れなかった
どうすれば
ピンッ
ヒラヒラ
ちょうちょ
そうだ
ソーダがのみたい
のみたい ソーダが

エッホ
エッホ
シュッ シュッ
血のにじむような特訓
スーッ・・・
サッ
ドサッ
シャキーン
やった！
その後、この技は
変移抜刀
霞斬りと
名づけられました
とさ・・・
完

新ルパン三世「次元と帽子と拳銃と…」より
何カちがうよ
五右ェ門ちゃん☆
あれ？
★この原稿はブルーダイヤです。
♪まぶしい白で～すぅブルーダイヤ～♪
井上 錏
はずかしい!!

え～～…しカし100億ドルねえ…
魅力だよなぁ

なんとカなんない
カね
次元…？
……

やる……！
なに!?
やるって…
勝てる自信あるの？

Aiさんごめんね。ルパンって描いたことなくて。でもこんなヘタッピな私に描かせて下さって ありがとごぜーます♡

DON'T LOOK AWAY !!
色と欲の伯爵どの…
…花嫁はいただきます
近日参上、ルパン三世
よかったなジョドー
…待とうではないか…
ルパンとやらが来るのを
ニヤ
まぁちどおしいっ
サインもらおっと!!ムフフ
隠れルパンだったのか?!
by
熊のまさこ
波平風

光と影が一つになる時がきた
来い、クラリス
ロリコン！
女たらし
ルパン
じょじょどおおよべえ
もっとカッコイー次元かきたかったんだけど……
なにせ みじゅく者なので
☆おしまい☆
（どうも五ェ門金魚の意味がわからん？）
こんなへんなまんかいてすみましえん…… ぐええーん。
1982.9.26 No.1

ルパン……

ルパン四世たち♡

♡ルパン小僧無視！
ルパンが生んだ
みたいなものでしょう…
三人…

2

1982 9 15

おわり♡

古谷むつみ

ぐびっ
やおい話

Bob--cut★

野菊の墓.
FAMTOM.F. HARLOCK/ちょ
いつからこんなの読んでんの？
さ、最近な…
ゴシゴシ
目ふいている
お前ならさしずめやせた金魚草だな
そう言うお主はさるすべりかな？

いろきちがい
女顔
すっとこどっこい
へちま
はんぱ者
まあまあ、おちつけよ二人共 大人気のない。
おまえはマモーだーー!
じ…次元 おまえ…
がっでむ
鈴坊、京介べー、すやしゃるありがと♡
おはり★
なんだ?なんだ?この話しは。

だから
いったじゃねぇが
by
Ray Guy

THE END

樋口 紀美子

きみやの内輪ネタドタバタまんが •その1•

・その2・

その1 その2とも S・J氏に捧げます.

by Masami Kajino
1982.10

シナリオ・ルパン三世
Lupin in Hollywood
No.168
Written by S・J
Illusted by H・TAKASHI

○L・A（夜景）

○超高層ホテル

○同・最上階 インペリアルホール
　歴々の紳士、優雅な美女が集うレセプション会場である。
　万場の拍手を浴び、一人の男がステージ中央に立っている。　年に合わず粋で威風堂々たる貫禄の持ち主だ。
ハンスバーグ「皆さん、本日はようこそ。　では、私、ジョー"ハンスバーグが自信を持ってお送りする今世紀最大のスペクタクル、御覧あれ！」
　自動的にすべてのウインドゥにカーテンが引かれ、照明が落ちる。
　細い光線がホールを走る。
　たちまちの内に、荒涼たる大地が眼前に現出する！
　ハンスバーグの身体がセリ上がり、足下から戦車が姿を現わす。
　周囲は戦場！
ハンスバーグ「人類と未来のテーマに挑戦する最新作！　史上最大のスケール、最高の演技陣、そして永遠の象徴として全編に燦然と光り輝く世界の至宝、カイザー！」
　ガラスケースが浮かび上がる。　その中で宝石を散り嵌めた宝杖が輝いている。
　突然、ルパンがスクリーンにドUPで登場。
ルパン「そのお宝、ルパン三世がいただきますので悪しからず。　ハンスバーグ殿、貴殿の御健闘をお祈りなんかしちゃったりしてな。　ムッホホホッ」

○コントロール・ボックス
AD「おい、どうしたんだ！」
オペレータ「えっ、ハイ！」
　コンソールをあわてて操作する。

○同・ホール
　照明が戻っても、ざわめきは収まらない。
ハンスバーグ「お静かに！　皆さん、お静かに。　映画は近日完成します。　ちょっとしたアクシデント、いやエピソードとしては面白いでしょう。　大胆な挑戦者にして、不敵な無法者、ルパン三世に拍手を！」
　ドッと拍手の渦が湧き起こる。
ハンスバーグ「ありがとう」

○ステージのソデ
　ハンスバーグを待ち受ける美女――スポーティかつエレガントな峰不二子嬢である。
不二子「ゲーム開始ってとこネ」
　その手を取り、手の甲に軽くキスするハンスバーグ。
ハンスバーグ「この勝負、負ける訳にはいかない。　彼は私の恋敵だからね」
不二子「フフ」

○サブ・タイトル
　『Lupin in Hollywood』

○ダウンタウン（翌日）
　その一角にオンボロビルがある。

○オンボロビル・屋根裏組屋
　大きなトランクを両手に抱えた次元が足でドアを開けて入ってくる。
　トランクをテーブルの上に投げる次元。
次元「また派出にブチ上げたもんだな」
ルパン（オペラグラスで窓の外を見ながら）「あんなところさ」
　次元、金属パイプをトランクから取り出す。
次元「ムチャも程々にしねェとロクな事にならねェぜ。　どうしてもやるってェのか？」
ルパン「マ、なんとかなるだろうぜ」
　ハングライダーの組み立てにかかる。
　五右ェ門は瞑想中。

○ボロビル筋向かいの路地
　パトカーが潜んでいる。
銭形（M）「ルパンめ、ヌケヌケと予告するたァ太ェ野郎だ」
銭形（無線に小声で）「いいか、A班とC班はワシと同時に踏み込む。　絶対に逃がすんじゃないぞォ」
警官A（〃）「了解」
銭形「逮捕開始――ッ！」
　突如、起こるはサイレンの大合唱、街角という街角からパトカーの群れが押し寄せてきてブロックを埋め尽くす！

○ボロビル
　銭形を先頭に警官隊突入！

階段を登りつめた正面が目標の屋根裏部屋だ。

○屋根裏部屋

　ドアを蹴破り、銭形を先頭に一団がズドドッと雪崩込む！

銭形「ルパン、神妙にしろォ！」

　ＢＯＭＢ！

　猛々たる煙が室内に立ち籠める！

五右ェ門「フッ！」

　斬鉄剣一閃！

　壁がバラバラッと細切れに崩れる。

ルパン・次元「そォれっ！」

　飛び出すハングライダー。

銭形「ゲホッ、馬鹿めェ、そういつも同じ手が通用するかァ。いけェーーっ！」

　ビルの谷間を滑空するハングライダー、その行手に巨大なタモが出現する?!

　哀れルパンはスッポリ網の中。

銭形「ガッハッハーーッ！」

　パトカーに駆け戻り、無線を摑む。

銭形「いいか、ワシが行くまでそのままにしとけェ」

警官Ａ（Ｍ）「警部っ、中にいるのは人形でありますゥ！」

銭形「何だとォ！」

○ブロック

　その一番端に停車しているＰＣ（ポリスカー）。

　車体の下のマンホールの蓋が動く。

○ＰＣ・ドライバーズシート

警官Ｂ「どうなったかな」

警官Ｃ「今度はルパンもオシマイさ」

　背後からポカリと殴られてＢ・Ｃ気絶する。

　入れ替わり乗り込むルパン達、ルパン・次元はちゃっかり制服を着用している。

　Ｌ・Ａの街を走り去る。

○逮捕現場

　銭形、人形を叩く。

銭形「クッソォーーッ、ルパンめェッ！　ロサンゼルス市警に連絡して、全パトカーをハリウッドに直行させろっ！」

警官Ａ「ハッ！、ハァ?!　あのォ、非常線を張るんでは……」

銭形「ハリウッドだ！　奴はやると言ったら必ずやる！　何をグズグズしとォる！」

警官Ａ「ハッハイッ！」

○ハリウッド（夜）

○〝映画の殿堂〟

　サーチライトで照らされた白亜の建物が夜の闇にくっきり浮かんでいる。

　前庭は、警官隊・報道陣・ＴＶ中継車でごった返しだ。

○同・廊下（殿堂３Ｆ）

銭形（Ｍ）「ルパン、ルパン、ルパン、ルパン、ルパン、今度こそォ……」

　オフ・リミットの境界線で警官達と一群の記者だちも

み合っている。
警官A「さぁ、下がって下がって」
銭形「ひっくくってやるぞォーーッ！」
一同、ア然。

○同・特殊ルーム
装甲ドアが開く。
中央にカイザーの保管ケース、その傍にはハンスバーグと――
銭形「みっ峰不二子?!」
不二子「お久しぶりね、銭形警部?」
銭形「ハンバーグさん！」
ハン「ハンスバーグ」
銭形「エェイ、貴方はこの女が何者か御存知ですか！ ルパンの一味ですぞォ！」
不二子「昔はネ。でも今は違うワ」
ハン「私の大切なパートナーだ」
銭形「パートナァ?! 冗談じゃない！ こやつがどんなワルか、あんたは知らんのだ！」
ハン「刺を恐れていれば薔薇は愛せない……違うかな?」
銭形「ムム……だが、後悔するのは貴方ですぞ」
ハン「御忠告、胸にとめておこう」
銭形「警備の責任上、２人共私の指示に従っていただく。よろしいですな」
ハン「結構だ」
銭形、インターコムＯＮ。
銭形「よォし、防護シャッターを降ろせ」

○コントロール・ルーム
オペレータ「ハッ」

○特殊ルーム
ドア・窓に防護壁がスライド・ダウンしてくる。
銭形「これで誰も入り込めんし、（ジロリ）出ることとも出来なくなった訳だ」

○廊下
２人組の警官が敬礼などしてすれ違う。
一方をやり過ごし、警官（実はルパンと次元）が引き返してくる。
窓を開け、テグスを街路樹に投げ渡す。
その上をつたって和服の影が中へ。

○特殊ルーム
銭形「何時でも来い、ルパンめェ」
不二子「誰も入ってこれないんでしょう?」
銭形「不二子、言っとくがワシはお前を信用した訳じゃないぞ」
不二子「ハイハイ」
ハン「ルパンは来るとも、必ずな」

○廊下
パトロールが通過する。
天井板をはずし、五右ェ門と警官姿のルパンが降りてくる。
吸盤付きのイヤホンを取り出し、壁をさぐるルパン。

○特殊ルーム
不二子「そうネ、ルパンのことだから、もうそこまで来てるかもしれないワ」

○廊下
ルパン「イッ」
腕時計に目をやる。
表示板――→

○コントロール・ルーム
――→表示板
次元が配電プレートのレバーに手を掛けている。
その足元にはオペレータがノビている。

○廊下
五右ェ門、鯉口を切る。

○特殊ルーム

○カウント・ダウン……

○廊下／コントロール・ルーム
チッ！
レバー・ダウン！

○特殊ルーム
暗転！
五右ェ門「タァーーーッ！」
闇を斬る！
五右ェ門「トッ！」

LUPIN IN HOLLYWOOD

飛び込みざまケースを両断!

五右ェ門「トォーーッ!」

反対側の壁を斬り抜き、虚空へ翔ぶ!

銭形「おのれェ、五右ェ門!」

十八番・投げ手錠が飛び、剣にからみついたかと思うと手首にはまる。

五右ェ門「ンッ!」

手錠のロープを斬り払う。

この一瞬のスキに、廊下からテグスが伸びてカイザーにからみつく。

不二子「アッ!」

ふりむいた銭形たちの目前で、カイザーはルパンの手中へ。

ルパン「確かに頂戴したぜェ」

かけつけた警官が発砲する。

ルパン、ヒラリと窓から外へ身を躍らせる。

銭形「待て、ルパァン!」

領きかわす不二子、ハンスバーグ。

○〃殿堂〃・屋根の上

飛び降りたはずのルパンがいる。

見下ろせば、前庭は銭形を中心に警察・マスコミと渦巻いている。

ルパン(M)「オホ、すっげェ」

屋根の反対側に姿を消す。

○前庭

銭形「カイザーがルパンに盗まれたっ! 全市の警戒網を非常態勢に切り換えろ!」

○市街

疾走するパトカーの群れ。

視点が下がって、道路の断面。

そのまた下、地下下水道。

○地下下水道

ライト片手に進む警官チームの足音が木霊していく。

そのやや上方の支道にルパンたちは潜んでいた。

次元「こいつは抜け出すのが楽じゃないぜ」

五右ェ門「ルパン」

地図を広げ、ヘルメットのライトで照らすルパン。

ルパン「いいか、ここからハンスバーグ御自慢のマンモス・スタジオまではそれほど遠くない」

靴・草履を下げて、ヒタヒタと行く3人組。

次元「で?」

ルパン「映画ってのは本物ソックリの小道具を使うだろう? まして映画史上に残る大作を作ろうってんだ、使える飛行機ぐらいあるさァ」

見交わす次元、五右ェ門。

○スタジオ・収納スペース

スタジアム・スタイルで広い内部に様々な機材、セットが置かれている。 ちょっとした博物館だ。

そのフロアの隅の排水口の金網がゴトゴトと動いて、ルパンがヒョイと顔を出す。

ルパン「さあって、使えそうなヤツはと」

タラップを登って細いテラスを巡り、あれこれと物色しつつ架け渡されたブリッジへ。

ケーブルで吊るされたクラシック・プレーンに近づく。

続く2人は気乗り薄だ。
ルパン「こいつなんかどうだァ?」
ハン(off)「さすがはルパン、お目が高い」
ブリッジが動く! クレーンだ!
四方から強烈なスポットが浴びせられる!
圧倒的な光量を背に、ハンスバーグのシルエットがテラスに立つ。
ハン「ハリウッドへようこそ、ルパン三世」
目を光線から守りながら背中合わせに立つルパンと次元。
次元「で、これからどうする?」
ルパン「どーなるんでしょうねェ」

○アイキャッチ
ルパン・ザ・サード♪

○同・スタジオ
ハン「君が邪魔なんだよ、ルパン。人生は舞台だ。ハリウッドで幕を閉じるのも悪くなかろう」
ルパン「相手がチョイと役不足だがな。俺ってスーパー・スターの器だかんね」
ハン「!」
ハンスバーグの手が振り下ろされる。
爆発するブリッジ!
三方へジャンプする3人。
ルパンは空中でワルサーを撃つ。
ハンスバーグの肩に命中、テラスから転げ落ちる。
だが、撮影用のダミーだ。

○モニター・ルーム
モニターのそれぞれにダミー、ルパン、次元、五右ェ門が映っている。
ハン「逃げても無駄だ。あの世の語り草に、ふさわしい死に場所をくれてやろう。スイッチングNo.42、45。No.71、83、84」
音声でコンソールが作動する。

○セットA
走る五右ェ門の前に壁が倒れかかる。
五右ェ門「トッ!」
一閃!
壁の向こうには宇宙空間が広がる?!
レーザー・サーベルをふりかざして襲いかかるエイリアン、足場も定かならぬ星の海に踏み込めば空を切り、切先をかわすのも苦しい。(ADよろしく)

○セットB
次元が背をつけた壁はどんでん返し、クルッとうらぶれた石畳の街角に出る。
街灯の後ろからくたびれたスーツ姿のコメディアンが御挨拶。
次元が背を向けたスキに、
次元「ウォッ!?」
ステッキで足をすくわれ、倒れたところへ尖ったステッキ先端がふり下ろされる!

○セットC
ルパンが迷い込んだのはカーテン、またカーテンの森——。
ルパン「エッ、何だ、オイッ!」
かき分けかき分け、広大なサイズのベッドにたどりつく。
真珠貝の如く、波打つシーツの中央にゆったりと横臥するのは薄物の美女。
美女「ウ、フ……ン」
やさしく愛しげに迫られデレッとなるルパンを他所に、美女の背で後手に隠し持った細身のナイフが冷たく光る。
惜しい!
切れたのはズボンの尻だけ。
ルパン「ウファ、アーーッ」
ベッドをずり落ち、そのままずーっと落ち続ける。
ルパン「痛ェ!」
落ちたところがレビューの舞台のド真ン中、上下

LUPIN IN HOLLYWOOD

する脚の列を避けるのにテンヤワンヤの大騒ぎ！
（ADよろしく）

○モニター・ルーム
ルパンの実況。
ハン「フフ……いい様だ。不二子」
不二子の横顔がモニターに出る。
ハン「ルパンがそっちへ向かっている。ポイントS6だ」
不二子「わかったワ」

○ハンマー・ラッシュ！
ルパン「ハッ、トッ、ヨッ、ホッ♪」
次々に落下してくるスチール・ハンマーに追いたてられてドアに飛び込む。

○暗闇――キングコングの口の中！
スーツの後ろを食い千切られたルパン、転がり出たままコングの毛皮の上をゴロゴロッ！
ルパン「アラァーーッ！ テェッ！」
落ちきったところで、間髪、飛んできた何本もの短剣がルパンの動きを封じる！
不二子「返してちょうだい、ルパン」
ルパン「ヘェ、何をだい？」
不二子の構えた短剣銃から10数本の短剣が飛び、ルパンのズボン膝下を裂く！
カイザーは脛の脇にベルトで留められていた。
不二子「大人しくカイザーを渡してくれれば、この場は見逃してあげるワ」
ルパン「ヘエヘエ、おやさしいこって。不二子――俺の敵にまわるってことがどういうことか、解ってんだろうな」
不二子「エエ。早く渡して！」
カイザーを投げるルパン。
宙を行くカイザー――手を伸ばす。
ルパン、スイッチ・オン！

○ルパンの通過したセット
ルパンの仕掛けたマイクロ・リモコン爆弾がBOMB！
BOMB！ BOMB！

○セットA
五右ェ門「！」
五右ェ門、足下を斬り抜いてストンと下りる。

○セットB
次元「それっ」
爆弾でセットを突破する。

○モニター・ルーム
暗転していくモニター。
ハン「ルパンめ、やりおったな！」
転映、スタジオ全景平面図になる。
3つの光点が次々に消えていく。
ハン「ムム……」
明滅する光点が外へ向かって行く。
モニター・チェンジ――カイザーを背にバイクを駆る不二子が映る。
ハン「何処へ行く、不二子！」

○ホール
スタジオのゲートが前方に見える。
不二子「約束通り、カイザーは貰ってくわねェ！」
ハン(off)「待て、不二子！ まだ勝負はついていない。戻れ、戻るんだ！」
不二子「申し訳ないけど、ここまでよ！ 後はお任せするワ！」
ゲートが近づく。
ハン(off)「不二子！」
一瞬にゲート・ガードが降下する！
ブレーキングは間に合わない。車体を倒す、不二子の身体が舞う！
不二子「キャアッ！ アッ！」
床に叩きつけられる不二子。
ハン(off)「そんなにルパンが恐ろしいのかね、この私よりも」
不二子「……そうよ、ルパンは、誰よりも恐ろしい男、だわ……それは……アタシが、一番良く知って……る……」
気を失う不二子。

○モニター・ルーム
鬼気迫る形相の不二子。

○深地下水道（試鑿用支道）
雫のしたたる暗闇をルパン・次元・五右ェ門のズダボロトリオが逃げて行く。

○モニター・ルーム

コール、銭形がモニターに映る。
銭形「ハンバーグさん」
ハン「ハンスバーグだ!」
銭形「ハァ、ハンスバーグさん、貴方のスタジオで事故が起きたようですな」
ハン「何でもない! 明日のクライマックス・シーンのテストをしていただけだ」
銭形「しかし、撮影の予定は3日後のはずでは……」
ハン「明日だ。 撮影は明朝決行する」

○モハーベ砂漠(翌未明)

○横断する高層ハイウェイ
夜明け――暁光を装甲に受けて戦車軍隊が居並ぶ。
その先頭車に乗り込むハンスバーグ。
ハン「シーン94、カットNo.2から45だ。 全車輌私がリモート・コントロールで操縦する。 本番は1回きり、ミスるなよ」
上空をカメラを搭載したヘリが飛行する。
AD「わかりました!」
進軍を開始する戦車軍団。
ハン(M)「これから地上最大のショウが始まる。 フ……」

○ハイウェイを見渡す丘の上
次元「フン」
双眼鏡をはずし、無線を取り上げてジープに乗り込む。
バックウエストのホルダーからS&Wマグナムを取り出して手早くチェックする。
次元「いよいよ始まるぜ。 1セントにもならねえってのに――」

○ハイウェイ路側帯
次元(呟)「――生命がけとはよ」
無線がガードレールにかかっている。
五右ェ門、黙々と入念に斬鉄剣の手入れをしている。
くわえた懐紙を手に取り、刃身をぬぐう。
五右ェ門「人生至る所に青山あり。 運があれば、また会おう」

○ジープ
次元「アア」
スタートする。

○ホワイト・ハウス

○大統領執務室
巨大なデスクの上にチョコンと"President"のプレートが乗っている。
テレフォン・コール。
大統領「私だ」
ルパン「大統領ってあんたかい。 俺、ルパン三世。」
ケチな大泥棒」
大統領「私は忙しいんだがね」
ルパン「今、モハーベ砂漠で映画の撮影やってんだが、こいつが本物のミサイル持ってるとしたらどーする?!」
大統領「な、何だって、ミサイル?!」
ルパン「そっ。 ちょっとお知らせまでにね」
大統領「要求は何だっ! 要求を言いたまえっ!」
ルパン「ミサイルを持ってんのは俺じゃないぜ。 そいつをこれからいただこうってのサ」
大統領「何ィっ! 君っ!」
カチャッ。

○ハイウェイ
全車線に展開して進行する戦車団。

○操縦席のハンスバーグ

○進軍光景――モニター映像
もう1人のハンスバーグがゆったりとその光景を見ている。
ハン(M)「私の勝ちだ、ルパン。 お前に何が出来る。フ…… ハッハッハッ」
ルパン(呟)「まだ勝負はついちゃいねェぜ」
ハン「!」
ルパン(呟)「スタント・シーンはダミーにやらせ、自分は高処の見物かァ?、ハンスバーグ。 表向きはプロデューサー、実はシンジケートの大ボス。 結構なご身分ですなァ」
ハン「何処にいる、ルパンッ! 出て来いっ!」
コツン……と靴音。
柱の影からルパン登場。
ルパン「派出な事始めちゃってェ、どうする気なんだ?」

LUPIN IN HOLLYWOOD

ハン「力だ。力ある者が総てを制する。アメリカはおろか世界までもな。取りあえず目障りなお前を始末しておきたかったが、もうその必要もあるまい。見ろ！」

○ハイウェイ

先頭車の前傾からミサイルがせり出す。

その彼方、立体交叉の対向ハイウェイを反対に突っ走って追いすがる次元のジープが小さく見えている。

○モニター・ルーム

ハン「あれは水爆だ。目標はロサンジェルス！」

ルパン「何ィ！　よ、よしなさいって、本気じゃないだろう、お前さんも吹っ飛んじまうぞ！」

ハン「そう。ルパン、お前もハリウッドも道連れだ。やむをえんな」

ハンスバーグの手がスイッチに伸びる。

ルパン、ワルサーを抜き撃つ！

チュイーーンッ。

ルパン「！」

ハンスバーグは防弾カプセルに守られている。

ルパン「ヘッ、わかったよ」

ワルサーを捨てる。

ルパン「ハンスバーグ、お前、不二子チャン知らないか？」

ハン「フン、不二子はここにいる」

壁から白雪姫の棺もかくやという等身大のガラス・ケースが現われる。

ガラスの天蓋の中に横たわる不二子の肢体ー

ーその眼は夢見るように閉ざされている。

ルパン「死んだのか？」

ハン「気を失っているだけだ。ルパン、お前を裏切った女だ、さぞ憎かろうが」

棺に近づいて、不二子をじっとみつめるルパン。

ハン「何をする気だ？」

ルパン、無視して棺のカバーをはずす。

ハン「よせ！　やめろっ！」

○ハイウェイ

ミサイル・カタパルト、スライド・アップ。

戦車団の行手、ハイウェイ中央に五右ェ門出現。

交互に草履をぬぎ置いて素足となる。

○モニター・ルーム

ルパン(M)「不二子ーー」

安らかな表情で眠る不二子。

ルパンはとっておきの笑顔で不二子の頬に近づいていく。

ハン「不二子は俺のものだ。ルパン、何故だ、よせ、やめろーーっ！」

スイッチ・オン！

○ミサイル・カタパルト

ファイア！

○対向ハイウェイ

先頭車を追いぬくジープ。

ハンドルをフックで直進に固定させ、シートから立ち上がった次元がマグナムを構える。

○ハイウェイ

迫る戦車軍団。
五右ェ門、翔ぶ!
その落下点に入ってくる先頭車――ミサイル
は1cm刻みに動き出している。

○モニター・ルーム
KISS――ルパンと不二子の、最高の、とびっき
りのキス。

○ハイウェイ
五右ェ門「トァ―――ッ!」

○ジープ

○キス・シーン

○ハイウェイ/ジープ/キス・シーン

○一閃!

○ミサイル
ピ……と切れ目が表面を走る――弾頭が落
下する。

○マグナム・ファイア!

○命中!

○発火――誘爆――大爆発!!
火ダルマのまま前進する先頭車。
ハイウェイにヒビがはいる。
大音響とともに崩壊し、そのまま雪崩落ちる。

○先頭車・コクピット
ダミーの表皮が溶け落ち、メカがむきだしに
なる。爆発に巻き込まれる。

○モニター・ルーム
崩れ落ちるハンスバーグ。
ハンスバーグ「私の……」
スイッチ――爆発!
不二子を抱え上げ、あわてて逃げ出すルパン。
連鎖爆発!

○スタジオ火事
現場へ急ぐ消防車とスレ違うSSK。

○ハイウェイ
疾走するSSK。

○ハイウェイ下・砂地
猛々と黒煙を上げるハイウェイの手前に、ボロ
ボロの次元と五右ェ門が坐り込んでいる。
停止するSSK。
ルパン「よォ、御苦労サン」
次元「なんとか生きてるぜ」
煙草をくわえる。
五右ェ門「天命、我にあり」
支えの斬鉄剣を肩に立てかける。
SSKの後部シートで動くものがある。
不二子「ウ、ウ……ン」
次元「不二子?!(ルパンに)お前、まだ」
ルパン「見せたかったぜェ、バッチリこう、ンンンン――」
キスのポーズをしてみせるルパンに、
不二子「ルパン、アタシに何したの!」
SSKのハンドルでパキッ!
チカチカと飛び交うお星さまにルパンが頭を
かかえていると、砂漠の彼方から砂煙が近づいてく
るのが目に入る。
ルパン「テテ……、何だァい?」

○砂煙
実は銭形を先頭に押し寄せる空・陸・海の連合軍団。
銭形「ルパァーーンッ! ミサイル強奪ならびに
国家脅迫罪で逮捕だァ!」
ルパン「銭形ァ?! レッ?」
見れば、次元・五右ェ門・不二子はSSKから三
方へ一目散に逃げていく。
ルパン「このォ、薄情者ォ!」
銭形「ルパァン!」
ルパン「イイッ!」
ピョイと飛び上がったところで、End Mark

★END★

もう完全にビョーキ!!の水城涼がお送りする

それからルパンは何度となく再放送されました。モチいっつも見ていたし再放送されると必ず話題になってたネ
いかにも!
う…うるせーヒヨコどもだ
どういわれてもいいもんね。
さわがれることは悪いことじゃない
なんたってルパンよ!カッコイイしやさしいし…
そう?あんなスケベでサル面より次元よ!シブーイ!ねぇ
フーンあんなオジンやーよ!五右ェ門だってば!!
お互いに好きなキャラをほめあったりして…
どこがじゃ…
なんですって…
でしょっ
なによ!
ヤル気?
〈ファンの声〉
monday
PM7:00
New Lupin
そんなおり新シリーズとしての「ルパン三世」が始まりムービー新社でム.F.Cをはじめたのです。
か…かなり目立ってんじゃない…
何を思ったか下手のくせにイラストを送り続けまして意見も送ったなァ― そりゃあ相当な数ですよ。
郵便はがき
40
東京都千代田区…
ルパン三世F.C御中
はがき
(株)東京ムービー新社
せっしゃに何をさせる
いっつも私ばかりがヌードっていうのはズルイでしょ だから…
似てない
しかしあの頃は楽しかった!!ほんと!それと会報には常連さんが出来まして私はあこがれていましたヨ。
直接の知り合いでなくても会報上ではお知り合い♡
事実 当時の常連の重安さん、大串さん、豊泉さん、瀬戸さん…などとはお友だち♡
「ルパン三世」という作品を通してドンドン友情の和が広がって行く…す…すごいなァー!!

あの…三年も続いた
新・ルパン三世もおわってしまい
ム.F.Cがムービ-F.Cに
なってしまいました。

ム.F.Cに投稿して
それを生活の一部にしていた私は
とってもとっても
つまらない… つまらない… つまらない…

ぎゃ〜っっ 何年ぶりだろう 新ルのキャラを描くなんて〜っっ

そこで登場!! ルパン○○共○○

F.C名を堂々と出すなんてこと…っっ
しかし わかる人は わっかるだろ〜なァ〜っっ

おっっ CM!!

F.Cを自分ではじめて
しまったのです〜!!
うう!!

F.Cってつらいことも多いけど
これを通してできた友人……
交流サークルの数々…
これは私の一生の財産ですな。
ほんと!!

ま〜 何よ この本ってば!!

むむ!! そーかっ 私は 金魚であったのか!!

相変らずにてない不二子…っっ

グフフ

JET君 なんてサイコーだね

アフフフフ

この本 すごく おもしれ〜!!

ほ〜 F.Cが設立して もうすぐ6年か… すゲ〜なァ

るぱんさんせい

Ai さん ごめんなさい

そして
きょうこのごろ……

★当日のメンバー紹介★
ルパン三世 小山田真希
次元大介 銭形警部
石川五ェ門 クラリス
峰不二子 ラムダ

ふおっ
ふおっ
ふおっ
ふおっ

F・C活動も二年目に突入し
落ちついてきました。で、
何か物足りずにいたわけです。
しかし突然 スクウェア！
コスチューム・プレイをしてしまい
ました…ふ
ラムダという アホなモノを
やりまして…
あ～～！もう完全にビョーキです。

本当はこんなに動けなかったの

まったくアホが

そして…!!

あの旧・ルパンが放映されました!!
忘れもしない 9/27日！
何しろ関東では 何年かぶり
なのですよ。もう待ってたのです。

ふらいがあ～!?

ふ…む それがしは存ぜぬが

?

YEAH!

あ…あのォ～
申し分けないんですけど
その登場の仕方は
ブ○イ○ーって
いうんですよ…ろ

もう うれしくて！ うれしくて！
ビデオを毎日のように みています
オープニングを見た瞬間、体に電流が
走ったようです！
ああ！感動!!

祝!! 旧・ルTV放映
いったい何回目だろー…

高校の頃から今に至るまで
私の生活はルパン中心に
まわっています。
そしてそれはこれからも
続きそうです
コタツにもぐり込みながら
そろそろ冬のコミケの準備を
しなければ…と思う時、
自分はなんて幸福なんだろうと
感じてしまうのです…
"ルパン三世"という作品と出会い、素晴しい彼等
と出会い…
そして同じ想いの仲間と出会い…
こういう人生を送るのもいいことですよ。
つくづくこういうことを考える今日このごろです。
ある、年をとったのかなァ？
おわり…
LUPIN TH

立体3-D 70mm 大画面でおおくりします…

ウゥゥーーッ

ルパン三世 カリオストロの城 その真実！

GELAR

ダダダダダダダ

ひょい！

5000

手抜きじゃ！

わーははははは！

ききっ

ブロロロロ

ものすごいダイジェスト版

ナンバー不揃いで50億はあるぞ！
札ビラのシャワーだ！それっ!!
ドドド
わーっ!!
あっ！あっ！熱い!!
ワハハハハハハ
ハハハハ…
!?
カリオストロ製
ニセ札じゃ!!
すてちまおう
なにっ！
ゴート札だよ。
ゴート札！
まぼろしのニセ札というあれか！
バッ
ワワッ！ 真っ白！
ぱあ～っ！

 うわあ まずい！ ヘタな絵

こんなものしか書けなかった！ ごめんなさい

ILLUSTRATION ZONE

act,1

by Misa
新103話「娘は天使を見た」
よかったナー

Lupin
the 3ed
by Koba
S57.5.31

THE LUPIN WO
RLD! FUNNY!
1982.10.

198210

ナオ

Maki

END

すごいテキトーな絵で
メカが書けない〜〜 hiroko
S57.10.11

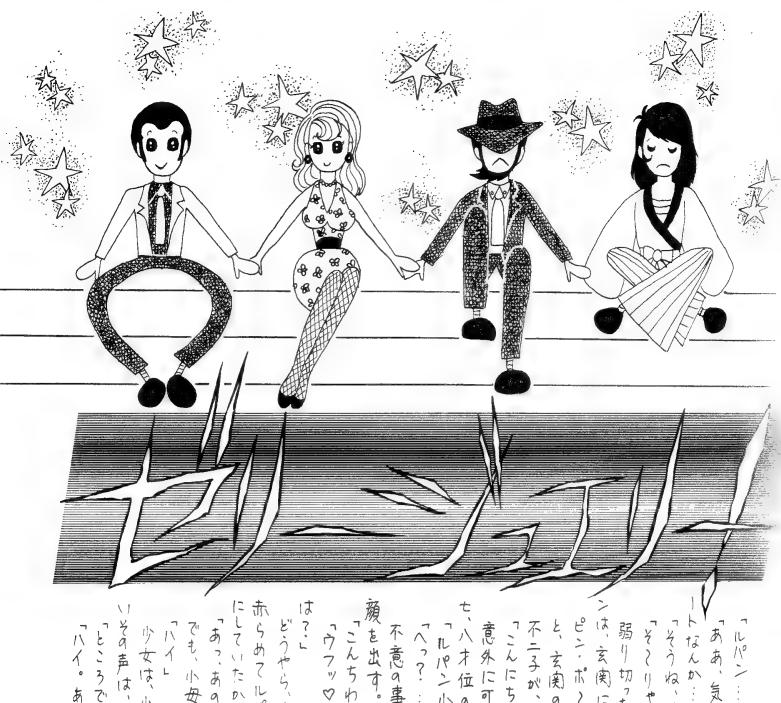
作：LUPIN☆UNion's

Beatrice

カット：縁

このところ、日本中の人々が、二人以上出会えばまるでお天気の話をする様に、ある人物の話をしていました。その人物とは、昔は怪人二十面相だったのですが、現在は勿論、ルパン三世その人であります。

☆
☆
☆

「ナァハハハ、見てみろよ、次元。今度は俺達の映画だとよ」
「ここ一、二年はルパン・フィーバーだからな」
ルパンと次元が、ツインビルの中にある映画館の出し物をバラエティ誌で知った時、ルパンは思わず軽口を叩いていた。なにせ、商売の方は絶好調、昨年の三億円事件以来ルパンの株は昇りっぱなし。ルパンの鼻も高くならない訳がなかった。
「だがルパン、勝って兜の緒を締めよ、との譬もある」
「なあに、心配する様な事はないさ」
「いや、次元の言う通りだ。ルパン、慢心だぞ」
いつの間にか入って来た五右ェ門が、煎茶を啜りながら忠告する。
「な〜んだ、五右ェ門かよ」
「驕るもの、尚しからず…そう昔から言われているからな」
「やめろ、やめろ。お前ら、クラシックなんだよ」
煩(うるさ)そうに、雑誌をマガジンラックに放り投げ、ルパンは寝ころんでいたベッドから跳ね起きた。
「どこ行くんだ？」
「…パチンコ！」
荒く答えて、ルパンは階段を降りて行った。
折しも、下から不二子が顔を出す。

「ルパン……あら？　どこか行くの？」
「ああ、気晴らしになっ。ど〜お、不二子ちゃん。デートなんか……？」
「そうね、地下の宝物くれたら考えてもいいわ」
「そ〜りゃないぜ。不二子ちゃん」
弱り切った顔をしながらも、まんざらでもないルパンは、玄関に歩いて行った。その時、
ピン・ポ〜ン
と、玄関のベルが鳴った。さっと、ワルサーを手にする。
不二子が、そーっとドアを開ける。
「こんにちわ〜」
意外に可愛らしい声がしたのもその筈、声の主は七、八才位の女の子であった。
「ルパン小父さんの家ですか」
「へっ？……ええ、そうだけど……」
不意の事で、不二子も動転している。脇からルパン、顔を出す。
「こんちわって、お嬢ちゃん誰だい？」
「ウフッ♡ルパン小父さんですね。こっちの小母さんは？」
どうやら、自分の事を聞いていると悟った不二子、顔を赤らめてルパンを睨んだ。今にもルパンが吹き出しそうにしていたからである。
「あっ、あのね、こっちの小母さんは、不二子っていうんだ。でも、小母さんはいけないよ。お姉さんって言わなきゃ」
「ハイ」
少女は、小気味良く返事をした。メゾ・ソプラノらしいその声は、ルパンに不思議な親しみを感じさせた。
「ところで、お嬢ちゃん、何か用？」
「ハイ。あたし、ルパン小父さん達のサインをもらいに

来たんです」
なんて、可愛らしい子だろう…。不二子は一瞬そう考え、少女を中に入るよう、手を引いた。最初少女は戸惑っているかに見えたが、意を決したのか、恐る〳〵中に入って来た。少女の肩に手を掛け、不二子が声をあげる。
「次元、五右ェ門、お客様よ!」

少女は一階の居間のソファに坐っていた。右に不二子、左にルパン。前のソファには、むくつけき(!?)次元と五右ェ門が坐っていた。
「サインして…下さい」
少女が遠慮気味に差し出した色紙を受け取ったルパン、ニッコリしながら、スラスラとサインをする。
「え〜と、名前は?」
「とし子です」
「敏子ちゃんか…」
「ううん。鋭子です」
ルパンが、横に〃鋭子ちゃん江〃と書くと、今度は五右ェ門が、筆ペンのキャップを取りながらそれを受け取る。
「鋭子殿か…。良い名である」
「ウフ♡ ありがと、お侍さん」
微かに頬を染める五右ェ門。
更に、色紙が次元に回っていた時、先に終わった不二子が、筆者も好きな、エーデルワイスのバームクーヘンを持って現われた。
「さっすが不二子ちゃん。気が利く〜」
「不二子、紅茶はプリンス・オブ・ウェルズにしてくれ」
「はい、はい」
あたしゃ女中じゃないわさ、という顔で出て行く不二子に、鋭子も声をかけた。
「お姉さん。あたしも手伝います」
二人が出て行くと、ルパンはニンマリしながら次元と五右ェ門に囁いた。
「どーうだい、このルパン様の人気。若い女性だけじゃなく、予備軍にまで」
「わかったよ、ルパン。確かにおめえさんの言う通りだ」
「しかし、今の娘…。ルパンのファンである事が、唯一の欠点といえば欠点」
「な、なんだァ、五右ェ門」
今、将にルパンが五右ェ門に飛びかかろうとした時、扉が開いた。慌ててソファに戻るルパン。
「お茶、入ったわよ」
五人分のティカップ等を盆に入れ、不二子が入って来た。その後ろに、鋭子が大きなポットを持って立っていた。
「さっ、たくさん食べてね」
という不二子に、鋭子もハーイと可愛らしい声で返事をする。ルパンも、次元も、五右ェ門も、秋風が運んで来た様な、珍らしくも可愛い客を囲んで楽しそうだった。
―が、その楽しい時間も長くは続かなかった。今までニコニコしていた鋭子が、急に胸を押えて屈曲したのだ。
「どうしたの、鋭子ちゃん」
驚いて寄ろうとしたルパン、猛烈な睡魔に襲われる。
「う…… ふ、不二子……」
朦朧としてくる意識の中で、ルパンは目の前にいた

ゼリー☆ジュエリー！

不二子が、ニヤッとして、自分に向かって手を振るのを感じた。

――お休みなさい……ル・パ・ン……

☆☆☆

どれだけ時が経ったのだろう。ルパンはハッと目を覚ました。急いで次元、五右ェ門、そして鋭子を起こした。

「い、今、何時ですか」

鋭子は起きるとまっ先に時間を気にした。九才の少女としては無理もない事である。

「えっと…四時半だ…。あれから五時間近く経っている」

「もう四時半？お母さんにおこられちゃうよォ」

鋭子は泣き出しそうな顔をしている。

「あっ、ごめんね。鋭子ちゃんにまでこんな目に会わせて。いいからすぐ帰りなよ。お父さん、お母さん、心配しているから」

「ハイ。じゃ、小父さん。ありがとう」

鋭子は、嬉しそうに、サイン色紙を持って出て行った。

「ふう。で、ルパン、俺達」

「ああ、どうやら不二子に睡眠薬を飲まされたらしいな」

「…と、いう事は…」

「不二子は地下だ！」

ルパン達も居間を飛び出す。ふっと、玄関脇の窓口を通る時、赤い大きなリュックを背負った鋭子が、こちらに向かって大きく手を振っているのが見えた。

「鋭子ちゃんか…恐かったろうに」

ルパンが突っ立っている横を、次元、五右ェ門が通り過ぎる。

「何やっているんだ、ルパン」

「周章てる事ないって。地下の金庫はお爺ちゃんの考えたラビリンス・セーフだ。不二子だって、今頃…」

ラビリンス・セーフ。所謂迷宮金庫は、ルパンの祖父、アルセーヌ"ルパンが考えた金庫である。

金庫に至る迄の道が、図の様になっている。金庫を開ける為には、曲がる度に角のスイッチを押さなければならない。一度でも押し間違いがあれば、金庫は開かないのだ。

「アントラセン反応がある。不二子はあっちだ」

ルパンは、数ある道の中の一つに入って行った。

「不二子ー。バ～～ロ～～」

時間を掛ける迄もなく、不二子はCエリアでウロウロしていた。

「このヤロー」

次元が怒鳴る。

「あっは…。ルパ～ン、助けて～」

甘ったるい声を出して、ルパンの背中に隠れる。

キーっとなっている二人を、フェミニストのルパンが宥める。

「まあまあ、次元、五右ェ門。許してやろーぜ。この迷宮は、俺様でも迷う事がある位だから、不二子に開ける事はできないさ」

「甘いんだよ、お前は。帰りだったらどうするんだ」

その時、ルパンの中にその事とは別の考えが浮かんだ。

不安だった。その事が…。
ーま、まさかな…。そんな筈は…。
急に落着きを無くしたルパン、本道に入る為、後戻りをする。そして…金庫の前に立つ…。
「いいか、そーっと開けろよ」
「わかってるって…」
細く開けた金庫の中、外からの光で陳列してある宝石がキラッと輝く。ホッとした、安堵の表情をするルパン…。だが、瞬間、ハッとした顔になったかと思うと、堰を切った様に中に駆け込んだ。
「どうした、ルパン?」
次元も、五右ェ門も、中に駆け込む。ルパンは呆れた様に茫然と立ち尽していた。
「…ゼリービーンズだ…」

★ ★ ★

勿体無かったな…あのゼリー。いい味してたのに…。
鋭子は、そっと呟いて、リュックからキャンディを取り出した。紙を剥く。と、机の上に深紅のキャンディが…。いや、キャンディではない。紅玉(ルビー)であった。勿論鋭子には、そのルビーがドラキュラの涙…などと呼ばれている世界的な宝石であるとはわからない。
綺麗ね…。このルビー…。
鋭子は、その宝石を手の裏(ひら)で転がしてみた。他にも、リュックの中は宝石で一杯である。
「鋭子、ご飯ですよ」
宝石に見惚れていた鋭子、夢から覚めた様に立ち上がると、リュックの中のキャンデイを机の中にしまった。
「ハーイ」
と答えて、鋭子は食堂へ急いだ。
「鋭子、嬉しそうだな」
「ウフッ、ねえ、お父さん」
「ん？ 何だ」
「…ううん、何でもない…」
鋭子はニッコリと笑って席に着いた。
自分がルパンの家(アジト)に行き、不二子がポットに何か入れたのを目撃し、寝た振りをしてから地下に降りて行き、先に来ていた不二子が迷路に入ってしまっている間に金庫の中味を頂戴してしまった事を父に話したら、どんな顔をするだろう。
鋭子は、床柱を背に、晩酌を楽しんでいる父を、尊敬の眼で見詰めた。
宝石がゼリーになってしまった事で、ルパンは最低二〜三ヶ月は日本にいるだろう。そうしたら、またルパン小父さんの所に遊びに行けるし…。何よりも、大好きな父が、巴里のICPOとかに行く日がそれだけ延びる訳なのだ。
「いつも家をあけてすまんな。鋭子、明日何処か連れて行こうか」
ーううん、いいの。あたし、ルパン小父さんを追いかけてるお父さんも好きなんだから…。
頬杖をつきながら、鋭子は再び父の方を眺めた。
今日は何故か、うんと甘えてみたい気がしてならなかった。
一九八四年、秋。
鋭子は、枕元に四人の色紙を置いて、床に着いた。
朝、父がこれを見たら何と言うかしら…などと考えながら。

さらば愛しきルパンよ 裏話 その1

MAKI Chan

1983.1 RYO.MIZUKI

わたしは
ずっと
影だった
・・・
愛した人も
彼を愛した・・・
だが・・・
影・・・
By Mutumi

とうとう
この日がきた・・・

私が光となる時が
・・・

いやだよ！
とうさま！・・・

なんでぼくだけが
こんな事
しなくちゃ
いけないんだ
なぜ！
殺せ
おまえの手で
殺せ！

ころすんだ・・・

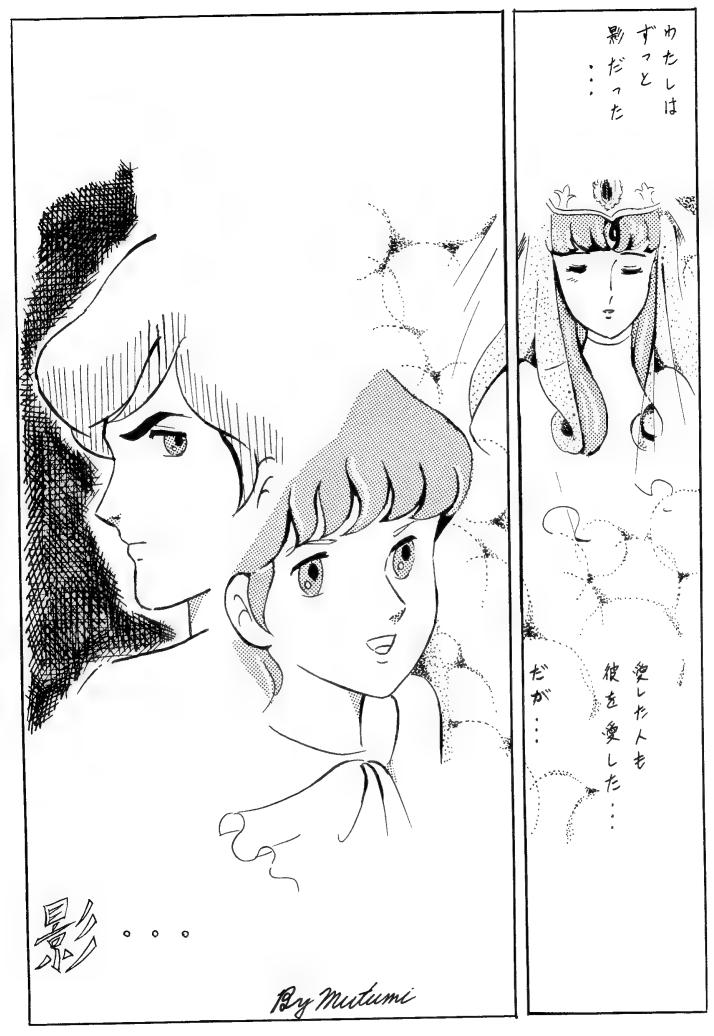
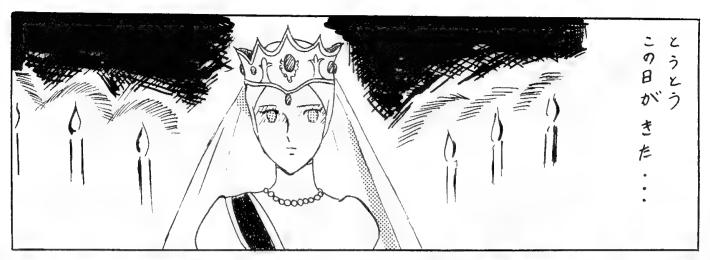
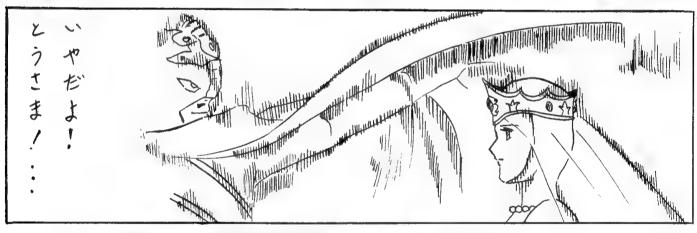
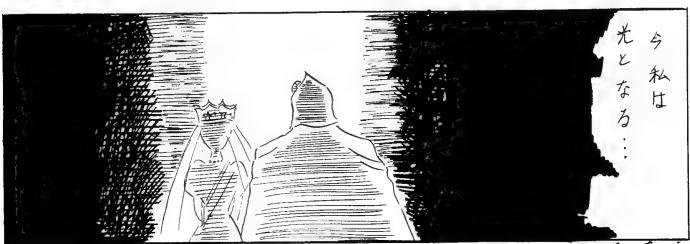
い・・・いやだよ

このカリオストロ
公国を守るのは
伯爵家の
義務だ
・・・

同じカリオストロ
公国の血をひくものなのに
おれは暗闇の中で泣き・・・
あいつは
太陽の下で
笑って、か・・・

このまま
影のままで
いなきゃならないのか
手に血を
そめるだけ
そめて…
あいつのために…
おとうさま…
おかあさま

私が 光となるための
きりふだ・・・
クラリス

もう
私のものだ・・・

別に伯爵が好きというわけではないのですがこうなってしまいました。
古谷 むつみ

Fin mutumi
1982 8.5

このマンガを　すべての旧ルパンファン
及び五ェ門ファンに捧げます
カッ

おっ？
？

な、なんだこりゃ!?
ぬ、ぬ、ぬけん…!!

わーっ!
あ、抜けた!
ズボッ

ずん
くるっ
サッ

じゅーさんだいごえもんとーじょー

魅木奇樹(みぎきき)

若いに似あわずサムライのような人物…今時の日本人にはまったくめずらしい!
呼び屋のルパン

逆です それがしは普通で他の日本人が狂っておる
早撃ちキッド
ふつうのキッド

五ヱ門大先生
日本刀の偉大さすばらしさをいささかも理解しようとせん

このように偉大ですばらしくて……

こんなにかっこよくてうつくしくてかわいくて……

こんなに…

ああっ!!

近々それがし…

この愛刀である男を斬る！
チャッ

えっ!?
で、その男とは…!?

それがそれがしにもよくわからん

ただある人がこんなヒントをそれがしに与えてくれた

「サル顔にてドングリ目鼻の下長く一見してスケベ」と……
さら さら
……
おおよそこんな顔の奴だ
ぴら!!

ごえもん…ぐん

ひーひー
ぎゃっはっはっはっ
こりゃいいぎゃっはっはっは
あーっはっは
こりゃいいや
ふん
バカ笑い
いじけっ子ゴエちゃん

アハハハハハ………ア？
だっ

おいひょっとしてバレたんじゃねえか？
まさかとは思うが…やっぱまずいかなズラかるか
ククク
プッ

んじゃまあとりあえず…

ああっ!!

あ、こらまだ早い！
ハァ
ハァ
ハァ

ちょ、ちょっと待て
動くと斬るぞ！
こら逃げるなというのに
ふた
あた

だぁーーっ!!

せぇーのっ!!

ぼわっ

ゴホ！ゴホッ!!
なんだこれは!?
畳のホコリか！
ううぬ
煙幕に
使うなどとは
姑息な！
掃除をしない
それがしの
自業自得
とはいえ

ううぬ
逃げられ
たか…
なるほど
さすがルパン！
古今無双の…
使い……

世話のやける奴だなホレ

・・・・・・・・・

ひしっ
あっ

五ェ門さん……
ああっ！いけない…ルパン！まだ不二子ちゃんにも指一本触れられてないこの体を……こんな……

やめんかこの倒錯色キチガイ！

ははははははは
サッ
？

ササササ……

ホー……
ホー……

話を本筋に戻しますが。

オレは谷山浩子の方が好きだなぁ……
♪ないてて ごーめんーね
♪よっぱらって ごーめんーね
フッ……根暗男め

あははははあはあはははは
あはははは
ぜんお会いしたいですネ
コンサートで
ぎゃははは！よし！握手券あげちゃお！

え？おまえさっき屋敷にはいなかったじゃないか!?
ちがうの単に出番がなかったの
グス

五ヱ門から逃げてきたの

暗くさせてごめんなさい
不二子!!

それでたまりかねて私が逃げ出そうとしようものなら……

うおーふられたーしんだるー
どーせわしゃ17才以上には相手にされんのだよー

説得力あんなァこのセリフ…

わかりました
わたしが五ェ門を退治してきてあげませう
このコマ高橋留美子さんみたい
ロリコン征伐

バルルルル……

すぐに奴をかたづけてくるからねー
ルパンってコリ症なのねぇ

ルパン待っていたぞ!!
日本
はっその声は!?

やってると思った絶対やってると思った

この下劣でエッチなさわり魔!!

さ……
ぎく

ベタ
ベタ
ベタ
ベタ
ベタ
ど……どうしてそれを……

健全
健全
健全
健全
ううぬぬぬ……
やっぱりィ……!!

ヒュルルルルルル
意味なくポーズ
ZOOOOOOM

ページの都合上展開をはしょります

……

で……
五ェ門、わしをどうする?

殺す!

→縁の下です

ズン

とりあえず逃げるか

ズン
ズン
ズン

???

?

わが弟子五ヱ門
殺しの秘術を残らず
授けたおのれにも
たったひとつだけ教えて
やらなんだ事がある
うぅ ぬ…
それはな
殺す事にあらずして
舌先三寸で敵をごまかし
死期をのがれる
つまりはそれ
生き方という奴じゃ

真に偉大な殺し屋と
未熟者の差がそこに
生まれる！
言ってみるなら わしとおぬし
そしておぬしとルパン！

その訳はな
五ヱ門・
さっきの場合
ルパンなら
ためらわず
わしを殺して
おったはず
はっはっ
はっはっ
そこがつまり
2人の差という
やつよ
はっはっはっはっ
ルパン三世
じゅーさんだい ごえもん とーじょー

いいこと
いうぜ
おまえさん

カチ
OFF
ON

わは…
プツン
わははは
あ
ルパン
ブロロロロ
ちょっ
ちょっ
こら
くそ
いくなー
バカー！
ひとり状況を
把握していない

ブォ
オオオ。。。。。。
ウウイイイン
オオオオォン

!!

さすが暗黒街の魔術師
ちゃうわ

どうしても殺る気か？
や……殺る！
風圧が……

ん!?
ザッ

五ェ門！
忘れたのか
燃える液体
の威力を！
じきに
わかるさ！
ためして
み・・・
ん？
液体燃
待て
ーっ!!
な、なんで
今まで!?
ちゅー
うるせェ
マンガの
役得
だ!!
ピューッ
わっ
ぷぷ
ぷ
いやあ
逆風に押し戻され
ましたねえ
ええ、これだから
マンガはわかんない
っスね

なんだなんだこの事故は!?

交通情報のおねえさんはこんなこと言ってなかったぞ!!

あーん!! まだローンが終わってないのにー！

なんだあのSSK!? 無人で走ってるぞ!!

気をつけろ！飛行機兵ラムダの攻撃だ！

しかしなんちゅうはた迷惑な展開だ!!

うんてんしゅーはきーみーだ♪

えーい収拾つかん！

果たして五ェ門は 最後に何を斬ったのでありましょうや

ニューヨーク、ブロンクスの安アパートの一室に次元はいた。ヴェルターブルーのボタンダウンにダークグレーのスーツ、同じ色の帽子を目深にかぶり、口にケントのシケモクを銜えながら、ところどころスプリングのとび出したベッドの上に仰向きに寝ていた。

その耳が、アパートの腐りかけた階段を上がってくる二組の足音を捕えた。足音は次元の部屋の前で止まり、　トン・トトン、とノックをした。次の瞬間、ドアを開けて先に入ってきた男は伏せ、後にいた男の心臓を次元のコンバットマグナムの弾が突き抜けていた。その男は、今起こった事が信じられないといった顔でその場に崩れ落ちた。

「何者だ？　こいつは」

コンバットマグナムを腰のホルスターに戻しながら次元が尋ねた。

「おそらくボロボロンテ一家の死刑執行人(ボイア)だろうさ。俺を盾にしたつもりだったんだろうが、ノックで合図したとは気づかなかったんだな。」

次元の相棒兼口入れ屋のロニー・マッコイが言った。

「マフィアのボスの息子なんてのは殺(や)るもんじゃねえな」

「しかたないだろうが。組織の命令に逆らったら俺達が殺られる。それより、ほら、次の標的(ターゲット)が決まったぞ」

いくぶん怒りぎみの声で答えながら、次元の方へ一枚の写真を投げた。空中で器用に写真を受け取った次元の口から、声にならぬ声が漏れた。

「ルパン……」

十数年ぶりに見る顔ではあったが、それはルパン三世にまちがいなかった。

そんな次元の様子にも気づかず、マッコイが言った。

「何でもそいつは、市会議員の連中(やつら)が賄路やなんやらで溜めこんでた金を一＄残らず盗んだって話だ！」

「で、盗まれた連中が組織に泣きついて来たという訳か」

写真から顔を上げながら次元が言った。
「連中と組織は持ちつ持たれつの仲だからな。いやとは言えないのさ」
「で、こいつの塒（ねぐら）は分かっているのか？」
写真をマッコイに返しながら尋ねる。
「ああ、オリエントホテルの二六二号室だ。二〜三百メートルも離れれば狙撃に手ごろなビルがあるさ」
写真をライターの火で燃やしながらマッコイが答える。
それを聞きながら次元はベッドのマットの二重底から、三〇‐六〇口径のレミントンM七〇〇の入った銃ケースを取り出すと、部屋を出て行った。

二時間後、次元はオリエントホテルから二百五十メートルほど離れた十二階建てのビルの屋上にいた。
レミントンにつけてある最大八倍のスコープを通して、オリエントホテル二六二号室を覗く次元の目にルパンが映っていた。
まったく無防備なその姿に、次元はトリガーにかけた指を引くことが出来ぬまま、すでに二十分が経過していた。
「次元、いつまでそうしているつもりだ」
業を煮やしたマッコイが言った。
「いくら二百メートル以上離れているといっても、あまり長くいると奴が気づかんとも限らん。もし奴に気づかれて逃げられでもしてみろ。俺達は組織に消されるかもしれんのだぞ。それが分かっているのか」
興奮し、額に汗を浮かべながら喋るマッコイを、次元はほとんど無視してライフルを構えていた。
やがて、決心がついたかのように、トリガーにかけた指に力が入る。
ボルトアクションのレミントンを自動銃のような早さで三発撃つ。次元の左目は発射時の衝撃波にも負けず、ルパンの左胸に三発全てが命中したのを認めた。
「ルパン、済まん…」
次元は、小さく呟くと、マッコイに引きずられるようにして非常階段を駆け降りて、ビルの裏の駐車場に止めておいたフォードをスタートさせた。

それから三日たった。ルパンの遺体は遺族と称する女に引きとられ、郊外の墓地に葬られたと聞いて、次元は一人ベッドで天上を見つめ、シケモクの灰が頬に落ちるのにも気づかぬげにしていた。
と、その時、ドアを蹴破るほどの勢いでマッコイが部屋に飛び込んで来た。
「次元、逃げるんだ！急げ！」
「どうした、何があったんだ」
マッコイの態度にトラブルの匂いを感じ、いっきに正気を取り戻しながら次元は聞いた。
「訳は後だ。とにかく車へ急げ」
言うなりマッコイは部屋の隠し金庫から取り出した金をアタッシュケースにつめ、部屋から出て行く。訳の分からぬまま次元もその後を追う。

車を飛ばしながらマッコイが言うには、組織が潰され、生き残った奴らの話によると、やったのはルパンらしいということ、それでその生き残りの奴らが次元が組織を裏切ったと思い込み、ダーティポリスのビューティーという男を雇って次元を始末しようとしているということだった。
「話は分かったが、ルパンが生きているっていうのは本当か」
動揺を隠しきれぬ声で次元が尋ねた。

「さあな、俺が見たわけじゃないからな。それより今はこの町から逃げ出す方が先だ」

その時、疾走する次元らの車の正面に銃を構えた男が出て来た。

その男を見た刹那、マッコイが叫んだ。

「ビューティーだ」

叫びながらマッコイは車をスピンターンさせ、もと来た方向へと向けた。その時ビューティーが銃を撃った。弾は車のトランクリアシートを貫いてマッコイに命中した。

「44マグナムだ」

苦痛に歪むマッコイの顔を見ながら次元が呟いた。

ビューティーの才二弾は右の後輪を破壊し、安定を失なった車は大きく右にロールして、街燈にぶつかり、そのはずみに次元は車から放り出された。そしてもれたガソリンに火がつき、車はマッコイを乗せたまま炎上した。

「マッコイ」

叫んで車に走り寄ろうとした次元の足元に、ビューティーの才三弾が跳ねた。次元はとっさに身を翻して走り出した。

と、前方から一台の車が走ってきて、次元の前で九十度スピンターンして止まった。

「次元乗れ」

運転していた男が叫んだ。

「ルパン、お前生きて」

その男の顔を見て驚愕の表情を浮かべ次元が呻く。

「訳はあとだ」

次元を車に引きずり込みながらルパンが言った。

次元を乗せると、その車は黒々とブラックマークを残して走り去った。

さしものビューティーも車には追いつけず、走り去るベンツSSKを見送るしかできなかった。

ルパンのアジトに着く早々次元はルパンに詰め寄った。
「ルパン、お前なぜ」
「生きているかって言うんだろ、次元」
「そうだ、俺の撃った弾は確かお前の心臓をぶち抜いたはずだ」
「その通りだ。だが俺は防弾チョッキを着てたんでな。それでも三発もくらうとボロボロになってな、ろっ骨を五本も折ったぜ」
胸に手をあてながらルパンが言った。
「死んだ事にしといたのは、俺の生命を狙うような奴らをぶっつぶすためさ。俺を撃った男がお前だと知った時には驚いたがな」
「すまなかったな…」
後の言葉をさえぎるようにルパンが言う。
「そんな事はどうでもいいさ。それよりな、次元。俺と組まないか。昔のように」
「昔のように、か…」
と、次元が呟いた瞬間、
『ルパーン　お前は完全に包囲された。手を上げておとなしく出て来なさーーい』
と、言う声がラウドスピーカーを通して聞こえてきた。
「おーお、またとっつあんのお出ましかよ。こりない人だね」
カーテンを少し開けた窓から外を覗いてルパンが言った。
「ルパン、ありゃ誰だ」
ルパンの横から外を覗いて次元が尋ねた。
「銭形っつってな、ICPOの警部さ。何だか知らんが俺を逮捕するっていきまいてるおっさんだ。さて次元、俺は行くぜ。お前はどうする」
「もちろんついて行くさ。泥棒ってのもおもしろそうだが、あの警部との追っかけっこも楽しそうだしな」
「ようし、それならハデに中央突破と行こうぜ」
玄関の方へ歩きながらルパンが言った。その後を次元がついて行く。
銭形の最後通告を無視して、二人は玄関から飛び出し、SSKに乗り込んだ。
次元のコンバットマグナムが警官隊に火を吹き、二人を乗せたSSKは、銭形たちの包囲を突っ切って走り去って行った。

END

ラストシーン,

SCENE 1 港

処刑は、もう執行されているはずだ。
「お宝なんて・・・そんなもの・・・」
波止場に たたずむロングドレスを まとった女一名。
今しがた 故人の遺品(かたみ)を海に投げ込み、物思う女心。
「いったい、どうしてくれるのよ！」
いきなり怒鳴り出す美女、アンタ、誰に腹を立てているのさ！
美女(オンナ)の頬に涙が光ったように見えた、 しかし海の風は 容赦なく吹きつけてくる。 涙なんて
すぐに かわかしてしまうだろう。
いつまでも海を見ていてもしかたがない。 とっくに夕陽は沈んでしまったヨ・
不二子は とりあえず家(アジト)へ帰ることにした。
（次元？ そうよ、あの野郎・・・!?）

SCENE 2 隠家(アジト) I

アジトには灯がついていた、いつもと何ら変らず ソファに寝そべる次元大介・
「次元ったら、アンタ何してんの？」
「ネてんの」
「そんなのんきなこと いってられないんじゃない？」
「なんで」
「何でって・・・ルパンが死んだのよ！」
「ああ」
「やってくれるだろう？」
「わけまえは」
「もちろん三等分さ、ざっと一人 三億ってとこかな。」
「すてきね」
不二子は ベッドに入いったきま、ものぐさそうにソファにかかったタイツをとる。

「で、私は何をすればいいの？」
「おっ、やってくれる気になったの？」
「ダメ、仕事のおハナシして」
女の肩にまわそうとした手が ピシャッ とたたかれ、そそくさと枕の下に戻れる。
「簡単さ、ヘリをあやつってくれりゃ いい」
「本当、カンタン！」
不二子は散らばった服を、まるで遊び古したジグソーパズルをうめるように 身につけていった。
そして、最後の仕上げ、
「探しものは こいつかい？」
ルパンの枕の下から現われる不二子の愛銃(ブローニング)・
「返して」
「お返事は？」
「・・・もう少し考えさせて」
「一分、それしか待てない」
「わかったわ、だから 返して」
不二子の手がルパンの目の前に出る、すかさず銃口を不二子の胸にとりつけるルパン、
心臓の鼓動と荒い息使いが、ブローニングに伝わってくる。 もう一分経ったか!?
「悪ふざけは よして」
相手(あいて)がルパンである。 不二子の声も少し上擦ってしまう。
「明日、深夜×時 きっかりに決行、ヘリはB地点に待機。 10分後ヘリ到着、あとは次元が
やる」
「ぜったいにミスはない！・・・なのね」
不二子は ルパンの口真似をしてみせる。ルパンの少し上がりめの口元から緊張が ほど
けて やわらかくなる。 ただ否定させない頑固さは目元に残して。
「でもルパン、これは ズルイわ」
ブローニングに手をのせて、そして
「アタシの頼みも聞いてくれる？」
例によって例のごとくである。 不二子の下心つきネコなで声です。
「ああ、もちろんさ、何でも どうぞ」

ラストシーン

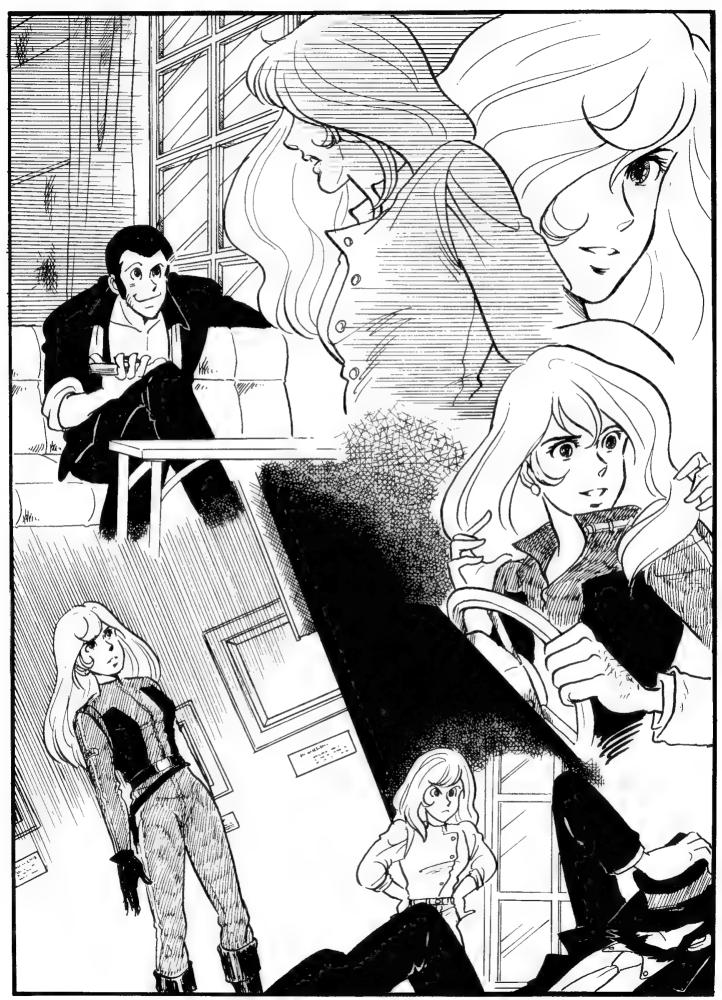
ゆっくりと、慎重に、ルパンの手からハジキをとりかえしてガーターにとりつける。
そして再び、ルパンの首にからみつく日焼けした細い不二子の腕。
「とっても欲しい物があるの」
ルパンは甘い女の髪の香りと、人肌(ぬくもり)をしばし味わって、
「ご何だい、そりゃは？ 宝石、現金(ゲンナマ)、純金(ゴールド)、重要書類(T・S)…？。」
「ちがうの、まったく… それに来年の話なの」
少ししらけるルパン三世。
「でも、でもネ ルパン、これはもうずーと前から狙ってたの、オ・ネ・ガ・イ♡」
「わかったよ、お姫さま。お約束しましょう、だから… なぁ」
外は夏、 夜は長い、でも眠れない人がいる。

SCENE 3 隠家(アジト) II

「そりゃあね、 約束したのは次元(アイツ)じゃないけど 少しぐらい協力してくれてもいいとちがう」
「あいにく 今夜は忙しくてね」
次元はあいも変わらずソファに寝ころんでいるだけだった。
「お葬式するでもなし、いったいどうしてそんな風なの？。」
「ファ〜〜 」
大あくびをする次元大介。
「さすが、ルパンシンジケートをしょって立つお方ね！」
「うるさいな、考えごとをしてんだよ 」
「なんですって！ どうせくだらないことでしょうよ、もういいわ、一人でやってやる」
不二子は二階の部屋でドレスを着がえて黒のレザーオールになる。
「いさましいな」
「じゃね」
右脇にヘルメットをかかえ、次元の寝そべるソファの側(そば)を通りすぎる。
ゴテッ！
「いてっ」
不二子はヘルメットをすっぽりかぶって フロントカバーを開け、バイクのエンジンを、あたため
ながら叫ぶ。
「あらー どうかして？。」
「わざと やりやがったな」
「バチがあたったのよ、いってくるわねー」
玄関まで追いかけた次元に 排気ガスをあびせ、たちまち小さくなる不二子のバイク。
「よしっと。ボチボチ始めるか、 しかしよ何でこんなことオレがやんなきゃなんねえんだ、ルパンよ」

SCENE 4 美術館

赤外線探知機なんてスコープがあればチョチョイのチョイ。
不二子は一人で忍び込んでいた。
(ふん、やっぱり地方(いなか)の会場ね)
探知機始め、防犯設備はたいしたことはない。
(とうぜんかしら… お金にしたって たいした額じゃないもの …でもネ)
不二子の今夜の得物は、マリィ・ロォランサンの一枚の絵だった。 そしてその絵は、会場の一番奥にあった。
(ルパン、これはあなたの仕事だったのよ)
不二子はその絵に魅入りながらつぶやいた。 それから絵を額ごとはずす、
「そこまでだ、峰 不二子 」
聞きなれた耳ざわりな声が真暗な会場にひびいた。 一瞬 何が起きたかわからない不二子。 暗いはずの会場に照明が入いる。 入り口には一人の男。
「ゼニガタ・・・」
「待ってたぜ、ルパンから予告状が来てたからな、おまえならくると思ったよ」
ゼニガタはニヤリと笑みをうかべゆっくりと会場に入いってきた。
一歩、二歩、三歩、
あせる不二子、逃げ道はない。 絵は一番奥の三方壁に囲まれた所にあるのだ。
じりじりとせまるゼニガタ。
ひと筋の汗が胸元に落ちる、

ラストシーン

（降参、ねルパン・・・）
不二子は、ほとんどあきらめていた、せめてもの心残りに気に入ったその絵をみつめる
（未練・・・よ）
四歩、そして五歩目の足を動かした時だった。

ジャリリリ〜〜！

とけたたましいベルの音。
「やばあい！。」
ゼニガタは思わず口をすべらせ、猛スピードで不二子に近寄り、絵を元に戻して、不二子の手をひっつかんで裏口にむかった。何が何だかわからない不二子は、ただひっぱられていくだけ。
美術館はやっと警備員たちが動きはじめた。
「乗るんだ 不二子。」
「!?」
「いそぐんだ！」
2人は裏口にとまっていた車にとび乗った。 その車は黒と白のツートンカラーでもなく、きらびやかなパトライトもついていない。
「パトカーじゃないのね？」
不二子はゼニガタと名のる男が偽物だと気ずいた。
「だれ？。」
「わかんない？。」
「次元ね—— さっきはあんなこといってたけど」
ゼニガタ（偽の）は大きな高笑いをあげた。
「笑うことないでしょ、でもひどいわ、そりゃさっきはアンタの頭にタンコブつくっちゃったかもしれないけど、そのお返しなんでしょ・アタシ本当にもうダメかと思ったのよ、ブツも置いてきちゃったし」
「不二子ちゃん、次元は今ごろアジトでパーティの用意をしてるぜ」
ゼニガタは、そういうと、片手で変装をとりはらう。
ドライバーは、あの
「ルパン。」
に、かわった。
「久しぶりだなぁ、不二子ちゃん」
「そうよね、そんなバカなことあるわけないのに、バカネ、アタシって」
「そう——バカさ君は。いつだって待ちきれないんだから、すばらしいラストシーンがみられなかっただろう」
この一年間の自分の姿がよみがえってくる不二子。
「うしろの包み、見てみな。プレゼントさ」
不二子は後席に堂々とよこたわる大きな四角形のうすい包みをとった。
「これ—— これはアレね！」
包んであった布をはずすと、そこにはさっきの不二子が盗りそこねたマリィの絵だった。
「あそこに あんのは ニセ物ちゃん」
「うれしい、ルパン」
思わずルパンの頬に接吻（キッス）する不二子
「いっただろう、俺は約束は守るって・・・ネ」
ウィンクをしてみせるルパン。
「さあ、アジトに帰ろうぜ、すっばらしい料理と次元が待ってるからな」
「ね、ルパン、まだお腹すいてないのよ、少し遠まわりしていけないかしら？。」
「そ、そういやそうだな」
「二人だけで、かんぱいしたいわ」
ルパンは右へ行くはずの車を左へと走らせた。
「次元、おこるだろうな」

SCENE 5 隠家（アジト） Ⅲ

次元は待っていた。 不二子にこづかれてコブのできた頭を、いたわりながら、必死で考え、つくった料理がテーブルの上に並んでいた。 おみごと！。
予定なら、もう10分前に到着しているはずだった。
「クラッカー用意してやったのによ」
せいいっぱいの次元の心使いだ。

「料理さめちまうぞ」

「まさか、あいつら また捕ったんじゃ… まさかな」

うろうろと玄関の前を歩きながら独り言をいいつづける。

「ワインだって開けちまったんだぞ」

タバコの吸いがらが、どんどん増える。

——おい、次元。せっかく不二子ちゃんが心配してくれたんだぞ、そのお礼をしなくちゃいけないよ。ラストシーンぐらい、グッとカッコよく決めようぜ ——

「ヘッ、俺は こうなるんじゃないかと思っていたよ。何がカッコいいラストシーンだ。カッコいいのはオマエだけじゃないか、このウソツキが！。」

ルパンと不二子が、おなかをすかして隠家につくのに、たっぷり一時間はオーバーしてしまったのは、いうまでもない、のよ次元。 かわいそう。

（おわり）

文・志賀 佳

絵・石田 真奈美

1983.2.25

by Hiroko. Rokusya

Fr. BRowN

カリオストロあれこれ
byえんどう・みちる
さっそくだが君には消えてもらおう
さぁて、そうカンタンに消せるかな
作者をなめるんじゃねえ！
うわっ
この前 友人に「クラコンに行かない？」といわれて あせったら、クラスコンパでした。
クラリスは、もう描かないって公言したのに…………
それにしても 手抜きでスイマセン
先日、鎌田とかいうおっちゃんがニセ5000円札を作って世の中をさわがせましたが、まさか あーんなアホな事して つかまるなんて!! どうせ発覚したのなら、せめて この位の結末で あってほしかった…
まさか 独立大分県が 営んでいたとは……
机にはってあるポスター…… 学園祭の時にユースホステル同好会からかっぱらってきたのだった。
クラリスの目玉親父
Comment allez-vous?
Il y a dix ans
10年前……
ほんのちょっと美化……
クラリス・ド・カリオストロ 7才
ラサール・ド・カリオストロ 25才

❀スケールは大きく、はてしなく❀
その子が信じてくれたなら、泥棒は空を飛ぶことだって
湖の水を呑みほすことだってできるのに！
へらず口はそれまでだ
このセリフ、はったりと思って聞いていたけど、よく考えたら、ルパンはルミファジャンプで空も飛んだし、指輪のナゾをといて湖の水を呑みほしたんだよなぁ…
↑どうやったら前ページの顔がこんなになるのだろう？
さうよ、さうよ
ネ…ネタにつまった…
シュウウゥ…
ぱかっ
この役は公平にクジびきで…
おろか者！
シュウウゥ…
あ…！
？
？
？
もとのまんま
クララや
ストーリィパターンに大差ないのだぞ！ゲストキャラが永遠の美少女か……
うげっ
はっはっは…
これは樋口紀美子さんと花小金井氏にしかわからないパロなのです。
北の塔
どどどどどど
ひっ…
だってロケット型だもん…

Face…

浦野晶子

セントラルパーク午後二時――

変わるのは人だけ、というのは使い古しの言い回しにしても、実感せざるを得ない。初春の淡い陽光は残っている薄い雪も、ほんのり芽吹き始めた芝の色も昔と変わらぬ色彩で照らす。

池に沿ったほこりっぽい道に彼女は立っていて、向こう岸の梢に明かりをともしている木々の芽に見入っていた。以前最後に見た時よりも少し肉付きが女らしくなって、あの頃くるくると巻毛を揺らしていた栗色の髪は、どういうわけかまっすぐなセミロングを肩のあたりにたらしている。が、あと三歩位の間隔をはさんでやっとふり返ったその顔は、考えていたよりも昔の面影を留めていた。

「今日は。」

「よう。」

薄くルージュを引いた口元が笑った。

「こんな服装でごめんなさい。今喪中なんだけどこんな喪服しかなかったのよね。」

少し流行遅れの黒いスーツを恥じる様に、彼女はコートの前を合わせた。

「おととい の晩から未亡人なのよ私。本当言うとね、今朝電話がかかってくるまでべそかいてたの。声がおかしかったでしょ。」

「少しな。」

「あなたからってわかると、急に元気が出ちゃった。まだいろんな後片付けが残っているのに急いで飛び出して来ちゃったの。不謹慎かしら？」

「そういう時は気晴らしが必要だ。構うもんか。」

彼女は安心した様に次元の傍をすり抜けると、雀のように歩いて行った。次元もその後について行った。彼女の声が前方に響く。

「どうして私のいる所がわかったの？あなたが捕まってすぐにあのアパート引き払っちゃったのに。」

「ああ…調べたんだ。」

「興信所か何かで？」

「そうだな。」

「まあすごい。お金持ちなのね。」

「お前さんだって、昔よりは顔色がいいぜ、リュー。あの頃みたいにのたれ死ぬ様な生活をしてるわけじゃないだろ？」

「毎日食べていける程度にはね。…ほんと、あなたはあんな下町でいつまでもくすぶっている様な人間じゃないっていつも思ってたわ。警察に連れて行かれた時だって…」

リュシェンヌの歩みはいつしかゆっくりになっている。

「共働きしているのか？」

「うん、そう。あの人は警備会社に勤めて私は近所の薬局でパートタイムしてるの。共働きだったのよ。面白いの、あの時のあなたと同じ年頃の子達がよくゴムを買いに来てね、店にいるのは女の私だけでしょう。すっかりどぎまぎしちゃうのよね。それでも何とか欲しいものを言うんだけど、私とぼけてきき返すわけ。そうするともうダメ、うつ向いて黙り込んじゃうのよ。結局売ってあげるんだけど…楽しいのよ とっても。まるであなたをからかっているみたいで。」

「やってる事は昔と全然変わらねェな。」

「だって困り切った時の次元の顔って、とても面白いんですもの。」

リュシェンヌはいきなりふり向き、次元は危うくぶつかりそうになった。

「ほら。今もそんな顔してる。」

次元は思わず目をそらした。目をそらした先には、向こうの道を乳母車を押し乍ら散歩している夫婦の姿があった。リュシェンヌも彼の目線を追うと、少し考え深げにまた歩き出した。

「でも、私あなたの顔好きよ、次元。仏頂面してる時が多い、なんて誰か言ってた様な気がするけど、やたら泣いたり笑ったりしている人より、ずっと表情が豊かだったわ。」

「難しい事を言うんだな。」

「そう？そんな積りないんだけど…」

「あのアパートを引き払ってからどうしたんだ？」

'83 1.15
M·K

「あれから？　うん、あなたが捕まる少し前に結婚した子達、いたでしょう…ほら、ジョージ＝ルーモントとナンシー。あの子たちがヴィレッジにあるレストランで働いていて、その伝で働かせてもらう様にしたの。住み込みでね。…あれ以来、他のみんなとも会ってないわ。どうしているのかしら…ちゃんとやっているのかしら。」
「良くなった奴もいるし、悪くなった奴もいるさ。」
「あなたはどっち？」
「両方だ。」
「よくある答えね。」
彼女は笑って左腕を彼の右腕にからませた。
「あれ以上悪くなれるかって、あの頃は考えていたけどね。今から考えるとそう悪くもなかった様な…自分の状態ってわからないものよね。」
「そのレストランでずっと勤めていたのか？」
「ううん、五年位かしら。その間に主人と会って結婚して、で、彼の仕事の都合でこっちに移ってきたの…また。本当は折角の仕事、やめたくなかったけど…薬局の仕事も彼に反対されたのよ。私が働かなくても二人の食い扶持はあるって。でも何かじっとしてられなくて…特に昔の事思い出すと。次元はそういうことない？」
「別に。」
「かもね。」
青い目が優しくくもった。
「あなた、当たらない銃を必死になって撃ってたものね。そうでもしなきゃ自分が死ぬ！って感じで。…だからあの時の顔が一番好きなのかな、私。今もそう？」
「……」
次元は腰にぶら下げてある黒い金属の固まりを今更ながら感じた。
「何て言うのかな、男の人ってみんなそうなのかな。あの人、とても意固地な所があったのよ。私がそうやって働こうとすると、そんな事言うし、私に赤ちゃんが出来たっていうと、それまで一日おきだった仕事を毎晩にしてみたり…宝石店と寮の警備をかけ持っていたのよ。」

次元は黙ってリュシェンヌの歩調に合わせて歩いていた。が、彼女が急に立ち止ったのに気付かず、二、三歩先を歩いてふり返った。彼女はゆっくり彼に近づき、首のあたりで彼を見上げると、小さな声で言った。
「ねえ。どうして私に電話してきたの？」
彼女が近づいてきた時から、次元は既にその気配を予想していた。小さな銃口は吸い着く様に彼の心臓部に当てられている。次元は今度は目をそらさない様にと心掛けた。
「さあな。俺にもわからねェ。」
リュシェンヌは口を少し開けて彼の返事を聞いていたが、銃を押し付ける手に少し力をこめた様である。その緊張が段々高まってきたな、と思った時、彼女の手の中で押し殺した様な金属音がした。
彼女は一歩下がると、ふっと笑って護身用のけん銃を顔の前にかざした。
「これで夕べは自殺しようと思ったの。こうやって頭にあてて弾き金引いたけど、弾丸が失くなっちゃってたのよね。それですっかり気が殺がれて、その上に今朝のあなたの電話でしょう。もう何が何だかわかんなくなっちゃった。」
年のわりに無邪気な笑みを浮かべ、彼女は次元の肩にポン、と両手を置いた。
「だめだわ、やっぱりあなたの顔見ると私…あなた全んど何も言ってないのに…」
そう言って次元の頬に接吻をした。そしてもう一度彼の顔をのぞいた。
「大好きよ、次元。本当は銃撃ってる時の顔を見たかったけど、今の顔も素敵だわ。」
そのまま踊る様についと彼の前を離れると、リュシェンヌは五番街の方に向って歩いて行った。十歩位行ってちょっとふり返り、白い手を振った。
後姿が人混みに隠れぬ内に次元は彼女の行った方に背を向けると池のほとりをブラブラ歩き始めた。――今現在彼女の目の前で銃を撃ってみたところで、御期待には添えんだろうな、と思いながら。

END

女の人の声!?

きゃ――……

殺される!!

助けて!!

おまわりさん

ミスキャスティング覚悟の㊗ルパンパロ

マ・マキちゃん…
でぇんっ
ぐいーっ
交番
助けてー
ドンドン
おばさま!!
どうしたんですか!?
大丈夫ですか!?
ぐおおお

空白の美
ドカーン
鷲は舞い降りる
今の音は、いったいなんだったのだ？
もやもや… 気味わるい
パチッ
ちっちょっと!! おまわりさん！ はやくたすけてよ！
ドッドド
ズドッ
コーヒーは ネスカフェゴールドブレンドです♡

子供の出歩く時間ではないが…
12時です…
しばいたろか…
このヤロー殺してやる—
ざんしんなバックだ
助けて!
まあまあ落ちついてお兄さん
キリッ
やっぱりーおまえたーもゴートの血が流れているのネ
すぐ男とひきこんで
それがゴートの血…
ほーほっほっほ…
まっ血

いーえ
私の血は無添加よ!!
キリッ
無添加
強いて言うなら博士の血が流れてるわ!!
博士!? 則巻か!?
のりまき
横しま…
ピーポーピーポー…。。
ならあたしゃアラレか
バーン
ハ…
ピタッ
患者はどこだ
グイ
救急車
止まった!?
ズカズカ
ホークアイさんです
ヒリ
ヒリ…

ルパキャラで医者にだとうな人物がいなかったもので

気分はアラスカ ヒュオ〜

あらあらつまきだち、ごくろーさま♡

その後
たす…て……
おっ気づきやがった
大丈夫か？
次元!!
あれから何日たった!?
おもわず目をそらす
そうだ そうだ!?
あ…？
さっきの悲鳴は気のせいか…
う～む
3
……
きゃあああああ……
誰かあ助けてええええええええ……
でえっ

毎日毎日!?!!
あの夫婦ゲンカを
くり返すの欠!?
……大丈夫ですか
きいたところによると
あの悲鳴は
毎日だそうです。
あの
ケンカは…
言われた悪口
を否定することで
身分を売り込み、はんりょ
を募集する…
まあ見合い写真の様
なものだそうです。
……
……
足かけん足
御老体は精神的な、つかれも はやいものです。
おじさま、私もつれていって…
ドロボーは まだ 出来ないけど
きっと おぼえます。
このまま
ノイローゼには
なりたくないの!!
おわり。

ILLUSTRATION ZONE

act,2

おじさま・・・
ポッ
マキちゃん♡
クラリス♡♡
Super Hero
Lupin the 3rd
クラリスだけ
なーもみないで
かいたので
にてまへんな
自己流……
リーサちゃん♡
ほんとは
かぐやちゃんも
かきたかったー
ほんと
完璧にシュミの
ルパンをとりまく
女たち♡
不二子ちゃん♡
髪の毛…つかれた…

覇流空

Lupin the 3ed
by kolia
S57 9.25
かきなおし

ひょーきん
トリオ
by 真先・古市
かんむり
!!
$
THE・ひな人形
ポロッ

ふうーじっ子
ちゅわ〜ん!
1982
8.13 良.

Lupin The IIIrd
JET♡さん
すみませんっ
いい ニーずが
思いつかなかったんで
使わせていただきました
やってらんないじゃんか
しかし アホだなあ
こんなことしたら 私の
下手なのが よけい
見だってしまうじゃない!
by えこ
'82.9.11

Fujiko Variety
WANTED
FN D'ARMES GUERRE HERSTAL
BROWNINGS D-2966
名手配!
おたずねもの
Criminal
END

ここは日本。某山の中の名もない古寺。殆ど住職はここ数年リューマチを患って、山に上ってくることもない。その寺に居候しているのが、かの石川五右ェ門であった。彼以外に籠るなどという聞こえはいいが、誰がいるわけでなし、当然のように毎日の掃除、洗濯、家事一切は、彼の肩に重くのしかかり、人里離れた山奥の割には、にぎやかで充実した日々を送っていた。

そんなある日、彼がいつものように朝食の片付けをして、おもむろに素振りをやっていたときのことだった。誰もいない筈の本堂に人の気配がした。不信に思って覗いてみると、隅の方に誰か横たわっていた。年齢十六、七、幼さの残る顔がなかなか端正な髪の長い少女と、それにもう一人、生後間もない赤ん坊が正にころがっている、といった風にそこにいた。娘は人の気配を察して少しだけ目を開けて言った。

「おなかすいた」

大急ぎでみそ汁を暖め直して与えると、やっと一心地ついて彼女が尋いた。

「何も尋かないのねえ」

「本当のことを言うとは限らんからな」

「嘘はつかないわ。私ここの住職さんに会いに来たの。昔この下の町に住んでたから親しいし、この子を預ってもらおうと思って……」

そう言いながら彼女は胸をはだけた。

「わっ おい、ちょっと待て」

「この子もおなかすいてるから、ごめんなさい

少しむこうを向いてて」
ちょっと恥ずかし気に女の子が言った。しつこいようだが、年の頃は十六、七、少し幼い顔立ちの少女である。

「歳は幾つだ?」
「十六歳」
「お前の子…なのか?」
「ええ」
「お願いします。少しの間です。この子を預っていてくれないでしょうか。急いで会わなくてはならない人がいて…。それにあなた、住職さんの代理でしょ」
「いや、しかし…」
「お願いします。助けると思って、ねえ」
なんだかんだで結局、押しつけられてしまった。
生後数カ月の赤ん坊は悲常に手がかかる。何といっても真夜中に泣かれるのが一番こたえる。しかし、押しつけられてしまった以上は戻るまで責任を持って面倒をみなくてはいけない。山寺では何かと不自由なので、五右エ門は赤ん坊をしょって下山(おり)ることにした。
着いた所は町の薬局。

ある。

娘と別れてから５日後、突然彼女から連絡が入った。

―すぐ来て、港！。―

これだけ言うと電話は切れた。〝全く、なんだって私がこんなことしなくてはいけないんだ？〟と思いつつも五右エ門は慣れた手つきで赤ん坊を背負い、かえのおむつと、ミルクの入った魔法ビンの入ったバッグを持ってホテルを出た。五日の間にすっかり習慣化してしまった悲しい男の性であった。

そしてここは港、娘は定刻通りコートのえりを立てて立っていた。

「有難う。わざわざお呼びたてしてごめんなさい。もうすぐ浩二さんも来るわ。」

「浩二さん？」

「その子のパパよ。いやあねえ。」

娘は少し頬を染めて言った。〝いやあねえ〟の〝ねえ〟のあたりに妙に色気があった。〝十六、七で必要以上に色気のあるのは考えもんだ〟と思いながら五右エ門は赤ん坊を彼女に渡そうとした。

その時突然辺りが明るくなった。千余台の車が一斉にヘッドライトをつけたのだ。おまけによく見ると、倉庫の影には五十人近くの人間がいる。あのおそろいの青色ハッピの集団である。

〝やられた！〟

唇をかんだがもうあとの祭り。かの非常を誇る石川五右エ門も、育児のおかげですっかり毒気を抜かれてしまっていた。そうこうしているうちに、彼等二人を囲んだ円陣の一画がひらき、一人の初老の男が歩みよって来た。かなり速いペースでカッカツと音をたてて五右エ門の側に来ると、その肩に手をおいてポツリと言った。

「君は手は早いが、責任感の強い青年だ―。」

「は？」

「お父さん、誤解しないで！　この人は……」

「黙っていなさい、圭子。」

一瞬男の言葉を理解しそこねた五右エ門を無視して二人は勝手にドラマを展開していった。

「君！。どうか娘をもらってやってくれんかね。」

いつもは着たこともないカッターシャツにGパン、そして赤ん坊を抱いている様は、モロに嫁さんに逃げられた甲斐性なし亭主であった。その姿が哀れを誘ったか、薬局のおばさんは親切丁寧に育児指導をしてくれた。

「よろしいですか、赤ちゃんをお風呂に入れる時は、耳をこんな風におさえて——」

「はあ。」

店を出て角を曲ろうとした時、おばさんがかけ寄って来て言った。

「まだ若いんだから、気を落とさず頑張んなさいね。」

そして無理矢理試供品の粉ミルクのカンを渡して走り去った。

ホテルに帰った。五右ェ門は肩を小刻みにふるわせつつ笑顔で何処かへお電話。店に戻ったおばさんは満足気な

「……もしもし、宮下薬局の者ですが、先程お尋ねだった方らしい男性が、今しがた、ベビーパウダーと粉ミルクと紙おむつを買って行かれましたわ。赤ちゃんをお連れだった方からすぐわかりましたよ。いーえ、お礼だなんて…… それじゃ又いらしたらお知らせします。」

—ガチャ—

その夜五右ェ門は、赤ん坊の世話に大奮闘した。

「あ〜、よしよし、泣くな、泣くなよお、今ミルクを、あちっ、人肌ぐらいって言ったから、もっとさまさにゃならんなあ……」

次の日彼は、角のたばこ屋さんに行った。

「すまんがこの辺りに、子供の肌着を売っている店はないか？」

たばこ屋のばーさんは面倒臭そうにじろりと一瞥すると黙って指で方向を示した。

「かたじけない。」

五右ェ門が行ってしまってから、ばーさんおもむろに電話。

「—あんた方の言ってた子連れの男が来ましたよ。じゃあ……」

—ガチャ—

こちらは電話の向う。二人の男がぼやいている。

「ちっ、愛想のないばーさんだぜ。」

「全くだ、仕事とはいえ嫌な役だ！」

「おーい、情報収集部隊が帰ってきたぞー。」

これは第三の男。

「お嬢様の消息がつかめたそうだ。」

そこへドヤドヤと入ってきた背広集団。これが情報収集部隊らしい。目のさめるような青のはっぴを着たリーダー格の男がそれぞれに指示を与える。

「お嬢様の行方がわかった。栄町支店の者は今まで通り男を見張れ。南町支店に連絡を。新田町支店の者は明日からの夏物処分市の準備を急げ。」

「支店長、社長からお電話です。」

電話を取り継いだ男も青いはっぴを着ている。背には、白抜きで大きな文字が—、

『皆様と歩む♡タマキマーケット』

「もしもし、電話変わりました。支店長の黒田です。はいっ、お嬢様の居所をつきとめました。男は只今身元調査中です。はい！」

「男の居所がわかったらすぐに連絡しろ。そしつから目を離すな。娘はしばらく放っておいてもかまわん。」

流石に、社長ともなると喋り方も大物然としている。この男が、五右ェ門をひっかき回したあの娘の父親なので

「待って下さいお義父さん」
これは五右ェ門の台詞ではない。突然円陣に割って入った青年の口から発せられたものだ。勿論彼が潜二さん、その人であった。
それから後は簡単なことだ。一度許すと言ってしまった以上結婚を許さぬわけにもいかず、かくて二人の仲はめでたしめでたし。あわただしく式を挙げた後親子三人でディズニーランドへ新婚旅行のはこびとなった。結局いいだけひき回され割を食ったのは五右ェ門だけであった。晴ればれとした顔で旅立った若い夫婦を見送って、その飛行機が点のようになってしまった時、五右ェ門ははっと我に還って独りつぶやいた。
「近頃の若い者のすることは…わからん」
後日談ではあるが、そのあとで五右ェ門がえらくふさぎこんでいるのでルパン達が無理矢理問い正してみると、ため息混じりにこう答えたという―、
「赤ちゃんが欲しい」

"Qui est là?"
"Je suis un cambrio-
leur"
R
"Es-tu effrayant?"
"Non"
Sylvie Beaudoin
and
May S Finefield

男と男の肉体労働？

なんのこっちゃ

By 日向良.

まあそう
ごねるな
NUGI NUGI NUGI NUGI
ぬ
ぎっ!

観念しな
五右ェ門
シュル
やめろ!
ルパン

!!

あっ!
くっ……

どうだ、五右ェ門!
我慢はからだに
よくないぜ

なんのルパンこそ
力がぬけてきた
ではないか
ハァハァ

あっタバコがない!
おっ!
なまいきね
……
それっ!!
あっ
あーっ!

やるなルパン クソー

なんのっ！

↑デッサン狂ったなー～～

↑ワッハハハ！ もうしらん！

よっよくあるネタですみません！ 絵もひどい！
しかしこれみて期待しちゃった人（ほれ！あなたですよ）いったい何を期待したんですかね？
えーい殺せ ひと思いに殺せ！
A様 申しわけありません！

不二子
あの娘はいつでもルパンを信じてるのさ
―― ルパンは不死 だって
ルパンはどんな時にも
見事にぬけだすって ――
それはもう 完全に
信じてしまっているのさ…
不二子のルパンだましは 甘えなのさ
信じてるからこそ
甘えてしまうのさ
愛してるからこそ
甘えてしまうのさ
それはもう 完全に…
だけど彼女は 彼女自身
それに気付いてないんだよ
まあ、だからこそ DRYなつきあいを
KEEPしてられるんだよね
(無邪気な 彼女は ほんとに カワイイ)
大人ぶってて 子どもな
Rasha
不二子 サン!!
CUTE GIRL FUJIKO ……
FROM THE STORIES OF LUPIN III
AUTUMN 1982

平和だね・・・・
お…
皿だぜ
皿！
お
?!
次元大介氏はエプロン姿が実に
イイ…と思うのです。以前宮崎サンが"ルパン
の娘が主人公ならもう一度作ってみたい。次元も五
ェ門も引退していて、次元は小鳥屋かなにかやっ
ていて….″と、こう言ってらしたことがあったん
ですけど、その小鳥屋サンからのイメージで勝手
に思いこんでます。わはは💦 そういえば
JET♥さん、マンガに割烹着の次元サン
描いてらしたけど…か、可憐だったわっ♡♡♡
フライパンの中身は肉ダンゴ入りスパゲッティ。
（のつもりだっ！）たまにはマグナムのかわりに
フライパンは いかがでしょ？
五ェ門さんは引退したら何をするの
だろーか？お習字の先生…発想が…
小市民的だぜ…💦
by. 須良朱

パンドラ
いやはや
なんとも大盛況ですな
ミス・パンドラ
by. 高瀬吉

ところでミス・パン
ドラ――例の件
だがね…
金と地位はたしかにほしい
しかし私にはこの町の人々
の病気を診てやる義務が
あると思うのだ
したがって
君のさそいは
ことわるよ
そう
では　しかたないわ
ド
ス
JETさん
花借りました

ドサッ
ギド…彼は気分が悪いそうなの
つれていって
大変です！たっ第三ルーレットで
赤……の
3だ!!

つづけて赤の3を出す男がいるって
!?
はい! 六千万ほどすでに——
コトッ
ヒュー
テストが近い! 何もやっとらん!
来年受験なんぞ〜〜
!?

ルパン……
ルパン三世
ああっ
いないぞっ
ルパンをさがすのよ
ぐずぐずしないで！
はっ!!
カッ
カッ
カッ
カッ
ルパン――

パ
フ
フフフフフ…
久しぶりだな
パンドラ
いや……

シモーヌよ!!
パンドラッ!
こんなヨーロッパの片いなかで何をたくらんでいる!!
国営カジノに手を出したわけはなんだ!!――そして
※パンドラ＝狙ったネタを必ずモノにする秘密報道組織。ルパン帝国と対する。

なぜこんなに変わってしまったんだ!! 答えろシモーヌ
ルパンこそここへ来た理由は何?
一つはカジノのもうけをいただく事
二つはパンドラをたたきつぶす事
三つは…
お前をもういちど愛する事!!

新帝国建設のため人材を要求されたため
各界の優秀な人材を得るためにカジノをつくって……
……さらっていったのか
ルパン、あなたには——
——やめとけ

私をどうするつもり？
どうもしないさ
ただ……
昔の——
オレの恋人だったころに
お前にもどってくれ

わかっていたはずよ　ルパン
パンドラをぬける〝掟〟は死だと言うことを
死ぬのなら
あなたの手で

わかってたさ……
パタッ

ドカー

ワワ

ブライガー見たい…

五右ェ門は？
うぐううう
車の中でまってるぜ
……なんかおかしいぜ お前……
なんでもねえよ
よし！ずらかろうぜ 下がさわぎ出すと ヤバイからな……
ルパン

F.ブラウンさん「…そして…!」と「カリオストロ」の中間をとったつもりだった……!!!

午後7時の賭け

by Azu

ルパンのアジトの一つである、某アパートの一室から怒鳴り声が響いた。
「こればっかりは、ゆずるわけにはいかねェ」
「いいや、ルパン！そいつは俺のセリフだぜ」
ルパンと次元が何やら言い争っている。それも、かなり真険に。
「おめェがなんと言おうと、7時からは『イデオン』を見るんだ！」
と、ルパンが言えば、次元も負けずに主張する。
「ぜったいに『ヤマト』だ！」
激しいチャンネル争い。
そこへ五右ェ門が割って入った。
「これで決めたらよかろう」
彼が出したのは、カップとサイコロだ。
「よーし、やってやろうじゃねェの！」
「次元、いいな!?」
「おう、のぞむところだ！」
「半！」
「丁！」
そして、五右ェ門はカップを取った。
結果は……
「あ、サイコロ入れるの忘れた」

完

むかしむかしある所に、不二子という女がいました。ある日、彼女が川で遊んでいたところ、上流から大きな大きなキャベツが、ドンブラコ、ドンブラコと流れて来たのです。
〈ロールキャベツ一年分！〉
そう思った彼女は、それを持って帰ることにしました。
〈おいしそう…ズルッ…でも、まてよ、これホントにキャベツかしら。あ、そうだ、念のために探偵さんに来てもらおう。〉
そして、探偵がやって来ました。
「私はフランスの名探偵、シャーロック・ルパンです。」
「シャーロックルパンさん、実は、かくかくしかじか…」
「なにっ？ よし、さっそく調べてみよう。」
「ふーむ、」
「で…どうですか？」
「これはキャベツだ、さっそく食おう。」
と、戸棚から皿を出しました。
「なんで、二つも？」
「俺も食うんだ。」
「分け前がへるな〜」
「ちょっとまったア!!」
と、一人の男が入って来ました。

LONG AGO（むかしむかし） by Azu

「それは爆弾だぞ！」
「なんですって!? あなたは…!?」
「私は、かの有名な、アメリカの秘密情報部員、ジェームズ〃次元です。
実は、A国の奴らが爆弾をキャベツにつめて、川に流しているという情報が入ったのです。」
「そう言いつつ皿を出しているのが気になりますが。」
「おい、ジェームズ〃次元とやら、これは俺のもんだぞ！」
「なによ、私のもんじゃない！」
わーわーぎゃーぎゃー……
そして、あのキャベツがどうなったかは勝手に想像して下さい…
めでたし、めでたしー

完

1982.12.25.
JyōtaroYasuda

それから…のルパン
作.A05
ある朝
ふあ
目覚めると
ルパンは
女になっていた
ぱふ
そして
次元は…

ヒゲ付きの女になっていた
LOOK

で…！
五右ェ門は
てーと
これが…

おそろしい事にあっていた
?

ルパン！
早まるな

はなせ〜
はなせ
はなせ

はな‥せえ
五右ェ門なら女で充分やっていけるさ
…
!
ああ・お前らはいいさ
お前らはな!
次元だってそうさ
銃のうでに、男も女もねえもんな
けど
けど
おれは

不二子と四世を作るのが夢だったんだ
ウソ
ダロ？
セ・セコ
ポントカヨ
わっかわい
ま・まて
悪かった話せばわかる
ハハ
あ
お前めんだあ
ガバ

不二子は男になっていた
さて、その後…
五右エ門は
あらたな
修行の
必要
を
痛感していた

護身のために…
アーハーハーハー
次元は
グーーーー
男性恐怖症
になっていた
エッチ
スケベ
ヘンタイ
不二子は
あいかわらず
色仕掛けで荒かせぎ？

そして…ルパンは…
やだ〜
独身でいたい〜
ルパン四世
バンジャーイ
おわり

破裂

話作った奴
おいきむち ← 次元・五右ェ門・不二子描いたの
＋
ルパン描いたアホ→ ネムイ.

ぱぁん
プゥ〜ン

ワハハ
ワハハ……

とこが裏の空地じゃ…の
さすがだ ルパンくん.
これだけの 短時間に
ダイヤを 持って 来れるとはな.
私が ゲーリンだ.
約束どうり 不二子くんは お返し しよう.
その前に
ダイヤを こっちへ 貰おうか.
なんなのお〜
フフフ…
感謝 するよ ルパンくん. しかし 悪いが
キミには このまま死んで もらおうかね.
チャッ
ぱあん!

ご苦労さんっ。
不二子ー
もう大丈夫だよグフフフ…
むぎゅっ
ぱあん
ありがとねルパン♡
END
'82. 12. 26.

1982・4・17

堕天使
ルッファ
作：銀の鍵
カット：縁

prologue

パリ郊外の森の中、誰も知らないルパンの隠れ家。
ルパンは今、明日からルーブル美術館で開かれる"古代宝石展"の会場から"堕天使(ルシファ)の涙"と呼ばれている百カラット以上の水滴型をしたブルーダイヤを頂戴する計画を立てている。
「ところで…お主そのダイヤを盗ったら、いかがいたすおつもりか?」
ルーブル美術館の見取図に赤で印を付けながらルパンは、
「決まってるじゃないの、愛しの不二子ちゃんにプレゼントすんのよ。前に、こんなの欲しいわぁ、なんて言っちゃってたから…」
「不二子殿に…」
さっと斬鉄剣を抜いて、まだ残っている不吉な影を確かめた。そして再び鞘に戻すと、
「ルパン悪いが、拙者、今回の仕事(ヤマ)は降ろさせてもらう。…何か刀の影が気になるのでな…。出来ればお主もこの仕事は止めた方が良いぞ。不吉な事が起こるかも知れぬ」
そう言うと五右ェ門は何処へとも知れず姿を消してしまった。
「ちぇっ、不二子の為にする事が、女の為に盗(や)る事が嫌なだけだろうが!」
次元は何も言わずに、愛用のマグナムを磨いている。
五右ェ門の事は何時もの事だ。気にする程の事ではない。
"俺も女の為、取分け不二子の為と言うのは気に入らないが…"
と、グリップに血のような染みが付いている。拭いても取れない。
"刀の影が気になる"
五右ェ門の言葉が頭に響く。
"五右ェ門の言う通り、何か不吉な事が起こるのかも知れねェな。この血の様な染みはただ事じゃない。この仕事(ヤマ)は止めた方がいいのかもな"
ルパンは何時の間にかいなくなっていた。下見たでも行ったのだろう。書置きを残して、次元はその小屋を後にした。
『ルパン。悪いが俺もこの仕事、降ろさせてもらう。悪い事は言わない、お前もこの仕事止めた方がいい。良くない事が起こる…そんな気がする』
書置きはダートで扉に張り付けられていた。
しかし、ルパンは最後までそれを読む事はなかった。
何故なら、ルパンはこの小屋へは帰って来なかったのだから…。

※
※
※

堕天使(ルシファ)の涙――――何時作られたか不明。メソポタミア出土。百カラット以上もある水滴型ブルーダイヤ。伝説では、"遠い昔、まだ世界が出来たばかりの頃、ルシファが神によって天界から落とされた時に流した涙が固まって出来た"とされている。その為か、何時しかダイヤは"堕天使の涙"と呼ばれる様になった。

堕天使

I

ルパンは、ルーブル美術館を覗ける場所にある隠れ家に向かって、シャンゼリゼ通りを歩いていた。

〝付けられてる！〟

ルパンは素早く角を曲がって姿を消した。暫くすると、足音が近づいて来た。曲がって来た奴の鼻先にワルサーを突付ける。其奴(そいつ)は体をビクッとさせると、ゆっくり両手を上げた。お互いは暗い影のためハッキリとは見えない。その間で黒光りするワルサーP38の銃身が、わずかに人がいる事を示している。

「何故、俺の後を付ける」

「……」

答えはなかった。

「何故、俺の後を付ける」

もう一度、ゆっくり言った。その言葉には、回避を許さない強さがあった。

「ルパン、僕を覚えているかい？」

「誰だ。何故、俺の名前を知っている」

「ほら、五年前助けてもらった、ルシファンさ」

「ル…ルシファン？ 知らねェなあ」

「覚えてないか。ほら、あの〝黒い瞳〟事件で助けてもらった…」

「ああ、あの…」

ルパンの脳裡にあの時助けた少年の姿が浮かんだ。

「しかし、それだけで、お前があの時の少年だっていう事を信じる訳には行かないぜ」

「そうですね。それじゃ、こういう話は？ …ルパン三世が〝黒い瞳〟を盗んだ事は知られているが、その後、ルパンは仲間の不二子にその〝黒い瞳〟を持って行かれてしまった…。この事を知っているのは、あなた達四人ともう一人だけ…」

〝そう、この事を知っているのは、俺達四人の他にはあの少年だけ…〟

少年が誰かに話したという事も有り得るのだが、何故だかルパンはルシファンと名乗る男があの時の少年だと確信できた。

「確かにお前はあの時助けた…。しかし、何だって俺の後を付けたんだ？」

「あなたに頼みたい事があったんです、ルパン」

「頼みたい事？ …まあ、すぐそこが俺の隠れ家だ。そこへ行ってから話を聞く事にしよう。ついて来い！」

ワルサーを服の下のホルスターに戻すと、ルパンは暗がりの中を進み始めた。後からルシファンが付いて来る気配が感じられる。

「こっちだ」

扉を開け、中に入って行く。続いてルシファンも…。

緑の目に、腰まである少しウェーブのかかった見事な黒髪。ルシファンの姿にルパンは息を飲んだ。

〝五年前のあの時も綺麗だとは思ったが…〟

さながらその姿は、ヨハネの首を切ってまでその唇を手に入れた、黒髪の美妃、サロメの様……。

戸棚から酒を取り出してグラスに注いだ。

「頼みたい事って…」

グラスをルシファンに差し出しつつ、ルパンは話を切り出した。受け取ったグラスを一息で飲み干すと、改まった様子でルパンをじっと見すえた。

「明日の夜、あなたは〝堕天使(ルシファ)の涙〟を盗るつもり

でしょ。それを明後日の日の出の時、ほんの少しでいいのです。貸して下さい。別に僕の行く所に付いて来ても構いませんから。どうしても明後日の夜明けまでに〝堕天使(ルシファ)の涙〟が必要なんです。さもないと僕は…」
「さもないと？」
問い返したがルシファンは、
「今は言えません。明後日…明後日になれば全てわかりますから、今は言えません」
と、しか答えなかった。
ルパンも訳ありと見てそれ以上は何も聞かなかった。
唯、頼みの返事として一言。
「明日の朝になれば、次元が来るだろう。この話の返事はそれからだ」
それっきり、その事について二人は一言も話さず、他愛のない話に花を咲かせ、グラスを傾けている。
音も無く時が流れ、月が天頂高く差掛かる頃、部屋にあった酒は一滴もなくなり、二人はいささか酔っていた。
ルシファンはテーブルの上に頭を乗せて、もう眠り始めていた。そんなルシファンを見て、ルパンはふらふらと立ち上がって近寄り、肩を揺すると、彼はうっすらと目を開けた。
「ベッドで寝な。ほらこっちだ。よっとォ」
足元も危なっかしげに、二人は隣室へ入って行った。
ドサッ
一つしかないベッドの上に二人は倒れ込むと、そのまま眠りに陥った。

II

目覚めた時、時計の針はもう十二時半を指していた。隣にはルシファン。まだ眠っている。その黒髪が濡れている様に光っていた。
〝カラスの濡羽色というのは、きっとこんな様な色の事を言うのだろう…〟
そっと触れてみる。サラサラとして心地良い。
〝男にしとくのは勿体無い…。女だったら良かったのに…〟
名残惜しそうに髪から手を放すと、ルシファンを起こさない様に静かにベッドから降り立った。
「腹へったなあ…。何か食うもんあるかなあ…」
台所へ行ってみたが何も無かった。
「じゃあない。ちょっくら行って買って来るか」
ルパンが袋を抱えて戻って来た時、ルシファンが起きて来た。
「ホラッ」
真っ赤なリンゴを一つ放る。それをかじりながら、ルシファンは窓辺に行くと腰掛けた。
窓からは、ルーブル美術館に入ろうとして列を作っている人々の姿が良く見える。今日は〝古代宝石展〟の開催日だった。
「次元さん、まだ来ませんねェ」
「そうだな。ちと遅過ぎるな…」
時計を見ると二時過ぎ。宝石展のレセプションとして開かれるパーティまであと四時間弱。まだ来ないなんて、いつもの次元らしくない。
〝もしかしたら、やっこさん来ないかもな〟
ルパンはふと思った。いつも一緒にいる為か、こういう予感は案外当たる。
〝隠れ家まで行ってくる時間はもう無い。こうなりゃ、

一人で盗るしか……。　……ルシファンがいる。あの手で行くか〟
次元は来ないとルパンは考え、計画を変える事にした。幸いルシファンがいた為、二人で盗る事には変わりないが……。
「ルシファン、お前が俺に頼んだ事を聞いてやるかわりと言っちゃなんだが、この仕事手伝う気あるかぁ？」
「手伝うって……」
「いやなに、次元は十中八・九来ないし、一人で盗るにゃ大変だし……。手伝うったって大した事ないさ」
ウィンクをしてみせる。
ルシファンは食べ終わったリンゴの芯を、ゴミ箱に向けて投げた。ナイス・シュート。見事に入った。
「僕に手伝えるのなら、手伝わせて下さい。それから、明日の夜明けまでに海岸に連れて行って下さいよ」
「わかってるって！　それじゃあ、必要なもん揃えに行こう」
二人は隠れ家を後にした。

III

五時半、ルーブル美術館の宝石の展覧会場はパーティ会場に代り、パーティに招かれた人々が次々にやって来ていた。美術館の入口には、報道関係者や、パーティの模様を一目見ようと集まって来た人々が、次々と車から降り立つ招待客達のキラビヤカな姿に驚嘆の声を上げていた。
六時五分前、客はあらかたパーティ会場へ入ってしまった。あとは六時から始まる打ち上げ花火を見るだけ。入口にいた人々は花火が良く見える場所へ移動し始めた。
と、エンジンの音も高らかに真っ赤なリムジンが滑り込んで来た。やけに派手なブレーキの音をさせて止まる。タキシードに身を包んだ男が降りて、助手席のドアを開けた。降り立ったのは……。
そこにいた人々は一瞬ハッと息を飲み、まもなく目を瞠った。
真っ白なドレスに黒い髪、首には真紅のルビー。その妖艶な姿はサバの女王や、サロメの姿を連想させる。
「ルーシル、急がないと遅れるよ」
彼女の手が男の腕に絡まり、二人は歩き出した。途中で男はボーイに車の鍵を渡した。
「車の鍵は付けたままにして置いてくれ給え。頼んだよ」
二人が人々の視界から消える。人々の間からは、憧れとも諦めともいえる溜息が聞こえて来た。
六時。花火が始まったが、先程の美女程には人々の目を引き付けはしなかった。
パーティ会場では華やかに人々がダンスを踊っている。一際目立つのは、やはり先程のカップル。男が何か囁いた。
「ルシファン、良く似合ってるよ。そうしていると本物の女に見える」
「あなたもドロボウなんかに見えないよ。ルパン」
二人は踊りながら〝堕天使(ルシファア)の涙〟の方へ近づいて行った。
なにしろ、この宝石展のメインはこの宝石、その為ホールの中央に展示してあって、四方からTVモニターで見張られ、容易には割れないグラス・ファイバーのガラスケースに納められている。

「八時キッカリに停電になる。自家発電に切り替わるのに二十秒掛る。その二十秒が勝負だ。
八時五分前になったら、お前は車の所に行ってエンジンをかける用意をしろ。そして電気が消えたらエンジンをかけて、俺が来るのを待っている。
一分経っても来なかったら…」
「来なかったら？」
「そのまま逃げろ。わかったな？」
〝堕天使(ルシファ)の涙〟の回りを一回踊ると、二人は踊るのを止め、急拵えのバーの方へ歩を進めた。その間、
「お嬢さん、ダンスのお相手を…」
との誘いが多数あったが、ルシファンは、
「ゴメンナサイ。今夜はこの人以外とはダンスを踊らない事にしているの。また、何処かのパーティでお会いした時に…」
と、いとも優雅に断った。
「ルーシル、飲み物は何にする？」
「ん～、そうねェ。〝フォールン・エンゼル〟お願いね」

「〝天国を追い出された天使(フォールン・エンゼル)〟か。〝堕天使(ルシファ)の涙〟と似た様な意味だね。ちょっと待っといで…」
ルパンはバーへ行って〝フォールン・エンゼル〟を二つ受け取って戻って来た。
「イスに座る？」
空いてるイスを示す。
「ええ」
座ったルシファンの傍らにルパンが立つ。
「カンパイしましょ」
「何の為に？」
「成功の為に…　カンパイ」
「カンパイ」
カチッ
グラスが軽く触れ合う。〝フォールン・エンゼル〟は辛口のお酒だった。
八時六分前、回りに人がいるのを確かめてから、ルシファンは人に聞こえる様に言った。
「あなた、私ちょっと車の中に忘れ物をしましたの。取って来ますから少し待っていて下さいね」

「ボーイに取りに行かせようか？」
ルパンも聞こえる様に少し大きめの声で言った。
「いいえ、他人には見られたくないのよ。私、自分で行って来るわ」
ルシファンは立ち上がると扉のむこうに消えた。
八時二分前、ルパンは女の人にダンスを申し込み、踊り始めた。ホールの中央へ……。〝堕天使の涙〟の方へ。
八時ジャスト、一斉に電気が消える。真っ暗闇の中、ルパンは素早くケースに近づくと、鍵を開け、〝堕天使の涙〟を手に取る。途端に非常ベルが鳴り響き、窓にシャッターが……電気が流れていない為降りない。
〝あと五秒〟
ルパンは手近な窓に向かって走り出す。窓まであと一歩という所でシャッターが降りて来た。走って来た勢いで窓に突っ込む。
ガシャーン
音を立てて窓ガラスが割れ、ルパンが外に出るのとシャッターが完全に閉まったのは同時だった。
真っ赤なリムジン。運転しているのはルシファン。
「乗ってえっ！」
方向を変える為、少しスピードを緩めたリムジンにルパンは飛び乗った。運転をルシファンと変わる。門の所には警官隊がバラバラとトラックの後ろから降りて、バリケードを作っている。
「ちいっ!!」
ハンドルを切って方向を変える。前方は塀。ルパンは、ハンドルの横に付いているボタンを押した。と、鈍い爆発音と共に塀が倒れ、車が通れる位の隙間が出来た。
そこから通りへ出る。夜のパリを疾走するリムジン。後ろからはサイレンを鳴り響かせながら、パトカーが列をなして追って来る。しかし、ルパンのハンドル捌きの前に、一台、又一台と脱落して行った。それでも尚、まだ追って来る。
郊外に出ると、ルパンは素早く森の中に車を突っ込ませると、エンジンを切った。通過して行くパトカー。遠去かるサイレン。ポケットから煙草を取り出すとルパンは火を付けた。
「今のうちに着替えちまえよ。服、後ろにあるだろ？」
「うん」
ガサガサと服をまとめると、車から降りて暗がりの方へ歩いて行く。
紫煙が棚引いて行く。闇の中で聞こえて来るのは、ルシファンが着替える服の衣擦れの音と、遠くで鳴っているサイレンの音だけ……。
ルシファンが戻って来た。短かくなっていた煙草の火を揉み消すと、ルパンはキイを回し、エンジンをかけた。
「海岸まで八時間位掛かるから、少し眠っとくといい……」
「そうだね。疲れたら起こして。運転替わるから……」
座席を後ろに倒すと、ルシファンは横になった。
疲れていたのか、直に寝息を立て始める。
新しい煙草を取り出して火を付けると、ゆっくり車を走り出させる。丁度雨が降って来た。車体の色が赤から白へ変わって行く。
「手間が省けたな……」
車は一路、モン・サン・ミッシェル目指して走って行く。
時々パトカーが追い越して行くが、こちらを気にも止めないで行ってしまう。煙草を片手にルパンは闇の中、海岸に向かって車を走らせる。約束の為に……。

堕天使

Ⅳ

モン・サン・ミッシェル——昔、墓場だった小島に聖(セント)ミッシェルのお告げで聖堂が建てられた。その聖堂が目の前に見える海岸に、ルパンの駆る白いリムジンが滑り込んで来て止まった。

〝夜明けまで三十分とちょっとか…。そろそろ起こすか…〟

「おい！ルシファン、起きろよ！もう海岸だぜ。着いたんだよ。ルシファン！」

体を揺すってみる。

「う〜ん。わかったよ、ルパン」

眠そうに両手を上げて伸びをした。

「ちょっと、眠気、覚まして来る」

ドアを開け、まだ薄暗い海岸に降り立つ。風が膚に心地良い。ルシファン。髪を風になびかせて、波打ち際へ駆けて行くルシファン。その姿をルパンは目で追いかける。

〝母さんに似ている…。母さんも、黒い髪で長かった…。それに子供の頃、よく一緒に波打ち際で追いかけっこしたなあ…〟

母の面影がルシファンと重なる。

夜明けが近付く。ルシファンは〝堕天使(ルシファ)の涙〟を受け取ると、岩の上に置いて朝日と一直線上に見える所へ移動した。ルパンも後に続く。

「そんな事して、一体何が…」

言いかけた時、朝日が岩の上の〝堕天使(ルシファ)の涙〟に当たって、ルシファンの眉間に光を落とした。

徐々に辺りが光に包まれていき、何も見えなくなった。

「ルシファン!!」

光の中を手探りで進む。何かに躓いて転んだ。不思議と痛さは感じない。

「ルパン…」

誰かが手を貸してくれた。見上げると、青い目に黄金(こがね)色した髪の…。

「ルシファ…ン…」

目と髪の色こそ違え、目の前にいるのはまさしくルシファン。ルパンは、驚きのあまり立ち上がるのを忘れている。そんなルパンを、ルシファンは手を引いて立ち上がらせた。

「ありがとう、ルパン。やっと帰る事が出来ます…」

「帰るったって何処へ？ルシ…」

ルパンの言葉を遮る様に軽く唇を重ねた。意識が光の渦の中へ引き込まれて行く。最後にルシファンの姿を認めた時、ルパンはその背に真っ白な翼を見た様に思った。

「ありがとう…。ありがとう、ルパン…。ルパ……ン………」

声が遠退いて行く。全ては白い闇の中…。

気がつくと、辺りは何事もなかった様に静まり返っている。ただ、ルシファンの姿は何処にもなかった。立ち上がって服に付いた砂を払う。

〝堕天使(ルシファ)の涙〟は…。吹いて来た風に粉々になって飛ばされた。キラキラと輝きながら波間に消えて行く。

epilogue

「一体何が起こったっていうんだ、ルパン」

久し振りに会った次元は、〝堕天使(ルシファ)の涙〟を拝ませてもらおうとしたが、ルパンの、

「もうねえよ」
の答えに何が起こったか知りたがったが、ルパンは何も喋ろうとはしない。そんなルパンを見て、肩をすくめると、ソファに座り酒をグラスに注ぐ。
「なあ、次元。お前ルシファンって名前、知ってっかあ？」
おもむろにルパンが聞いた。
「ルシファンねェ…。聞いた事ないなあ。
ルシファアってのなら知ってるぜ。天国追い出された天使長の名だったな、確か…。
その名前がどうかしたのか？」
「いや、なに、ちょっとね…」
話をはぐらかす。物思いに耽って窓の外を見る。
外は雨。何も見えない。
〝ルシファ…。天使長ルシファ…。そうだったのか…〟
ルシファンの姿が浮かんで消える。まだ微かに残っている唇の感触。そっと触れてみる。
〝今は話す気になれない…〟
窓の外は雨。雨で霞んで何も見えない。まるで、
あの時の様に……。

END

ILLUSTRATION ZONE

act, 3

団体さま.
にてないよ。。。。
ゆし…
きたねーの
信
S57. 9. 29.

1982.10.5 Kei

点描美学の崩れが…

1982
9.12
良.

ナオ

きゃ♡
かんべんだ…
お嬢さん
うぎ〜っ こんなの
クラリスじゃないっ〜〜っ
ごめんなさいっ

END

えーえー
わかりました!!
ドン
そこまで言われて計画に参加したくないわ!!
ルパンに頼まれたから来たのよ!!
どーもおじゃまさま
不二子ォ〜〜
フン
さ・よ・な・ら
ルパン
五右ェ門〜〜
拙者は本当の事を言ったまで
男の仕事に女はいらぬ!!
バタン☆
あのォ江戸時代
ーーで計画変更か?
いや
予定通りやるーー

夏の終わりに…
TAKI
YEAH！
カワイ娘ちゃん
遊ぼうったらぁ〜
ヤキ入れたれ
ヤキ!!
おさからう気だぞう
いったいやな〜っ
おのれ〜ルパンめ
これではニラミもきかぬ
責任とれ！
責任

くるっ
ドドド
バキャーーーッ
お!
キキーーッ
む!! 胸が落ちたー
ちきしょ～
おぼえてろよ～～

えしん
えーん
いたいよ～
五右ェ門! どこが痛の! どこをぶつけたの!?
パサ
何だよ! この金は
おまちよ!!
ちきしょう!
ちきしょう!!
ね♡ 京姉さん お金できたよ
ボク 今日は パンがいいナ おダンゴも 買おっよ♡
へ?
ハハハハハ!
そいつは すごいね

五右ェ門が今日の一番かせぎか!
だてに御先祖様の名前が付いてねえよな
大泥棒だった"石川五右衛門"?
でも、もうあたいはごめんだよォ
本当にはねられたと…
心配するなよ この通り無事だし、
ヤー オレみたいなペテン師と違って才能あった兄貴殿の一粒種だ
ケチなマネはさせねェ 今日のははずみさはずみ なっ♡
うん!! ケン兄ィ
もっとも―
運は無かったがョ
あんな事故であっさりなんてさ。
へイ! チキン
リンゴ落ちてるぜ!!
はっ
あ どーも
これがG.ウォーホルだ―
(※)チキン (少年売春の俗語)

獲物はS美術館所有のヒスイの印籠
？ ルパン しかし――
厚い鉄の護衛付きと思いきや、とっくに盗まれていて、闇取り引きの結果
アメリカへ渡る出港予定だ、だいたいの警備網はバッチリだ
――で問題が指紋識別器…こいつがなかなかやっかいだ
そこでG・ウォーシャツはかなりの女好き、しかも日本美人が！
なるほど出港前に女をかいに――

そこで私の出番ってわけね ルパン
あったりィ～♡ 一晩ありゃー精巧に写しとってやりますとも♡ ムフ

不二子をおろさせた以上……
やらねばならぬ この男を
ひっかけねばー！

まって!!
ね♡ ね♡ 買ってってヨ すてきなお兄さん
いいぞしょ♡ サービスするからさ♡
家には13才を頭に12人の弟と病気の両親が

家はとっても貧乏で――

ふん たまにはいいか
オホホホホ
ご…御先祖様に
顔向けが…
今度の仕事はデカイぞ お京、お前も手伝え！
五百万円成功したらうまい物食えるぜ
成功したら！
ぽん！！
ズガーン

ガッ
ミシ
ズギュ
ズギュー
五右ェ門
俺はもう一仕事して来るから この手紙持って
待っててくれ
うん
百地三太夫様
ケイ兄
ん？
ううん まってるから
まってるからね
男の仕事に女は出る必要はない！
現に計画通り事は運んだ!!
んまっ
たまたま相手が両刀使いだったからじゃない!!
やめてくれ〜
アシなしの生活にやっと なれた 今日この頃
しかし これで きっと変態作家の名声に折り紙がつくんだろうなァ
私って日本一不幸な娘やねん
だ… だれか アシやってくれ〜
いへんだ
'83.2.18

"Laisse moi aller avec toi. Je ne peux pas voler encore mais j'apprendrai. Je... Je... s'il te plait. Je veux aller avec toi."

Sylvie Beaudoin
and
May S Finefield.

ガゥン
チャッ
てっぽうに見てほしい。
ガゥン
ガゥン
やっぱ
五寸釘うちにゃ
マグナムは
むかねえかな
えーん

わけもなく
伝説巨神
イデオンごっこ♡
☆実に その場しのぎのキャスティングにつき
深く考えず お楽しみ下さりぃ～☆
たまが…
たまがなくなっちゃったのよ～っ
ほー
殺し屋っっ
ベスはサムライですぅ～
…拙者嫁入り前の娘御に手など出さぬ
この戦いがおわったら少しは仲良くしようよね
どうせなら今すぐ仲良くしたい…
クラリスでキッチンのとばし首やりたいっ
髪形は同じよっ
実際はすこーし違う
ほー
あい

この光は
俺達の運命を
変える光だ
死んではじめて
きさまの気持ちが
よくわかる…
お金が
ほしかった
女にも
もてたかった…
百地殿
拙者 強く
なりもうす
あうっ
あうっ
あのなー
←人形
あっ西洋の棺にしちゃった

コスモが
目ざめないの
目ざめの
口づけは?
では!! メッア
たのみます
だから
おでこだけに
しといたのに
・・・
ドロボーは
きっと
覚えます
あんたねえ
因果地平で
信じてくれ
おれはまだ
タネも しこんじゃ
いないんだっ
ハー
ほー
うたが!!
おしめー。
ガンダムⅡに ルパンと次元が
宇宙服 着て 出てきたの 知ってる?♡
(次元は この白 さすがの で スパイナー 高校にも 入っておった)
206

銀河烈風参る!
JET. 83.3.8
ムチャクチャこわい……
バクシンバードの輪切りができそう…!!
(ちなみに左から2も;旧,新)

旧 呂宋三世より

呂宋三世のテーマ

♡

俺の名は呂宋三世
かの名高き 呂宋助左ェ門の孫だ
日本中の商人（あきんど）が 俺の呂宋の壺を狙って血眼！
ところが これが 売れないんだなぁ
ま、自分で言うのもなんだけど
狙った品物は 絶対のがさない
それが この俺、呂宋三世さ ♪

俺の相棒 善師大介
火縄銃 早打ち0.3秒のプロフェッショナル
みじめな坊さん
その上 おツムが良く
たよりにならない男

三代目 石川五右衛門
いにしえの 大泥棒 石川五右衛門の末裔
かまゆでにされても 生き返る
こわぁい 男〜

銭形平次 マイナス五代目
御存知 銭形平次の 祖先
呂宋の壺を手に入れるのを生きがいとする
俺のもっとも苦手な とっちゃんだ

謎の御寮様 みよ不二子
女商人か くの一か
俺にもわからない 謎の女
いつも たのしい目にあうから 憎めないんだなぁ
俺は たのしい目に弱いからねえ ♪

さて、これら 一癖も二癖もありそうな奴らと
今週は どんな品物を
呂宋から 密輸してやろうかな…？

新 呂宋三世より
呂宋三世の歌

♡

"呂宋 the third!"

まっかな さらしは
あいつの ふんどし
火縄の 材料に
売れと ねだる
土蔵の 奥に
干物を 隠して
がめつく つりあげる
アユの 値段
商人(あきんど)にゃ 商人の世界が ある
たとえるなら 屋根に光る
一枚の 青磁
呂宋の 壺を 視線に さらして
路上で 売ってる 商人の 美学♡

・配役(声の出演)・

呂宋三世
…市川 染五郎
みよ 不二子
…栗原 小巻
善郎 大介
…川谷 拓三
石川五右衛門
…根津甚八
銭形平次
…丹波 哲郎

— by 栃木放送(で 昔むかしやってました)
「パロレル ワールド」

…だれか この作品 作った人達が 現在 どーなさってるか
御存知 ありませんかね——.
許可とろーかと 思ったのだけど 連絡方法 わかんないのよ~
(ここらへん マジなのよ.)
だから テープからの リライトなので 聞きとり不明のとこも
あるわけだ 違ってたら ごめんちゃいさ~

ルパン三世

暗闇の城ゲーム …について。

テレビのCMで つとに 有名な
ポピー 「暗闇の城」ゲーム。
実は これが 世にも すばらしい
文句なしの「ルパン三世ファン 平等ゲーム」
なのです。 御覧あれ。
（ひどい絵だけど 模写できんのよ〜っ）
とにかく ルパン 全作より 少しずつ
キャラクターを とって 使ってるのです。
（ちなみに 説明書には 旧の キャラ表
から ルパンと 不二子が おりやす。）
これは もう 「カリ城最高!! あれが
ほんとの ルパンよっ」とか 「旧作 以外は
ルパン じゃ ないわっ」とか 「昔の ルパンて
まるっこいから やだ〜」 とかいう 諸々
雑多の 御要望すべてに お答えする
ものとしか 思えないと ゆーか
それとも タダの まちがいなのか
ゲーム そのものは 実際に なさって
みられるのが 一番ですから 特に 説明しませんが
よろしければ ぜひ一度 お手にとってみて下さいませ♡ （ただし このゲーム
は 注文しないと 店頭にこない という 代物でありまする…）

旧とも カリ城とも 解釈できる。（3人）
上バコと 同じ絵
ロゴ
マモーの 不二子
新の銭形
新の不二子
旧の 不二子
新の ロゴ
旧の ルパンと 次元
新の五右ェ門
新の次元
新の おまわりさん
カリ城のルパン!

CM?

それにしても あの TVのCMは 旧を意識してるのだろーか それともただの
冗談なのかな ルパンが 青い上着… それは いいの だけれど
「2年待って下さい。2年経ったら新しいルパンを」と言ってらした
新作って このCMだったのかな——?

さらば愛しきルパンよ 裏話 その2

1983.1 RYO.MIZUKI

えーん キッドになっちまった

次元♡モノローグ

次元は気嫌が悪かった。ここ数日間、ずっと理由(ワケ)もなくイライラの仕通しなのだ。マグナムを整備しながら、トレードマークのタバコをスパスパやっている。イライラが続くと当然のように喫煙量が増える。次元は普段からよくタバコを吸うほうだったが、今、マグナムを組み立てている彼の横の灰皿にはいつもの倍近く吸いがらがのっかっていた。酒の量もすすんだ。これでは身体に良いはずがない。コレステロールもたまる。出っ腹の次元など、見られたもんではない。

考えられる原因があるとしたら不二子である。峰 不二子。あの女、二、三日前例によって

「ルパ〜ン♡」

という甘ったるい猫なで声をあげて、アジトに転がりこみやがった。もう何度となく裏切られているというのに、ルパンの奴。女の顔を見るとすぐ、デレ〜〜ッとだらしなくなりゃあがって…………。

マグナムを組み立て終わって隣の部屋へ行くと、例によって例のごとくやっている。

「ふ〜じ子、かーわいっ！。チュウ〜なんてしちゃおっかなっ。」

「あ〜ん。いやらしいわねェっ もう……。ンフ♡」

てな調子である。

……ったく、このアジトはいつから安キャバレーになったんだよ！

その横で五右ェ門が何かぶつぶつ言っている。

「男には不可能とわかっていても命をかけなければならない時がある………。行こう、アルカディア号、宇宙の果てに男の勇気とロマンを求めて……。」

「………っぱ おまえまで何やってんだよ。五右ェ門!!。」

「はっ。す……すまん！ つい雰囲気にのまれて……。また、つまらぬ事をしてしまった………。」

うが〜〜〜ッ!!。」

「わっわっ。五右ェ門！ バカッ。やめろっ！ 興奮したからといって刀をふり回すなっ!!」

"バシュッ！。"

「ひい〜〜〜っ!!。」

五右ェ門愛用の斬鉄剣のきっ先が、壁につきささり次元の眉のすぐ上で止まった。

「ゼイゼイ、ハアハー……。」

「……こ……この野郎、俺を殺す気かっ?!。」

「すまぬ次元。せっしゃ、まだまだ修業が足りん。ごめんっ！。」

五右ェ門は斬鉄剣をさやに収め、もの憂い気な顔をして部屋を出て行った。彼の閉めたドアの振動で、次元のまわりの花びんやらかけ軸やらが音をたてて真っ二つに割れ落ちた。

「〜〜〜〜」

「おい次元っ　どうしたってんだよォ。　荷作りなんかしゃってェ。」
「出て行く！。」
「なんだよォ。次元ちゃん。　あんな事ぐらいでさァ……。
五右エ門だって悪気があったわけじゃなかったんだからよォ…。」
「誰れにだってまちがいってものがあるわよ、次元。」

てやんでェ、諸悪の根源！。

「まちがいで殺されてたまるかよっ。　ここに居たら命がいくつあっても足りゃあしねェ！。」
罪のない顔をしてとりなす二人を尻目に古ぼったいトランクを〝バタン！。〟と閉じる。動作がいかにも荒っぽかったのか、ものすごい音がした。
「男のヒステリーなんて、みっともいいもんじゃないわよ。」
不二子お得意の悩殺ポーズ。その変に甘ったれた声が、いちいち次元のカンに触る。
「うるせえっ、淫乱女!!。」
〝バン!!〟先程のトランクの音よりも、もっといきおいつけてドアを閉め、次元はアジトを後にした。
「お〜〜こわっ。」
ルパンは〝お手上げです。〟といった体をとった。

「………ったくよォ、次元大介の名が泣くぜ。あんな女一人に、何イライラしてるんだ………。」
ひとり言を言いながら次元。行きつく先は、とある山中のアジト。しばらく使ってないせいか、中は荒れているが次元にはかえって静かで落ちつける場所なのである。
のっていたほこりをはらってソファーにドッカリと腰をおろす。とたん、まわりにほこりが充満したが、彼は気にしなかった。そんな事より自分の気持ちの方が不可解だった。
いったいなんだってこんなにあの女の事が気にかかるんだ……。いや……、俺が気にしているのは、ルパンだ……。ルパンとあの女が一諸にいると、なぜだか知らんが妙にイライラしてきやがる……。
次元の喫煙量はまた一段と増えた。

一方こちらはルパン達。
「次元が出て行ったそうだな……。」
と五右エ門。
「なぜだ？。」
「まっ、理由はなんだかよく解からないんだけっともよ……。表向きはおまえのせいらしいぜ、五右エ門。」
「せっしゃの……？。」
「にぶいお人……。」
ルパンはあいかわらずひょうひょうとした態度をくずさない。
「にぶいのはどっちだか……。」
「不二子……。」
「どういう意味だ。」という表情の五右エ門に不二子は続けた。
「次元は私とルパンにやきもちをやいてるのよ。」
「え……？。」
「次元はルパンにほれてんのよ。」
「うへ〜っ。気色の悪い事言うなよ、不二子ォ。」
「………。」

次元………。
五右ェ門は一人、その意味を受け止めた。
次元はといえば、いまだ悶々としていた。
いったいなんなんだ、この気持ちは……。ルパン。ルパンのあの猿に似た、どこか間のぬけた顔を思いうかべると、次元の胸は、キュンと痛んだ。あたりにはピンクのハートが飛んでいる。
「なっ、なんなんだ、これは……」
あわてて打ち消そうとすると、またルパンの顔がうかぶ。気のせいか心臓がドキドキしてきた。なんだ、このガキのままごと遊びみてェな気分は……。
ん……?。まっ、まさか……。
次元の目の前を、とびきりでっかいハートが飛んだ。
「恋?!」
心臓のドキドキはいっそう大きくなった。が……。
「冗談じゃねエッ!! ルパンは男だぞ?! そんでもって、俺も男だ。そんな……、そんなバカな事があってたまるか!」
自分の事ながら いや、自分の事だからこそ想像すると気味が悪かった。次元はこういう事に関しては非常に潔癖ならしい。顔をしかめ、頭をかかえてしまった。
「俺は変態じゃねエ!!」
相手もいないのにそこらへんに怒鳴りつけた。
「女嫌いで通してきたこの俺が、よりによってルパンなんかに……、男なんかにほれてたまるか!」
そう言ってから、腰からマグナムをぬきかまえてみる。
標的はルパン三世。

「バーン!。バン、バーン!!」
そうさ、バカバカしい。この次元様があんなアホウにほれてたまるかよ。……どうせなら、そうさ、どうせなら世界一の美女と一世一代の大恋愛をしてやるぜ。そうさ、どうせなら……。
「ハッ!。俺だって、やっぱりエテ公よりはグラマーの方が好きさ……。」
どうかしているんだ………。
磨きぬかれ黒光りのするマグナムを見ながら、次元はそう思い込もうと努力した。真剣に努力した。一人とはいえ、流石にみっともなくてできなかったが、俺の今の心境はこうであった。
神様、うそだと言ってくれ〜〜っ!!
やがて次元は一つの結論に達した。これは一時の気の迷いだ。しばらく離れていれば忘れる。こう達せざるを得なかった……。これが本当のところだろう。そうでなければ他にどうしろというのだ。
こんな事、他人に相談できるかいっ!!
また当分は健康に悪い日々が続くだろうが……。
「俺にはこれが一番お似合いだ……。」
タバコをふかしながらポツリと言う。
まだまだこれからの不安は感じるが、ここらでしばし モノローグ――。

END

…CHILD'S TIME…
ルパンの初恋…
mutumi
1982 10 7

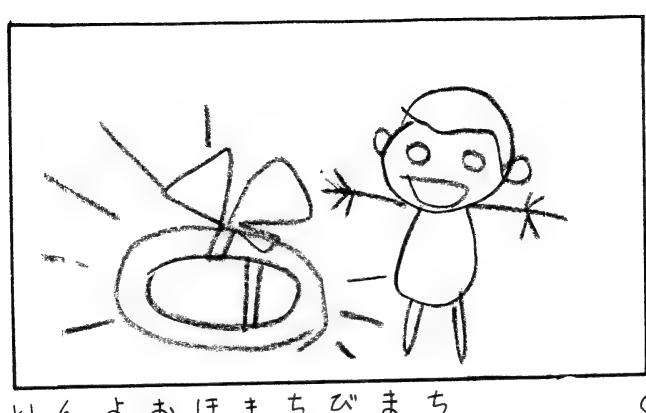
何となく
語呂がいいので
次元の妹は
マキちゃんに
してしまいました・・・
Mutumi
1982 10 2

Mutumi
1982 9.20

伯爵 7歳

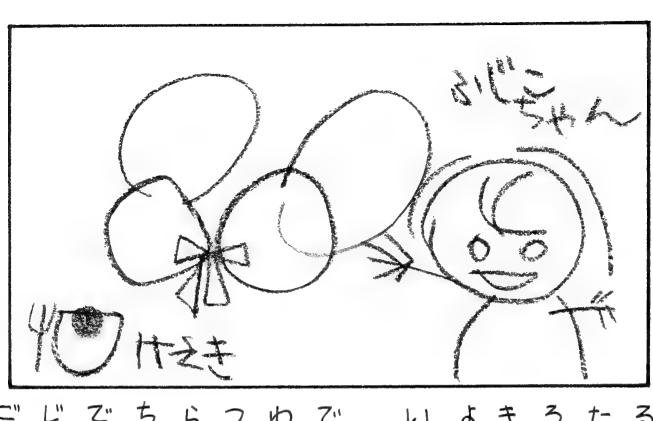
るぱんの日記
ごえもんの日記
by＊阿素湖
CUT ei.
るぱん
えにっき

○がつ×にち△ようび　はれ

ばらツみ　るぱん三せい

きょうは、じげんのたんじょうびです。
そして、ぼくといしかわごえもんとみねふじこ
ちゃんは、おたんじょうびぱあてぃに、およばれし
ました。ぼくは、だいすきなじげんのおたんじょう
びぷれぜんとおかうために、三かげつもまえから
ちょきんしていたのです。ぷれぜんとは、いろいろ
まよったけど、やっぱり、じげんがずっとまえから
ほしがっていた、こんばっとまぐなむにしようと
おもったけれど、あんまりたかいものおあげると
よくないな、じげんがきおつかうな、とおもい、こ
んばっとまぐなむのたまひとつにしました。きれ
いにつつんで、りぼんまでかけてあるのです。

いよいよまちにまったぱあてぃがはじまりました。まずとらんぷでぽーかーおしました。ほんとうなら、ぼくがいちばんつよいのだけれど、きょうはじげんのたんじょうびなので、ぼくはまけてやりました。じげんがかって、うれしそうだったので、ぼくは、（ああ、まけてやってよかったなあ。）とおもいました。

それから、おひるごはんおたべました。ごえもんは、「せっちゃは、にほんちょくちかたべぬ。」なんて、わがままおいうので、みんなこまってしまいました。できたのは、さんどういっちと、ろおすとちきん、すうぷに、ふるうつぽんちだったからです。じげんのままも、こまっていました。でも、しょうがないのでごえもんはおすしおとってもらいました。あんな、みんなのめいわくにな

るようなことおしたらいけないな、ぼくはぜったいにみんなにめいわくおかけないぞ。と、こころにちかいました。つぎに、じげんのままが、けえきおきってくれました。ぼくは、(あれ、にほんしよくしかたべないごえもんが、けえきおたべているぞ。)とおもいましたが、だまっていました。

はっぴーばあすでいつーゆーはっぴいばあすでいつーゆー…とうたいながら、ぷれぜんとお、わたしていきました。ふじこちゃんは、「わたちがつかってたのよ。」といって、おおきなおおきなぶらじゃあおあげました。でもぺったんこの、ふじこちゃんのでないことは、いちもくりょうぜんです。でも、じげんは、まっかになっていました。ぼくは、(へじげんってじゅんじょうだな…。)と、おもいました。

ごえもんは、ぜっちゃのうちの、うらのいけに、い

たのでごじゃる。」といって、なんだかみすぼらしいかんじの、きんととおもってきていました。ぼくは、（けったいなきんとと。）とおもったけれど、「かわいいなあ。」と、こころにもないことお、いってしまいました。じげんも、「うれしいなあ。」といっていたけれど、ぼくは、じげんのほっぺたがひきつっているのお、ちゃんとみていました。（やっぱりぼくのが、いちばんだな。）ぼくは、とくいにおもいました。ぼくのぷれぜんとのつつみおひらいたとき、じげんはよろこんで、ぼくにだきついて、ちゅっとしたので、ふじこちゃんとごえもんが、やきもちおやいて、ぼくおつねりました。（もてるおとこのこはつらいなあ……。）

　そんなことおしているうちに、もうかえるじかんです。じげんは、「るぱん、とまっていけよ。」と

いいましたが、みんながやきもちおやくといけないので、ぼくは、かえることにしました。きょうは、じげんときすしたので、はわみがかないでねむります。

○がつ×にち△ようび　はれ

うめぐみ　いしかわごえもん

きょうは、じげんうじ(氏)の、たんじょうびでごじゃる。せっちゃと、るぱん、みねふじこどのは、たんじょうびのうたげに、ちょうたいをうけた。せっちゃは、おくりものは、ずっといぜんよりきめていたしながごじゃる。それは、けっちてぜになどで

はかえぬ、せっちゃのたからものの、うらのおいけのきんとでごじゃる。それは、せっちゃにて、たいし(そ)ょうりりちい、日ぽんだんじてきな、きんとで、せっちゃのこのみとするものでごじゃった。
せっちゃはそれをきれいにあらひ、いしと、もをいれたておけにいれ、もっていったのでごじゃる。
いざ、うたげのかいまくのときがやってごじゃった。まず、るぱんがいひだして、せいようはなふだ(筆者注・トランプの事らしい)の、ぽおかあ、なるものをいたちた。るぱんがはいぼくをきっち、だだをこね、なだめるのに、はんときほどのじこくをようちた。
とらんぷをおえると、ひるめちだ。ちょくたくのうえをみると、なんばんのくいものちかなかったゆえ、せっちゃは日ぽんだんじらしく、にほん

ちょくしかくわないことをもうちのべた。せっちゃが、すしをとっていただき、ちょくちているとるぱんが、「ぼくもすし、たべるんだ――〜。」と、またまただをこねだちた。せっちゃは、(ここであまやかちてはるぱんのちょうらいのためによくごじゃらん。)とおもいいたり、わけてやらぬことにちた。るぱんはかんちゃくをおこちかけたが、じげんうじのははうえが、なんばんとらいの、けえきなるものをいちょいできりわけ、るぱんのきげんがなおったのでごじゃる。せっちゃは、ほんらいならば、なんばんのものはいっちゃいくわないが、きょうは、じげんうじのははうえのために、ちょくちてやった。日ぽんだんじなるもの、おんなこどもにはやちゃちくしなくてはならぬ。たんじょう日のうたをうたひつつ、おくりものをめいめいわたちゅことになった。ふ

じこどのわ、またもやちちばんどなどといふ、はちたないものをおくりものにちている。やまとなでちことはちぇいはんたいだ。つぎは、せっちゃのばんでごじゃる。せっちゃのきんととをみて、じげんうじは、たひそうかんきちたようちゅだった。つぎにるぱんのおくった、ひなわのたまなどとわ、こころのこもりかたがちがうのでごじゃる。じげんうじは、せっちゃにだきつき、せっぷんいたそうとちたが、るぱんがあいだにわってはいってちまった。せっちゃは、せっぷんがほちかったわけではないが、じげんうじのむねんさをおもふと、それをはらさないわけにはいかなかった。そこで、ふじこどののまねをして、るぱんをつねつねちた。そちて、じげんうじが、せっちゃをひきとめるのをふりきり、きろにちゅいたのであった。

るぱんちゃんと
ごえもんちゃん
お休み？
みられちゃったんだって
何を？
しらない
…どうしても1頁
計算があわないのよォ

きみこ.

ほっほっ 三世 まだ 青いのー・・
ご、ご主人さま 早く お助け しないと・・・・

気がついたら ルパン三世☆
資料がない!!
By.藪かつとし
ン
ルパン 何か来る
ルパン!
おまえ! 気にさわったなな その笑い方!!
ブショーヒゲ そそっかしいな さいっ!!
ホッホッホッ
……
我ながら、えらい手抜きである
葉月さ〜ん ごめんなさいっっっ

……

五右ェ門
きさま
こいつに
何をした
……

フキダシなー…

すん
すん
すん
ハトの足についてた通信筒 どこへとばしたかなんて覚えてないやいっ
ガサ
ガサ
次元…
お互い大変だなルパンの気紛れのつきあいは…
コロコロコロ
ガサ…
フン…ム
つまり…クラリスが近いうちにここへ来るということだな
本当か!?

チン☆
おじさまこんにちは♡
もう来たの？
おっしまいっ!!
1981.7. Yasuyuki Kato
クラリスちゃんは
レシプロに乗って
ルパンの家に来たんです。
そうなんですよ。実は私は「ルパン三世」のファンなんです。

—"FoxY 2"より 再録—

☆次元の独り言☆

ルパン3世———

あんな奴は、世界にゃ2人とは、いねェな
女のことを除きゃあ奴は最高さ
明るく軽快に仕事を楽しんでんだから
無駄な殺しは絶対しねェし。
狙ったモノは必ず手に入れる。
あのテクニックと明るさ……
俺のほしかった相棒のそれが姿さ。

闇の中を奴を捜してた気がするぜ
そう、ずっと1人で
奴が俺を信じる限り、俺達は仲間さ。
共に仕事へ行こうぜ、奴の無茶も承知の上さ
俺の腕がいりゃ貸してやるぜ
心のどこかであてにしててくれ
俺にゃ、寝ぐらと酒と煙草をでも
分けてくれ。宝石なんか必要ねェよ。

俺のこのマグナムと奴のワルサー
今夜もどこかで吠えてるぜ
さっさと仕事を済ませて
酒でも呷りにどこかへ行こうぜ、
な、ルパンよ。

by Ryū. J.

BY. 時幻 流星☆!

〜〜下手な上に、きたない字で、ごめんなさ〜い!〜〜

Oct, 10 1982.

My dear Lupin!

You don't know how disappointed I was when "Lupin the third" ended. I really miss you.

Do you have any plans of visiting kagawa soon? I would like to show you around. I hope the chance will come very soon.

Excuse me for my poor writing.

With all my warmest wishes I am closing this letter.

Love to you!
and
Love to friends!

May S Finefield.

50 ways
to leave your lover

The answer is easy - if you
Take it logically?
The problem is all inside your head
I'd like to help you in your struggle to be free
There must be fifty ways to leave your lover
-and- get yourself free
-well- fifty ways to leave your lover

It's really not my habit to intrude
Futhermore, I hope my meaning won't be lost or misconstrued

She said

There must be fifty ways To leave your lover?
At the risk of being crude
But I'll repeat myself

Fifty ways to leave your lover

out the back, Jack
You don't need to be coy, Roy
Make new plan, Stan
Just get yourself free
Just drop off key, Ree
You don't need to discuss much
Hop on the bus, Gus
And get yourself free
サイモンとガーファンクルのファンのみなさんごめんなさい

1 Page Comix♡

なにっ
それ以上進むな！
見ろ
ス…
あ…
ボン!!
…………
ちくしょ〜〜
かえせ〜〜
もどせ〜〜
なんだ！
自分ばっか
ええカッコ
しやがって〜！
大売出し
なぜか突然
次元を描きたく
なったのです。
涼さま元気？
わ！ 右手と左手まちがえてしまった

カチッ
カチッ
くそっ
この安モンっ
もーちょっと
根性出せってんだよ
こんにゃろ!!
ムム…
根性!
ボッ
ゴオオオオ
敵の
デモン
ストレーション力
うむ……
毛布かぶった次元だよん

FIN

くだらないマンガで すいません

ボクだって
フン!

魔術師と呼ばれた男より
古谷むつみ

次元に恋して候
こよいの斬鉄剣は ひと味違うぞ!!
フフ
?
おわび…くだらないマンガを描いてしまって、斬鉄剣が食べられるなんてウソですよね、思い通りに描けないもんで苦しまぎれに描いたのです ごめんなさーい。
描でした
まんがの(画)き方 誰か教えて!!
ワー五右ヱ門さんが ブタになってもた (幼稚な発想じゃ!!)
←マスクをとられた カゲのオジサン
ポリ ポリ
ムグムグ
確かに ひと味 ちがうでョ~
うっそお!?
by chun

題を書くとこがないっ!
パ
パカン
ギィッ
シュッ
おっ
?
このおっ
by Hashimoto

捨てる神あれば拾うバカあり

By日向良

きてない……
ルパン……
いいのか
本当に…
もうとりもどせないぜ
おまえだって
同じことを
したろうよ
これで
いいのさ!!
FiN
Mutsumi
1982 9 18
ファントム無頼より…
古谷むつみ

S.57.10.16

遅れてすみません😭しかもこんなくだらないもので…

★END★

TVスペシャル

逆襲と逆転のサンバ

作＊TOMICK
画＊JET

TV スペシャル「ルパン三世逆襲と逆転のサンバ」サウンドトラック

SIDE A.

1 ルパン三世サンバ '83 3：52

灼熱の太陽を想う時、ルパン三世はサンバにひたる

2 99,999 パーフェクト（シャードックのテーマ） 2：57

シンセサイザーのみで構成された、フルオーケストラのイメージがあふれる

3 ビバ全知全能 2：32

パイプオルガンをベースにしたファンキーなディスコ風アレンジ

4 インディアン・レボリューション 3：42

ワイルドなリズムを根底にくりひろげられる血の SENRITSU

5 逆襲と逆転のサンバ（インストゥルメンタル） 4：46

60 年代の感覚健在 アダルトなセンスが光る

SIDE B.

1 リアル・エクスプロージョン（緊迫） 2：17

16 ビート、32 ビートまで駆けあがる狂気のエレキ・サウンド

2 逆襲と逆転のサンバ 唄：チャーリィ・コーセイ 5：06

トロピカルな哀愁がストレートに響く

3 ひきずった懺悔を振り回して 3：25

ハードロックより重いポップスが作り得るのだろうか

4 100 万ドルの微笑 3：49

劇的な、そして思い切りさわやかな、古き良き時代の映画のクライマックスにぴったり

5 ルパン三世 ワルツ 83 3：47

優雅にして華麗な本編エンドタイトル

編曲 大野雄二　作曲 山下毅雄（A-5. B-1）

大野雄二（A-1～4. B-2～5）

逆襲と逆転のサンバ

1 マイアミ、海岸通り。海が青い。朝日に輝く青
海の青に白でスーパー、「Lupin the third Special」
海岸通りを、ラッタッタで駆けるルパン三世 IN ↓ OUT

2 ノルウェー特別刑務所、闇。サーチライトが照らし出したのは
そのまばゆさに顔を左手でおおった峰不二子である。T.U.

3 サーチライト、特別房の手すりをのぼる不二子を追う。

4 特別房内、外をのぞく四人、サングラスが光る。ロンバッハだ。

5 小型のタワールーム様の特別房

6 ガムをかみつつ片手で手すりをつかみ、バーナーを手にする
不二子、弾着激しい。不二子の顔にT.U.

7 回想、バッキニガムから、ガムを受けとる不二子。

8 特別房のドアが焼き切れ、ロンバッハが二ッと笑って出て来る。
同時に不二子は風船ガムをふくらまし、本物のロンバッハをかくす
形でロンバッハのダミーを形づくる。サーチライトはダミーの方
に一瞬あたり、次に不二子を追うが、すでに姿はない。

9 マイアミ 海岸近くのレントハウス申込受付をしている事務
所、ラッタッタ IN して止まる。ラッタッタをおりて
事務所に入るルパン。

10 カリオストロ公国領に向かう崖っぷちの道。例の友永カ
ーチェイスの道である。アカン、今はゴーカートのコースに
なっている。

11 ゴーカート運転席から見たコースの様子。猛スピードで飛ばし
ている。二、三台のカートをぬく。そのカートに乗っているのは
無邪気にはしゃぐ金満大富豪やら、元警視総監等名士
である。高級観光地の雰囲気

12 楽しそうにゴーカートを飛ばす次元とクラリス

S.E.（波の音）
BGM サンバ・テンペラート F.I. C.O.

S.E.（非常サイレン）（ピストル激しい）

刑務所長 賊のねらいは何か。
所員 第三十六特別房四人 ロンバッハの模様です。

S.E.（ガムをかむ音）

バッキ・ガム ルパンにあう日があったら よろしく伝えてくれ。

ロンバッハ さすがは不二子さん
S.E.（風船ガム）

所員 脱獄はあきらめた模様です。
BGM サンバテンペラード C.I.

ルパン （OFF）MY DEAR 不二子……か
BGM サンバテンペラード C.O.

ルパン （OFF）次元、元気か。

次元
クラリス （OFF ↓ ON）ハハハハハ……

次元 それ、もう一台。
調子いいなあ!!

クラリス ハイ!!

カット	内容	セリフ
13	：：と、前方急カーブ あっとなる次元、顔おおうクラリス	次元　ああっ クラリス　きゃーっ
14	カートからほうり出される二人、が安全用ベルトでガッチリつながれ、ガード下にブラ下がる。二人顔見合わせてテレ笑いする次元。すべてゲームの一環である。	次元　大した遊園地だぜ クラリス　ハイ。
15	夕刻のカリオストロ公国ローマ遺跡、観光の国となっている。ボストンバックを持って歩く次元とクラリス	クラリス　（OFF）わざわざ　これを届けに？
16	次元、ボストンバックから、クラリスの王冠を取り出し渡す。	あれから、カリオストロ公国は、観光国として ヨーロッパのディズニーランドを目指したんです。 こんな素敵な遺跡もあるし
17	並んで歩く次元、クラリス。 立ち止まって 落ちつけるところにたたずむ。まわりを見回す。クラリス 画面スミで老婦人（マダム・ピッコロ）に何やらたずねられている七・三分の男はグスタフである。 クラリス　思い出して　ニコッと笑って	次元　伯爵の奴の残党はどうなんだ。 来てやるぜ、地球の裏側からよ。 クラリス　カゲはもういません。事にジョドーさんが姿を消してしまったので心配はいりません。それに、私の側にはカールとおじいさんがいつでもいてくれる
18	楽しそうに話すクラリス	
19	満足げに、だが、少しさびしげにうなづく次元	次元　ふーん
20	マイアミ、レントハウス事務所内。職員が応待している。 ルパン後姿、職員の後でTVが野球中継をしている。（ニューヨーク・ヤンキース対ボストン・ピンク・ソックス） 職員、パラパラッとノートをめくる。 ノートをめくる手をとめ、顔をあげる職員	BGM　サバテンペラード　C.I. 職員　白い洋館？ ルパン　そう白い洋館、ホワイトハウス 職員　ホワイトハウスね…えっとあ　ありますね。わりと近く　週契約三百五十ドル BGM　サバテンペラード　C.O.
21	カリブ、ハワードロックウッドの島跡、クルーザーが着いている。爆弾頭 短いあご髭、長髪の三人の軽薄そうな男に一礼して、クルーザーを降りる。僧侶姿の五右ェ門 クルーザーある。	ルパン　（OFF）拝啓　五右ェ門殿
22	一面焼野原であるが、鉄条網がはりめぐらされている。	五右ェ門　（OFF）変わったな。

逆襲と逆転のサンバ

シーン	内容	台詞・音
23	鉄条網に沿って歩く五右エ門、OUTと騒音とともに、一群の戦車がIN、戦車横腹にTL「永田重工」軍事演習場である さきほどのクルーザーの三人は永田の息子とその仲間 ニセルパンを演じた三人らしい	S.E.（ゴゴゴゴ……）
24	マモーのコンピュータールーム TBして、たたずむ五右エ門少しあたりを見回し、地面に何かを見つける。二、三歩近寄ってかがみこむ	
25	五右エ門がひろいあげたのは斬鉄剣のカケラである	
26	マイアミ、レントハウス事務所、後姿のルパン、事務所職員 何か記入している	職員 アー・ユー・日本人?。 ルパン イエース 日本人。 BGM サンバテンペラード C.I.
27	何故か得意顔のルパン	
28	職員さりげなく、	職員 ファッチュアネーム?。
29	ルパン、言いかけてグッとつまり、言い直す	ルパン マイ・ネーム・ル…（OFF）日本人らしくねえなって…と…
30	職員、思いあたってにっこりうなずき、何やら記入、カギを受けとりルパンふり向いて事務所を出て行く 職員、後のTVに見いる。野球中継と 突然 画面が変わる。	職員 （↓ON）ヘイジゼニガタ OK、カギです!! BGM サンバテンペラード C.O
31	TVスクリーン 緊張したアナウンサーが画面にむかってわめく	アナウンサー 臨時ニュースです。本日午前10時 アモーコネクション直営博物館、キューピットボーゲンに（OFF）対し、ルパン三世の予告が至付けれました。
32	のTVにラッタッタのルパン、画面4つにわれて、ノルウェーの不二子、カリオストロの次元、カリブの五右エ門が加わる。タイトル重なる。「逆襲と逆転のサンバ」	BGM（テンポを増したサンバのリズム快調にC.I.→C.O） SE.（ガヤ）
33	基地 マモーコネクションビル、アオリ、P.D して、その入口殺倒する記者団。ドコンジョ婆さん「盗難予防には丸金金庫」のプラカードを持った銭太郎もいる。ドアを固めているのは、フリンチ、顔に横二本のキズアトが妙におかしい。	フリンチ 取材はお断わりだ 帰れ!!。

34
ビル内、一人称のカメラアイ どんどん進んでいく、エレベーターが開き、正面に向かって進んでいく。

マモーA (OFF) キューピッドボーガンは今世紀最大の発掘だ
D (OFF) 待ちのぞんでいた宝物だ
C しかし、奴はやるといったらやるぞ。

35
ビル内 会議室 白髪の小男5人が豪盛な机を囲む

36
いわゆるアモーの粗悪品のしわくちゃなUP、T.Dして、マモーコピー集団つまりマモーコネクション首脳部 五人写る

マモーA ルパン三世 関わりたくはなかったが、この際は対応するしかあるまい。そこで、(OFF) キューピッドボーガン輸送警備をやりたいというものがいる (↓ON) 入りたまえ。

37
一人称のカメラ・アイ 最高会議室と記されたドアの前で止まる、ドアを開ける ふりむくマモー集団が見える。

38
開けはなたれたドアの前に立っているのはシャードックである。その後に万屋十完が姿を現わす。

シャードック 私立探偵 シャードックです。
BGM 99.999パーフェクト（シャードックのテーマ）

39
シャードック、室内に歩み、上座にむかう、万屋十完、マモー集団の中の空席を見つけ、なれなれしく席につく、

シャードック ルパン三世については御存知かと思いますが、奴は近来、まれに見る悪党です。大悪党です、社会の敵です。(OFF) 私にとって奴を倒す、つかまえることは、なかば宿命なのです。ああ、そして、これこそ私の私立探偵としての仕事の記念すべき第一歩なのです。

40
マイアミのルパン、海岸、砂浜、波うちぎわに向って歩いていく、砂浜にねころがってるビキニの美女は、エマニエル・ポアロにそっくり、ルパンにウィンク、ルパン、ニカッと手をふる

41
ルパンがかかえているのは三台の鉄トカゲである。T.Bして、ルパン、沖にむかって鉄トカゲを放す。

マモーB 参加してくれたまえ、厳重な方がいい。
BGM 99.999パーフェクト F.O

42
マモーコネクションビル、入口の混雑 フリニチ必死である。ほうり出される銃太郎、それに向かってシャッターを切っているドコンジョ婆さん、その息子ベンソンは記者の腕章をして、フリニチと格闘中である、と、日本のパトカーIN 数名の警官を従えた銭形警部である。強行に突破を試みる。

S.E.（車のとまる音）
銭形 荒れとるようだな、強行突破!!
BGM 銭形マーチ C.I.

43
ビル通路 意気揚々とひきあげてくるシャードックと十完、ギョッとする十完

十完 着々と進行してるな。
うわっ！

44
つっこんでくる銭形 警官二、三人がフリニチを押さえている。シャードック、十完を尻目に階段をかけあがっていく。

BGM 銭形マーチ C.O.

45
敬礼しつつ、会議室に入ってくる銭形、かなり興奮気味、息をきらせている。

銭形 (OFF) 会議中 失礼します。
国際警察の銭形です。ルパンからの予告があったという情報を耳にしてやってきました。
是非、私どもに輸送を護衛させてください。

逆襲と逆転のサンバ

	画面	セリフ
46	マモー集団、銭形の話を聞いている。そのうちの一人が、うなづく。	マモーB　よろしいでしょう。ただ私立探偵も参加させる予定でおりますので、連絡をつけて、コンビネーションをお願いします。
47	けげんな顔をする銭形、が、承諾に気分を良くして納得	銭形　了解しました。
48	銭形退室、見送るマモー集団、と、また顔をよせて話を再開する。	マモーC　…と、うてる手は総て打っておきましょう。なんと言っても相手はルパンですからな。
49	マモーC.D.E.E. 立ち上って意見をのべる。	マモーE　まず、奴を消すこと、賞金をかけましょう。[illegible]逆の前に奴が死ねば問題なし。
50	マモーB、うなづく PANして、マモーA 幹部である。カバネ　カモネを呼ぶ	マモーB　確かに。それではその方向でもう一手、我がコネクションの一部隊を奴のもとに送りましょう。 マモーA　さしあたって、その程度。早速、手配しましょう。カモネ。カバネ。
51	翌朝、マイアミ　白い洋館、その前に小型のバンがとまっている。その屋根に、ラッタッタがのっかっている。	BGM　日の当たる大通りで ルパン　(BGMに鼻唄がダブる) (OFF↓ON)
52	洋館内、ルパン、黒のエプロン(あんみに製)を付け、軽やかにそうじである。	
53	マイアミ銀行前、バス停、古めかしいバスがIN、停車。マイアミ銀行頭取ガーリック氏が降車、続いて降りたのは次元である。手ブラだ　左にOUT	SE　(バスの停車) (バス始動〜)
54	歩く次元、通りをぬけ少し開けると海が見え、少し先に白い洋館が見える。T.U	次元　(OFF) あれだな……
55	洋館、玄関にたいそうな笠がある　五右ェ門が来た様子である。	BGM　日の当たる大通りで F.O
56	五右ェ門、窓に歩みより、開ける……と、オッという表情になる。次元が来るのが見えたらしい。	五右ェ門　ゴホッ　非衛生的だ。次元。
57	次元来る。五右ェ門に、ルパンに顔を向ける。ソファに、ドンと座って、いたずらっぽい目でルパンに話しかける。五右ェ門も横の椅子に腰かける。ルパンは楽しそうにそうじ、である。五右ェ門　ルパンから　ほうき、うけとりつつ話している。	次元　よお、ひさしぶりだな。新しいアジトで何をおっぱじめるんだ。 ルパン　まあ、手伝えよ。 五右ェ門　ひさかたぶりの仕事に多少は興味が動いておるのだ。

カット	内容	セリフ
58	ルパンふりむきつつ、キッチンに入っていく。	ルパン　別に仕事じゃないよ。
59	次元、身をのり出し、五右エ門もふりむく。次元にT.U.して、多少ひきつった笑いを作る次元。	次元　何!! まさか、バカンスじゃねえだろうな。
60	ルパン　にっこり	ルパン　あたり。
61	五右エ門　大きくため息　次元げんなりして、ソファに身を投げ出すと、帽子を真探にかぶる。五右エ門、けっこう、めげずに、次元のげんなりもポーズである。	次元　あらあ、結局お前らや　進歩なんて知らねえ世界のことか。変ってねえな。 五右エ門　くだらぬ呼び出しには慣れておる。
62	ルパン、全くわるびれずに。	ルパン　俺たち四人顔合わせりゃ　いつだって波乱万丈ってのもワンパターンでしょうか。
63	次元、"四人"にハタと気づき、ソファから起きあがって帽子の下からルパンを見る。五右エ門うつむく。	次元　四人って、あの女も来るのかァ。
64	ルパン当然のように	ルパン　居には来るさ、さて、忙しいな。
65	某暗黒街、ルパンの賞金ポスターが貼ってある。	声1（ストーンマン）（OFF）ルパンの居るところに次元が居る。
66	同じポスターが別の表通りにある。	声2（ミネソタ学士）（OFF）ルパンの居るところに次元が居る
67	同様にベタベタ貼ってあるポスター、ポスター、ポスター	声3（ジョビー）（OFF）ルパンの居るところに五右エ門が居る
68	シャードック探偵事務所	シャードック　ヤコービット・ボーゼンの発掘は、四百前、まさか（OFF→ON）本当にルパンがこれに狙いをつけているはずはない。99.99%ない。紙のメッセージで始めて、奴が動き出す。計算は（OFF→ON）そこから始まる。
69	安楽椅子をゆらして、パイプをくゆらすシャードック。ゆっくりT.U.	
70	マイアミに向かう、十完のオープンカー	
71	同じくマイアミに向かう、マモーコネクションの一隊のジープ	SE（ジープの走行音）

逆襲と逆転のサンバ

カット	内容	台詞・音
72	安宿の銭形一行、銭形 部下と将棋などさしている。	次元 (OFF)それにしてもマイアミのホワイトハウスなんざ、(OFF→ON)思いっきりちゃちだな。
73	マイアミの白い洋館。次元もエプロンをして、かいがいしく動いている。ルパンはテーブルに食パンをならべている。次元冷蔵庫を開けてみる。次元 相当大げさにびっくりする。	ルパン ああ、バター出してくれ。 …… 次元 辛いのもだろ。あっ からしがねえぞ。
74	冷蔵庫の中を探す次元	マスタードもタバスコもねえ。
75	ルパン落ちついたもので、	ルパン 買ってなかったっけ、ま、いいか。
76	五右エ門 隣室で花を生けている ルパンと次元のさわぎに少し耳をかたむけて。	次元 (OFF) 芸がねえや、なあ、五右エ門。 五右エ門 ピザトーストにわさびでもあるまい。
77	マモー・コネクション、ルパン強襲部隊 急ぐ	S.E.(ジープ 数台の爆音)
78	ルパン、パンの上にバターをぬる、と、次元帰ってくる。マスタードを買いに出たのだ。つかつかと来て、ルパンにマスタードを渡し、OUT. ルパン作業を続ける。マスタードをぬって手元、パンにT.U.	五右エ門 (OFF)拙者はバタくさいのは好かんぞ。 次元 ほれ マスタードだ 俺はたっぷりな。 ルパン 辛いのばっかりだと頭が涼しくなるってさ 次元 (OFF) ほっとけっ!!
79	ルパンの手元、パンの上にタマネギベーコン、チーズ、ピーマンとのせていく。	ルパン (OFF)次元 コーヒーな!! 次元 (OFF) あいよ、五右エ門どうする。白湯か。
80	五右エ門 生け花完成し 次元の問いに、たもとから、緑茶のティーパックを出す。ニッと笑う。	五右エ門 んっ… 拙者は これだ。
81	洋館の前、TAXIが止まる。降車する白くのびやかな足は、峰不二子である。不二子洋館に入っていく。	S.E.(キキキッ…バタン) BGM ラヴ・スコール
82	準備万端、不二子をむかえる三人の紳士	三人組 ようこそ、お姫様
83	にっこりほほえむ不二子。美しい。	不二子 なかなか素敵な午後じゃない。
84	ピザトーストをほおばり、コーヒーやらお茶やらを飲む四人。実に平和。TVではクラッシックをやっている。もちろん指揮はキョーランスキーである。おたまで指揮をしているところへ。T.U.	BGM C.O. BGM 交響曲第9 新世界(家路) S.E.(食器がかすかに音をたてる。

85 マモーコネクションのジープ、マイアミの街道を駆けぬけ、洋館にどんどん近づく。それ相応の奴等が乗っている。旧式のマシンガンをズラッと持ち、迫力である。

86 洋館内、物音に窓の方を見る四人、ハッとする

87 洋館に三台のジープがつっこんでくる。テーブルは吹っ飛び食器は割れ、四人はそれぞれとびのく。手にコーヒーカップやら皿やらしっかりもっているのは、いつもの事、

88 ジープ壁際でUターンしてマシンガンをぶっぱなす。四人、ものすごい速さで外に出、バンにのりこむ。

89 ルパン、アクセルふかし、バン出発、ジープが立ちはだかるが、体当たり、とびついてくるギャングをワイパーでほうり投げる

90 残り二台のジープ洋館の柱に激突、くずれおちる。洋館、その中からしつこく出て来るジープ

91 マイアミ海岸通り、猛スピードのバン

92 バンの中、次元、ルーフを開け、外に顔を出す。ルパンは運転、不二子は助手席で憮然としてる。五右エ門は後のドアを開ける。

93 街並から、海岸通りに来るジープ２台

94 バン、砂浜につっこむ　あわててよけるビキニの美女は、すべて、美人コンテストの出席者である。続いてジープつっこんでくる。

95 波うちぎわ駆けるバン、後に続くジープにたくみに水しぶきを浴びせる。

96 万屋十完のオープンカー、海岸通り、平行してついてきている。

97 砂浜からヤシの林へバン、マシンガン撃ってくるギャング　五右エ門、あっさりはねかえしている。上にPANして

S.E（平和をかき消す様に）ゴオーーッ
BGM　SEにより、C.O.
BGM　非常線突破　C.I.
S.E　ドカーン　ガシャン、バキバキ
ルパン　何だ〜!!
不二子　私じゃないわよ!
S.E　キキッ　ズダダダダ……
次元　けっ!!
S.E　バルルル
ガシャン　キー、バタン、キー、バタン
ドガン、ガラガラ
ブロロロロ……

S.E　グオーーッ
不二子　どういうこと。
ルパン　知らねえよ。まったく、人のバカンスを。
次元　有名人は、つれえよな。
五右エ門　来たぞ!!
BGM　非常線突破　F.O.
ルパン三世　サンバ'83　F.I.
次元　ひさびさ!!　撃つぞーっ!!
S.E　バシャッ!!
ギャング　うわーっ　ぺっぺっ…
S.E　ブロロロロ…
ズダダダダ
カシンカシンカシン

逆襲と逆転のサンバ

カット	内容	セリフ
	次元退屈そう、あくびなど	次元 ふわ〜あ. S.E. キキキキ、ドガン、
98	ルパン運転している. ヤシの木の林をコマネズミの様にハンドルをさばく. ジープも追うが、一台ついて来れずに木に激突. 次元 中にひっこむ	次元 おっかねえな.
99	十兜 これもたくみにバンに並んで来る. 完全に並んだところでクラクション	ルパン なまっちゃいねえな. S.E. ブワーッブワーッ
100	ルパン、クラクションの方へ. 隣りで不二子はきげん悪し	ルパン 何だ!!
101	十兜、バンにあわせて必死で運転しながら.	十兜 これは宣戦布告だ.
102	ルパン十兜をふりはなそうと しっちゃかめっちゃかな運転、もはやジープは眼中にない. が、しつこく、ジープは後から撃ってくる.	ルパン 誰のて。 十兜 マモー・コネクションだ. S.E. ズガガガ……
103	次元、窓から顔を出して マグナム撃つ.	次元 うるせえんだよ!!
104	ジープのタイヤ ふっとぶ. みじめ!! どんどん後方に流れていく.	S.E. ドガーン ギャング うわーーっ…
105	バンとオープンカー 海岸通りに進んでいく. 普通に走り始める.	BGM. ルパン三世サンバ'83 F.O. 十兜 お前は マモー・コネクションが 最近発掘したキューピット・ボーガンを盗むって予告した.
106	ルパン、ぎょうてん. 次元 知ってたようにうなずく.	ルパン 知らねえなあ!!
107.	並走するバンとオープンカー	十兜 TVでもさわいでるぞ!! ルパン それでも知らねえんだ. 十兜 だが事実だ. 俺はそのためにマモー・コネクションにやとわれた私立探偵. シャードックの相棒 万屋十兜、これからちょいちょい聞くことになる名前だ.
108	万屋十兜、アクセルをふみ、どんどん先に行く.	
109	呆けているルパン 隣で不二子が何やら考えてる. 次元は何かおこりそうでホクホクしてる. 五右衛門は黙して語らず.	ルパン マモー・コネクションって… 何だって。
110	元、ホワイトハウス 無惨な焼けあと. 警察、野次馬、人だかり. そこにコートに黒メガネの大入道 IN.	SE. (ザヤザヤ)

No.	内容	人物	台詞
	ストーンマンである。しばらく焼跡を眺めると OUT 人だかりの中から出て来るのは、ソフトをかぶった アントニオ トミーガンを持っている。	ストーンマン	おそかったのか。
111	マイアミの安宿、双眼鏡で焼跡を眺める男、どじょうひげが見える。ジョドーとカゲの残党	ジョドー	奴等が あの程度のチンピラに殺られはすまい。
112	双眼鏡の視界に入ってくるレントハウスの職員		
113	レントハウスの職員、焼跡の近くに立って	職員	全額弁償だな、こりゃ。えっと…銭形平次…か
114	マモーコネクションビル、会議室。マモー集団が席についている。シャードックがのりこんできている。	シャードック	どういうつもりですか。私が信用できませんので。だいたいこれは何です!! すぐに賞金を出すのはやめてください。
115	机の上に一束の新聞らしいものを投げすてる。表面に、「ルパン三世情報、ルパンは今、マイアミに!!」と記してある。	マモーA	しかしだね、どうやら賞金につられた連中は少なそうだよ。個人的な復讐のたぐいが多いらしい
116	マモー集団、なぜか シャードックにのまれてしまっていて逆えない。	マモーB	それに今さら取り消してもムダだろうよ。
117	憮然と聞くシャードック。がマモーの言葉に思い出して。	マモーC	ところで銭形警部とは連絡がついたのかね
		シャードック	それもです。私には十完以外のパートナーは不要だ。ルパンはひきわたしますので、じゃまはしないで欲しいと伝えて下さい!!
118	マモーD.E. なかば うんざりして。	マモーD	ところが、彼も個人的でね。
		マモーE	どいつもこいつも執念なのだ。
119	夕陽に輝くキーラーゴの洞窟。	S.E.	（波の音）
120	クルーザーが停泊している。		
121	クルーザー内、ルパンは長椅子に寝ている。次元はマグナムを手入れしている。五ェ門は外を見ている。不二子は、何やら書類をそろえている。		
123	不二子 書類をそろえ終わり、それを読みはじめる。	不二子	キューピット・ボーガン。古代ギリシアの神話信仰から、その時代の人間がエロスの神殿にささげた彫刻で、当時の現代科学では解明不可能な魔術的作用で いわゆる。
124	不二子の書類の中の一枚を次元が取って見る。		

逆襲と逆転のサンバ

カット	内容	台詞
125	キューピッド・ボーガンの写真と英文の説明	媚薬の強力な効果があるらしい。
126	ルパンふざけて、不二子にむかって弓を射つ動作。と あほらしくなってまたねころぶ	ルパン　矢を射てば、思いのままってやつかっ。 がいいいい……よしてくれ!!
127	不二子続ける。	不二子　本体であるキューピットは一九五〇年代、マモーコネクションによって発掘。現在はその発掘を持って発掘現場当地の博物館にあずけてある。しかし、今回のボーザンの発掘により、コネクション直営の博物館に輸送が決定。直後ルパン三世の予告状が届く、これよ。
128	五右ェ門つまらなそうに聞いている。	
129	ルパンも同じく 不二子の差し出した予告状を見る。	
130	ルパンの見ている予告状は、例のカリオストロ伯爵に差し出した奴を修正して使っている。	ルパン　色と欲の……マモーコネクション……キューピッド・ボーザンは、いただきます。近日参上。 ルパン三世……
131	ルパン相手の手口にあきれている。	盗作だぜ、こりゃ!!
132	不二子、先ほどの不機嫌も、どこへやら。全く調子がいい。	不二子　時価に直せないほどの価値よ。絶対の媚薬っていったら、天文学的になるわ。ルパン、やっちゃいなさい!! あら、どうしたの五右ェ門。
133	五右ェ門、立ち上がって、外に向かう。不二子の問いにふりむかずに。	五右ェ門　おりる。媚薬ごときにかかわりたくはない。
134	次元納得している。	次元　おめえはそうだろうな。
135	五右ェ門、笠をかぶって出ていく。	五右ェ門　また、会う事もあろう。
136	ルパン五右ェ門に手をふって、さて、ということで机に近づいてくる。次元はマグナムを組み立て終え、不二子の書類を眺めている。	ルパン　ああ、元気でな!! さて、と、どうやらあのシャードックとかいうのに仕組まれたらしいな。
137	ルパン不敵な顔で、	決闘を申しこんできたのさ!!
138	洞窟の外、付近の道。すでに暗くなっている。五右ェ門がスタスタ歩いている。と、それとすれ違って、数台のパトカーが五右ェ門の来たかたに行く。	SE.（車の音）
139	五右ェ門目で追って。	五右ェ門　銭形か。

温風ヒーターの上に 物をのせたら あかんのよ★

逆襲と逆転のサンバ

カット	内容	セリフ
140	キーラーコ洞窟近く、パトカー三台が停めてある。	B・G・M 荒野に消えて F・I
141	洞窟の中から、逆光でうかびあがる銭形のシルエット	
142	銭形のまわりを固めるアメリカンポリス。銭形、洞窟に向かい、二・三歩歩み寄る。	B・G・M 荒野に消えて F・O
143	銭形、マイクロフォンを口にあてて	銭形 袋のねずみだ、出てこい (OFF) ルパン!!
144	洞窟内クルーザーの一室。銭形の声が、片隅の通信機械に反応している。	ルパン よーう、とっつあん、ようこそ!! (OFF) どうしてここがわかったんだ!?
145	洞窟の外、銭形。手応えあり、といった風にニタッとし、答える。	銭形 あいかわらず、ドジな奴だよ、おまえは.
146	とあるホテル。ルパンが受話器を持っている。次元の問いに受話器をおさえて.	次元 (OFF) 何をやったんだ? ルパン マイアミのホワイトハウス、とっつあん名義で借りちまった。
147	次元、ベットにねころがって煙草ふかしている.	次元 けっ、しまらねえな.
148	洞窟内クルーザーの一室。通信機を通して.	ルパン レントハウスに呼び出されてマイアミまえカ
149	洞窟外、銭形	銭形 とんだ呼び水になったものだな.
150	銭形の回想 レントハウスの職員が、ひたすらしゃべる	職員 知ってるも、知らないも、銭形平次、つまりあなたが、6万ドル、6万ドル支払うべし。
151	銭形の傍らにアメ・ポリ一人来て、催涙弾の準備完了の様子を示すのにあわせ、PAN	アメ・ポリ 準備できました。 銭形 ごくろう。
152	銭形、ガスマスクをうけとり、洞窟内に最後通告	マイアミのホワイトハウス、6万ドルなんて俺は知らねえからな.
153	アメリカンポリス、催涙弾、ランチャーを構えて射つ	SE シュパーッ ドカッ、ドカッ
154	煙にまみれるクルーザー、と、その中から銭形を先頭にアメポリ。十名ほどがガスマスクをかぶってつっこんでくる。	銭形 ルパン、ルパン、ルパン、ルパン、ルパン.
155	うっすらとガスが漂うクルーザーの一室。銭形が荒々しく入ってくる。と、通信機から、ルパンの声。通信機を持ちあげて、叩きこわす銭形。	SE バタッ ルパン ぐはははは…… 銭形 くそーっ!!
156	受話器を耳から遠ざけるルパン。受話器をもとにもどしてニッと笑う。	SE (OFF) ガシャン!! ルパン ごくろうさん!!

シーン	内容	人物	台詞・音楽
157	数日後、けだるい朝。ベットから起きる裸の背中は、峰不二子である。PANして、傍らのサイド・ボード。ルパンのブレザー、スラックス、タイひとそろいがさりげなく、ある。	不二子	ややっこしいこと、するのよね。 音M 殺し屋に紅バラを
158	地中海を一望にするホテル。次元が、双眼鏡でのぞいている。島が視界に入る。その島に一台の輸送用ヘリが降りていく。	次元	あいつだな
159	ヘリが降りていく。地中海の島、発掘現場である。マモーコネクションの掲示板がある。そこに影がさす。おなじみ、ルパン三世独特のシルエットだ。		音M 殺し屋に紅バラを C・O
160	同日、発掘現場近くの事務所。ヨーロッパ一円の地図を前に、シャードックが熱弁をふるっている。空路である。ヘリの操縦者が何故か三名である。さらにトレーラーの運転手がいる。	シャードック	私、私立探偵シャードック御自慢のトリックでしてね。いいですか。ところで、そこのトレーラーの運転をなさる人は、どなたですかね。
161	銭形も出席している。マモー集団・シャードックに	マモーB	契約をしてしまったからしかたないがね。君の主題は、ルパンとの対決にあると思う。まあ、ボーガンが主役だから、おまかせするが、価値のない台座の方は、陸路をとらせてもらうよ。
162	十完・シャードックのうろたえるのを笑っている。と、アナウンスにマモー集団反応して動く。	アナウンス	(OFF) マモー・コネクション代表様。ニップル財団頭取様がいらっしゃいました。
163	マモーA、たちあがって、ヨーロッパの地図のもとへ歩み北ヨーロッパのある地点を指さす。マモーA、部屋を出るつづいてB、C、D、E、銭形も出ていく。	マモーA	博物館のことでね、ゆずってくれるものがあるそうだ。それでは輸送系路は、この12名のみが知ることとする。
164	シャードックと十完残る。シャードック、非常につかれた様子で。十完、まだ、おかしい。	シャードック 十完	笑う奴があるか、礼金へらすぞ なれてないのよな。ククク…
165	夕刻、小型トレーラーに、キューピッド・ボーガンの台座にあたるキューピッド像が積み込まれる。銭形がたちあっている。十完、マモー集団、シャードックが居る。小型ト	整備員	音M 殺し屋に紅バラを C・I オーライ、オーライ。 SE ブロロロロ…
166	マモー集団、4人しかいない。Aがおくれてやって来る。Cが、ふとAの横に来る。	マモーA 〃C	失敗 どうした、ここがヤマだろう。
167	マモーA、表情がコロコロ動く。	マモーA	えっ、あ、ああ、すまん、すまん。
168	夜 マモーコネクション発掘現場敷地内を、出てゆく、方屋十完。		B音M 殺し屋に紅バラを F・O

逆襲と逆転のサンバ

カット	内容	台詞
169	十完付近の小さな酒場に入っていく。隅の暗い席に男がいる。十完近づいていく。	SE ガヤ.
170	ふり向いた男は、十完の顔である。	ジンベエ　バーッ
171	席につく十完、男、ふく面を取る。ドロボー村のジンベエである。ふく面を十完に返す。十完少し見て返す。	十完　バ、バカヤロー! ジンベエ　バイト料……ところで、本物のシャードック
172	ジンベエと別れる十完、ふく面を出してかぶると、その姿は、すでにシャードックである。	(OFF)さんとかは、いつ出てくるんで? 十完　(OFF)いいところでさ
173	シンベエ十完が島を出ていく。	SE (島を出るモーターボート)
174	早朝、地中海にそそぐ河川・下流の河原、長く真直ぐな舗装道路、セスナがある。次元が来て整備を始めている。シェパードを散歩させる黄色ジャンパーのブーンすぎ去る。	次元 SE 静かにひびく、鐘の音。 う〜〜っ、さむ、 SE タッタッタッタッ
175	同刻、発掘現場、輸送用ヘリ、プロペラが回っている。シャードックがのりこむ。マモーB、けげんな表情になり、たずねる。シャードック、さりげなく答える。	マモーB　万屋十完助手は? シャードック　契約切れでね、帰りましたよ。
176	マモーA、マントに身を固めてのりこむ、とめにかかる、マモーD・Eを説得しつつOUT。マモーD・E、あきれた風な表情、その前を大またで通りすぎる銭形、ヘリにのりこんでいく。銭形の横顔にT・U。深刻な顔である。と、ヘリにのりこんで、あたりを見回す。	マモーE　なにも、あなたみずから、 マモーA　なになに、若いものには負けていられない。 マモーD　よろしく頼みます。 銭形　奴を逃がしたら、6万ドル、1500万奴、 ほおっ!っ。
177	豪盛な作りのヘリ内部	えらく豪盛ですなあ、
178	セスナ機を整備している次元、足音にふりむく。	次元　よお、
179	うで組みをして歩いてくるルパン。	ルパン、
180	次元、その様子を見て……と、時計を見て双眼鏡を取り出し鏡を取り出し、島の方を見る。	ばれっこねえよ。……とっ 時間だな。
181	双眼鏡のフレーム、島からヘリが出るのが見える。	BGM　チャンスをつかめ
182	セスナ機、ルパンはすでにのりこんでいる。次元ものりこんでセスナ、ドン0	次元　さて、出番だ SE　グルン・グルン・グルルル……
183	セスナ機、アスファルトの道路を滑走と、後から、遠く迫って来る車がある。	SE　カルルルル.

カット	内容	台詞
184	その車の視界、セスナ機が飛びたつ。ヘリがむこうに飛んでいるのが見える。	BGM　チャンスをつなめ　C・O
185	くやしそうに立ちあがるストーンマン。後部座席でアントニオが、トミーガンを構えて、空しく撃つ。助手席、ピューマがなる。後部座席、アントニオの横に、黒わくのルパンⅢ世の写真がある。Uターンして、OUTする車。	ストーンマン　くそー、逃がしたか、 SE　ダギューン ピューマ　追えや、 SE　キキキキ、バルルルル
186	マイアミ。風景ならPANして、ジョドーらのいる安宿。ジョドーらの部屋。5、6人のおじさんが、まとめた荷物の横になしこまっている。ジョドーの指示である。	ジョドー　にっくき、ルパン三世、殿下の仇は、今、奴の下らぬめしのたねを追っている。われわれ（OFF）は、それをマークすることにする。必ず、果たさんことを。
187	宿のろう下を歩いていく、一行、異常な軽やかさである。一番後を歩いていたジョドー。何やらっ気を感じて、立ちどまる。 他のものも立ちどまるが、ジョドー制して残る。 ジョドー、ドアに顔を近づける。	一同　（OFF）ゴート ジョドー　行っておれ。
188	宿内一室、ドアなら、T・Bして、座禅を組んでいる五右ェ門。マイアミを出る船を待って滞在しているのだ。	ジョドー　（OFF）石川五右ェ門と見た。 五右ェ門　私は、いつも私だ。
189	ドアの外、低い声で話すジョドー	ジョドー　ルパンと次元が、仕事を始めたそうでな。
190	目をつぶって答える五右ェ門。 ジョドーの言葉に目をカッと見開き、一瞬床をけると、ドアの方向にヒラリと飛ぶ。	五右ェ門　関わっておらぬ。 ジョドー　（OFF）我々は、カタキうちのため待ちぶせの一行でな。 五右ェ門　させん!!
191	ドアをすばやく開け、五右ェ門とび出る。T・Bして、あたりには、ジョドーの姿はない。	ジョドー　（OFF）時が来たら、再び戦おうぞ BGM　斬鉄剣　C・I〜F・O
192	輸送用ヘリ・後方、遠くついている。セスナ、カメラ側面なら、正面へまわりこみ、	五右ェ門　（OFF）おやじ　断定だ!! SE　ヘリの飛行音、
193	マモーA、空を指し、セスナ機を確認。銭形、一瞬、空の方に目を向け、視線をまたななめ下にもどす。その視線にそってPAN・DAWN・キューピッド・ボーガンと矢である。T・Bして、ヘリの内部	マモーA　ルパンがしっかりマークしてますな。 銭形　目的地までついてきて、積みおろしの時のスキをつく手ですな シャードック　空でふりきれば、いいわけですな。
194	セスナ、次元、ルパンの耳にレシーバー・会話はつつぬけである。	次元　あめ〜な。
195	キューピッド・ボーガンを中心に、マモーA、銭形、シャードック、銭形、キューピッド・ボーガンをじっとにらん	マモーA　（OFF）空での強襲はどうなんです。危ないとすれば、例の地点まえでしょう。そ シャードック　ことをすぎれば、セスナ一機じゃどうしようも

逆襲と逆転のサンバ

カット	内容	セリフ・音
	でいる。	ない。
196	セスナ機を上空に見上げ、海上をつっぱしるボート。ストーンマン、アントニオ、ピューマ、フリンチ（旧）が加わっている。ピューマ、ルパン3世の黒わく写真をかかえている。	フリンチ　耳鳴りがするぜ!! SE（とばすモーターボート）
197	ハイウェイの入口。ジョドーラ一行の車が待っている。マモーコネクションのトレーラーが通過。ジョドーラ、少し間をおいてつけてくる。	BGM 危険な誘惑 SE 車の走行音 不二子（OFF）問題は、シャードックと銭形よね。連絡のあった例の地点まで、だましおおせれば勝ち……
198	輸送用ヘリ、三人がキューピッド・ボーガンをにらんでいる。パイロット、ふりむいて 三人、立ちあがり、ヘリ両側の窓を開ける。	パイロット　ポイントAです。 BGM 危険な誘惑　C・O
199	人工雲ができている。T・Bして、次元。セスナ機から少し乗り出して……	次元　なんだ、ありゃ BGM 走れや走れ、追跡ごっこ
200	人工雲から、輸送用ヘリが二機出てきて、最初からの一機の両側に接近。	SE ヘリの音、重なって。
201	シャードック、セスナにこれ見よがしに、ボーガン（偽）をかざして、輸送用ヘリに移っていく。	SE バラバラバラ
202	銭形、会心の笑みをうかべて、同じく、偽ボーガンをかざして、もう一機の輸送ヘリに移っていく。	銭形　捨て身のおとり、ノーガード作戦
203	セスナから見ているルパン、次元、わざとらしく、うろたえたりしている。	次元　わあ、大変だ。
204	三台の輸送用ヘリ、もう一度人工雲の中に入ると、三機の方向にバラバラと進んでいく。	SE 三機のプロペラ音散っていく。
205	三機のヘリ、どんどん離れていく。その間を、うろつくセスナ機。	
206	シャードック、ニヤッとわらって、セスナを見ている。	BGM 走れや走れ　追跡ごっこ　F・O
207	大笑いして見ている　銭形。	銭形　ガーハッハ。わかるまい、どうするかな、ハッハ。
208	銭形のでもない、シャードックのでもない、マモーの残った輸送ヘリの戸が開いて、マモーの着ていたマントが、ヒラヒラとふられている。	銭形（OFF）なんだし?! BGM 恋はサンパウロ　C・O

No.	内容	セリフ
209	セスナ、ルパンが、ブレザーをヒラッと捨てると、峰不二子であった。	銭形 （OFF）ルパンじゃない。不二子、しまった、奴は、マモー、その人に化けていやがった。
210	最初のヘリ。ずっとちぢめていた体を思いきりのばし、マモーのしわくちゃな仮面をとる。ルパン3世、マントをふっている。	
211	セスナの次元、不二子。楽しそうに、合図のヘリ二機がちかづいていく。	不二子 あははは…… 次元 ひゃっひゃっひゃっ
212	最初のヘリ。パイロットが銭形の通信をうける。ふりむく、	パイロット ルパン三世ですな。ああ、やられました。
213	ルパン、パラシュートを背負い、キューピッド・ボーガンをパイロットにかざしている。	BGM 恋はサンパウロ F.O
214	ヘリから飛び降りるルパン。	BGM スーパーヒーロー
215	はるか下方に、セスナが見える。パラシュート開き、ゆっくり落下していく……と、セスナが片方の翼をふっとばされる。	BGM スーパーヒーロー C.O
216	ルパンに向かって、つっこんでくる爆撃機。すさまじい風圧が、ルパンをよけさせた形になる。	ルパン なんだ、なんだ、なんだあ〜 SE グオ〜ッ!!
217	シャードックのふく面をとる十兗。操縦席に入っていって、なれなれしく座る。	十兗 さーて御登場っと。
218	フワーッと降りてゆくルパン、すぎさっていく爆撃機にボーゼンとしている。	次元 （OFF）くそ〜っ!!
219	失速し、落下してゆくセスナ。大あわての次元。不二子はしてやったりのほほえみをうかべると、パーソナルジェットを取り出し、脱出。次元、ののしるが空しい。	不二子 殺さないでって、頼んでおいてあげたのよ。 SE （ジェット、飛び立つ） 次元 やっぱりてめ〜か、ちっ―――っ、この尻軽!!
220	海面に降下するセスナ、フロートが出て来て、水上飛行機の形をとる。	SE ジャパーン
221	降下するルパンの前に、降りてくる人影、シャードック。その傍に、下からINしてくる不二子。	BGM 99.999パーフェクト（シャードックのテーマ）F.I シャードック ワトソンの読みが勝ったようだな。
222	亜然とするルパン。くやしいが、そこは余裕を見せたりする。	シャードック （OFF）裏の裏の裏でね。 ルパン てやんでえ、ボーガンはこっちが持ってるんだ。
223	シャードック、動きが優雅である。さっと剣を取りだして、	シャードック いただこう!!不二子。十兗のところにいって、

逆襲と逆転のサンバ

カット	内容	セリフ・音
	ルパンに一本渡すと、すかさず空いてくる。	いなさい。チェースト。
224	ルパン、剣をうけとりざまはらうが、シャードックのねらいは、パラシュートのひもにあたった。バランスをくずすルパン。	BGM 99.999パーフェクト C.O ルパンⅢ世サンバ83' C.I
225	海面まで、まだ200mはあろうほどの高さ。	SE 剣のふれあう音
226	気をとりなおし、パラシュートのひもを手でつかみ、剣をかわしつつ、シャードックのパラシュートの布を切るルパン。	ルパン おーっと SE バサッ
227	バランスをくずすシャードック。ルパンがつかみかかってくる。落下速度、増す。一度、はなれて、剣をかわす。	シャードック うおっ、やるな、チェーイ ルパン まだまだ、もう一丁!!
228	上昇する不二子の視点で、争そっているルパンとシャードック	BGM ルパンⅢ世サンバ83' C.O
229	三機のヘリ、近づいている。十兜の傍にいる銭形。やっと翔ることができ、シャードックの戦法を非難する。	SE ヘリ飛行音 銭形 私に一言の相談もなしに、勝手な奇策をたててもらったのでは…
230	不二子、ヘリにのりこんでくる。と、十兜は、ルパンとシャードックに見いっている。	十兜 どっちが勝つと思います?
231	どなろうと口を開けた銭形。	マモー (OFF)勝ったのは、私だよ。
232	チャンバラ中のシャードックの胸に、マモーの通信が入っている。しばし、剣を休め、ゆっくり降下する、ルパン、シャードック	BGM ビバ、全知全能 C.I マモー (OFF)争うのはやめたまえ、ルパン君。シャードック君、本物は、トレーラーで運んでいるのだから……
233	顔を見あわせる不二子、十兜、銭形、	
234	同じく、ルパン、シャードック。	ルパン やりやがる
235	海上、水上飛行機の次元。一人、何も知らずに煙草ふかす	
236	いきりたつ、シャードック	シャードック 我々さえ、騙していたのか。
237	三機のヘリのうち一つから送られてくる映像を見ながら、話しているマモー、大笑いである。	マモー 裏の裏の裏の裏かな。はっはっはっは。
238	大笑いしているマモーの後のスクリーンに突然、フリンチの顔がUPになる。あわててふりむくマモー	フリンチ 非常事態です。 BGM ビバ、全知全能 C.O

239	スクリーン、立往生している小型トレーラー。道路は黒人の車だらけ、人々は逃げまどい警官がうじゃうじゃいる。	フリンチ BGM デンジャラス・ゾーン C・I キューピッドボーガン輸送トラック、給油中のポイントBシティーが何者かの手によって、タウンジャックされ、街は大混乱。足ドメをしております。
240	パラシュートのルパン、シャードック。ルパン剣を一ふりして、自分のパラシュートのひもを切ると、急速に落ちていくと、次元の横にちょうど落ちる。	ルパン SE バサァ ヒューーッ ドサッ ひょーっ!! こうしちゃいられねえ!!
241	水上飛行機、ルパンと次元をのせ、水しぶきをあげ急速発進。	ルパン ポイント、Bシティー 急げ!! 次元 あいよ!! SE （急速発進）
242	不二子、シャードックをかかえ、全速離脱するヘリAにのりこむ。	シャードック SE バラバラバラ ポイントBシティー!!
243	大さわぎのマモーコネクション本部	マモーB コネクション党員は、ポイントBシティに急行
244	駆けぬける水上飛行機。ストーニマン、アントニオ、ピューマ、フリンチへ旧）に百地三太夫、ハングマン、バイオレンスタイガーが加わったボートとすれちがう。	百地三太夫 SE グオーーッ ルパンじゃ!! 追えー!!
245	ポイントBシティー。電波塔なんかに人が登っている。その塔をとりまく警官、逃げまどう人々。まるっきりサラリーマン然としたお子様ランチがいる。財産一そろいを背負った星影銀子もあわてて、逃げてゆく。	TVアナウンサー SE うずまく悲鳴等、ガヤ SE 非常サイレン これは、ドラマではありません。当市は、午前11時07分正体不明の怪人物によりタウンジャックされました。市民のみなさんは、即刻、当市から非難すること。くりかえします。これは、ドラマではありません。（以下 B・G）
246	怪人物、タウンジャックの犯人は、覆面をしていても、見ればわかる。ロンパッパである。	
247	何やら、おかしな機械を組立てている男の後姿。当市に潜伏中のマモー・キョースケである。TVのタウンジャックの言葉に何やら思い、TVにしがみつく。ふりむいた顔は年月を感じさせる老いた顔。組立てていたのは、タイムマシンである。やおら、それを持ちあげると、部屋を飛び出ていく。	マモー・キョースケ チャ、チャンスじゃ このタイムマシンを修理できる場所にしのびこめるぞい!! SE （ドアを開けて出ていく。）
248	非常事態に軍が出動してくる。戦車が数台IN。その後方から、ラムダによく似たロボット兵器が来る。永田重工の輸出用兵器、オメガである。	SE ゴゴゴゴゴ…… BGM 悪の栄光 C・I

逆襲と逆転のサンバ

カット	内容	台詞・音
249	怪光線を発するオメガ	SE ピーッ
250	一瞬にして溶解する普通車。あわててふためく人々の逃走系路を確認している。人々がさっとよけると救急車がつっこんでくる	SE ホワンホワンホワン…
251	運転しているのは、ルパン、次元である。	
252	渋滞に立往生している小型トレーラー！。運転手、ほうり出すわけにもいかず、おろおろしている。トレーラーのまわりにわらわらと集まってくる。ジョドーら武装している。	運転手 うわ〜ん…原爆いやだ〜、といってコネクションの仕事ほっぽり出すと消されるし… カゲ ルパンの狙っているトレーラーですな
253	なんちゃいして運転手あわてて逃げる	運転手 わー 助かった、後はよろしく
254	キョトンとするジョドー！	ジョドー ガードマンとまちがえおった。
255	ポイントBシティー、上空からフカン。塔を中心にガラーンとなっている都市。	銭形 シャードック SE ヘリのプロペラ音 (OFF) 郊外におろせ。 (OFF) よかろう。
256	輸送用ヘリ。双眼鏡で塔をのぞいている不二子	BGM 悪の栄光 F.O
257	視界が犯人をとらえる。ロンバッハである。	不二子 なんてこと。してくれるのよ。
258	不二子の回想。ロンバッハの脱出を助けるカット	
259	ロンバッハのいた独房。チューインガムの像が居る。看守が食事を持ってくる。何やら、不思議な機械が…処理するとそなえつけのテープが回る。	看守 めしだ… SE カチカチ、モグモグ、カチカチ ロンバッハの声 ごちそうさまでした。
260	頭をかかえる不二子	
261	猫の子一匹いなくなった市街、アスファルトとコンクリートと、のりすてられた車。と何やら機械音がする。その音をたどって、急なPAN。化学局の看板でとまる。	SE カチン、カチン、カチン、ずずずず… BGM 恐怖の一夜 C.I
262	マモー・キョースケ老人である。鼻歌を歌いながらタイムマシンの製作である。	キョースケ 完成は時間の問題でーす。ハハハハハン
263	機械音がうつろにひびく、ガラニドーの市街。	SE キューン…カンカンカン…

カット	内容	台詞
264	シーンと静まりかえった街を見回すロンバッハ	ロンバッハ　実に痛快です。いやあ、原爆の威力を試してみたかった。アッハッハ だけど、これからどうしよう。
265	ロンバッハ笑い終え、急に不安になる	
266	塔より、20kmの範囲で、特別非常線が張られている。戦車、オメガ、警察、軍隊が、線上に居る。その回りにさらに野次馬、TVカメラ、記者、等	警官　SE ガヤ 立入禁止です。危険なんですから。 BGM 恐怖の一夜 F.O
267	タウンジャック対策本部テント。数台の電話が鳴りっぱなし。各方面の支持に忙しい。	本部長　犯人との対話は、できないのか。 警官　現在、こちら側からの一方通行で、直にTV局の方で手をうつとしか……
268	マイクロフォンに向ってしゃべる軍人	
269	救急車がとまる……ガス欠である。降りてくる次元、ルパン	次元　走りづめだったからな。もった方だぞ。 ルパン　歩こう
270	のりすてられた車をぬって歩く二人、誰もいないのが、なんとなく不気味であるが、なんとなく、おどけて歩いている二人。	次元　マモーコネクションのトレーラーやーい ルパン　出てきておーくれー！ SE〈足音がひびく〉
271	ビルの谷間を歩いている二人。ひっくりかえっているゴミバケツ。人々があわてて退去した感じ。大きめの道路は、無人の自動車が乱雑にある。	次元　タウンジャックねえ ルパン　タウンジャックだろうが、カントリージャックだろうがいただくものは、いただくのさ。
272	小型トレーラーの上。あるいは、傍で待つカゲの軍団、と一頭の馬が近づいてくる。その横腹から、すいっと、鞍にのる五右ェ門。カゲの前に立ちはだかった。	カゲ　誰だ。 SE〈馬いななく〉 五右ェ門　ジョドー殿は、おられるか
273	カゲのカブトをとるジョドー。五右ェ門に対面する。二、三歩出るジョドー。五右門、馬から降り向い合う 一陣の風が吹く。	ジョドー　石川五右ェ門か。 五右ェ門　ルパンはゆずらん BGM 斬鉄剣 F.I～C.O
274	タウンジャック対策本部、マモー集団、巨額の料金を払って、非常線の中に入っていく。数台のトレーラーが、非常線をくぐる。	マモーA　これで、いかがですかな。 本部長　いいでしょう。護衛をつけます。
275	オメガを先導に進むトレーラー	SE〈オメガ、ビームを発しながら進む〉
276	輸送用ヘリ不時着している。十宍、シャードック、銭形降りてくる。	十宍　さて、ここなら先はルパン逮捕の勝負だぜ。 銭形　わかっておる。さらばだ。

逆襲と逆転のサンバ

カット	内容	セリフ・SE
277	銭形、不二子が降りてこないのにふりむいて、	銭形　不二子。 不二子、待て
278	輸送用ヘリ　上昇していく。銭形、とっさにヘリの足につかまり、ヘリの中に入っていく。	SE　バラバラバラバラ
279	シャードック、十完、ヘリを見送り準備した車に乗りこむ 銭形、ヘリの足からのぼっていくのが見える。	十完　峰不二子、いっちまったぜ。 シャードック　あてにしては、いなくなったよ、用済みだ。
280	シャードックらの車、ポイントBシティーにむかう	SE　ブロロロロ……
281	ストーンマンらの車とまっている。非常線がはられて、ポイントBシティーに入れない。うろつくアントニオ、百地三太夫老人、ストーンマン、フリンチ（旧）ハングマン、バイオレンスタイガー、ピューマ、さらに、殺し屋キャラクターがぞろぞろとそろっている。	ストーンマン　ルパンと次元がこの中にいるんだ。 フリンチ(旧)　まあ、逃げられねえぜ、ここじゃ ピューマ　非常線のスキを見て、行くぜ。
282	非常線内、小型トレーラーより遠く離れて、ジョド！と五右ェ門が戦っている	五右ェ門　きえい!!
283	壁に背をつける五右ェ門、顔の横にジョドーの鉄の爪が入る。下がってよける五右ェ門　斬鉄剣を一閃。	SE　ガッツ チャキーン
284	ジョドーの肩のあたりの布が切れる。	バサ
285	ロング。真剣勝負は続く。カゲの一行は、ぞろぞろくっついて、回りで見物している。	カシャ
286	あるビルの屋上。ルパンと次元、あたりを見回している。タランジャックなど気にもとめていない。と、ルパン指さすその方向に、ガソリンスタンドの看板。次元、ルパン、目標を見つけOUT	次元　そろそろ、日が落ちるな ルパン　めーっけ 次元　どこだ？ ルパン　水道局のむこう。
287	下水道を走るシャードックと十完の車。	SE　バシャバシャ　バシャ
288	運転する十完。助手席にシャードック。	十完　もっとましな道はねえのかい？ シャードック　ワトソンの計算だ。
289	邪魔な車を処分しながら、進んでくる、マモーコネクションのトレーラー。オメガは帰してある。	SE　ドカッ、グシャッ ガラガラガラガラ
290	フリンチ、ガソリンスタンドを発見	フリンチ　ありました!!
291	輸送ヘリ、都市の上空に近づいてくる。	SE　バラバラバラ　バラ・・

カット	内容	台詞
292	ヘリの中、不二子と銭形。	銭形　ロンバッハってと、あのもぐら友。 不二子　そう、まさか、こんなことすると思わなかったわ。脱獄を手伝ったのがバレたら、ただじゃすまないでしょ。 私は、あくまで、おたずね者には、なりたくないのよ。
293	不二子、全くしょげている。	
294	銭形、口をへの字に曲げて聞いている。	
295	不二子、ちゃめっけっ気ぽく。	
296	あきれる銭形、だ、事件処理ということで、協力することを約束する。	銭形　フン、まあ、いいだろう 間違いは、正すべきだからな。
297	電波塔、大あくびをする、ロンバッハ。	ロンバッハ　ふわ～あ。
298	手元の原子爆弾をなでながら	爆発させちゃおうかな。
299	夕日に照らし出される電波塔。T・Bして、化学局内。作業中のマモー、キョースケ老人	
300	置きざりにされたトレーラー。中に1カット出てきて、キューピッドボーガンと台座・矢はない。T・Bして、フカンの形になる。電波塔が入り、そこに1カット出来て、鼻の頭こすっているロンバッハ。プロペラ音と共に輸送ヘリがINして、トメ絵になる。そのヘリの上に1カット出来。不二子ととっつあんがいる。トレーラーのまわりに3カット現われ、それぞれマモー集団、シャードックと十完、ルパンと次元、あまったスペースに少しおくれて、マモーキョースケ作業中のカット。五右ェ門とジョドーの決闘カット。止め絵の上に計8カット、それぞれ動いている。と、唐突に、BGである止め絵が二分割され、ストーンマン以下の殺し屋軍団非常警護のオメガ他軍隊、おそろしく、そうぞうしい画面・極めたところで、またトレーラーにT.U. それにつれて　マモー集団、シャードックら、ルパンらの表情あっとなっていく。	BGM　"逆襲と逆転のサンバ"唄　チャーリー・コーセー 1. 褐色の肌の女を抱いたら 燃えるような夢を見せてくれる 根も葉もないうわさ信じこむ 俺は　なんて　正直者 サンバ　サンバ　サンバ　踊り狂って サンバ　サンバ　サンバ　ひきずった夢は サンバ　サンバ　サンバ　ふりまわされて サンバ　サンバ　サンバ　消えちまう BGM　"逆襲と逆転のサンバ"　F.O マモー　ルパン シャードック　ルパン ルパン　マモー
301	マンホールのふたを開けてのぞく、シャードック、十完	十完　はちあわせってのが、計算なんだろうな。
302	歩いてくるルパン、次元	次元　しぶといな、再会！
303	ゆっくりとマモーコネクションのコンボイが迫ってくる。	マモーB　やはり、出てきおった……

…ルパンではしなかったけどさ～
超合金ルパン三世よりいいでしょお？

304.	マモー集団、大型トレーラーの窓から見えるルパンを見ながら薄笑い。マモーA、マモーCらに振り向いて、	B.G.M イリュージョナル ルパン三世 F.I マモーC 策はあるのか。 マモーA 一応ある。が、いざとなったら、力づくだ。
305.	大型トレーラーの中にぎっしりいるギャング。フリンチもいる。	
306.	大型トレーラー四台。小型トレーラーの五十メートル程手前に止まる。T.B.して、これも小型トレーラーに五十メートル程遠く離れたルパン、次元。	S.E ゴゴゴゴ…ギギギギ… ルパン 来た来た。 次元 すげーな…。
307.	マンホールのフタ、三十センチメートル程上げてのぞいているシャードック。十完、まわりこんでその視点から見た大型トレーラーとルパンの対面。	十完 どうするんだ…シャードック。 シャードック ルパンを奴らに殺られたら、私の存在価値がなくなるからな。
308.	大型トレーラーから降りてくるマモー。そしてコネクションのギャングら、百名程。	B.G.M イリュージョナルルパン三世 F.O.
309.	マモーA先頭に、不敵に構える集団。	マモーA 又会ったな、ルパン君。
310.	百名の人垣と大型トレーラーの陰を、こそこそ動いているギャング二名。	(OFF) シーソーゲームの決着は、正々堂々という展開になったようだね。
311.	ルパン、負けずに不敵。次元、その後ろで無人の車によりかかり、煙草をふかして余裕を見せている。	ルパン 悪いが、正々堂々は主義じゃねえ。
312.	先程のギャング二名、ガソリンスタンドの裏手にまわる。	〜
313.	小型トレーラーが見える。	マモーA (OFF) 私はこの馬鹿げた事態をどうにかしたい(↓ON)と言っているのだよ。
314.	マモー、電波塔を指さす。一斉に塔に顔を向けるギャング達。わざとらしい。	
315.	ルパン、チラッと目をそらす。	

カット	内容	台詞
316.	ポケッと塔を見ている十完。シャードックは小型トレーラーを見ている。	シャードック　マモー・コネクションは先手をうってきているぞ、十完!!
317.	ガソリンスタンドのガラスに、ギャングが動く。	
318.	電波塔から見たガソリンスタンド。	
319	電波塔のロンバッハ、原爆を椅子にして、座りこんでいる。	ロンバッハ　まあ、一つの都市をカラッポにできる程の威力は、ある、と。
320.	空はすでに濃紺である。電波塔を背にし、戦っている五右エ門、ジョドー。それに見いっている五、六名の影。電波塔にヘリが近づいて来る。五右エ門、振り向く。ジョドーすかさず打って出る。五右エ門、カで受け、にらみ合う二人。息が荒い。	S.E.（遠く）バラバラバラバラ… 五右エ門　さすがは、暗殺の専門。 ジョドー　昔の事じゃ。
321.	非常線付近。タウンジャック対策本部。	士官A　（OFF）ポイントBシティの外燈がつかない？
322.	稀な大事件に大慌の軍隊、士官ら。神経質に話し合っている。	〃B　特殊部隊が新しく買った永田重工のオメガを動かしたがっていて、電源は総て。
323.	非常線のすぐ内側をうろつくオメガ。	〃A　（OFF）特殊部隊を出したのか。世論は誰が押さえる!!
324.	机をたたく士官A。と、その横にかけ込んでくる伝令兵。	伝令　電波塔に民間のヘリが近づいています。
325.	本部長、立ち上がって怒鳴る。	本部長　何、犯人を刺激するではないか。ひっこませろ。
326.	電波塔の回りを旋回するヘリ。	
327.	ヘリ内部。銭形、外を見ている。不二子の操縦である。不二子、背中にジェットを背負ったままである。	銭形　ロンバッハだ。確かに。 不二子　原爆を手放させ、ロンバッハを拉致する。

カット	内容	セリフ
328.	電波塔のロンバッハ、旋回する輸送ヘリに身構え、点火プラグに手をかける。	ロンバッハ　来おったな。
329.	電波塔に近づくオメガ三機。軽いプロペラ音をたてて迫ってくる。メガフォンを下げている。	オメガからの声　タウンジャック犯人に告げる!! 早まるな。旋回中のヘリは、当局の関知しないものである。旋回中の民間ヘリは、即刻退去せよ。
330.	肩から緊張のとれるロンバッハ。原爆を下に降ろす。が、ヘリからの声に又、身構える。	ロンバッハ　ふーっ…。 銭形の声　(OFF)タウンジャック犯人に告げる!! 君のオ一夫人は泣いておるぞ!!
331.	ヘリの中の不二子、どうしてもやるの?といった顔。銭形うなづく。不二子、マイクに向かう。	不二子の声　(ON↓OFF)あなた…もう正体はバレているのよ。
332.	うろたえるロンバッハ。	
333.	ガソリンスタンド、暗くなり、動きやすくなったギャング二人。	マモー　協力が必要なのだ。
334.	次元、煙草を捨てる。T.B.してルパン。	次元　おかしいぜ。 ルパン　ああ、時间をかせいでいる。
335.	ジョドー、五右エ門、フラッと双方倒れこみ、斬鉄剣は振り払われて地にささり、鉄の爪は折れる。	B.G.M. 斬鉄剣 F.I.～F.O. S.E. 拍手。
336.	回りで見ていた影達、覆面を取って二人を囲む。	影　いやー、お見事、お見事。
337.	ジョドー、五右エ門、肩で息をする。五右エ門、ヨロッと立ち上がり、ジョドーに手をさしのべる。	五右エ門　フー…フー…。お主、まだ、戦う力はある、か…。
338.	ジョドー、手を差し出し、不敵に。	ジョドー　まだ、戦えるが、無益な殺生はせん。
339.	五右エ门、ジョドー、顔を見合わせ、大笑い。	二人　うわははは。
340.	オメガ、怪光線を発する。	S.E. ピカッ。ビーーッ。

逆襲と逆転のサンバ

341	輸送用ヘリをかすめる。	銭形の声　何て事しやがる!!
342	オメガ塔乗員。軍人である。興奮している。	パイロット　今のは威しだ。さっさと失せねえと当てるぞ!
343	ロニバッハ、唖然として見ている。	ロニバッハ　大変ですよ…。
344	ガソリンスタンド。小型トレーラーのライトがつく。途端にエンジン音が響く。	S.E. ガガガガ
345	次元、マグナムを抜き、撃つ。ルパン後方に走る。	次元　ルパン、はめられた!! S.E. ダギューン!!
346	シャードック、十完、マンホールから出る。	シャードック　今だ!!
347	マモー集団、大型トレーラーの一つに乗り込みギャング等に命令を下す。	マモーA　かかれ!! S.E. ゴゴゴゴ…
348	マグナムをものともせず、渋滞の状態の車の群れをかきわけ、次元に向かって来るギャングら。次元、手近の車のボンネットを開けると発射。火を吹く車。	ギャング等　うおーっ! S.E. ズギューン! ブワッ ギャング等　うわーっ!!
349	都市外。二十キロメートル離れた非常線の地点。都市に火の手が上がるのが見える。百地三太夫、起き上がって。	B.G.M. ひきずった懺悔をふりまわして、C.I. 百地三太夫　ルパンめ。何やら始めおったな。
350	非常線のスキをぬって市内に入って行くアントニオ。	アントニオ　じっとしちゃいられねえ…。
351	ルパン、バスを見つけて乗って来る。カッと光るヘッド・ライト。次元、飛び乗って発進。	S.E. クラクション。 ガガガガ…
352	四台の大型トレーラーに前後左右をガードされた小型トレーラー。その屋根は、四方を鉄の壁に囲まれた風になっている。	マモーA　(OFF) このまま、非常線突破だ!! S.E. グオーッ

カット	内容	セリフ・音
	シャードック、そこに上って来る。	
353	次から次に爆発する自動車。トレーラー、スクラム、激走する。遅れて追うルパンらのバス。	S.E. ドガッ、ドガッ、ブワッ、ブワッ、ゴーーッ
354	市内を一望にする高層ビルの屋上。壮絶なカーチェイスが見える。	B.G.M. ひきずった懺悔を振り回して F.O.
355	ライフルを構えているストーンマン。	ストーンマン 奴に勝つまでは、やめねえ。
356	タウンジャック対策本部。机をひっくり返す士官A・士官B。つかみかかって乱闘になる。	士官A えーい、何の騒ぎだ。 S.E. ガラガラガラ 士官B 世界は終わりだ!!
357	オメガのビーム、光る。	
358	カメラ、ブル。操縦不能になる不二子。	S.E. ガーン
359	煙を上げる輸送ヘリ。飛行不可能!!	銭形 (OFF)しょうがねえ、電波塔突っ込め。どうにかする!!
360	銭形、ヘリのドア開けて身を乗り出す。	
361	馬上の五右ェ門、塔を見上げる。	S.E. グオーッ!!
362	乱闘中の対策本部。全員慌てて外に出、塔を見る。市内のあちらこちらに煙が上り、電波塔にヘリがぐんぐん近づくのが見える。	B.G.M. リアル・エクスプロージョン(緊迫) C.I. 本部長 馬鹿な!! 士官B ああ〜っ!!
363	爆走するコンボイ。並びかけるルパンらのバス。	S.E. グオーッ
364	電波塔に突っ込んで行く輸送ヘリ。	S.E. グオーッ
365	電波塔。ロンバッハ、急展開に気が動転している為、原爆をかかえて上へ上へと逃げて行く。煙を上げた輸送ヘリ、ぐんぐん近づく。	ロンバッハ うわーっ! 来るなーっ!! S.E. グオーッ

逆襲と逆転のサンバ

カット	内容	セリフ・音
366	非常線を取り巻く野次馬。驚愕の表情。	野次馬 うわーっ!!ぶつかるぞー!!
367	電波塔に突っ込む輸送ヘリ。ドアを楯にロンバッハの襟首をつかむ銭形。シート・ベルトを命綱にのびきっている。ガラスごしに真険な不二子。目一杯ギヤを下げている。ロンバッハ、抵抗し、原爆を放り投げる。	B.G.M. リアル・エクスプロージョン(緊迫) C.O. S.E. 激しい風の音。 ドガーン、ベキベキベキ… ロンバッハ えーい!!
368	銭形、思わずシート・ベルトをぶち切って、原爆にのびる。	銭形 とどか…ねえ…!
369	銭形とどかず、落ちて行く原爆。と、ジェットで脱出した不二子の手が原爆をつかんだ。	S.E. ヒューッ!! B.G.M. ラヴィン・ユー(ラッキー) C.I.
370	体全体で喜びを表わす士官、野次馬ら。	
371	マモー・キョースケのド・UPからT.B. こちらも喜びである。カメラ、大げさに回りこんで、完成したタイムマシンを引き立てる。	マモー・キョースケ 完成じゃ…。 B.G.M. ラヴィン・ユー(ラッキー) C.O.
372	監視スクリーンに銭形、ロンバッハ、原爆をかかえ、煙の中から脱出する不二子が見える。	本部長 特殊部隊全オメガ、全陸戦隊、総力を上げてタウン・ジャック犯人を捕えよ!!
373	一方、市内、二車線の小道を三台のトレーラーが突っ込んでいる。さらにルパンらのバスが並び、邪魔な建物はぶち壊しながら進む。	S.E. グオーッ グワーン 次元 ひゃっほーっ!!
374	ゆっくり落ちて行く炎上する輸送ヘリ。	S.E. バラバラバラバラ…
375	コンボイの先頭のトレーラーに横から突っ込むヘリ。そのまま横の家屋に突っ込み、転倒。中からギャングがわらわらと逃げ出し、トレーラー、ヘリ、大爆発。	ズガーン!! グオーン!! ドガーン!!

カット	内容	台詞・音
376	黒煙の中から現われる小型トレーラー。その両側に大型トレーラー。続いて、後ろを固めるトレーラーに並びかけて来るルパン、次元のバス。	S.E. ゴー ルパン　正念場だぞー!!
377	その上を不二子のジェットが行く。高度を下げ、OUT.	不二子　ルパン……
378	不二子、手近なビルに銭形と原爆を降ろす。	不二子　じゃ、お願いね。
379	取り残された銭形、原爆をもてあます。	銭形　わっ、こんなモンどうしろって…待て。 (OFF)不二子、待てー!!
380	不二子、気絶したロンバッハをかかえてバスを追う。	
381	都市上空に集結するオメガ。	B.G.M. インディアン・レボリューション
382	照明弾を投下する。	C.I. S.E. ヒューッ ドカッ バキバキバキ…
383	照らし出された"KABUKI"の看板、"白波五人組"。それをぶち破ってコンボイ突っ込んで来る。	
384	ニンマリしたマモー! キョースケ、タイムマシンのボタンを押す。スクリーンに数字が現われ、カチャカチャと変化する。	S.E. ピッポッパ
385	コンボイ進行方向の家屋、二階の窓。重機関銃を備えつけて待つハングマン。	ハングマン　来た…。グヘヘヘ…。
386	運転しているフリンチ、思いきりハンドルを切る。引っくり返るマモーB。	マモーB　(OFF)ぶち当たれ!! フリンチ　うっしゃーっ。
387	左ガードのトレーラー、ルパンらのバスに体当たりをかける。	S.E. ガッツーン グワシャーン
388	待ち伏せるハングマン。と、トレーラーにぶち当てられたバスが窓に突っ込んで来る。ハングマン、引っくり返ってOUT.	ハングマン　ぐえーっ!!

逆襲と逆転のサンバ

カット	内容	台詞・音響
389	馬を飛ばす五右ェ門。混雑したアスファルトを駆ける。	S.E. パカッパカッパカッパカッ
390	隣接の道路にコンボイを見つける五右ェ門。	五右ェ門 やっと、出会ったか。
391	馬をそちらへ向け、駆け去る五右ェ門。	ハイヨーッ
392	大型トレーラー、コンテナ部分の横腹、シャッターがせり上がり、機銃が出て来る。と、発射。	S.E. グイーン ズガガガガ…
393	並進するバスの横腹に無数の風穴があく。	ルパン・次元 あわわわ…。
394	かろうじてよけたルパン、次元。次元、マグナムのカートリッジを入れかえる。と、激震。大型トレーラーがまた当たって来る。ひっくり返る次元。ルパン、ハンドルにしがみつく。	次元 ケタが違うぞ。 S.E. ガシーン ルパン・次元 うわーっ！
395	グーッと傾き、片輪で走るバス。屋根がビルの壁をこする。	S.E. ガガガガ ルパン お〜っと。
396	その光景を見て狂喜するマモー集団。	マモーD やったやった!!
397	電波塔の回りを旋回する無数のオメガ。	S.E. プーン
398	市の領域に入って来る戦車群、兵士。	S.E. ゴゴゴゴ…
399	マモー・キョースケ、ゴクッとツバを飲み込み、スクリーンにつながったマイクに年代を唱えようと姿勢を正す。と、うわっと突っ込んで来るルパンのバス。ルパン、フロントガラスにベチャッと顔をひっつけ、マモー・キョースケと対面。バスの勢いで腰を抜かしたマモー！ ルパンらのバス、ガラガラとバックして出て行く。	B.G.M. インディアン・レボリューション F.O. マモー・キョースケ オホン…。 S.E. ガラガラガラ ルパン わーっ。ぺた。 マモー・キョースケ あわわ…。ルパン・ザ・サード……。
400	マモー・キョースケの言葉に反応して、タイムマ	

カット	内容	台詞・音
	シーンのスクリーン、乱数字カチャカチャそろうと、LUPIN III と並んでいる。	S.E カタカタカタ・ピーン！ B.G.M. ルパン三世サンバ'83・C.I.
401	ルパン、思いきりハンドルを切って大型トレーラーに当たる。少しよろける程度の大型トレーラー。	ルパン てーい!! S.E. ガシーーン
402	次元、窓からヌッと乗り出してタイヤを撃つ。カートリッジをポンポン変えて、続け様に撃つ。	次元 このっ、このっ、このっ。 S.E. ダギュッダギュッ カシャッダギュッ
404	たまらずはじけるトレーラーのタイヤ。	S.E. カン、カラカラン、カラン
405	斬鉄剣を口にくわえ、馬上の五右ェ門。	S.E. パカッパカッパカッ
406	大型トレーラーに並びかけて来る五右ェ門。	ゴーーッ
407	ロンバッハをフリ下げて、ジェットで飛んで来る不二子。ジェットはやっと飛んでいるかんじ。ルパンの運転するバスに降下して行く。	不二子 ルパン!! ロンバッハ ルパン!? やだやだやだー!! 不二子 騒ぐと落とすわよ！
408	小型トレーラーを運転するギャング、必死。	ギャング 両側、大丈夫ですか。
409	左右の大型トレーラー、分集しているマモー集団。	マモーA 非常線突破まで、あと直線三千メートル。
410	フカン。小型トレーラーを中心に大型トレーラーのガード。左にバス。降り立った不二子。右に馬上の五右ェ門。車の渋滞する道を抜け、田園一本道。	兵卒 目標、捕捉!! オーオメガ小隊十四機、ポイントBシティー東北東に向かう一団を、撃破せよ!!
411	オメガ小隊、方向を変え、手前に迫って来る。	
412	火の手の上がる町並を背に、ただただ歩いて来る銭形。爆弾をかかえている。	S.E. 遠く、爆発音。
415	五右ェ門、斬鉄剣、一閃。	五右ェ門 キエイ!!

逆襲と逆転のサンバ

カット	内容	台詞・音響
416	次元、マグナム、一撃。	次元 ハウッ!!
417	アオリ。小型トレーラーの左右の大型トレーラー、ガラッと崩れ、後方に流れて行く。	S.E. ゴトッ ガラ、ガタ。
418	見送るしかないマモー集団、口惜しがる。大型トレーラーそれぞれ、爆発もせずに崩れている。	マモーA キューピッド・ボーガン!! S.E. ガシャ、グシャーン…
419	馬から小型トレーラーにとりつく五右ェ門。	B.G.M. ルパン三世サンバ83. F.O.
420	小型トレーラーにとりついた次元、ルパン。	次元・ルパン あーはっは。ひーっひっひっ…。
421	ジェットで降りて来る不二子。と、あっという表情になるが、後ろから手が伸びて来て口を塞がれる。ロンバッハはトレーラーの屋根に転げる。	不二子 やったわね…。んくっ…ん〜〜っ! ロンバッハ あいたた…。
422	ルパン、次元、五右ェ門、トレーラー後部に回り、しがみついている。後部ドアのロックを巧みに開くルパン。	ルパン よう、五右ェ門。 五右ェ門 また会ったな。
423	麦畑の中の一本道を走る小型トレーラー。	S.E. ゴーーッ
424	後部ドアを開けるルパン。と、急に停まるトレーラー。ルパンら転げ落ちる。	ルパン キューピッドちゃんに、御対面〜!! S.E. ガタッ、キキキキ…
425	アスファルトに転げ落ちたルパン、次元、五右ェ門。	ルパン あら、なんだ、ドテッ!!
426	後部ドアから現われたのはシャードックである。T.B.して、不二子を捕まえ、ロンバッハを捕まえ、かわりにギャング二人を放り出す十完。シャードック、不敵に微笑む。	B.G.M. 99.999パーフェクト(シャードックのテーマ)C.I.〜C.O. シャードック 最後に笑うのは、私とワトソンだったね…。 十完 シャードック、俺もだ。 シャードック そうだな、十完。マイ・パートナー。

絵にも かけない 面白さ

カット	内容	セリフ
427	ホコリを払って立ち上がるルパン、次元、五右エ門。	ルパン　やってくれるぜ…。
428	啞然と立っているマモー・キョースケ。T.B.すると、ルパンやら次元やら五右エ門、不二子、うじゃうじゃとTVに見入っている。	B.G.M. ショッキング・ジョーク C.I.～C.O. 劇I次元　ちーっ、負けちめーやがった。 カリ城ルパン　まあ、見てなさいって。
429	TVの画面、上空から見たトレーラー。 アナウンサーの画像が端に入る。	アナウンサー　ポイントBシティータウンジャック犯人らしい一団を、軍隊の映像が捉えております。 (OFF)原爆を持っているかどうかは、まだわかっておりませんが、現在戦車隊と最新鋭オメガ小隊が総力戦をすべく向かっております。ポイントBシティーは今や無人です。深夜、電力は全て最新鋭オメガ小隊に向けられております。非常線内にはまだ入る事はできません。しかし、事件解決は時間の問題です。(この間、S.E.あり)
430	オメガ小隊、接近して来る。不気味なシルエットが夜空に確認できる。	
431	戦車隊、一本道を一列にずんずん進んで来る。	
432	煙の上る市街地を背に、にらみ合うシャードックとルパン。	
433	TV画面を喰い入るように見つめる、劇Iルパン、旧五右エ門、カリ城次元、パイロット不二子、その他それぞれ六人ぐらいずつ、軍の威様に目を見張っている。 旧五右エ門の肩、わなわなと震え、TVに向かって切りつける。画面、バッと黒くなる。	旧五右エ門　大げさな事を!! きえい!!
434	シャードック、十完に不二子とロニバッハを離させる。不二子、ロニバッハ、ルパンのもとに駆けよる。	シャードック　(OFF)行かずばなるまい。 勝負だ。
435	ルパン、心を決めて。	ルパン　方法は…。
436	麦畑の上空に集まるオメガ。	S.E. ゴーーッ
437	麦を踏みつつ来る戦車隊。	S.E. ゴゴゴゴゴ…
438	一気に燃え上がる麦畑。ルパンら、炎の中に突っ込んで行く。シャードック、追う。	シャードック　(OFF)ない!! S.E. ズガーン
439	一本道をさまざまな方法で来るストーンマン、百地三太夫、アントニオ、ピューマ、etc.…。	S.E. キー…キキキ、バタン、ダダッ フリンチ(旧)　派手だなー。

逆襲と逆転のサンバ

No.	画面	台詞
440	車を乗り捨てると、これも炎の中へ。	ピューマ　大乱戦だ。
441	炎の中をすれ違う戦車。一台の戦車を追うルパン。シャードック飛びついて来る。ルパン投げ飛ばし、戦車のハッチに入る。いち早くそれを発見したオメガが近づく。	B.G.M. 逆襲と逆転のサンバ（インストゥルメンタル）F.I. シャードック　貴様を捕まえるのには組み伏せるしかないんだ。 S.E. キューン、ガガガ…
442	炎の中、オメガに突っ込んで来るフィアット。	カリ城ルパン　それ〜!!
443	激突。オメガ、方向を見失って別の方に。フィアット、ターンしてOUT。次元が駆けて来て後方に、撃つ。	S.E. ガシーン、キキキ…ガガガ… 次元　どこの酔狂か知らねえが、助かる!!
444	立ちはだかるストーンマン。と、次元とストーンマンの間を疾走するアルファロメオ。次元の姿はない。	ストーンマン　レオン・ヒルの借りを返しに来た… 次元!! S.E. グオーン
445	ストーンマンの後方に次元。なぐり倒す。ストーンマンつかみかかってOUT。シャードック、IN。その後をベンツSSK。シャードック、目で追う。が、戦車に阻まれる。その戦車の砲頭回り、ハッチからルパン。	新次元　ここだ!・ストーンマン。 ストーンマン　ふざけやがって。 S.E. ゴゴゴゴゴ… ルパン　シャードック。 S.E. ズドーン
446	超至近距離の戦車の弾をよけるシャードック。	
447	黒煙を夜空に上げる麦畑。オメガの影が見える。	ルパン　（OFF）貴様!!
448	炎をくぐり抜けて出て来る不二子とロンバッハ。トレーラーのもとに近寄る。と、トレーラーの運転席から出て来る旧不二子。	不二子　やってられないのよね。（ロンバッハに）脱出、手伝いなさいよ。タウンジャックの犯人になりたくは…あっ…!
449	旧不二子、美しく微笑んで。	旧不二子　あなた、可愛いわよ…。
450	トレーラーのコンテナに手をかけるオメガ。	S.E. ギギギ…ガガガ…

カット	内容	セリフ
	後ざまに切りつける新五右ェ門。オメガ、ギギッと振り向いて追って来る。と、その又後からオメガの首をたち切る旧五右ェ門。	新五右ェ門　てぃ!! んっ、ひゃっ!! 旧五右ェ門　でーい!!
451	旧五右ェ門、思いっきりカッコつけて去る。新五右ェ門、負けずにやるところが可愛い。	旧五右ェ門　まだまだ甘いな…。 新五右ェ門　そこを好いてくれる人もおってな。
452	戦車二台に追い回されているフィアット。	カリ城ルパン・次元　うわーい!!
453	カリ城ルパンにカリ城次元。次元、サンルーフから例のごとく乗り出して。	カリ城ルパン　どうにかなるか、おい!? 〃次元　おーい、手伝え!!
454	アルファロメオの新次元が鍔を直して狙いをつける。	新次元　帽子は、あえて気にしねえが。
455	ベンツの劇I次元がペルメルをくわえて撃つ。	S.E.　ダギュ、ダギューン!!
456	戦車のキャタピラが飛び、二台激突、大破。	S.E.　バヒュッガシャ、ドガ、ドガーン
457	三人の次元、一斉にポーズ。	三人の次元　やったーい!!
458	オメガを降りて逃げる兵士。オメガ、フラッと揺れて倒れる。アントニオ、トミーガンを撃ちつつ、OUT。	兵士　うわっわーっ! S.E.　ズダーン、ガガガ…
459	シャードック、炎に照らされてゆっくり歩いて来る。	シャードック　俺の追っているルパンは何処だ…。
460	トレーラーの回りを守る五右ェ門。百地三太夫と切り結んでいるが、優勢。三太夫、引き下がる。	五右ェ門　聞けば、師匠だと言うではないか。 百地三太夫　今さら知らぬわ。わっ。
461	戦車から慌てて逃げる兵士。戦車爆発。よろけるオメガ数機。アルファロメオ転倒。新ルパン、ひょいひょい逃げて行く。追うタイガー!。カリ城不二子、IN。十完 ひっくり返る。その上をオメガのビームが	S.E.　ズガーン 新ルパン　やーい、こっちだぜー。 カリ城不二子　わざとらしい。けど、効果あるのよね。

逆襲と逆転のサンバ

	内容	台詞
	走る。激しい戦い！	十完　シャードック!!うわっ……。 S.E.　ビュー
462	汗びっしょりの銭形。息が荒い。	銭形　ハー……ハー……。
463	銭形のトレンチコートの背中、汗がしみている。肩で息をし、一歩一歩進む銭形。非常線付近である。と、銭形の肩を掴む見張りの兵卒。	銭形　着いたか……。 S.E.（兵士近付いて来る。） 兵卒　貴様、非常線内で何を……。
464	銭形、持っていた原爆を兵卒に渡す。	銭形　助かった。ホラよ、預けたぜ。
465	兵卒、憮然と聞き返す。が、答えに慌てて原爆を落としそうになる。	兵卒　何だ、これは。 銭形　原爆だよ。
466	慌てる銭形。が、ホッとして帽子を深く被る。	こら……っと……終わった。
467	オメガ、大挙フィアットを追う。フィアット、Uターンして向かって行く。オメガ、着地して迎える。	B.G.M.　逆襲と逆転のサンバ（インストゥルメンタル）F.O. カリ城ルパン　つっ込むぞ。
468	トレーラーに向かって来る戦車。構える不二子。五右ェ門。と、上空にヘリが。巨大なマイクロフォンを下げて来る。	S.E.　ゴゴゴゴ…… バラバラバラバラ。 ヘリからの声　全軍に告ぐ・原爆は回収された。(OFF)今、戦闘の意義は失われた。オメガ小隊は即刻機を放棄し、全軍撤退せよ。
469	炎はすでに消えている焼け野原。戦車のハッチを開ける兵卒。オメガ数機。その横に歩み寄り、中の兵士戦車に乗り移る。オメガ、ガシャッと崩れる。	S.E.　ガシャ・ガラーン
470	フィアットの前のオメガ、崩れる。フィアットから顔出すルパン、次元。	カリ城ルパン　あっけねえなあ。 S.E.　ガシャ・ガラーン
471	ストーンマンに追いかけられてる新次元。隣はアントニオに追いかけられてる新ルパン。傍でオメガ、倒れている。	新次元　おい、こら、やめようぜ。 新ルパン　しつこいなあ。キライ!!

カット	内容	台詞
472	引き上げて行く戦車隊。	S.E. ゴゴゴゴゴ…
472	トレーラーの回り、ルパン、次元、不二子、五右ェ門、ロニバッハ・と、背景、街に一斉に灯りが点く。	次元　行っちまいやがった。 B.G.M. 百万ドルの微笑 F.I.
473	外燈が点く。照らし出される道々。十完、見上げる。	シャードック　(OFF) 十完。本物のルパンが見つかるまで、私は眠る事にするよ。
474	マモー・キョースケ、部屋の灯りを点ける。タイムマシンがガシャガシャ音をたてて止まる。	S.E. ギシャギシャギシャ、ピーン
475	やけにきれいな夜景を背に、ルパンが六人いる。不二子、フラッと前に出て叫ぶ。六人のルパンが一斉に振り向く。	不二子　ルパン!! 私のルパンは誰なの。
476	カリ城、劇I、新、旧、パイロット、原作、それぞれの次元、五右ェ門がいる。不二子がいる。	旧ルパン　(OFF) 俺達全員がそうさ。 旧不二子　(OFF) だけど、みーんな違うのよね。
477	ストーンマンの追っていた次元が消える。傍の新ルパンも消える。回りを見回すタイガー。誰もいない。	ストーンマン　消えるな。決着とか勝負とかはどうなる!! 新ルパン　(OFF) 昔の事は忘れちまいな。
478	不二子、六人のルパンが消えるのを見ている。そして、振り向くとルパンがいる。	カリ城ルパン　共通項を集めても本物にゃならねえよ。よくある悪女への純愛物語の主人公になっちまう。
479	不二子、ルパンに抱きついていく。次元、遠くを見ている。五右ェ門はスタスタ歩き出す。次元が五右ェ門に声をかける。	不二子　ルパン!! 次元　…んっ、五右ェ門!? 行くのか。
480	五右ェ門、振り向くと笑って、歩いて行く。	五右ェ門　一緒にいる理由が失せた。また作ってくれ。 B.G.M. 百万ドルの微笑 F.O.
481	次元、トレーラーに入って行き、キューピッド・ボーガンの箱を取り出し、ルパンに放る。	次元　キューピッド・ボーガン。こいつが発端か。ほらよ、お目当てだ!!
482	ルパン、受け取ると、不二子に向けて射つゼスチュアをする。光が走る。不二子、受け取って同じく	ルパン　だけっどもよ、矢がねえんだ。 不二子　じゃあ効力無し?

逆襲と逆転のサンバ

No.	内容	台詞
	射つゼスチュア。また光が走る。不二子、ルパンに返す。ルパン、箱にしまい、置く。	ルパン　残念、だよねーえ。
483	ロンバッハ目覚める。不二子がロンバッハをぐるぐる縛っている。不二子、ロンバッハを車へ放り込み、去る。	不二子　そうかも知れないし、そうじゃないかも知れない。あーあ、骨折り損のくたびれ儲けよね。バイバイ。
484	次元とルパンは焼け野原を車へと歩いて行く。うっすらと朝の光が洩れている。	次元　骨折り損、だろうな、やっぱり。 ルパン　くたびれ儲け、だぜ。儲け、アハ!!
485	マモー！キョースケ、タイムマシンを膝にかかえて眺めている。旧五右エ門が中に入る。続けて旧不二子が。	旧五右エ門　疲れる世界になったものだ、まったく。 B.G.M. ルパン三世ワルツ'83 F.I.
486	マモー！キョースケ、じっと眺めている。	
487	旧不二子、タイムマシンから顔を出してウインク。	旧不二子　いらっしゃいよ…。
488	マモー！キョースケ、タイムマシンに入って行く。タイムマシン、七色に光って消える。傍のTV、ニュースが入る。	S.E.　コトッ、バタッ、キュイーン… アナウンサー　ポイントBシティーの皆さん、危機は去りました。非常線は解かれ、軍の協力により街の復旧が開始されております。さて、今回の事態解決にあたっては、この銭形警部の決死の行動が、(F.O.)
489	TV画面、銭形が映っている。アナウンサーの紹介に照れる銭形。続いて、画面では街の復旧の様子を映す。カーチェイスによって壊れた街を修理する人々。	
490	朝日が昇って来る。新鮮なイメージで。ポイントBシティーの復旧作業をフカン。オメガや戦車隊も総動員。	銭形　(OFF)やれやれ、いつもこうだ。野郎、人を祭り上げておいて、本当のいい所は持って行きやがる。
491	マイアミ、青い海。海岸通りをラックタックで来るのは銭形である。 —スタッフ名、スーパーIN—	
492	レントハウスの職員が困った顔をしている。	

Fine.

カット	内容	セリフ
493	銭形、何げなくポケットを探ると、キューピッド・ボーガンの矢が入っている。一諸に新聞の切り抜きがある。	銭形　キューピッド・ボーガンの矢、発見者には六万ドル…。ルパン…フフッ。
494	不二子、胸ポケットから取り出したのは、嗚呼、原爆の点火プラグである。	
495	ロンバッハは特別房内でフテ寝である。どうやら気づかれずに元に戻ったらしい。	
496	点火プラグを指でもて遊ぶ不二子。が、表情が曇る。ちょいと縦に持ち返て指で押すと、プシュッと潰れる。	不二子　ああん…。ルパン…。
497	マモーコネクション博物館。キューピッド・ボーガンが展示されている。マモー集団と十完がいる。	
498	ルパン、ポケットから取り出した紙を拡げると、博物館の見取図である。	次元　んっ、それ、おい！ルパン…。 ルパン　あははは…。
499	ルパンのアジトのベランダ。見取図を拡げて眺めるルパンと次元。ルパン、獲物の写真等を拡げて楽しそうである。次元、写真を取って眺めたりしている。 —スタッフ名スーパー、OUT—	
500	陽光、ルパンと次元の横顔を照らし、光は二人を溶け込ませ、白く光る画面にF.I.N.などと決まる。	B.G.M. ルパン三世ワルツ'83 F.O.

END

1982.4.18
R★MAHUE

Fly Me to The CALIGOSTRO

by 錯魔乱

あの事件ののち、カリオストロ公国は国としての力が崩れICPO、国連の管轄下におかれている。——

カリオストロ
スポークスマンとして
一言もうし上げます

カリオストロはすでに
経済・政治、ともに
復興しており
国としての力も
回復しております。

国連で、国家再建を
証認してください。

しかしだね
世界情勢というものは
そんなにあまいものじゃ
ないんだよ

クラリス

警部さん!!

ICPOの代表として
あなた…いや、
カリオストロを
応援に来ました

今日は
どうしてここに。

アラ…

イャー
ビっ

ありがとう
ございます
ペコ

この御都合主義よ…

クラリス－
決して希望をすてちゃ
いけないよ。
おまえさんの
やさしさは
世界中の人が
理解し、応援
してくれるさ－

おじさまから
の手紙
なんですって

達者でくらせ
クラリス
ルパン
ありがとう
では！
失礼します。
警部さんも
おげんきで。
カッ
カッ

完璧なる駄作だ Sack 82'9 24

ILLUSTRATION ZONE

act,4

Tanahey

LUPIN the 3
Toshio

R★MAHUE

彼女たちに 銃はいらない…？
mutumi
1982 9 1

祝!!ルパン三世 創作集 陽のあたる大通り II 完成!!
JOKER
リンダのつもり
パイカル特大ポスター
欠席
キャサリン
ガニマール
リエ
ボルボ
フリンチ
その他おおぜい
もっとかきたかったですが
資料とスペースがー♡
特別出演
旧ルパン三世出演者御一行
キャラクターの大きさはあまり気にしないで下さい!! ぼくから見ればこれはルパンたちだ! 他から見れば?…… うぅ… それは…。 タカベ.

ルパン三世
1982
9.12 BY:SATO

★END★
Tanahey

SilencE

作　早坂利津子

cut　Lady♡

コートの衿を立て、人混みの中をうつむいて歩く。ふっ……と見上げれば目の前には空一面を覆いつくしたブルーグレーの雲――。今にものしかかってきて押しつぶされてしまいそうで逃げこんだステイション飛び乗ったサブウェイ…。誰も私なんかに気を止める風もなく、そして私も他人を気にすることもなく、ヒールの音が静かに響いてシートの奥腰をかける。サッシに左肘を置いてほおづえを付き、ガラスの向こうにはらしくない顔の私…　ひざに置いたハンドバック、中のブローニングがやたらに重い。

"悔いてはいないの……？"

ガラス越しに問いかけるもう一人の私。

――ああしなければ…　彼が死んでいたわ…

"でも　あなた　あの人を殺したのよ。愛しているんでしょう？　あの人を

――愛してたわ。でも　今は…

"今は？　今は愛してはいないの？　あの人は今でもあなただけを愛していてくれたのに…　彼を愛してるの？

――……愛して…　いるわ………　彼を………

"だから　殺したのね、あの人が邪魔になったから！

――違う！違うわ！　ああ…しなけれ…ば…彼…ルパンが…彼が…！

『惚れたな…　不二子…』

ガラスの中にあの人が見える……

――　ブーン…

『そんな顔をするな。これが運命ってもんかもしれない。』

――　ブーン・　あたし…　あたしは……

『お前は明日の女だ。そのお前に過去の男は似合わないさ……』

――　そんな…　そんな　優しい瞳をしないで………　ブーン！！

Love you, oh you know I really do
When love brings only sorrow
Then it's better say Good-bye

Our love was like a song
A love song without an ending
Why have we stopped singing now
Only the melody plays on

Yes, I'll leave you once again
But this time will be the last time

Our love was like a song
A love song without an ending
Why have we stopped singing now
Only the melody plays on

突然、終点を告げるアナウンスが頭の中に飛び込んできて、ガラスの向こうには、
沈黙が残り――――――

Only the melody

plays on ……

誰が何といおーと、プーン&ネニ子だもん。 '82.12.10 LADY♡

Dear マイ 次元 ♪

あなたなら
　笑って見ててくれるでしょ
　　私が真似して帽子をかぶり
　　　マグナム持って貴方をねらっても・・・・・

わたしには、
　貴方を引き止めるものは何ひとつない
　　どうしても貴方は離れていってしまう
　　　じゃあな！いい男見っけろよ　と
　　　　笑って背中見せて去る

1度マグナムでおどしてみようか？
　私は射てない、涙でねらいが狂ってしまう
　　さみしそーな笑顔を見せて、
　　　私のリップにペルメルの香り残コして
　　　　閉じた目を開ければ、そこに姿はもう見えない

ルパン三世カリオストロの城

花嫁姿の少女

おけげけ おぉお、なんとぶ、クラシカルなサブタイトルだ、ううう、

ピンクのシトロエンがとおりすぎた…… そう思って下さい。思わないとぶちまするぞ

クラスの子がシトロエンがとおりすぎるというよりも
とんでるというかんじだね…
とのたもうた

キキキキ
次元さんはぼくのです 借りたらきちんとかえしましょう 1週間すぎると貸出禁止です
グラドキャニオニャーっ
がっげっ
がしっ
ザザッ
砂ぼこり
かごチェイスえ
がんばれ日本
どどどどど
ありがと
あずきアイス

北の塔
おじさま!!
め
ざ
たたた…
さんの羊♪

ぶんっ
しんさん ありがと
ばむっっ
ピーン
不二子さんの手!
ド~ガッ
ポー
防弾障子!!
不二子の服についているもようはなんでしょう?①迷彩②赤こをこぼした③もとも
たしちお色がただ黒とも

ょっとしてルパンは井戸の中にいるんかなっと考えた方 すばらしく美しいんでしょう.

ネタ提供 真理ちゃんどうも♡♡

上の砲台

ちゃぽん！

やれやれ……ん？

やべ…

さささ

……………

おしもおされぬ名場面

ウィンクの練習しとこう。

ぱちぱち

ぱち ぱちん

ぱちん

ぱち

ぱち

ぱら

わっぱっ

不条理もここまでくると芸術だ。

おしまいよ!!

1982 11/20 須良朱

愛サン ごめんなさい!! ひょっとしてケツですか?!

エメライン
ルパン三世 自作story
HIROMI・SHIGEYASU
ある国の美術館に展示されている
名画の数々…美術館はその国の富豪、しかし裏を
返せば密輸組織であるウィードマークのものであったが
そのうちの2枚の絵が外国の富豪に300万ドルで売り渡
されることになっていった。
値が巨額なため、警察官を動員しての輸送となり、かなりのうわさになっていた。
この絵が欲しいといい出した不二子のたのみに、ルパンはあっさりと承知し、空港の積み込み
直前にうまく盗み出した。
絵の中に、1枚の地図が入っていた…。
「おい、すごいぜルパン…ウィドマークは麻薬の代金として300万ドルを受け取り、このルートによって
麻薬を運び出すつもりだったんだな… しかも警察つきで…」
「えらいものをしょいこんだな…俺達全員消されるぞ…!」
騒ぎの張本人、不二子は、さっさとどこかへ逃げてしまっていた…。
「北がいいか…南がいいか…!いや…」
「とにかく次元、アジトに帰ろうぜ…それから考えよう…」
「ちぇ…のん気に構えやがって…!誰のせいでこんなことに…」
三人共、車に乗り込み、勢いよく飛ばしていったが、銃声が聞こえ始める…
「ついに…いや、早速きたか…」
アクセルを踏む足に力が入りかけた時…女の子が飛び出して来た…。
★あ…余ってゴメンネ…?
あまりにも短くって、下まで文章が続かない!??

「乗せて！お願い、止まってェ…！」…　銃声がやがて止んだ。
「ありがと♡助かっちゃった…いきなり銃声がして、変な男達が飛び出してきたんだもん…驚いちゃったワ…」
「ああ…それはいいけど、あんた、何してたんだ？あんな所で…」
「道に迷っちゃったの。だってこの辺、全然家がないんですもん…」
「そういう意味じゃなくって…」
「ああ、そうね…私、家出娘よ…」
彼女の名はエメライン。ある資産家の娘で、現在は家出をして逃げまわっているのだという。
「それで…、どこで降りるかい？」
「やだ、つれてってよォ…★こんな所で降ろすつもりなの？」
「冗談じゃない！俺達が…その…何で追われてるのか…」
「知ってるわ、新聞に出てたもの、いいじゃない、私そういうの大～好き！これも何かの縁だと思って…お願い！でないとあたしね…んと…結婚…ん！結婚させられちゃうの…」
「婚約者に同情するよ…」
猛反対していた次元と五ヱ門しかしエメラインのペースにはめられ、結局、連れて行くことになる。

逃走をはじめて約1週間目…★
「いつまでこんなこと続けなきゃならないんだァ…？」
「仕方ないだろう！黙って立ってな　すぐに…やってくるんだし…」
「くよくよしないで！さ、まァなんとかするわよ、今までだって何とかなったんでしょう？だったら大丈夫だって！」
「なんて奴だ…、悩みの種のひとつは自分だってまったく…！」
銃声がすれば所かまわずキャーキャーとわめき、抱きつってくれば料理もまるでダメ、まるっきりの"足でまとい"のはずのエメラインだが、ルパン達の話し相手には絶好な子だった。
ルパンや次元、五ヱ門（はじめて五ヱ門の存在がわかった様にして…ふっ…これ…!?）達の知らない平凡な事や、女の子の考え方が三人にとって安らぎともなった…
半面、何か心にひっかかる所もありながら…

騒がしいと思えば、悩みでもあるように淋しそうに外を見つめているときもある。
突然に、およそ普通の女の子では考えられないような質問も問いかける。
三人共それぞれ、何かを知っているような様子だったが、エメラインについての事は、あまり口には出さなかった。
この生活が、充実していると感じるからだったかもしれない…

次元は……
自分の将来を考えたことはないの……？
ん…？
だって…今はこれでいいかもしれないけど
20年、30年後なんて空しいじゃない…
…平凡な人生こそ人間の幸せなり…か
は…
あまり自信ないな…

「ルパン! あんたたちが連れてるあの女の子、誰だか知ってるの…?」
「ん…?」
「あの娘…、ウィドマークの娘よ…!」
不二子からの連絡はこうだった…。
そういえば思いあたることがある…。なぜ男達が彼女に向けては発砲しなかったのか。そして偶然にしては出来すぎた出会い…。考えてみれば、全てつじつまがあう。
「ばれちゃったか…仕方ないな…。私、ルパン達のジルトの全チェックを言いつかってきたの。もちろん地図を取り返すこともだけど…」
走ってゆくエメラインを、ルパン達はなぜか追ってはゆかなかった。

エメライン、一通の封筒をポストへ落とした。あて先は国際警察本部。そして封筒の中には、一枚の地図… 「さよなら…パパ… そしてルパン達…。」

「何だか…気が抜けちまった…
「ああ…」
「俺達は…だまされてたのか…」
「本当にそう思うか…? それに多少は気付いてたんだろう…?」
「なぜだろうな…」
「わかるよ…」

ラジオの音楽放送が突然、ニュースに変わった…。
"昨夜遅く、麻薬密輸組織のボス、ウィドマークとそれに関係した全ての者を逮捕しました…。"

そしてさらに2日後、ウィドマークの娘、エメライン・ウィドマークの交通事故死が報道された ———

Fin

★ふえ〜ん…!? 大体の骨組ストーリーだけをもとにして書いたもんだから、文章、構成がめちゃくちゃですワ…!?
なんつ〜しょ〜もないストーリーだ!?
この分じゃ3Pでまとまったのにナァ…

処刑前夜
by S.J

一日は長い。

そんな思いが次元の胸をフイと、よぎる。

最後から二人目の客が席を立った。　男の思わせぶりな耳打ちに、女のあけすけな嬌声が応ずる。　別れの台詞は鼻にかかって精一杯艶っぽく、ろれつも怪しくくりかえされる約束は、果たすアテもない。　男と女の戯れはドアの閉じた途端に跡切れ、後にはけだるい沈黙のみが残る。　酒場にはお定まりのパターンだ。

次元のいるカウンター端は、どこかうす暗い――例によって、渋いトーンのコンチネンタルにハンブルグ・ソフトのスタイル、ひさしは8・7の1・3といくらか深目である。　頬骨のあたりまでを覆う翳りが、より濃い。　間接照明のせいばかりではない。　ひどくドライな暗さ、NYの夜の暗さ(ダークネス)は身についた習い性なのだが、それだけでもなかった。

グラスを取り上げる。　ロック氷(アイス)がこすれあって、石英質の音をたてる。　飲み干せば、バーボンの魂(スピリット)が喉の奥をひとときき熱くした。

一日は早い。

時計は午前二時を廻っている。

窓に目をやる。　外はガラス越しに、暗闇が窓枠の大きさに切り取られている。　月もなく、星も、ない。　点々と等間隔で妖しく光るオレンジ色の輝きだけが、黒の世界に浮かんでいる。　次元の目にはその闇の意味するものが見えていた。　街はずれにあるこの店から西に人家はない。　手前は目隠しの林、その林をしばらくいったところが突き当たりの崖、その崖の上が例の〝不自由なホテル〟である。　オレンジ色の光は、そこからもれてくる非常灯の光線なのだ。　あんなサービスの悪いとこに、まァ。

次元は視線をはずし、これからの一日(今日はまだ始まったばかりだ)を考えて、すぐにやめた。

そんなこたァ、どうでもいい。

ポケットから煙草(ペルメル)を取り出して、くちびるで一本くわえ出す。

シュッという音、ちょいと鼻をつくニオイがして、さやかな炎をともしたマッチがカウンター越しに差し出された。　きれいに手入れされた指先が軸木を斜めにかざしている。　女は切れ長の目をこころもち細めるようにして次元を見つめた。　オレンジ色の炎がゆっくり軸木をなめていく。

煙草の先がより、マッチが近づく。

短く一息、深く一息。

最初に吐き出された煙が宙に揺らぐのを見届けてから、女は口をすぼめてフ……ッと炎を吹き消した。　たっぷり、わずか煙草2インチ分の沈黙――女の視線は次元から離れない。

「何かついてるかい」

「いいえ」

女はまつげを伏せて、小さくかぶりをふった。　ほっそりしたおとがいから首すじにかけてのラインはちょっとしたものだ。

「ずいぶんとごゆっくりね」

「まァな」

「おめあては誰なのかしら」

カウンターに両肘をついて指をからめあわせ、その上に顔をのせた。　上眼遣いに好奇心とやわらかな媚を含んだ視線を投げる。

「相棒、俺は女嫌いってことになってるんだ」

一瞬キョトンとした女は、次元の口元ににじむ微笑に気づいて、はじけるように笑い出した。　深夜にはふさわしからぬ、明るい笑い声だ。　腕につっぷして笑いをこらえていた女の肩が動きを止めた。　指の間から片方の目で次元を見上げる。

煙草は半分ほどが灰になっていた。

身体を起こす。　のびあがるようにして女は次元に顔をよせ、しばらく見つめたかと思うと、首をかしげてスッと次元の耳元にくちびるを寄せた。

「貴方の素顔がみたいワ……」

ささやき、甘く熱く秘密めかして――次元は顔をめぐらせて女の頬にキスした。　くすぐったそうに肩先がすぼまる。

再び向き直った時、女は次元が自分を見ていないのに気づいた。

「悪いが、先約があるんだ」

遠ざけていた煙草の灰をトレイの上に落とし、次元は指先で火口をもみ消した。　燃え尽きる直前の湿った葉の生の刺激臭がしばし漂って、消える。

女の顔にさす驚きと軽い妬心の入り混じった色、それは見る間に薄れて、咎めるような悪戯っぽい微笑になった。

「そうなの」

「惜しいことをした」

含み笑い。　女はちょっぴり真顔になり、そしてとっておきの笑顔をしてみせた。

「イイ女(ひと)によろしくね」

「…………」

カウンターの上に紙幣を置き、次元は立ち上がった。　帽子に手をやって、ほんの少しかぶり直す。

処刑前夜

フロアを横切ってドアへ向かう。
ドア・ハンドルに手をかける。
ひんやりとした夜気がドア一杯分流れ込むと、次元の姿はもう、なかった。
「フラレたね」
シンクで片付けにかかったバーテンが、言わずもがなを口にする。　まだドアの方を見ていた女は、すばやくふりむいて舌を出し、そっぽを向いてカウンターに頬づえをついた。
「アアッ、あの男っ！」
リストの照会をしていたもう1人のバーテンがすっとんきょうな声をあげた。　もう慣れっこの女は肩をすくめ、そして姿を消したあのおたずね者のことを思った。

おっそろしく単調な読経の声が、破れ本堂から流れてくる。　そここのほつれからこぼれている明かりだけがものの在りかを示す唯一の光であり、善修寺は（それらしく言えば）丑三刻の幽界に現し身（うつしみ）の形骸を晒していた。
好都合だ。
中の様子はわかる。　こちらはといえば――次元のシルエットを闇と見分けることなど誰にもできはしない。
読経が跡切れた。　陰然と鉢の音が響く。
エンはねェ。　ねェ……ハズだが、な。
次元は、らしくない奇妙な高揚感を覚えていた。　ここのところどうにもひっかかっている気分の裏返しである。　その気分――かすかな不安――が、次元にちょっとした刺激（スリル）を求めさせる。　といって、この感情の揺れがミスにつながるほどのものではないのもわかっていた。　次元には次元のルールがある。
中で気配が動く。　緊張が腕の内側をくすぐる。　指先を軽くほぐして（これも習慣だ）、次元は行動に移った。

「ずいぶんと待たせるじゃねェか」
手下といったところの若い者がいらだたしげに声をかける。
「おつとめじゃからのォ」
後ろ手に障子を閉めながら、和尚はこの招かざる客たちを見渡した。　庫裏（くり）には声をかけた男の外に3人の若い者と、彼らをしたがえた顔役、そしてひとりの女がいた。
（ほほう、吉祥天はたまた観世音……）
坊主とて人の子、だが顔役は用件を急いだ。
「和尚、返事を聞かせてもらおうか」
「返事……とな？」
「とぼけるんじゃねェ！」　先程からイラついている男が和尚の胸倉を把んだ。　「例の九石姫刑務所（ムショ）のこったよォ！」
「く、くるし……」
「た、離してやんな」
「チッ」
「ホゥ……」
「なァ、和尚。　別に無理な注文をしてるワケじゃねェ。　あそこにスンナリはいれるのはあんただけだ。　そいつを少しばかり利用させてくれりゃいい」
「報酬は渡してあるんだからな！」
「いつもの御寄進、ありがたく存じておりますぞ」
「この野郎ォ」
「やめねェか！　返事は、和尚？」
「フム……九石姫刑務所をよく御存知ではないと見える。　それにこの街もな。　遠方よりいらしたのでは無理からぬことじゃが……」
「何が言いてェんだ！」
「そうあわてるもんでもなかろうて」
「どうしても……今日じゃなくちゃダメなのよ」
不二子が初めて口を開いた。
「今日か……。　九石姫刑務所の警備は世界でも有数と言われておる。　万一はいり込むことができたとしても、一度騒ぎを起こせば出ることができん」
「どうしてだい？」
「応援が来るからじゃよ」
「どこから？」
「この街の住民の6割が警察官なのじゃ」
一同が息を飲んだ次の瞬間、庫裏の電気が消え、同時に障子が真っ白に光った。
「諸君は完全に包囲されている！　大人しく出てきなさいっ！」　無数の投光器を背に、スピーカーがわめく。　後ろには一般人が、いや私服の警官がひしめいている。
「クッソォ――ッ！」
障子を踏み破って発砲した仁の一撃が、投光

袋のひとつに命中した。
「逮捕開始――っ！」
BOW！　BOW！　ゆるいカーヴを描いて催涙弾が内に飛び込んでくる。猛々たる煙の中で、わめき声と銃声、発火光が交錯した。

「どっこいせ。ヤレヤレ」
「静かにして」
ハゲの後頭部に冷たい金属の感触が押しつけられた。不二子の指がスイッチをいれ、ぼんやりした光がともる。床下には2人しかいない。上の騒ぎがウソのように遠くに聞こえた。
「ごめんなさい。でも用心がいいわねェ」
「さっきのお嬢さんじゃな」ふりかえった和尚は、不二子の手の中の銃に目をとめた。ワルサーP38。
「……ぶっそうなモンをお持ちじゃ」
「これは――アタシのじゃないの」
不二子の表情を暗い影がよぎる。だが、それも一瞬だった。
「本堂の裏手に出たいんだけど、案内して下さる？」
「お仲間はどうなさる？」
「いいのよ」
「……おいでなされ」
見る間に特徴ある排気音が遠ざかっていく。かけつけた数人の警官が発砲したが、もう後の祭りだった。

「御無事でしたか」
「いやいや。犯人を逃してもうて……」
「止むをえません。非常用の脱出口に気づくとはこっちも思いませんでしたからね。御協力、いつもながら感謝いたします」
「なんの、これも仏のお導き。ナンマンダブ……」
捕物が一段落して警官隊が引き上げた後、和尚は本堂に戻った。あたりは再び寺独特の静けさを取りもどしている。
和尚は衣の下からS&Wを出した。ホンモノは天井裏でおねんねしている。あと9時間――処刑前、ルパンとの最後の面会がある。

END

※旧作「脱獄のチャンスは一度」サイド・ストーリィ
全国ルパン三世ファンクラブ
〝LUPIN EMPIRE vol.17〟初出

タイトル・GINGER

ルパン三世

マモーとの対決小事典

by まるべりいKen♡

見出し	解説
ア	
アイゼンハワー	①空母 ②背景 ③動かない ④非現実的だ
アジト	①なぁに、10kmも行きゃアジトがあるさ ②甘い考えを指す 例「そりゃアジトだぜ」
イ	
医師	①クローン担当 ②こいつら不気味だった
石川五右ェ門	①綱渡り芸人 ②カッコイイ! ③コワイ顔をするなぁ、マモー編の五右ェ門…
田舎芝居	①不二子演出・出演 ②才能ないんだな(そう?・)
ウ	
ウォールスーツ	肌に跡がつきますよ、下に何もつけないと…
宇宙空間	①音は聞こえません ②時計の音も聞こえないはずですが
エ	
永遠の若さ	不二子のクローンはどんなだろうか?・誰かイラスト描いて!
F14トムキャット	①パイロットも殺されたんだろうか ②可哀想に
「遠慮なく入ってきたまえ」	遠慮なく入っていったら死ぬじゃないですか!!
オ	
狼	今でもそうのくせに
オリ	①トリカゴだな ②番人のゴーレムがアホだった
カ	
カーチェイス	①マモー編にもある ②巨大トレーラーとの戦い ③重厚なBGM ④迫力ならカリ城に負けない
カキ	①たとえカキの如く身をやつそうとも ②本当にミジメです
核ミサイル	①みんなパァ ②よく核爆発が起こらなかったなぁ
カッコワリィ!	ルパンと次元
カプセル	①人工子宮 ②これも不気味でした
紙	①水にぬれるとCaliba Seaと出る ②ルパンはいつあれを書いたのだ!(不二子じゃないの?・)
神の実験	①クローン ②忍者ハッタリ君ですな(あれはあれでスゴイと思うけど)
カンオケ	①ルパンがドラキュラ姿で入っていた ②落とし穴からの出口→カリ城
キ	
キスシーン	ルパン全編通じて初めて出たんじゃないか?
奇跡	①地震 ②原子力発電所の爆発 ③ヨタだ!
○○○い	①旧ルパンではカットされたがマモーではしっかりTV放映された 例「ヒステリックにわめくな、この○○○い!」 対→ハゲ
救援	①ルパンのために ②不二子のためになった
筋肉硬直剤	①ル、ルパン…情ない ②プレイボーイ気取りがない様だ
ク	
くされ縁	①ルパンと次元 ②ルパンと五右ェ門 ③ルパンと…
薬	①睡眠薬+精力剤?・ ②しかしルパンのあの姿 ③不二子はルパンの×××を見たんだろうね♡
クローン胎児	①マモーは胎児の時からヒネた顔をしている ②TVではカット
ケ	
警視総監	①旧ルパンの人と違う ②旧ルパン23話の責任で免めさせられたんだよ、きっと
ケンカ	①次元vs.五右ェ門 ②コブラツイストではすみそうもないな
賢者の石	①不老不死の妙薬 ②染色体の情報伝達を強化

	項目	内容
	…のイミテーション	③コリン＝ウイルソンの小説とはあまり関係ナイ ルパンが中に盗聴装置を仕掛けた
コ	合金	①レーザーでなきゃ切れねぇ ②何でも真ッ二つのキャッチ・フレーズが…消えた
	ゴードン	①直情型 ②権力指向の大男 ③ゴーモンだ！ゴーモンだ！
	小屋	①誰も罠だと思わない所がすごい ②天の恵みか？ ③五右ェ門ぐらい気づけ！
	コルトG1	発射光に透過光は使ってなかった
サ	サディスト	①フリンチ ②ゴードン ③ルパンも…「くっそ～うらやまし～」
	さわり合い	①ご両人喜んでやっとりました ②マモーの怒りもわかる
	357マグナム	①次元の愛銃 ②3回しか撃たなかった
	斬鉄剣	①お、折れてしまった！ ②それでも役に立つ ③さすが斬鉄剣 ④反射効率100%
シ	自信過剰	①銭形 ②C.I.A NABYが警視庁の要請を聞く訳ないだろ！ アンポじゃあるまいし
	私生児	①不確定性の産物 ②マモーにも見落としはあった ③そのために死んだ ④キビしい世界だ
	次元大介	①トガリ鼻40ではなかった→原作 ②クラッシックな人 ③帽子の下が見たい
	死刑	どうみても公開死刑の13段階
	時限爆弾	手持の武器がなくなったはずのルパンが持っている？
	しゃれ	「あ～ら見てたのマモー、ま、もういや！」
	宿命	どこまでいっても追われる身
	食事	①不二子手製 ②美味いか、まずいか？
	城	①ドラキュラ ②カリオストロ
	人工衛星	①尾行 ②なんと危険な
	侵入者	①次元 ②五右ェ門 ③とっつァんまで
ス	スタッキー	①世界で一番偉ェおっちゃんを操っているオッさん ＝米大統領特別補佐官 ②抜け目のないこと 例「なんてスタッキーな！」
セ	正装	①白のタキシード ②似合わないなあ、つくづく
	赤外線探知機	①さわっちゃったかなァ？ ②あれだけよく仕掛けたもんだ
	セスナ	「またか～」
	銭形警部	①ひたすら狂言廻し ②少しはいい目をみさせてあげてもいいのにねぇ
	潜在意識	①不二子のヌード ②銭形 ③テレパッチ ④虚無
ソ	粗悪品	①警備員 ②元は同じなのに…
	ゾンビ	砂漠での銭形ゾンビが
タ	タイトル	①旧ルパンに最も近い ②嬉しかった
	大仏像	顔のドUPに驚いた
	煙草	①PALL MALL ②次元愛飲 ③300Yen
チ	地の底	①下水道 ②安易だなぁ
	蝶	①タキトスタイコンアヌス ②3回続けて言ってみろ
テ	哲人	あの顔はパターンだね（竹林の七賢人かな？）
	電撃	①マモー ②ラム ③バビル2世 ④マーズ ⑤その他
ト	としこ	①銭形の愛娘 ②奥さんは誰なのだ
ナ	ナポレオン	無言
	2001年宇宙の旅	①あのシーンは、いい！ ②感動
ニ	二人三脚	①ミサイルさえよける ②仲のいいコト
ノ	脳	①宇宙空間を浮遊する ②太陽に向かっていく ③ツァラトゥストラかく語りき…は流れなかった
ハ	ハーレー・ダビッド	不二子はよくあんなデカイのを乗り回せるもんだ。
	ソンFHL-1200	
	爆弾（腕時計）	本当にささやかだった
	ハシゴ登り	ルパン達のはロケットの初速より速い
	パトカー	潰されるために出てきたんですねェ…（死者0）

ラ ユ ミ マ ホ ヘ フ ヒ

バリアー
ハワード・ロックウッド
ハングライダー
反射
尾行者
ヒットラー
フォルクス・ワーゲン
不二子の望み
フリンチ
…の頭
…のクローン
ヘッドフォン
ヘリコプター
ベンツSSK
帽子
PALL MALL(モ)
ボタン
マモー
…との対決
…の本体
峰不二子
夢
ラジオ

ルパン千度目の突進を拒みきれなかった。
世界の富の1/3を支配できるわけないだろ?!
①コウモリ ②スタンダード→旧・新TV
なんでレーザーが一点に集まったかというと…
①ゴードン ②補佐官随行が尾行とは
「ハイル・ヒットラー!!…」
銭形が運転してきた そういえばA級ライセンス持ってんだよね、あの人って→旧TV第1話
「ヨボヨボルパンを見たくない」
①大男 ②ハゲ ③サディスト ④フリンチ
①合金チョッキより硬くない ②ダルマ落とし
①微妙に少しずつ違うんですね、出番によって
②皆力持ち ③しかし皆それだけ
こんなになっちゃった
①つまらぬもの ②何人の人を殺したことか…
不二子は直して使ったかな?
①次元のトレードマーク ②○○隠し?
洋モク(煙草の項参照)
①エレベーター ②ミサイル ③不二子の乳○
①とっちゃん坊や ②魔毛狂介も子孫かなぁ?
全世界をまたにかけること 中国→トランシルバニア→エジプト→フランス→スペイン→カリブ→南米
①一万年も生きるとああなる ②化け物
①すごい格好(シャネルNo.5のみ?)で寝るんだねぇ ②すごいねぞうで寝るんだねぇ ③マモーがどきまぎしないのかな
①女 ②「あの夢というのは現代人の失ったロマンであリまして…云々」(解説・水野某)
①パナソニック ②ルパン三世愛のテーマを流してい

リ ル レ ワ

リモート・コントロール
ルパン音頭
ルパン三世
…のクローン
レーザー
レストラン
別れ
輪をころがす少女

た
小さいもんだ
お〜れ〜はル〜パン〜だ〜ぞ〜!
①芝山キャラ ②単なるスケベ中年 ③やさしさがルパンの身上なのだ
死刑されたところを見ると、才能はオリジナルほどではない
コナン三世でなけりゃよけられない。(コナンがルパン三世の三世?)
①Japanese Restaurant「花子」 ②タクアンさえまともに切れない
①「別れろ切れろは賢者の石に言う言葉」 ②つ、つまらん ③ルパンと次元・五右ェ門
①キリコの絵から抜け出た ②うる星やつらにも登場「どっきり図書館お静かに!」

1983.

闇の中から ヤツが 来る
孤独と栄光を ひっさげて...
地獄の中から ヤツが来る
涙と愛を 背に 受けて...
そんな あんたを
待ち続けるヤツもいる。
このことを 忘れないでくれ...

都会の片隅　裏町ながら
ここは名立たる　白浪荘
何故かは知らぬが
二人と五右ェ門（ひとり）　間にはさんで今日もヌ——

ぼくの五右ェ門

by ぷりんす☆はいね

"るぱんさんせい" Vol.1より再録

ぼくの五右ェ門
春です
一人前に
白浪丼にも
気になる季節がやってきました。
ばい
ぷりんす★はいね
☆ハイネくんのライターは、例の脱色した100円のヤツです。
ひっがないちんち
ぽっかぽっかの
ひざしの中で
ごおろ
ごおろ
にゃんっ
いやー
いい陽気
ですな
西向き窓
でも
けっこう
あったかいもん
だね
西向き窓は
3つの部屋
全部なんだから
自分の部屋で
日向ぼっこは
やっていただきたい
でもね
五右ェ
門
厚くんの部屋
だと桜が
みえないのよね
五右ェ門のとこ
丁度いいながめ
でしょ
カチッ
カチッ
僕んとこ
なんかだと
幹っきゃ
みえないんだぜェ
時々
毛虫なんかも
みえんのよ
ハッキリ
はは…
いかが
ですか?
今夜あたり
花見酒と
いきません
お、
いーね
じゃ
今夜
この部屋で
五右ェ門
勝手に
決めるなっ
今夜は仕事が
ある!

“るぱんさんせい Vol.2”より 再録

ぼくの五右ェ門

なっなんとっ Part 3

ばい♡ぷりんす・はいね

余談です。厚くんは一応 G・F・Cの会長なんだよね 確か…

どべや—!

しからばっ

なっ なんだっ

五右衛門 どあい 好き〜♡

〜〜〜っ 〜〜〜っ

ひっ ひっ ひっ

無理しないで 暑けりゃ暑いで ジンベーでも きてりゃー いーんですよ

おーおー さらしなんざ まいちって

やめてくれ ませんか……

くふっ かゆかゆいわ

あーっ

なんのかんの いって 五右エ門 いっちゃん涼しい とこに いんじゃ ないかー

ずっるー そこもろ 風はいるんだもん ちょっとだけ場所 あけてよー

自分の部屋へ 帰んなさい

●良き哉、白浪荘…さてPart4は？
ねー
五右ェ門ー
…ぐす…
つれない
つれないー
はいはい
厚くんの部屋いかない？親のしおくりでせんぷーきなんつー近代的な
おひとりでどーぞ
…………
どこへいけばせんぷうきとやらがあるって？
いこうか
作戦終了ー
こっ……厚くんのへや…
うん！♡
おしまい♡
コンテが9月の4日でね
ずーっとほったらかしで今日は21日…
“るぱんさんせい Vol.3”より 再録

しかし僕のコマ割りって本当意味がないなぁ。

の・そー

五右ェ門♡

また人の部屋でショーコリもなくたむろして

にゃ

うむ また一段とでかくなったなのら

NOR だってば〜

なんだ そっちはむさくるしい頭して

いかん!!ラがにやけるよ〜

あったとたんに そらないよ 五右ェ門だって……

ブツブツ

あなたが帰るよう願かけてたんですよ 願

がん〜??

はい
そのとおりでございます
おすそわけのオデン
どっどっどっどどどっ
どうしてですか突然――
そうですね強いて言うなら
愛ゆえに……
AiAiAiAi AiAiAiAi
Majime ni SUKI to iitaikeredo
SORE o ittara OSIMAI yo―♪
どんなに納得のいかない話でも地主である管理人さんは強かった
(ここに到って作者は話のはこびの安易さにおどろくのであった)
ウラがあるんだ
きまってるよ
すん すん すん
昨日帰ってきた時の五右ェ門さやさしかったろ
アルバムみてほほえんだりネコとじゃれたり酒につきあったり
きてみりゃごらんのとーりいやしない
せっかく髪きれたのに
ここは五右ェ門の戻る場所なのだ!

"るぱんさんせい Vol.4"より再録

再会

小野里秋　作
JET　画

潮風が吹いてくる。その風に向って立ちながら、黒髪は海を見ていた。

ーあれなら、どうしただろうなー

連中とは、

"当分会いたくない。"

そう言って別れたきりだ。敵は恐ろしく巨大で強大で、心から笑うことを知らない相手だったが……

彼はふと、

"あの男は、自分の存在を司る敵に勝てるだろうな"

と思った。そしてすぐにここにいる自分が気にしても仕様のないことと締めてそこを去ろうとした。しかしそれもできなくて、海を見ている瞳をほんの少し伏せてー

その時。

「五右ェ門」

聞き覚えのある、軽くてちょっぴりヒネた声。かすかにふり向く彼に、

「ほら」

きらきら輝く斬鉄剣のかけらさしだして、

「こいつのおかげで命びろいしたぜ」少し笑って、

「おまえの斬鉄剣がマモーを燃したんだ」

ふり向いた彼の前に、ボロボロのあいつらが映る。

ああ、ひとつのことが終ったという懐しいような切ないような、満足げに情けないような、それでいて、やっぱりにやりとした笑顔浮かべている。

「やったのかーあんた」

思わず聞く彼に、返ってきたウィンク。

「そうな」

言葉がこぼれ、つい口もとに笑みが滲む。

「来るか？」

「いや」かぶりを振って歩き出そうとする。と、

「来いよ」

彼は無言で連中の顔を見た。今までは真っ白だった心に、彼に斬られたヘリが映る。やけつく砂が、波のかなたの島が、折れた剣が、次々に映って消える。

その時の連中の顔が

彼は広がる海に向って立った。潮風の中で彼は欠けた銀色の輝きを海に投げた。

ー帰れー

そして風に逆らうと、瞳にかぶさる髪をかき上げて流し、連中のいる所にいった。

或る日. . .

MIKE

ここは 場末のレストラン兼 酒場
「また ルパンが カジノを襲ったそうだ」
「聞いた 聞いた 50億も やられたんだってな」
声高に話している 男たち
「それがよ トンズラするとき バラまいちまったんだと. . . 」
「ふーっ」
「もったいねェ」
グラスの中の氷が ゆれる
「ルパンとも あろう者がドジを ふんだもんだ」
「まったく. . . 」
一生 かかっても その金の 10分の1 も 手にはできゃしない
「おっと こんなこと いってちゃいられない」
男の一人が 立ちあがる
「そろそろ 集合時間じゃねえか」
「うん? あと 5分は ある ゆっくりしようや」
「いや もう 行った方が いい」
金を 払って 外へ 出る いつ 降りだしたのか 雨が 服を ぬらす
「馬鹿野郎 何を グズグズしてるんだ」
とんでくる 怒声 整列している 同僚たち
「酒は 飲まなかったろうな」
「ハッ コカコーラで あります」
急いで 列に 割りこむ
「ルパンが カリオストロ公国に 入国したという情報が 入った 我々は すぐ その後 を追う」
銭形警部は 部下の 前で 胸をはった

いよっ！アニメ界のタケノコ族！！
‥‥‥またつまらぬ物を着てしまった‥‥‥
竹しょっちゃってまあ‥‥
似あってんじゃねえか‥‥
あまりにリリしいタケノコのうしろ姿
1981
デッサン狂いは大目に見て下さい。なにしろルパンの資料がまるでない！おまけにタケノコ族の資料もなかったため
タケノコ族にまじって盆踊り踊ってる五衛門はボツりました‥‥‥ごめん!!

次元おじさんの独白

作/ちゅん★ 画/菊池一宏

> 生きのこるものはづうづうしく、
> 死にゆくものはその清純さを漂はせ
> 物云ひたげな瞳を床にさまよはすだけで
> 親を離れ、兄弟を離れ、
> 最初から独りであったもののやうに
> 死んでゆく。
>
> 中原中也 詩集より

【夢】

ニューヨーク郊外

震える手で拳銃を握る次元

彼の目に映る幼い少女とその父親

背後から声

アルフ　殺れ！

次元、震える銃口を男の背に向け、引き金を引く

次元　う、ああ！

男の胸を貫通した弾が、抱き上げられた少女の腹部にめり込む

血しぶきを舞わせ、倒れる父娘

顔面蒼白で、全身汗だくの次元めがけ倒れたはずの少女が

腹から血を流し迫ってくる

次元　ううわああ…

逃げようともがくが、体が硬直して動けない。やおら足元に、ポッカリ黒い穴が開き、落ちて行く

【寝室】

ルパン　おい。おい次元、熱でもあるのか

全身汗びっしょり、うなされる次元をゆり起こす

次元　う、ん、うう…

ルパン　おい。どうしたんだ

次元　う…ルパンか

ルパン　随分うなされていたようだけども

目を開けて、ゆっくり起き上がる

次元　ああ…

額の汗を手で拭う

ルパン　夢でも見たのか。やけに苦しそうに唸っていたぜ

次元　ああ。悪かったな、起こしちまって

ルパン、毛布をはぐり、再びベッドに入る

ルパン　気にするなって。それより着替えしろよ。明け方は冷え込むからな。それから、女に迫られる夢なんか見るんじゃないぜ

枕に頭が落ちた途端、いびきをかいて眠るルパン。次元、その寝顔を見て苦笑。

【朝　台所】

次元、朝食の用意をしている。油の焦げる匂いと、トーストの焼ける芳しい香りの中、ルパンが寝ボケ眼をこすりながら起きて来る

ルパン　ふわああ（大あくび）お前さんのおかげでよっく眠れたわ。（テーブルの上を見て）なんだ、また目玉焼きかよ。俺はオムレツの方が好きなんだ

フライパンとフライ返しを手にふり返る次元

次元　オレは、目玉焼きが好きなんだ

ルパン　ルパン横目で次元を見て
そおんなこと言って、本当は作れねぇんだろう

とけしかけるが、のってこない次元

次元　喰いたけりゃ自分で作れ

食卓に朝食を並べる

ルパン　冷めてやんの

つまらなそうに席につくルパン

次元　今、焼いたばかりじゃねぇな

コーヒーをつぐ

ルパン　お前のことだよ。夕べの影響有るかあ？

次元、黙ったまま席につく
静かに朝食をとる二人……少し遅い朝食

【次元の独自】

食後の一服・煙が天井に向かって扇状に広がる

次元　聞きてぇな

煙をドーナッツ状に吐き出し、ホケーッと聞き返す

ルパン　何を？

二本目の煙草に火をつけ

次元　夢の話さ。夕べの……

ルパン　話したけりゃ話せば？

と興味なさそうに答える

次元　お前が聞きたくねぇんなら話さん

煙を胸深く吸い込み、長イスに寝てしまう次元。その目深にかぶった帽子を覗き込み

ルパン　この朴念仁が、誰も聞きたくないとは言ってねえぞ。聞いてやるなら、さあ話せ

次元　なんだ。がキじゃあるまいし。素直じゃねえな

ルパン　どっちがだい

次元　次元、起き上がって二本目の煙草に手を出す
もう、二十五年程昔のことだ。俺が殺し屋として初めて仕事をした時のことさ。殺し屋に師匠ってのもおかしいが、俺に殺し屋としてのノウハウを一から叩き込んで仕上げてくれたアルフレッド・バウマンって名の少しは売れたガンマンがいた。奴にはたいそう世話になったな……

その頃を思い出したように、煙草の赤い火を見つめ、しばし黙る次元

秋の陽は低く、時は正午に近いが、南東の窓をかすめ彼の足元に這いつくばっている。再び口を開く次元

次元　アルフが俺のために仕事をとってきてくれた。文字通り俺にとって初仕事だ。人を殺る。それを職業にして喰って行こう、そう覚悟を決めていたものの、兎や鷲を撃つのとは格が違うもんな……正直言って怖かったよ

【回想】

ニューヨーク郊外の住宅地の一角に広い庭の割に小さな家が建っている。ポプラとスズカケの樹木に囲まれた庭で、5歳くらいの少女とその父親らしき男。その男が的らしい
林の中から、父娘の様子を窺うアルフレッドと次元。アルフ、次元にコルト・ピースメーカーを手渡し

アルフ　あの男が的(ターゲット)だ。奴を殺りゃ、お前も殺し屋の仲間だ。お前の腕ならすぐに独りで喰ってゆける様になるさ

アルフ　この拳銃は、お前が一人前になる、俺からの祝いだ。殺し屋がピースメーカーとは皮肉だがな

拳銃を受け取る次元の手は震えている

アルフ　弾は一発しか入ってない。失敗を許さねえ世界だ
次元　わ、わかっている
震える銃口を、男の背に向ける
アルフ　狙いを定めて。落ちつけ。奴はお前にとっちゃ鬼だ
尚、震える若き青年。彼にはまだ剃り跡が残る程、濃い髭は生えていない
アルフ　殺れ!
楽しそうな笑い声は一瞬にして銃声と共に消えて行き、血しぶきはまるで真紅のバラの花びらの様に舞う
父親に抱かれた少女は、父親の胸を貫いた弾をその、小さな体で受けとめてしまっていた

【居間にて】

次元　あの血しぶきを見た時は、金縛りにあったみてえに体がカチカチになっちまって、我に帰ってもハジキを握っていた。指が硬直していて、どうにもハジキを離しちゃくれない。それで力まかせに、手を壁にぶつけて、血だらけになった自分の手を見て気絶しちまった
おもむろに口を開く
ルパン　その女の子、死んだのか
背もたれに寄っかかり、手を頭の後ろで組み、煙草の煙を追うように天井を見つめ
次元　あの小さな体に弾がめり込んだんだ。助かりはしなかったろう。あの頃の俺にとってはショックだったぜ。あれからしばらく同じ夢を見たな。腹から血を流してあの子が、俺めがけて駆けて来る。それがな、楽しそうに笑ってやがる。俺は、臆病なことに、体も足も竦んじまって身動き出来ない。どうしてだか怖ろしくてな。

次元　二十五年も前の夢だ。ガキの頃のな……。
時は正午を過ぎている。秋の陽は低く窓の桟にはまだ陽が当っている
なんで今頃、あんな夢を見たのかな。
四本目の煙草に手を出す彼の手は、心もち皺が増えたんじゃないかと、彼自身認めているような……。

END

狼はかつて羊だった
生まれながらの狼もいるが
彼は生まれた時、羊だったのだ
羊は臆病だが
臆病故に、自分の身を守るため
化身した
狼の皮を覆ったのである
牧草しか喰えなかった羊は
いつしか、肉の味を覚え
血の匂いを嗅ぎわけた
しかし、彼には牙がない

——牙がない——

——牙がない——

きみこ.

不変の輝きの宝石
変わるのは人の心
薫る香水が
いつか 消えるように
ひとときの甘い夢は
続かない
一人で生きていけると
思ってもいるのだけれど
やっぱり 誰かに
居て欲しい
そんなことを思う時もある
とりあえずは私も
「女」だから…
FLASH LADY
BY・盾乃誠

なごり雪ね…
ルパン あたし降りるわ その仕事
めずらしいな不二子 お前さんが、えな大物目の前にして降りるなんて
ほぉんと！
あたし 結婚するかも しれないわ
あー・さあては不二子ちゃん 他にお目当てが あるんでしょ
似なくて死にたい
ぬけがけしちゃう つもりかなっ
…ルパン

どこの国か知らんpb
不二子？
はっ…
パタン
どうしました？ほんやりして
あ、いいえ何でもないわヘオリ！
そう？
また僕といるのがつまらないのかと思った
いやね そんなこと あるわけないじゃない

このコマの不二子ちゃんは千葉志生ちゃんのお手つき♡

家柄もいいし顔もいいわ
財閥の若社長ですもの
いい人だわ誠実で
あたしを愛してくれる

それに…

みちゃいられないね全く
しっかりしろよルパン！あの女が結婚なんかするもんか
どーせ何か裏があるに決ってる
いいや
案外不二子本気かもしれないな
あいつも女だもんなあ…
俺たちと同じようにはいかないのかもな
わがままでぜいたくで勝手で
お前らにすりゃどうしようもない女だろうけどさ

おれにすれば可愛い女だったぜ
いつだって何度裏切られようと
どこかで安心していた
あまりにも他の女と違うあいつだったから
決してつかまらない女だったからこそ…
だけど…
俺は不二子と結婚なんて考えない男だからな…
ルパン、今度の仕事は見送るか？
そうだな お前がそれじゃあな
いや…やろうぜ
不二子にせんべつがやりたいっ

RRR…
はい…ルパン!?
2日後にやる仕事
500個のダイヤ全部結婚祝いだ
ルパン…
兄じ式には呼ばないでくれよ
花嫁ひっさらっちまうかんね
よかったな…不二子
いい男じゃないか
ヘイリーと会ったの?
いや…
ちょいとかくれ見ただけよ
フラれた男の未練だな

俺達 出会ってから けっこう経つよな
色々とヤバイこと あったけど…
楽しかったよ
ルパン…!
幸せにな 不二子
悪いクセ 直せよ
ガチャ…
ツー…ツー…
RESTRANT BURM
え?
図に私は遠近法を捨てました

……ごめんなさい
あたし この店の壁に
日を刻むことは
出来ないわ……

不二子！
何故だ!!
ごめんなさい
ハイリー
不二子!!
今気付いたけど、このキャラ 喫の「レ」の1号のJETさんのオリキャラに似てる!!

不二子・・・

ハイリー
あなたを
嫌いなわけじゃ
ないわ
初めて
結婚を考えた
男性だった

でも…
区切りが
つかないのよ

…他に好きな男が居るんだねっ
ヘイリー！
はっ
連れていけ！

クネイラ財団が
賄賂として 取り引き
相手にダイヤを渡すのが
今晩9時15分前

そのダイヤの入った金庫を
相手が自分の家の
電子大金庫にしまい
ロックされるのが9:00ジャスト

それから明朝7:00までは
決っして開かない

俺達に許される
チャンスは その間15分だ

その取り引き
相手ってのは？

それは前の車に
つけた探置機が
教えてくれるさ

ま、別に
関係ないけどね

いえてるな

ん…
あ…？
あいたっ☆
ガン
なにっ？ここ まっくら…
お目覚めかい？不二子
イリー!?
何に閉じこめたの!?
開けて！開けてちょうだい 出して!!
イリー!?
だめだ
ククッ…愛しているよ 不二子

君はそこで息が止まるまで僕の名を呼び続けるんだ
僕の贈った指輪をして僕の花嫁になる為にね
大丈夫さ ウェディングドレスは後から着せてあげるよ
イリーー!! あなた 気が狂ってるわ!!
なんとでも・ さわぐと余計酸素が減るよ
そんなに長くかからない
それまでは好きな男のことでも考えておいでよ
その後は僕のことしか考えられないんだから

…結婚しようなんて
考えたのが
間違いだったのよね

やさしかったひと
ヘイリー あなたを
変えたのは あたしかしら

あなたがあたしに言う
「愛しているよ」は
あまりにも軽かったけど
でもずっと
ここちよかったわ
ルパン
いつまでも
いつまでも…
そうねゲーム
みたいな恋が
いいわね…
ギ…
LUPIN
キリ…
LUP
キリ…
L
コツン…
ばかみたい…
こんなことで死ぬなんて
あなたのおサルさんに
似た顔
もう一度みたかったわ
ね…ルパン

カチ…
カチ…
いいか？、
開けるぞ

ああ 本当に
お迎えかしら
幻聴が聞こえる
さっきからガタガタ
ゆれているし…

O・K
開くぞ!!

ふふ… ふ
ふじこお!?
ルパ…ン?

ど・どーなってんだっ
俺たちはクネイラ財団のダイヤの入ってる金庫を丸ごと とってきて
そーいや似たような金庫がもう一つあったような
あ・お主も気付いたっ？
それで…
ルパン…
それで
わけがわからんが
ふぅ
ルパ…！
…よかった…！

……つまり
不二子の相手が
クネイラの取り引き相手
だったということ…か
しかし
偶然とはいえ
運の悪い…
ルパンのほれた
女だからさ
2つの金庫の中を
調べるとてもなかった
からなぁ
結局ダイヤはパァか★
—FLASU LADY 春に咲け—
飲むか？
つきあえよ
いいな
カチ…
ううん 春にしか咲けないなんて
くやしい
そうね
ゲームのような
恋がいいわね
ダイヤ500個
……また取りに
いくか★な
ねえ？
ルパン…
FIN
BY. MAKOTO.T. 1983.3.6

ルパンのつぶやき

by Mike.

心に受けた傷は
なるべく　見ないようにしている
それが ひどい傷なら
見ただけで　絶望しちまう
直るか　どうかってね

心の傷から　目をそらし
自分で 自分を偽っていれば
いつか　時がいやしてくれるさ
なぜ　傷をうけたかさえ
忘れさせてくれるはず
そうすれば　また
心に傷を残すことを
恐れなくなるだろうよ
傷だらけの　心を持ちながらな……

いつか
俺が死んで 地獄に行けば
エンマさんが
俺の心の傷も　俺の犯した罪も
あらいざらい教えてくれるさ
それまでは　忘れるとしようぜ
そうでなきゃ
生きるのがあまりにも　つらすぎる

海とダイヤモンド

作；RASHA

画；まや かおる

「ねえーん、ルパン」
いつものように、不二子のねだり声が、ルパンたちのアジトに響く。あきれかえった様子で、成りゆきを見守っている次元に五右ェ門。
「……ンフフ、わかってるよ、不二子――で、今回の獲物はなんだ？」
不二子の目がキラリと光る
「さすが、ルパンね」
今までとうって変わった不二子の態度、仕事の話となるときりりとしている。ルパンの前に新聞をつきだすと、説明をはじめた。
「一昨日のパーティで、はじめて目にしたわ。もちろん、この、ミセス・ジャネット・フレダーリクスのダイヤ披露パーティでね。あんなのって今まで見たことないわ！ あの輝き、あの奥深い……」
「……で、そのお宝はどこにあるわけだい？」
「……ん、何でも、ミセス・フレダーリクスの寝室の隣りの部屋という話よ。彼女、あの警備装置を自慢してたわ。『ハブとレーザー光線でできてる』って……」
「何だい、その『ハブとレーザー光線』ってのは？」と次元
「まわりが円形に3センチ間隔に上下のレーザー光線が通ってるの、つまり、円筒のレーザー光線ってとこね。そして、さらに、ダイヤの入ったガラスのケースは二重になっていて、それに触れると警報が鳴る仕掛けになってるわ。ハブっていうのは、そのケースの中に、ダイヤと一緒に入ってるわ。ついでに、ダイヤの直径は6センチ」
「……なるほどね、ずい分、手の混んだ仕掛けじゃねーの」
「私の調べはここまでよ。ミセス・フレダーリクスは他にも何か装置を仕掛けてあるらしいけど……」
「なにィ!? その他にもか？」
「よくよく用心深いヤツだぜ」

1

「ケントーを祈ってるわ。ルパン。じゃねー」
ドアを閉めながら、「あ、そうそう、そのダイヤ、ミセス・フレダーリクスが手に入れる前は、なぜか海の底に眠ってたんですって！　ちょっと、ロマンチックな話ね。」
パタン。
戸のしまる音がして、不二子の足音が遠ざかってゆく。
しばしの沈黙――
「ルパン、ほんとにやるのか？」
「もちのろんよ～　敵は手ごわいほどいいってね……」
「――っていうよりも女のためじゃねーのか」
「……」

――――

「しかし、妙だ……」
「何が妙なんだ？　五右ェ門」
「まさか、また斬鉄剣が曇ってる――とか言い出すんじゃねーだろうなあ」
「いや、そうではない」
「じゃあ一体、何が妙なんだ？」
「わからん……　しかし、ルパン、あのダイヤは妙な予感がする。」

②

「次元、お前はここで見張っててくれ」
フレダーリクス邸に入り込んだルパンと次元。
夕方の、フレダーリクス婦人の寝室は、あと数時間後に婦人の来るのを待っているよう……
「しかし、妙に簡単に入り込めたな。　ルパン、気をつけろよ。」
「なァに、今日はもう一つの装置発見のための下見だ、気楽にやってくるよ。」

――――

扉を開けて中へ入った　ルパンのかすかな靴音

ダイヤの目前、レーザー光線を目にしてルパンはつぶやいた。
「なるほどね、一見何もないが、ほんとにすごいレーザーだ。」
その時突然の警報!!
「気付かれたか!?――しかし、なぜ？」
「次元！　逃げるぞ！」

「……」
「ルパン、こいつは何か、とてつもない装置が仕掛けてあるんじゃねぇか。
お前があの部屋に居る間、何の変化もなかったぜ、警報が鳴りだすまではな。」
「……おれだって、あのダイヤの前に立っただけだぜ、ケースには触れてなかった。」
「……んっ」
「どうした、ルパン、何かわかったか」
「……音だ」
「あの警報器は音に反応したんだ。」
「音だって!?」
「ああ、俺があの部屋に入ったとき、足音をひそめて入った。そして、ダイヤの前まできたとき、ひとり言を言ったんだ。警報器は、ダイヤの近くのマイクに反応して鳴った。あれが、マイクとはね……あのレーザーの下の台についていた取手みたいなのがね……」
「どーやって盗むんだ？　ルパン」
「俺にまかせておけよ」

翌日、ルパンと次元は再びフレダーリクス邸へ。
「いざ！」
数分後、ダイヤを盗み出し、その帰途
「なるほどね、マイクの感度をさげちまって、その間に盗みだすとはね。」
「レーザーは上下にしか通ってないなら下か上から盗みだせばいいって寸法さ

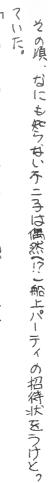
「…ハブなんてのは、ダイヤに興味ないって顔してるしな、ケースの警報は、電源をきっちまえば全く使いもんにならねえしな。」
「今頃は、ダイヤをハブにのみこまれたとでも思ってんじゃねーの？」
「ワハハハ……」

③

「ルパン、やったわね!!」
「不二子、これを盗むには苦労したんだぞ、なんせ、ハブと戦っちゃったんだから～。」
「すてきよ！ルパン、ねえ、早くちょうだいよ！」
「ただでやるわけにはいかねーなー」
「…ん、わかってるから、ね、先にこれのんでみて！スタミナジュース」
ゴクン…
「なんだー これは…」
「…ごめんなさい。ルパン… ダイヤはもらっていくわ。しばらくねむっててね……」

一方、フレダーリクス家では、ダイヤが盗まれたのがわかり大騒ぎ。婦人はなんとしても、とり返したがっている。
「あのダイヤが、私以外の手の中にあるなんて！許せないわ。あのダイヤが、ここまで私を裕福にしたというのに!!あれがなければ私は貧乏人にもどってしまうかもしれない！なんとしても取りもどさねば!!」
この婦人、三年前は、ただの商人の娘であった。それも貧乏な…
そしてその頃の彼女は、嫌われ者であったのだが、ある日、父の命令で海にもぐり、商用の真珠をさがしていたとき、光るものをみつけ、それから何らかの魔法のように地位をあげ、富を身につけていったという過去をもっている。
言うまでもなく、その光るものがかのダイヤモンドであったのである。

④

「おい、ルパン何してるんだ？」
「ちょっと調べものしてるのさ」
「仕事の話もねーのに、お前が調べものとはね、一体どーしたんだ？」
「……」
しばらくして、
「あった!!」
「ん？」
「あのダイヤ、どっかで見覚えがあったと思ったんだ。こいつがそうだ、まちがいない!! 次元、みてくれ。」
「新聞か、ずい分前のヤツじゃねえか、あれだけのダイヤとなると、そうそう同じのなんてないだろうからな…ん、こいつは…！」
「…」
「思い出した！もう16年も前のことだ。原因不明で船から海底へ落ちてしまった婦人がいた。その時、婦人は浮びあがったが、こいつは婦人の胸からおち、その海底をさがしてもみつからなかった。婦人が船から落ちるのを偶然見てた人の話によると、自殺というようでもなく、何かにおびえ、問答してるようにして、そのまま……ってことだ。」
「『そのとき何が婦人に起こっていたか、今だ解明されていない』か」
「ああ、この婦人と今度の婦人には共通点がある。」
「共通点？」
「どちらも貧しい生まれの女で、どちらも個人の手によって金持ちになっていることだ…そして、死亡した婦人は金持ちになってから、ダイヤモンドのためのパーティを開き一週間後に死亡している。そして、今度の婦人がパーティを開いたのは六日前だ……」
「…とすると、明日が婦人に何ごとか起こる予定日。というわけだ。」
「…ああ。しかし、今、ダイヤは不二子が持っている。」
「…ということは…!!」

「不二子があぶない!!」

5

その頃、なにも知らない不二子は偶然(?!)に船上パーティの招待状をうけとっていた。
「まあ、フレダーリクス婦人からだわ。『ダイヤ披露パーティ』?ダイヤを失くして気でも狂ったのかしら……ウフフ」

フレダーリクス婦人のパーティ会場
婦人は、前回のパーティのときに集めた人々全てをこのパーティに呼んだ。あのダイヤの輝きを盗むものはこの中にいる。とにらんだからである。ルパンたちもまた、会場に来ていた。
「ほんとうに不二子は、このパーティに来るのか?ルパン」
「来るさ、それも例のダイヤをもって、ね」
「しかし、時間がないぞ。やっぱり、パーティに来る前につかまえて、ダイヤをとり返した方がいいんじゃないかな、ここへ来るまでの道で……ってこともあり得る。」
「いや、婦人の披露パーティは、8時からだった。そして今回は少し早めだ。オレのカンでは、事故がおこるのは晩の9時。それまでにとり返せばいいのさ。あのダイヤの呪いは、時間を乱さないんだ。まるで、あいつ自身が時計ででもあるかのように、な」
「……わかった、そういうことか」
「……」
——!! 不二子が来た。行動開始だ。次元、車の用意を頼む!」
「O・K!」

「レディ、ようこそおいでになりました。お待ちしておりましたよ。私、ついこの間の国パーティにて、貴方の姿を拝見して、あなたをおさそいしようと考えておりました者です。今回のパーティでは、招待客は一人ともれずに同じ人たちだということでしたから、おいでになると思っておりました」
「まあ、あなたのような素敵な方のお目にとまるなんて私、光栄ですわ。でも、今日はミセス・フレダーリックスのパーティですし、ご遠慮いたしますわ」
「まあ、そうおっしゃらずに。私はそのパーティのミセスのダイヤよりも素敵な、お美しいあなたのためにあるような、私の秘密のコレクションであるダイヤを、お見せしようとしているのですから。婦人はもう、あれ以上のダイヤは持ってはいませんよ。それに、二度目のパーティですからね……これは」
「へ婦人のものよりステキなダイヤですって！……まあ、それ程おっしゃるのなら、参りますわ」
パーティ会場を出てゆく紳士に変装したルパンと不二子。
（さあ、これならば問題だ……の時まであと30分!!）
その時突然、婦人の声
「お待ちなさいな。ミス・不二子」
「……！！（しまった!!）」
婦人は、婦人の側近の目利きの男の通報により、不二子がダイヤを所持していることを知ったのである。
「逃げましょう！」
紳士のルパンはそう言うが早いか、車で走り出した。
「…奴等、追ってくるぞ！」
「…あなた、何者なの!?」
「ミス・不二子、そのダイヤを投げるんだ!!」
「え!?」
「はやく!!」
「いやよ、これは私のもの……!!」
グァーーーン!!
その瞬間、フレダーリックスの車が発砲し、不二子の手から不意にダイヤがおちた。
「あ〜ん、ダイヤが……」
その時に、ダイヤがおちたところを駆けたミセス・フレダーリックスの車は[illegible]まった。
「おお、私のダイヤ！」
「奥様、奴等逃げますぜ」
「ほう、っておきなさい。ダイヤさえもどればよいのです。帰りましょう」
「ルパン」
「え？ 何？」
「9時だ」
「なんとか間にあったな」
「不二子は？」
「ねむらせた」
「ここから、ミセス・フレダーリックスの車が見える。爆発したぜ」
「そうか、ダイヤさそわれたままなんだな……」

⑥

翌朝・爆発の跡地のガケの上に立つルパン。原因不明の爆発した車は、そのまま海におちてしまった。
「ルパ〜ン、ダイヤおとしちゃったわ。あの変な紳士のせいよ、この辺におちてないのかしら……ステキなダイヤだったのに。まあ、いいわ、変な紳士つかまえたら、も、すごいダイヤさせて入れさせるわ」
「……フフフ……そんなものあるはずねーよ。あの紳士はこのオレだからな」
「――――!!」
「それに……あいつは結局、海に眠っていたんだから……」

END

ILLUSTRATION ZONE

act, 5

Lupin in Wonder Land!!
木星がない!!
土
火
太陽
ふい描んでみました!! タナベー

Mutumi
1982・7・20

……
by FIAT☆

KAORU. Thank you!

Lady

1982.11.28
あっし
ルパン初挑戦!…ぜんぜん似てないよ

★END★

銭形警部のとある1日（いちにち♡）

う〜

by 浪花愛

スリだああっ
やーどーも
こんなもん 丁寧に扱ってらんないよ～
皆様の警察
POLICE
おじさん 正義の味方？
そうともっ
はりっ
じゃ やっつけてよ ありス
ぼくの おやじ
なんにも仕事 しないんだ 母さん いじめて ばっかりでさ
ねえ やっつけてよ
しっ しかしだね 俺は ルパンを――
―― と
その お父さん どこに いるの？
あの中
今 おじさんが いれた

まちがいだっただとぉ
てめーこのーかわりにブチ込んだっかっ
だから謝っとるだろうがっ
政治が悪いんだよっ
人のせいにするのはだなー
うるせえなっ
てめえにわかるかよっ
なんだとぉ？
きさま
やっちゃえやっちゃえっ
ダーッ
やっちゃえやっちゃえ

…今の俺に
できるのは
これくらいだ
子供を
泣かすなっ
カラ
うっく
ヒュー
せめて
水でも…
ぐ
ぐ
ぐー
どどどどどどど
また
こわれたかね
また？
TAE

ここ… いったいどこの国なんだろ…

陽がくれたじゃないかーっ
ども
さむざむっ
くすん
ルパンめ
みんなあやつのせーなんじゃ
待っとれっ
え
まわり道
どど
がけくずれっ
このむこうにルパンが
うーっ
なんとかなりませんか？
そんなこといってもねー
今日中に手術しなけりゃいけないんです
せめて車が一台通れるよう…

むりだと思ーー
ゴロ
ゴロッ

ルパンめっ
う〜〜っ

やるか
うんっ

ゴロ
ゴロ
どっこいせっ
まわり道

どんっ

これ以上むりかなー
うん

うー!っ
うー!っ
うーっ
なー
おじさん
すみません
わがままを
言って
ぽっ
ごろっ
おおおおー
道が
あいたどーっ
やった
ルパ!
え
とっつあん
ごろーさん
ブロルルル!
今日もまた
夜はふけてゆく
くっそおおおっ

JET
83.9.17
HARD or MILD
by S·J

1

女の腕がけだるげにシーツの重なりの下から抜け出してくる。夜更けの静まりかえった闇の中で、それはくっきりと見えた。さしのべたのはベッドサイドのインテリア・ラックにだ。その上でじっとうずくまっているオフ・ホワイトのフォン、指先がアームを取り上げる。女は優雅にしか見えない動作でベッドの上で寝返りをうち、空いた方の手でほんの少しうるさそうに髪をかき上げた。

短く細い息をはく。それが今しがたの夢への軽い嫌悪なのか、それともこれからしようとしていることへのためらいなのか、女の瞳にはあいまいな輝きがゆらいでいる。

遠い潮騒のリフレイン……。

単調な待期音が、間断ないだけに耳障りに感じられる。その音をからめとるようにしてアームの中ほどにあるアンティークなデザイン・ダイヤルの上で思案気に揺れていた指が、不意にナンバーをローリングするまでの時間はさして長くなかった。

耳元でRの連音が空白（ブランク）をはさんで10回もコールしただろうか。ルゥン…という相手が出た音と、ディープ・サウンドの洪水は同時だった。強烈なビートに負けじとばかり張り上げた男の声が、その割に軽いトーンで耳に届く。

「アロー、こんな晩にどなたかなァ？」

なじみの口調に、少しばかり柔らぐものを感じてしまうあたり、彼女らしくないと言えないこともなかった。

「私よ」

「ひょ〜〜、不二子ちゃんかァい。驚いたねェ！ 君からラヴ・コールされるなんて、男にでもフラれたのか？」

「ふざけないで」

「はァーーい。で、何か御用でも、お姫さま？」

「……逢いたいの……」

あふれかえるハード・ミュージックの中で、ルパンのちょっとした沈黙がある。それが不二子の次の台詞を誘う。

「来てくれる？」

「……不二子ちゃん、約束は今度じゃなかったよな。悪いけど、今かかりっきりなんだなァこれが」言葉尻にまとわりつくようにして、セッションの一瞬のインターバルにオンナの含み笑いが高くなる。話し声は聞きとれそうもなかったが、そのしなだれかかるニュアンスを不二子は自然に察していた。

「てな訳でね、話はまたそのとき聞きましょう。じゃ、アデュー」

何も言わぬまま不二子が受話器を置いた音を耳にしてから、ルパンは肩口で押さえていたレシーバーをはずした。そう、こんなときルパンは最もものぐさなフェミニストになる。胸元から、身体をあずけているオンナが問いたげといった視線をルパンにからめてくる。答えのかわりに、ルパンはにやつきながらその上へ顔を近づけていった。

2

酒場が生気を薄れさせていく頃、突然のコールに揺さぶられたバーテンが、それでも職業的習慣でおだやかに呼び出しをささやいた相手は、切り上げ時をそれとなく捜している風情のカウンター端にとまった男だった。凝ってみせた照明がかもす薄明かりの下で、帽子のひさしを深くひきおろしたままの男の顔には、より濃い陰影がおちている。放られたコインを器用に受け止めて、バーテンは女の方ですよと、余分につけ加えた。

「ああ……。不二子か？ 何のつもりだ、一体。こんな時間によ」

不二子は手短かに用件だけを言った。そして条件も。それは悪くなかった。

「なるほど？ 詳しいことは……、そう。そうだな、場所はわかるか？ ああ。……あいつはどうするんだ」

『えっ、ルパン？ いいの、あの人は。エエ……いいのヨ。それより、どうなの？』

「どうもはっきりしねェがな。OKだ」

『じゃ、後でね』

午前中の陽の中で、次元はいつもの仏頂面をしてタバコをくわえていた。白々とした光景の一部でありながら、どことなく夜を残しているような――明るいトーンのミニ・スタイルで近づいてきた不二子が、そんな次元の腕にからみつく。時刻はちょうど潮時だった。

「おまたせっ。次元、さっ行きましょ」

「不二子……なんだって俺にしたんだ？ まだ聞かせてもらっちゃいないぜ」

Hard or Mild?

「ウーン、ヤボな人。しばらくはパートナーでしょう?……アナタの腕が借りたいの」

不二子は次元の肩にゆっくりと頭をもたせかけていった。その感触を受け止めながら、次元はふと妙な気がしてわずかに苦笑した。だが、それはひさしの影からこぼれ出すほどではなかった。気づいたか?

「不二子、仕事の内容を聞かせてもらおうか」

女の目が不意に硬い輝きを放つ。どうみても恋人同志のように身体を寄せ合いながら、ふたりはぽつぽつと言葉をかわしては歩き続けた。

3

ささやかな悪徳を欲する紳士諸氏には、それなりの供給体制がどこの街にも用意されているものだ。そのヴァリエーションのひとつ、覆面会員制カジノはかなりの収益を得ていた。今宵もホールには秘密めかしたイカサマに一瞬の快楽を賭ける人々が群れ集っている。

そして、その奥にある事務所では経理兼ガードの男たちが、目の前でザックに詰め込まれていく集計前の札の塊をどうすることもできずにいた。右手をショルダー・スリングで無雑作に構えたように見えて、そのARモデルの銃口は油断なく男たちの動きを牽制している。トリガーと銃把をつつむ手指は、皮手袋をつけてもしなやかだった。手早く2つ目のザックの口紐をしぼる。テーブルの上からはあらかたの札が姿を消している。

「……逃げられやしねェぜ」

半ば呻くようにして男たちの元締格らしい男がつぶやく。

撃たせればコトは外に知れるが、的は自分の生命だ。殺るか、殺られるか……はりつめた緊張感にも増して、男の胸中は煮えくりかえっている。ヘルメット、ゴックルにマフラーと完全に覆われた顔から、視線はレザー・オールの身体へ向く。そのぴったりとしたカーヴラインの描くプロポーションが絶品以外のなにものでもないのが、かえって怒りをあおっていた。

「そいつをどうしようってんだ。まさか背負って逃げる気じゃねェだろうが。エエ」

挑発し続ける男の台詞が聞こえているのか、その女はゆっくりとドアの方へと位置をずらしていく。後手にドアを開ける。男たちの身じろぎを、すかさず銃口が制する。ごくあっさりと女はザックと共にドアの向こうへ姿を消した。

次の瞬間、猛然とドアに殺到した男たちが、廊下に出て見たものは、窓の外へ乗り出していくザックにすぎなかった。その窓の3階下——ダイヴした影は通りがかったバンのフードにジャンプしている。すべてはほんのわずかな間に起こった。

「ウ……ン」

ダミーが飛び降りた窓のちょうど真上、フェンスを越えたザックは屋上のフロアにドサリと音をたてて落ちた。続いて身軽な人影が降り立つ。不二子は携帯ウィンチのロープの先についたフックからザックをはずした。ロープをひとまとめにして持ち、屋上を横切る。その端にARモデルを結びつけて、ビルの裏手にあたる側へ下ろしていくと、下の路地でも影が動いてそれを受け取った。

これで第1段階。

不二子はバックのホルスターからPPKを抜いてカートリッジをチェックした。確かめるまでもなく弾丸が一列に整然と並んでいる。

どうして銃というのはこんなに手応えがあるのかしら。

銃身に光が小さく映えた。

カジノ襲撃の報を受けた大吾は、急ぐリンカンの中で焦燥していた。車内のムードはピリピリと張りつめている。コーナーの曲がり鼻に当のビルが見えた途端、大吾は思わず腰を上げたほどだった。リンカンはビルの正面に横づけるべく、減速していった。その時。

ビルと隣のビルとの間隙ともいうべき暗い路地の向こうに、ふらりと人影がゆれた。反対側、幅50センチの空間をリンカンが通過する一瞬、次元は撃った。

汗が流れている。オーナー・ルームは階段を上がった廊下の突き当たりにあった。応戦に飛び出した部下といれかわりに、大吾はここまでたどりついたのだ。そして、一歩も動けなかった。目前にいるのは、あざやかなカクテル・ドレスの不二子——手の中のPPKの銃口がほんの少しゆれて、大吾を促す。

「お、お前たち、加勢に行ってこい!」

「へっ、ですが——」ドアの向こうから手下の声がする。

「行け！　行くんだっ！」
足音が遠ざかり、部屋は静かになった。

それから1分後、ビルにスッと近づいてきたバギーのシルエットに非常階段から華やかな影が舞った。ザックがリア・シートに放り込まれる。
「OKよ！」
客にまぎれて脱け出た不二子は、指先でドレスの裾をさばきながら言った。アクセルが踏み込まれる。バックミラーに、後続のヘッドランプはなかった。街並が遥か後方の闇にまぎれていく。
「へへッ、それにしても不二子、上手くいったもんだぜ。見直したよ。お前はたいした女だぜ」
「……ありがと、次元」
不二子はふと投げ出されているARモデルの銃口近くに触れた。それは、不二子の指先から熱を奪うほどに冷えきっていた。
頭上の闇を透かして雲が騒いでいる。
雨が近い。

4

インテリアに近いような暖炉でも、とりあえず必要なぬくもりは得ることができる。
降りこめられた形になって、この山荘にかけこんでからしばらくたっていた。
上着を暖炉わきの椅子にかけたまま、次元は焔のあしらいをしてみた。不二子はといえば、びしょ濡れになったドレスから早々とレザー・オールへと着替えて、淡々とザックの札をケースに移しかえている。

殺ったのかとは次元も言わなかったし、済んだとは不二子も言わなかった。薪のはじける音が小さく、かえって静けさをクリアなものにしている。
不二子がさまよっているのはとりとめのない過去だった。仕事（ビジネス）、相棒、組織、そして3年目の標的（ターゲット）……ゲーム・イズ・オーバー。
きっちり2つに分けたケースの留め金を閉じる。決着はついたはずだ。不二子は、そう思い込もうとしていた。
トリベットの上からポットを降ろし、ペーパー・スタイルの簡単なストレイナーを通してカップにコーヒーを注ぐ。
「ハイ」
「……ああ」
自分のカップはテーブルに置いて、不二子は両手にケースを下げてきて次元の前に並べた。いつの間にかくっきりとルージュをひきなおしている口元が、抗いがたく誘うものを発散しつつ動く。
「渡しておくわネ。お好きな方をどうぞ」
「そうだな……」次元はカップで一方を指した。
「確かめないの？」
「要（い）るのか？　このままオサラバといきたいところだが、どれ……」
部屋を横切って、窓を開ける。山荘は岬の先端近くにあった。雨足は遠ざかっていて、先程はまぎれていたものが、潮風にのって闇の向こうから響いてくる。
海鳴りは突然の衝撃となって不二子を襲った。
時が静止する――。
『逃げろ、不二子！　何をしてる?!　早くしろ、逃げるんだ。早く後ろへ飛び込め！』
あの人の声。崖。つんざく銃声。そしてくりかえす荒海のとどろき。
波が砕け散る。
あの人の銃口が火を吹く。
風がなぶる。
落ちていく、落ちて――。
「……！」
「おっ、とと、オ！」
すがりつく格好になったやわらかな肢体にこらえかねて歩をずらした次元は、ケースに足をとられて、そのままソファの上に肩口から倒れ込んだ。
「おい、何だっ……」
不二子はただ顔を埋め、かすかに肩をふるわせている。
どれほどの間そうしていたのか、ほんの数秒のことかもしれない。さっと顔をあげた不二子は、いつもの不二子だった。
「ごめんなさいネ。キライなのよ、波の音って。これでお別れね」
「確かに腕は貸したが……」
感触のいい髪を抱える角度になっていた手に、ぐっと力をいれる。
「あ……ン！」
不二子は首すじをとられ、胸元にひきよせられていた。もがく、その手首をもう一方の腕がつかむ。
「不二子、いいな……」
次元はまわした手で不二子の顔をおさえて自分の方に向かせた。
女の身体から力が抜けていく。

Hard or Mild?

5

レザー・オールのセンター・ファスナーに手がかかる。皮とトワレと、かすかにまじる硝煙のにおい——白い素肌。不二子はそこからを、その手に指先を重ね合わすことで制した。ゆっくりと両腕を次元の首にからめていく。不二子の瞳は挑むように奥深い輝きを放っている。唇はこころもち開き加減に、いっそうあざやかなフレグランスがきらめいていた。

キス・オン・ザ・トゥ・ウェイ……ついばむように。

そして、ディープ・アンド・シヴィアに、センシャル。

肩を抱き寄せる。

柔らかな感触。かぼそい息をはきながら、唇の向きを変える。、ふせたその瞳が、長い睫毛の影にけぶっている。

ビューティフル……。

不二子はゆるやかに身体を起こした。「じゃあネ、次元」

「?!……、お前ェ！」と、次元は派出にソファから転げ落ちていた。あらかた身体の自由が奪われている。

「その口紅、に……何……か……」

「おやすみなさい」

不二子の台詞が最後まで次元に聞こえたかどうかは危しい。次元のイビキを背に、不二子は山荘を後にした。

潮風が不二子の全身をつつむ。それでも不二子はたじろがなかった。不二子は不二子に戻っている。水平線に今日一番新しい光が誕生する。

不二子はほんの少し微笑った——ドライブの約束を思い出したから。

「お、お前ェ、その女とはもう組まねェって……」

次元の言葉をおしのけるように、五右ェ門が言い放つ。

「ルパン！　女は必要かっ！」

「そォ、必要なんだ」

閃光が斜走った。1名落っこち。

ともあれ、メンバーは揃ったわけだ。仕事は明日。

不二子はまだ知らない。過去は不二子を忘れていなかった。

空港に降り立った男の背を異国の風がなぶる。サングラスが男の表情を覆い隠していた。

END

※旧作「殺し屋はブルースを歌う」サイド・ストーリィ

全国ルパン三世ファンクラブ

〃LUPIN EMPIRE vol. 20〃初出

くらりすの王子さま
お星さま おねがいです
はやく くらりすの 王子さまが あらわれて くれますように
とっても かっこよくて それでいて やさしくて
くらりすを まもって くれる ひと♡
キャ
もちろん ハンサムが いいわ♡
ボ、ボクネ、ボクミ…
ほんと一に ただ これっだけの話…
あいさん ごめんなさい

おつきさんの新星と よしみ(オカマ)

てもち ぶたさんだった
五右ェ門さんは
その棒をもって
おさんぽを
続ける事にしました。
わーい
わーい

作者註
スーパー役は
あんまりうるさいので
五右ェ門さんに
斬られてしまいました。
まるでイデオンだがね。

かーっ
つんつく棒だっ
ふ…ふらふら〜
お侍さま
すまないけれど
これ…
ゆずって
くれませんか？
こ…
この棒きれを？
このまがり具合
この枝ぶり
10年に1度
出会えるか
どうか
わからないような
つんつく棒だっ
ただでとは
いわない…
このシークレット9と
交換しよう。
…ナイン？
そう、
どうせ本編では
名前すら
でてきた事のない
品ではあるが
何らかの役には
たつと思います。
まりん
…けどね。
ずーずーしいやっちゃな

本当に
どうも
ありがとう
!!
♪
ひとやすみ
こんな
もん
もらって
しまった
どうしよう…
とりあえず
さんぽの
つづきでも
するか…
しゅばっ
斬っ
ハラ
ハラ
ハラ
完
また おもわず つまらぬものを きってしまった 五右ェ門の くそおもしろくねー話 でした。Hさん 許して。
1981.8.4
プリンス・ハイネ 改め
クラッシャー・ハイネこ
"夢想恋"より再録

おさんぽ ごえちゃん
まきのに
今回は江戸川区の裸好可氘さんのご要望にお答えしていささか暗い話です
BY.プリンス・ハイネ

いいわすれてました
ギャグじゃありません
わーんのと
こーゃーおー
ちゃうーよ
きゃっほらんらんっ♡
ギャグじゃないつもりなんです
(本人は赤面してかきました)
オカマのポニー・テール 気色悪い.
まっくら…
ひょーう
五右ェ門さんがお散歩していました

あれぇ？五右ヱ門の奴どこ行ったんだ？
ちゅぱっ
散歩じゃないのか？
不二子ちゃんは何時にくるのかなぁ♡
どこにかけてんだ
師走 小枯の中
五右ヱ門さんがお散歩しています
ヒュー ッ
あの方に
いつかまたお会いすることできますね
アノカタヲ オッテ ユキタイノデス
きてくれますよね わたしを さらいに
ソンナステキナ プレゼント

ね……
ダメデスカ…？
カーン
また まいります
カーン
カーン
またね お待さま
カーン
カーン
またね
カーン
あのむすめは
待つ少女
彼女がルパンを追う時
彼女はもはやクラリスではない

夕ぐれをつげる鐘
よいこはおうちへ帰ります
不二子か
……そうよ
五右ェ門を向かえにくるような女性なんて他にいて？
あの娘はちょっと弱音をはきたくなっただけなのん
想いを受けとめるためだけにわざわざお散歩なさる訳！
風はこんなに冷たくふいてんのん
バカね五右ェ門
……いうな…

あの娘がもし
ルパンを追っていくのなら
すでにかけ足で
実行している
ことだろう
だが彼女は城でまつ
幾春幾秋を
教えながら待ちながら
犬や老人と共に
すごしていくに
ちがいない
ポッ
ポッ
ぴゅうっ!
つくづくお人好しなんだからっ!
あーさむい
ひどい砂ぼこり
体中ザラザラだわ
だから公園で
一体何時間
いるつもりよ
体中冷えきっちゃった
本当にあーんな小娘一人のために……
そりゃそんなあなた

この話は今までの夢シリーズと ご一緒に 読まれますと何とか意味が通じる…といいな.
P.S カタカナの独白は 本来必要ないのですが 画力不足ゆえ… すみません

'81.12.4
ぷりんす はいね

やめてくれ
殺さないでくれ
…か 改心する！
改心する！
だから⁈
このとうり
このとうりだ！
ひぃぃぃいぃ！
斬
ピッ
風鈴
いつも誰かが
太陽と共に
沈んでゆく。
ポッ
ポッ
ポッ
今日は
五右門が
殺した
勿論
彼が殺るのは
殺されても
しょーもない奴等
ばかりなんだ
けれども

あいにく僕は
世の中に殺されて当然の
人間なんて
いないのだろうと
思っている
とんだお散歩に
なってしまった
悪さばかり
して
生まれて
こなければ
よかったのに…
そしたら
拙者が
殺す必要も
ない
その死んだ人間の
それまでの人生を
喜びを・悲しみを
否定する事は
できない
五右ェ門に
そんな
権限は
ないのだ
しかし
今五右ェ門は
これからの人生を
断ったのだ
一人の人間の

だけど
どうして その否定できぬ
これからの 喜び 悲しみを
五ヱ門が断たねば ならないのか
どうして……
自分が これと
決めた 仕事をして
いながら
こんな想いに
かられねば ならんのだ
拙者は そんなに
おめでたい 人間じゃ
ない…
SOSHITE SOREDEMO
BOKU WA GO EMON O SHINJITE IR NODESU

チ……リ────ン
チ
不二子か……
ン……
不二子か？
end.
1983.3.15.PM. プリンス・ハイネ

また、どこかで
あえたら
いいね。
シリーズ
やさしく
ゆるやかに
続いて
ゆきます
1983.3.卒業
プリンス・ハイズ

目ざまし時計の けたたましい音
次元の
「おい、ルパン起きろ。」
の声が聞こえる。
ねぼけまなこで起きてくるルパン。
「なーんだ、もう こんな時間かよ。」
ルパンが ぶつぶつ 言いながら、
新聞を開く。
次元は、ビーンズに夢中である。
突然、ルパンの どなり声
「な、なんだって⁉」
"ルパン、人魚の瞳を盗む!!
次は、月の光を盗むと予告!!"
すくなくとも、ルパンの目には、そう
いう文字が目に入った。
「じょ、冗談じゃない。俺様は、こん
なもの盗んだおぼえはないし、予告し
たこともないぜ。次元、俺ちょっと、
行ってくらあ。」
ビーンズに夢中の次元は、
"ああ"という返事しかしなかった。

ルパンは、"月の光"が 展示されているダイイチ博物館へ
行った。もちろん、銭形に変装してである。
こちらは、次元。
ビーンズを食べ終わり、ふっと新聞へ目をやった。
すると……
「ま、まさか ルパン。これを見て——。」
ニセ(?)ルパンの予告した 午前零時。
それまで煌々と輝いていた電気が消え、二階の窓が
開いたような感じがした。
「さあ、ニセモノさんのお出ましだ。どんなお方か、お目
にかかりましょうかね。」
ルパンは、わざとすきをつくり、ニセモノに盗む時間を与えた。
数秒後、電気がつき、
「大変だ! ダイヤが盗まれた。犯人を追え!!」
と警官隊に後を追わせ、ルパンは警官隊と反対方向へと
走っていった。
数分後、五十メートルほど 先を走っている人影を 見つ
け、追いつめた。

「おい、お前だな、俺様の名前を使って盗みをしたのは。」
「えっ、ち、ちがいますよ。」
その男は、ゆっくりと変装を落とし、トレードマークの眼鏡をつけた。
低音の魅力的な声だ。 身だしなみもいい。
「私の名前は、ルピン。 **怪盗ルピン**。」
「えっ」
今度は、ルパンが驚きの声をあげた。
「私は、モモという名の女怪盗と盗みの技を競っているんだよ。」
ルパンは、何も言えなかった。

トボトボとアジトへもどってきたルパン。
次元と五右ェ門が せせら笑っている。
「おい、目がさめたかい。」
「もう一度、新聞を見直したらどうだ。」
今度は、ルパンの目にもはっきりと、
"ルピン、人魚の瞳を盗む!!"
と読めた。

終

晴れた日に
よくある事
BY 琥代のお町.
―例えばふんどしを干す。
ガサッ!

あ…
ニコッ
きゃー★
メメメメなんて!
バチン
…
ポカポカ
ぱたぱた

ーくやしいから
寝る。

にゃーにゃー
カー
カー
ぐーぐー

とっぷり

むくっ

五右ェ門
クラリス連れて
メシ食いに行ってくる.
ルパン

ん…?!
寝起きなので
いまいち判ってない

ひりーン
え?!
やっと判る…

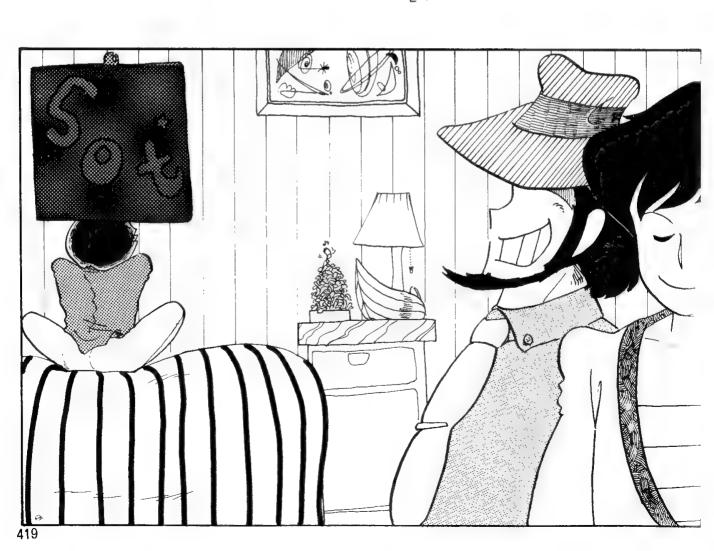
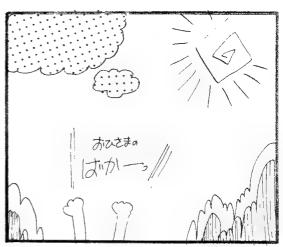
しーん
ひりりり……ーン

END

1983.3.7

さらば愛しきルパンよ 裏話 その3

親子怪盗
—ルパン三世とルパン小僧—
by 引地みほ子

1

ルパンⅢ世の息子、ルパン小僧（ジュニア・ルパン）は、10才、父親ルパンⅢ世に会うべく、ひとり旅立とうとしていた。母親である峰不二子から父の居所を印してある『パズル地図』をもらい首には、父を捜す為の道具を入れたふろしきをさげ、母と二人、夕暮れの東京港に立っていた。
「母ちゃん、ほんとうにあの海の向こうに父ちゃんがいるのか」
母・不二子の横に立ち海を指差して言った。
「そうよ…必ず自分の力でさがしだすのよ…」
「はい」と元気に返事をし、ルパン小僧はパズル地図をひろげて見た。
「それが…お父さんのいる所の地図よ」
「こんな…パズルのような地図じゃ わからねえや」
「そのパズルを解きながら、お父さんを捜すのよ」
「―わかったよ、船に乗るんだから―お金をくれ」
とルパン小僧は、不二子の前に手を出す。
「だめです。人の力をあてにせず、自分の力で行ってらっしゃい。」
と不二子は、ルパン小僧にいいきかせた。
「じゃ、このベルトくれ！」ルパン小僧は、不二子のベルトを指差した。
「いけません！このベルトは、3百万円の宝石でできていて子供の持つものではありません」
「わかったョ！じゃ、行ってきます！」と、言うなりルパン小僧は海に飛び込んだ。不二子は、何げなく目を落して――
「シマッタ！ベルトを取られたっ…なんて子でしょう！」不二子は怒った口調で「お待ち…ひとつだけ言っておきますョ！キャー!!」不二子は、足をとられ転んでしまった。
「いいこと、最後のパズルが解けない限り、絶対にお父さんには会えませんからね。」
と言う母の声も聞かず、ルパン小僧は、出航する船の錨に乗り―旅は、始まった。

2

年月は矢のように過ぎ、それから5年たちました……
ルパン小僧も、15才の若者へと成長して、パズル地図を解きながら、やっとさぐりあてました。――ところは、古城――
その城の中では、一人の老人が暖炉のそばのイスに座り新聞を読んでいる。その時突然、窓ガラスが割れ一本の刀が飛び込んで来た。老人が刀に目をやるとそこには、こう書かれていた。
『父ちゃん元気…俺、あなたの息子です、あなたの後を継ぎたいのです。ルパンⅢ世様』
「ワシが…ルパンⅢ世だと？ムヒヒッ…!! 何をカン違いしとるか…ルパンⅢ世など、もうこの家にはおらんわ、ははは…」老人はそう言うとイスから立ち上がり、「よりによって…ワシをあのゲレツな大泥棒とまちがえるとは、何ごとか！」
「ほんとに、父ちゃんじゃないのか……。」背後から声。
「ワシは 旅行会社の社長、東海五十三次じゃ。」
老人が名乗ると同時に戸が開き、1人の青年が入って来た。成長ルパン小僧である。
「5年以上も父ちゃんに会ってないんだ。このパズル地図を解いて、やっと捜しあててきたのに……」
さも、同情したような口ぶりで、
「骨おり損じゃったのう……若いの。」と老人は言った。
ルパン小僧は、老人の言葉に疑惑を感じたと、その時、一枚の写真が目についた。
「!!これは？父ちゃんだ!!」ルパン小僧は、父の写真を手に「みろ。この写真がなぜ、ここにあるんだ！」と問いかけた。
「ワシが、3年前、この家を買った時なら、その写真がここにあったんじゃ。」
老人は、機嫌悪そうに、ソッポを向き答える。
ルパン小僧は写真をジッと見つめ、
「わかったョ……でも必ず捜し出す。」
「ごつかってみな。」

「俺には、父ちゃんを捜し出す為のとっておきのシカケがあるんだ。」
かついでいた風呂敷をテーブルに置きひろげる。
「これです!!」
「どうするのかね……その花火を……」
老人の問いにしたたかな笑みをうかべ、ルパン小僧は、
「こうするんです」
と言うと、矢のようにすばやく花火の入った風呂敷を老人の顔に結びつけ、
「静かにして下さい……正直に答えてくれないと、この花火に火をつけます」
「おしえて下さい。父ちゃんをどこへやったんです? どうしても言わないんですな」
ルパン小僧は怒って花火に火をつけた。
シュー シューッ、シュシュシュ シュバー シュルルル
「ホギャ！わかったルパンII世のいる所をおしえる……!!」
あわてて老人は答える。
ルパン小僧は、かねてより用意していたバケツの水で、火を消した。

「……この家の地下じゃ……」
「ありがとう」、礼をいうと、ルパン小僧は走り出した。
「まちたまえ、……なぜワシが、ウソをついていると見やぶったのかな」
花火の風呂敷をとりながら、ルパン小僧は、写真を老人に投げ、
「その写真を見てわかったんですョ……3年前の写真になぜ今年のカレンダーが写っているんですか?」
「なるほど、ワシもうかつだったよ」老人は写真を投げ捨てた。
「父ちゃんに会ってくる」
ルパン小僧は、父に会える喜びに胸を踊らせ地下へ行った。
「父ちゃんボクですよ……あなたの息子ですよ……!!」
いきようようと階段をかけおりるルパン小僧。そして、そこでみたものは……

3

そこにあるのは、古ぼけた一つの墓石。"ルパンIII世"と刻まれている。父に会えるという喜びもつかのま、がくぜんと、その場に膝まづくルパン小僧、目には涙があふれていた。
いつのまにか来ていた老人が、声をかけた。
「どうじゃ……これでわかったかね。」
「ウォーーッ!」
ルパン小僧は、墓にすがり、ドンドンと叩く。
「もう ルパンIII世は、この世にはおらんのじゃ」
悲しみをこらえて城を出た。外は吹雪。トボトボと、城を後にするルパン小僧を見送る老人。
「まだまだ、修業がたらんわい……母からもらったパズル地図の最後が解けていたら!! 俺の正体がわかったはずだ。」
そこに現われたのは、ルパンIII世の顔だった。

一方、ルパン小僧は洞窟の中にいた。涙を流しながら、おにぎりにかぶりつく。目の前の焚き火がゆらゆらと怪しくゆれる。
「この地図をもとに、やっと探しあてたと思ったのに……しかし……!! どうも最後のとこがわかんねえな…。クソッ!! わかんねえや!!」
怒りにまかせ地図を火の中に投げ込んだ。すると……最後の部分にゆっくりと文字が現われる。
「あぶり出しだ!! クソッ! あのジジィは……父ちゃんの変装だったんだァ!!」
洞窟を飛び出し古城に向うルパン小僧。母の言葉を聞きのがしたばかりに父に会うことができなかったルパン小僧。
まだまだ修業が足りないようで……

4

ルパン小僧は、古城に戻って来た。しかし、父の姿はどこにもない。
部屋を見回すと、テーブルの上に一通の手紙と城図。
「父ちゃんは、俺にこれを置いてったのかなあ…ともかく、読んでみよう!」

『どうやら、パズル地図の最後の部分が解けたようだな。しかし、俺の変装を見抜けないようじゃまだまだだ。お前にもう一度チャンスをやろう。一緒に置いてある地図は、俺が作った秘密兵器を隠してある場所だ。お前は、その地図をたよりに、俺のいる所を探してくれ。俺を探しあてた時、俺たち二人が"親子怪盗"となる時だ。途中、ネズミ盗賊団が、お前を襲うだろう! 奴らは、俺達親子の命と財宝を狙っている。いいか、奴らには絶対地図を渡すな。連中の手に地図が渡った時は、俺達親子の最後だ。
お前の無事を祈っている。待ってるぜ……我が息子よ――』
「父ちゃん! 俺きって父ちゃんを探し出すからな。今度こそ――」
ルパン小僧は、地図を手に城を後にした。
再び、ルパン小僧の旅は始まった。

5

ルパン小僧は、父を探すかたわら修業をつみ、鞭の腕前は超一流。彼がひとたび鞭をふるえば、それは生き物のごとくしなやかに舞う。そればかりではない。父の華麗な盗みの手口、巧みな変装術さえも、身につけ、ウルトラ泥棒小僧となっていた。しかし、そんなルパン小僧の行く手を阻む者がいた。
ネズミ盗賊団、ルパン親子の命を財宝を狙っている悪党たち、あの手この手で、攻めてくる殺し屋X。彼は、ネズミ盗賊団の中でも、最も恐ろしいといわれる男だった。Xの手をのがれ、父の居所を探し求めるルパン小僧は一つの噂を耳にした。父は、東京都内の豊島区東池袋三丁目にいるらしい。
「ここが、サンシャイン60、父ちゃんのアジトがここにあるんだな」
彼は、アジトが58階にあるとはしらず、屋上まで来てしまった。
「おかしいな…?」ルパン小僧が戻ろうときびすをかえすと、そこには、黒覆面の一団が…
「ハハハ…うかつだったな、ルパン小僧…今日こそ、その地図を頂く…おとなしく渡せば、命だけは助けてやろう……」
「ヘッ! そんな手にひっかかる程、俺様は、ガキじゃねえよ。」
タンカをきるルパン小僧にXは冷淡な笑みをうかべ、
「ならば、死んでもらおう…殺れ!」

6

ピッピッピ・・・ム 受信機が突然鳴り出した。
「おい次元！サンシャインビルで何かあったらしい」
「なにィ？」
ビルに設置してあるTVカメラの映像を見る為、2人は、五右ェ門のいる映像室へ出向いた
画面を見て一番驚ろいたのは、ルパンである。そこにはネズミ盗賊団に追いつめられたルパン小僧の姿があった。
ルパン、次元、五右ェ門の3人は、ルパン小僧のピンチを知り、
「サンシャインビルへ行くぞ！」
3人は、急いでサンシャインへと向った。
そんなルパン達を目撃した銭形警部は、ルパン小僧の情報をキャッチして、
「ルパン親子は、ワシがふんじばってやる!! ルパンを追え〜!!」
銭形の追跡が始まった。

屋上では、まだ戦いが続いていた。
「えーい、あんな小僧一匹になにを手間取っている！」
Zの手下は、ルパン小僧にいいようにあしらわれていた。いくらか疲れを感じたのか、ルパン小僧の動きが鈍る。そこを見逃さず銃を抜き構えるZ。
「死ね!!」
キラリと光るZの目。
ズガーン
カラカラ・・・・
Zの銃が弾きとばされた、入口に影一つ。
「間に合ったようだな・・・・」
その手には、ワルサーP38が光っていた。
「父ちゃん!!」
Zの銃を撃ち落としたのは父、ルパンⅢ世だった。

7

「きさまが、ルパン三世か！」
「貴様がＺか。ずいぶん息子をかわいがってくれたようだな。今度は、俺が相手だ!!」
走りながら引き金をひく。2人、3人と倒れていく敵。
「くそっ！」
落ちた銃を拾うＺ。再び銃声。銃はＺの手を離れ、高々と空に飛ぶ。ビュッと風を切る音と伴に五右ェ門が舞い上がり、鉄をきる。ワルサーが、マグナムが、火を吹き、五右ェ門の斬鉄剣が宙を舞う。ルパン小僧の鞭はうなり、次第に敵は不利になる。
「ルパン、ルパン、ルパン、ルパーン!!」
どこかで聞いた懐しい声がこだまする。
「あの声は、父っあん!!」
「サツ！　クソー、この勝負、一時あずける…　だが、今度会った時こそ、お前達親子の最後だ。ひけー！」
Ｚは捨てゼリフを残し、用意してあったヘリに乗り、あっという間に逃げていった。
「…サツを恐れるようじゃ…　まだガキだな…」
「ルパン逮捕だ！」
いつの間にやってきたのか、ルパン達は警官隊に包囲されていた。
「しまった!!」
「やれー」
父っあんの号令と伴に、捕網銃が発射され、ルパン達の頭上に、網が落ちる。
「うわー」
すばやく斬鉄剣を抜きはしたものの、間に合わず自分の網のみを断ち切り、物陰に隠れ、時を待った。
「ルパン御用だー!!」
ドサドサと情け容謝なくルパン達にのっかる銭形と警官隊。
採み合う警官の山から網をかぶった3人が、イモムシのように這い出してきたかと思うと、立ち上がってピョンピョンと逃げ出した。
先程、一人だけ網を斬り抜き隠れていた五右ェ門は、イモムシに近づき一閃ルパン達の網を切り開くと、4人そろって逃げした。
一方、銭形警部は、採み合っている人の山から立ち上がり、、、
「エーイ、バカモノ！　ルパンは、とっくに逃げた。追えー!!」
その手には、なぜか、手錠がしっかりとかけられ

8

銭形の手を逃れたルパン達は、例の青山墓地の地下にあるルパンのアジトにいた。
「あいたかったぜ…息子」
「父ちゃん…　俺だって…自分の力で捜せって母ちゃんにいわれたけど、敵に囲まれた時…　心細くて、情け無いことに〟父ちゃん〟て叫んじった…俺もまだ、半人前だな」
「そんな事はない、一人であそこまでやれたんだ、お前はもう一人前だぜ…今日から俺達は親子怪盗だ。」
「父ちゃん」
うれしさに顔をゆがめ、父に抱きつく。そんなルパン小僧をやさしく抱きしめるルパン三世。そこへやって来る次元と五右ェ門。
「感動の御対面は、すんだかい！」
「ああ、次元、五右ェ門、紹介するぜ、訳あって今まで離れてくらしていたが、俺の息子のルパン小僧だ」
「訳…とはいったい」
「よくいうだろ〟かわいい子には旅をさせろ〟てね。修業とその成果をみるために、離れていたのさ」
五右ェ門の問いに答えるルパン。
「なる程…」
頷く五右ェ門。
「父ちゃん、この人達、父ちゃんの仲間かい？」
「そうだ、帽子をかぶっているのが、幼友達でもある次元大介。0.3秒の早撃

ちガンマン、もう一人は、昔俺の敵だった石川五右ェ門、居合抜きの達人、二人とも俺の大事な右腕ってわけ。」

「父ちゃんて…すごいんだね。父ちゃん、俺、一緒に仕事をしてもいいっ？」

「ああ、いいとも、なにせ今度の作戦は、俺とお前が組んで始めて可能になるんでな、そうだお前に作戦のことを話しておこう。」

「何だい？！その作戦って？」

不思議そうに尋ねるルパン小僧。

「…名付けて、脳細胞パワーアップ作戦」

「おいルパン、その作戦はまさか…」

言いかけた次元の言葉をつけたすように、

「そうさ、この作戦は俺と息子のダブル作戦。敵側の連中や不二子の悪巧みを失敗させる為の作戦だ。これを使えば、今までのことは全て成功していたはず」

ルパンの言葉に関心したルパン小僧は、声を上げて喜こんだ。

「うわー、すごいや、さすが父ちゃん!!」

そんなルパン小僧に次元は小声でつぶやいた。

「だがな、お前の父ちゃんは、タコは大嫌いなんだとさ。」

「次元！てめえ～…」

自分の恥を、言った次元に怒りを覚えるルパン。

「いよー　おっかねェなァー　」

ルパンに睨まれ、あわてて逃げ出す次元。追いかけるルパン。

「ハハハハ…!!おもしろいや、ねェ…五右ェ門さん」

「いつもあの通りだ、全く、愉快だ!!」

五右ェ門は、ルパン小僧と伴に笑う。いまだ追いかけっこをしているルパンと次元。

「まて～」

「しつっこいな～まだ追ってきやがる」

ぐるぐると部屋中を回っていたが、突然ルパンは目標をかえ、2人の見ている前で息子を抱きしめた。

ルパンⅢ世は1人の父親であり、息子をリードする怪盗でもある。

こうして、『親子怪盗』が誕生した。

親から子へと伝授は継がれていく…

ルパンⅢ世は、父親として、貫禄のある怪盗として息子、ルパン小僧に今まで隠した財宝の地図を渡した。

しかし、その財宝と親子怪盗の命を狙って、ネズミ盗賊団の〃魔の手〃が着々とのびているのだ。

はたして、ルパンⅢ世と、ルパン小僧は、目の前に立ちはだかる敵を倒すことができるのだろうか。

この物語は…「親子怪盗」の誕生から　始まる…

★END★

MOON SHINE

Bonsoir♡
どういう風の吹きまわしで。お久しぶりね
ちょいとウワサ耳にしたもんでね、そろそろ大ヅメって話じゃないか。
ルパン――。
もうけ話だって♡
――
会う時はいつもそれ仕事ね。
フジコ

ヤバイらしいナ
今度の仕事(ヤマ)
いつもの
ことだわ
いるかて。
余計な
お世話!
女だてらの
つっぱりもいいけど
タマには
頼った方がいいぜ
オンナはヨ♡
別のセリフも
用意してきたんだ
聞くかて。
御自由に!!
わざわざ
そんな事
言いに来たの
?!
まあ
まあ
まあっ!?

エラソ〜ー!!

オレの女に

ならないかって。

…ってね

今さら何言ってるのって。ずいぶん昔に片付いたはずでしょって。

いや〜。何せお前も年だろって。

何よ、ルパン
昔はあたしを
フッた事だって
あるくせに
昔は昔
今は今☆
明日は明日て。
ま…ナ☆
と!?
NO
ってわけじゃない
でも
判ってる筈よ
あなただって
――

今だけが
私の男
なんでおれがいないんだ。
フジコさんはもったいないっ。
好きくない、もんねっ!!

ルパン

さっきの
くどき文句
本気て。

!!

本気だぜェ
―
けどナ

だけど？。

の〜

狩猟(アルテミス)の名人
しばっとけるとは思わんョ

ありがと♡

いやー 女帝ったら 殺されかねんし ビーナスなんて 口がまがるし …さっ。

大きな声で 言ってみたらって。

END

☆ 潮の藍センセイに大っ!!! 感謝っ!!!!!っ♡
☆ 愛センセ ごめんなさいっ! ありがとございますっ!!

とーとーなってしまった。

赤い
小いさな風船さん
青いお空を
翔けめぐる風船さん
私の心もつれていって…

By Rei-yûki
とてもにあってよ!
クラリス
んではありませんか
不二子さん
五右衛門はどうした？
むこうで
鼻血出してるぜ
←ちり紙の山
partⅡがんばって下さい!!
ときに山口にはスクリントーン,うってないんです゛？
有紀零

パーティで浮かれている!!!
さあもんだい!
この中に
いるでしょう
おたがい!!
ですネ
本当に!
ジオン公国はどうですかね?
まあまあですよ
つまんないの
オリジナル
お茶会
なんだ!

CLARIOSE
おじさま
もう
ドロボーを
覚えました…
可愛いな
ポン
TOWEL
FUJI

1982.9.11
魔夜

1982.10.5 Kei

クラリス です… ホント 信じてっっ

END

SOPHISTRY

次元大介……JET。
石川五ェ門……浪花愛
ルパン&不二子……潮藍

ルパンの日記

西暦1981年11月18日

今日は宝石店で仕事をした。お宝ごっそり気分は最高♡
ただ一つ問題があるとすれば、次元と五ェ門がドジを踏んだせいで、計画の一部を修正せざるを得なかったことだ。
パーフェクトじゃなかったのが残念だったが、それでもいいさ。久々のでっけえヤマだったんだしな。

教訓。計画は慎重に大胆に。
予定は決定なり。

次元の日記

昭和56年11月18日

N宝石店にて。ルパンの野郎がドジりやがって、予定の半分も実行できず。だからサッサとやれって言ったんだ。女のケツに見とれて、街灯に車ぶつけやがった。ガタのきたパトカーなんてあるもんか。アッサリあやしまれて通行人が通報さ。おまけにあせった揚句にオレと五ェ門まで一緒くたにしばりあげやがった。何考えてんだ、バカ野郎！

五ェ門の日記

霜月拾八日

本日初雪。街の中では掌にも残らず風情の薄さを思う。高速道路の橋げたを切断の為、警官諸氏は今時分存分に甘雪を味わって居ることかと思うと残念。真珠やダイヤなぞ、このひと降りに比しては何の価値もなし。

追記。
ルパンと次元の器材受け渡しならず苦境に追われり。宝石店に女性が多いのは当然の事実であるが、ルパンはその点呑み込みを遅く思う。
剣が泣く。

次元の日記

昭和57年1月17日

ウェスト・コースト海岸線…ロング・ビーチの夜景を肴にジョセフィーヌの芳香を楽しむ。今夜のお相手はプラチナ・ブロンドと褐色の肌…大人の色気たっぷりのグラマーさ。ルパンの奴は自分より十幾つも下の娘をくどいていた。去年あたりからロリコンの気がでてきやがった。後遺症かねェ。五ェ門はすねてどっかいっちまった。休暇の時ぐらいと思うんだが…声には出さなかった。前〝六本木ヒでも立てば?〟とうっかり口をすべらせて、一週間ばかし寝首をかかれそうでロクに眠れなかったもんなァ……しかし六本木美女を知ってんだ、けっこう興味あるんでねェの?

五ェ門の日記

睦月拾七日

松明けて活気の戻った日本を想う。米国海岸は横に長いばかりで風情のないことはなはだしい。次元とルパンは女色に溺れ話にならず。深山を望めど、たどるは赤土ばかり。

盛り場の汚れをおとしたく思う。しばらく戻らず!

ルパンの日記

西暦1982年1月17日

新年だ、目出度い、というには少し外れてんだよな。ま、11月18日から今日まで、日記なんざかいてねェんだから仕方ない。だけど今夜は最高だぜ。なんたってピッチピチのかあい～～子ちゃんがお相手だもんねェ。その点、次元は何だァありゃ?! 奴に寄って行くのは女は…女でも、とうに散りきった姥桜っ。つくづく女に恵まれないねぇ。五ェ門の奴ァ、どっかに消えちまった。酒はやらんし、女も駄目。アイツ、男としての機能にどこか、支障でもあるんじゃなかろうか? 仲間おもいの俺としちゃあ、心配なところだ。

五ェ門の日記

弥生月拾四日

朝より曇、のち雨。山家に潜む
魔教団の宝刀を奪取。
ただし、予定によれば本日は海底探索
の筈。途中海岸にて出遇いし乙女
等にルパンが変更を宣言。
結局、彼ら己に不甲斐無さを覚え
る。
尚本日の取り分は夕陽のみ。
次元負傷せり。合掌。

ルパンの日記

西暦1982年3月14日

朝っから重っ苦しい雲が垂れこめてる
と思ってたら案のじょー雨が降ってきや
がった。仕事が上手く片付いたところ
で本日の予定は……と、海岸ですヴェ
美人たちに誘われちまったぜ♡据え膳
食わぬは何とやら！俺はフェミニスト
だしな。次元の奴の、あの羨ましげな目。
ざっまーみやがれ！大体日頃のおこな
いが悪いんだぜ、人のことにケチばっか、つ
けやがって。手前は五ェ門と遊んでや
がれってんだ。

美女は人類の宝なり！
偉大なる女性に感謝。アーメン。

次元の日記

昭和57年3月14日

ちょいとドジっちまった。又々ルパンのせ
いさ。たいした事はねェが、あいつは最
近反省という事を知らん。誰のせい
だと思ってるんだ。その事も忘れて、
行きずりの女とイチャイチャベタベタ
……サル面のドンファンなんているわ
きゃねェんだ。結局裏をかかれてや
んの。ありゃ死ぬまで直らねェな。
お宝はパーで撃たれ損――揚句の
果てに五ェ門が俺を、深々とおがみ
やがった。――何考えてんだアイツは。

不二子の手記

S57・4・20

ルパン・次元・五ェ門の日記を手に入れる。かなり高い水準の内容…とは全く思えなかったが、興味深いことに気づいた。11月18日・1月17日・3月14日。三者がそれぞれ同じ事柄について描写しているにもかかわらず、行動状況が異なるのだ。おそらく三者の観察の視点の相違・判断・心理面の影響・そして多少の見栄の結果と思われる。この三者が毎日、日記を付ける習慣をもっていればもっと比較の機会があったであろうに残念なことである。

さてここで、この三様の日記のどれが一番信憑性が高いのだろうか？という問題を提起したい。解答を得るためにはどういう方法を採るべきだろうか。もちろん、多種多様の手段がある。要するに手段の選択なのだ。

考慮の末、後述の方法を採った。前提として、三者がそれぞれ他の二者の日記の内容を知らない……ということが要である。しかし、三者の日記の内容から推して、この条件は満たされているだろうことは確実である。

そしてこの前提にこそ、選択の意義があるのだ。

そして、その方法である。ルパンをA、次元をB、五ェ門をCとする。AにはBとC、BにはAとC、CにはAとBの前述の日付の日記のコピーを送る。そしてコピーを読んだあとの三者の行動を観察し判断を下す。単純ではあるが、極めて効果的だろうと思う。

多分、三者の日記の内容よりも、面白い事態になるだろう。

非常に結果が楽しみな実験である。

Lupin the 3rd

いえ、その、別にふかいいみはないんです。ただ次元がぜ〜ったいしないだろーなーというかっこうをさせたかっただけ💧 by竜あきら

風呂が沸いた
おーう ご苦労!
五右ェ門 先に入ってくれや
一番ブロは肌がピリピリするので・・・
やっ
あそ
次元・・・
かぶりつき
タイガーマスクの入場です!
わーわーわーわー
やれ やれ
つよければぁ それでーいいんだ〜
わ、わー
ひょ〜〜 さむ さむっ
ガラ
ガラ

ぱこ？
ザン
パコッ
チャポン…
今こそ明かす
この事実！
ひえ〜〜ぱっ
樋口紀美子
森永おっとっと

ふっふ
ひくっ
風呂の中からとっつぁんが出た
どうして……
きゃあ きゃあ きゃあ
フン
待ちぶせていたのよ……
過去俺は何度もきさまを追いつめたが
ぼわーっ
そのたびにきさまは服の中から怪しげなオモチャをとり出しては俺の目をくらませてまんまとずらかりやがった
TNT
ジャブ…
が！
丸腰では逃げられまい!!
ぶわっ
しゃ！

何しやがる
おまえはカツラにまで火薬を仕込む男だからなァ
〜〜〜考えやがったな
が　そこまでか
わあお
がーははは
なーにを　その場しのぎの
負け惜しい
み
カチャリ
ドガガガガガガガ
な、なぜだ
どこからわいて出たんだ…
!

ぎゃあああぁあっ
ガタン
びびった びびった
ぶっぱなす必要もねえな
うるせーなー 何ごとだ?
カゼひかなきゃいいけど
ふーん それでとっつぁんがねえ…
なるほど
しかし 俺も知らねえぞ
どうして マシンガンや バズーカが ほいほい 出てくるんだ?
漫画のウソっつーても…
むろん 信じない
コク コク
だろうな、別に かくす気は なかったんだが
実は…
すまねえ
五右ェ門、手かげんしながら 俺に斬りかかってみてくれ

カモン！
ぴた
いけねえなー
五右ェ門相手に
こいつじゃ
かなり役不足だぜ
味方だから遠慮したのかねー？
……！
出た……!!
気をつけて見てたがちっともわからねえ
どういう手品なんだ？
あー、つまりこいつらは主人の危機をいち早く察知して手の届くところまでかけつけてくるわけね
どうやって？

ピィ
どうやってって自分の足でだよ
巣田祐里子の世界っ
すださん ごめんなさい…
お前しこんだわけ？
いーや特には
むごいな、
くそーいいな俺なんか重てェ対戦車ライフルかついだのに
次元も慣らせば芸くらいするよ
邪道だ！拙者などは携帯している この愛刀一本で間に合っているっ！
さらとぶざんてつけん
紅茶のむか
ん？
言ってくれるじゃん、なら今度は本気で斬ってきな
カチン

玉砕しちゃーよと思いつつ
おしまい

Just Before…!
by S.J

ルパンの場合

『恋しいルパン――ねェ』

ここは例によって、とあるホテルの一室。ルパンは読み終えたメッセージ・カードをサイドテーブルの上に投げ返すと、カバーのかかったベッドの上にそのまま横になった。

『いよいよおいでなすったかな……』

カードは不二子からのものである。不二子――我が愛すべきライバル。彼女(アイツ)がかかわってくるとロクなことにならんし、やっかいなハメにされたのも1度や2度じゃきかない。

それでいて――魅力的なんだなァ、これが。ルパンの口元はゆるんだ。あのはちきれそうな肌の感触がよみがえってくる。柔らかなぬくもり、そして鼻先をくすぐる甘いかおり……。しかし、メッセージには罠のにおいがしていた。

『面白くなりそうだぜ……』

ベッドから起き上がると、ルパンは左眉をつりあげて、いかにも楽しそうにニヤリとした。こんな時にいつも決まってする仕草だ。何かが起こりそうなニオイをかぎつけると、身体の奥がウズウズしてくるのがルパンの悪いクセなのだから……。

ジ――という音がした。腕時計のリューズを押してコールをとめ、ルパンは立ち上がった。

『さてと……』無雑作に左手をポケットに突っ込んで、ドアへと向かう。『行くとするか……』

仕事前の快い緊張感を楽しみながら、ルパンは部屋を出て行った。その背後でゆっくりとドアがしまっていく。

午前4時――この夜と朝の間に都会はひたすら夢を貪っていた。いくつか消え残るイルミネーションは星と一緒に凍りつき、超高層ビルの輪郭を闇の中に白くきわだたせている。その最上階にある一室は、そこだけが光で満ちあふれていた。

窓の外に広がるスター・ダスト・ストリートには何の興味もないのか、サングラスをかけた男は腕を組んだまま、ゆっくりとそれに背を向けた。くちびるの端にタバコをくわえ、それでいて、口元には自信たっぷりな薄笑いがへばりついている。

「いよいよだな……」

答えのかわりにフ…ッとひとすじの煙を宙に漂わせた人物――ソファの端からすんなりとした綺麗な足がのぞいている。

上半身をひねってソファの背にもたれたその女性は、細いおとがいの下でシガレット・ホルダーをはさんだままの指をからめあわせた。ちょっと上目使いのゾクッとするようなまなざしを男に向ける。

「ホントに来るの？」

「アア……」

男はどこか楽しんでさえいるようだ。軽く窓にもたれて、内ポケットから紙片を指にはさんで取り出す。その拍子に、スーツの影から皮製のホルスターがチラッとのぞいた。

紙片を開く。

〝親愛なるデビー&ステア殿。本日未明、貴殿らの所有せるSナンバー・ファイルをいただきに参上。ムダな抵抗は不要――ルパン三世〟

「ふざけやがって……と言いてェところだが、相手がルパンじゃそうもいかねェ――」

口ではそう言いながらも、デビーはフッと笑って紙片を引き裂いた。足元に散らばる切れ端を他所にタバコに火をつける。

ステアはどことなく気のない素振りでデビーから視線をそらせた。上体をほんの少しずらす、そのはずみで、ドレスの深いスリットからはじけそうな肌がこぼれる。視線をはずしたままでステアはつぶやいた。

「どうするの……？」

「計画通りにやるまでサ」

デビーは窓から離れると、部屋の中央にある机までいった。どっしりとした重量感のあるその机の端に浅く腰かけ、その上にあるコンソールのボタンをパチッと押す。

すると、それを合図に今までなんでもなかった床が動き始めた。30センチ四方ほどの床面がせり上がり、その下から何重もの防護ボードに守られたガラスケースが姿を現わしてくる。そのガラスケースの中にはファイル・ノートが納められていた。

ソファから立ち上がったステアは、ゆるやかなウェーブの豊かな髪を持ち上げるようにしてネックレスをはずした。その銀の細いクサリの先にはマッチ棒くらいの大きさの金属片がついている。その表面に刻まれたアラベスク――ステアからそれ、電子キーを受け取ったデビーは、ケースの

Just Before 第0話

所定の位置にあてがった。　乾いた音を立てて、ガラスがスライドしていく。

デビーはファイルへと手をのばした。　指先がそれに触れるか触れないかの時――ステアが叫んだ！

「デビー、窓の外っ！」

意外な声にふりかえったデビーは、そこに信じられないものを見た。

漆黒の闇に浮かぶ人影――その人物はデビーにニヤリと笑いかけた。

「ルパンっ！」

１秒の何分の１の驚きから解放されたとき、デビーの右手はホルスターへ飛んだ！　またたく間に抜き放ったS＆Wが吼え、いくつもの弾痕をガラスにうがつ。　その弾丸はガラスだけでなく、ルパンの周囲の闇をも貫いていた。　何もなかったと見えた空間から激しくガスが吹き出す。

暗闇にくっきりと浮かび上がったのは、ルパンが背にした黒塗りのアドバルーンだった。

どんどん浮力を失っていくアドバルーンにはさして注意も払わず、ルパンはロープを握っていた左手の力をふっと抜いた。

その瞬間、ルパンの身体は地上１８０メートルの宙に舞った！

耐性ガラスの銃撃でもろくなった部分を蹴破り、部屋の中へ踊り込むルパン。　その右手から幾すじもの光がほとばしる！　ガラスの破片にかすかにひろんだデビーの右手首を襲うナイフ！他のナイフは思わず顔をかばったステアのドレスを床に縫いつけている。　あっという間のできごとだった。　悪夢でも見ているような手際の良さだ。　ルパンはファイルのケースに近づいていった。

「こいつか……」

２人に背を向けた一瞬――後頭部に突きつけられた金属の冷たい感触が、ルパンの動きを奪い取った。　きれいに整理されたマニュキアの爪――白い手の中でデリンジャーが無気味な輝きを放っている。　そこにはドレスから抜け出したステアが立っていた。

「それを渡すワケにはいかないワ、ルパン……」

ようやくデビーは起き上がって、ルパンの手からファイルを取り上げた。

「そういうことだ、悪いな」一気に逆転した立場に気を良くしてか、デビーは値踏みするような視線をルパンに向けた。　口元にはあの薄笑いが浮かんでいる。

「まァ、せっかくお越しいただいたんだからな……もう少しつきあってもらおうか」

小口径でも近距離では威力あるデリンジャーの銃口と正面切って向かい合っているルパンは、男の台詞にある含みを感じてわずかに眉をしかめた。

「どうしようってんだ……？」

「我々の組織は大きくなりつつある。　アンタの地下ルートは役に立つだろうよ」

ルパンの生命とルパン帝国をハカリにかける――デビーはチャンスを最大限に活用するハラだ。　デビーの申し出に、ルパンはゆっくりと口元をゆがめてみせた。　その表情は苦笑というより、むしろ不敵な笑いに近かった。

「このオレを利用しようってのか？」　驚いてさえいるような口調だ。

「そういうことになる……」

無傷の左手に持ちかえたS＆Wの銃口を、デビーは威嚇するようにルパンへ向けた。

「オレがスンナリと言いなりになると思うのかい？」

こんな会話の内に、ルパンはいつの間にか窓辺へ位置を移している――。

「なんなら、ここでカタをつけてもいいんだぜ……」　語尾を飲み込むようにしたデビーは、ルパンにピタリと狙いをつけた。

真正面からルパンをにらむ凶悪な銃口――高揚する殺意のボルテージに、人差し指はゆっくりとその力をこめていく。　デビーの声は冷ややかだった。「返事を聞かせてもらおうか……」

押し殺した口調が一層緊迫したムードを強める。　２人をかわるがわるながめていたルパンの上体がゆっくり前に傾いでいった――ルパンの動きが止まる。

「NON！」

瞬間、デビーとステアの身体が宙に飛んだ！　同時にルパンも飛び、いままでルパンのいた場所にいくつもの弾痕が打たれる！

ルパンは――窓の外へ身を投げていた！　遥かな夜景を背に、落下していくルパン。確実は死とのランデヴーに等しいダイビングの最中で、ルパンは完全に冷静だった。

ルパン・イズ・カウンティング。

（3……2……1……ゼロッ!）

意外なルパンの行動に窓へかけよった2人が見たもの――それは空中で消え失せたルパンの姿だった。

「消……え……た……わ……」ステアのくちびるから思わず言葉がもれた。

ルパンはどこへ――?

その時ルパンは、10階真下の部屋に仕掛けられたベッドに深々と埋もれていたのであります。リモコン式スプリング装置で窓から飛び出したベッドは、次の瞬間その反動でルパンをのせて引っ込んだのである。消えたように見えたのも道理、その間わずかに0.89秒。まァ、ルパンに関してはこんなことで驚いてはいられない。それにしてもベッドのスプリングがからみついて大変ですな、ルパン!

こちらは最上階、ショックから回復したデビーは吐き捨てるように言った。「しくじったな!」

ケースにとって返し、ファイルをつかむ。それをアタッシュ・ケースに押し込むと、ステアの手をとって足早にその部屋を後にした。屋上へと急ぐ2人。屋上のヘリポートには1台のヘリがあった。

「急げ! ヤツの手が廻らんうちに、ファイルを本部に届けるんだ!」

セル・モータの軽い唸りもあわただしげにヘリは上空へ飛び立っていった。

場面は一転して、こじんまりとしたプライベート・エアポート。だんだんに明るくなってきた空からヘリが近づいてくる。滑走路にはすでにセスナが1機ひきだされ、パイロットも乗り込んで離陸準備に余念がない。

プロペラが止まるより先にヘリを降りた2人は、そのままその離陸寸前のセスナに飛び乗った。

ドアをしめるのさえもどかしげに、爆音を上げながら動き始めるセスナ――その車輪が滑走路から離れるか離れないうちに、ゲートから2台の車がエアポートに突っ込んでくる。はじき出されたようにバラバラッと車のドアから飛び出す男たち。その目の前をセスナは飛び去っていく。大空に遠ざかっていく機影を見送りながら、追手の1人が表情も変えずにつぶやいた。

「指示通りか……」

大空を駆けるセスナ――空はもうすっかり明けている。周囲に神経を配っていたデビーも、さすがに安心してかシートに深々と身を沈めた。

「これで一安心さ……」

眼下には青々とした草原が広がっている。

「アタシたちの幹部昇進も確実ね」緊張がほぐれたためか、こころなし甘い響きを帯びたステアの声――。

「……そうさな」ほっとした気の緩みがデビーを大胆にさせた。ステアの肩にゆっくりと手をまわしていく……されるがまま、甘くかすかなため息がそれに答える。後部シートの雰囲気を察してパイロットは多からぬ顔だ。かろうじて自分の重さに耐えているドレスの肩ひもに、デビーの指がかかる――突然、機体は大きく傾いた!

不意をくらった2人がバランスを崩したのも道理、ステアはひょっこり上を向いた足しか見えない。デビーも腕をつっぱることでなんとか身体を支えていた。

「オイオイ、どうしたってんだよ……」

苦笑気味に額へ手をやりながらすわり直すデビー。

「気流が悪いんスよォ」パイロットは後ろを見ないままニヤリとした。

「後ろには気をつけな。オレたちの気嫌を損ねない方が身の為だぜ」

「デビィ……」

そんなことはどうでもいいと言いたげに、ステアはデビーの名をつぶやくと白い腕をその首にからみつけていった。

そして……ふたたび飛び交うピンクのハート。デビーの手がステアの素肌の上をすべっていく。ハラリ……と足元へぬげおちるドレス――その下からステアの輝くばかりの裸身が現われる。とその時、機体がまたまた傾くんだなァ。2人がどうなったかというと……。「○△×□※!?÷♀」ステアの太モモの間に頭を突っ込んでうめいているデビー。ステアはといえば頬を染めてパッチリ目を見開いている。

「キサマ、どういうつもりだ!」

ムードをブチ壊しにされて、デビーはパイロットに食ってかかった。しかしパイロットが口を開く前に、ステアの叫び声が!「デビー! ヘンよ、このセスナ海へ向かってるワ!」

「何だとっ!」

外へチラッと目をやったデビーは、すぐさま銃Wに手をかけた。

いや――かけようとして、その動きはそこで止まった。一瞬早く、数発の弾丸が彼の身体を貫

Just Before 第0話

いていた。
硝煙のたちのぼるワルサーP.38——その銃口で帽子のひさしを押し上げてみせたパイロットの顔を見て、ステアはアッと声をあげた。
「ルパン!?」
そう、ルパンその人。シート越しに手を差しのべてケースからファイルを取り出す。パラパラとめくったルパンの手が、あるページでふと止まった。
「こいつだ……」
そこには黒いスコーピオンのマークがあった。
「ありがとう、ステア」
胸元を隠すようにドレスをかかえているステアにファイルを投げ返す。
「アタシをどうするつもり?!」
上目使いの瞳をじっとルパンに向けたまま、ステアの指はゆっくりとドレスの裾に近づいていく。
「このルパン、女は殺さんことにしてるのサ」
「アタシはこのままにするつもりはなくってよ……」
ステアの瞳が一層強く輝いた。
「ムダなことはよしなって——」
フッと、ルパンは無雑作に背を向けた。ふりあげたステアの手に、細身のナイフがきらめく！ だが次の瞬間、ルパンの身体はドアから外へ飛び出していた。
「今回は急ぐんでね！ アバヨッ！」
そんな台詞を残して落下していくルパン——その下方、海上にはあの超豪華客船・サーロイン号の姿があった。
みるみる迫る巨大な甲板——そして巨大な煙突と。 汽笛が鳴った。

「5年ぶりの再会を祝して——乾杯っ！」
ルパンはこともなげに続けた。「いやァ、遅くなって悪ィ悪ィ。ちょいとヤボ用があったんでなァ」
そう、舞台は始まったばかりである。
次元。
五右ェ門。
不二子。
そして——
「ルパンっ、とうとうみつけたぞォ！」
耳に覚えのあのダミ声が近づいてくる。

五右ェ門の場合

五右ェ門は一人、瞑想にひたっていた。香港らしく亜熱帯植物の生い茂る庭園。唐草模様の透かし彫りの窓から、あずまやに陽がさしている。
幽かな静寂に満ちた、明るく音のない世界であった。
無我無心——その境地に遊ぶ五右ェ門の胸中にはもはや決闘の余韻などなく、すべては朝モヤの彼方のできごとにすぎない。
気配……。
ほんのわずかな空気の乱れが、五右ェ門を静かから動へと誘う。動いていることがかろうじてわかるような、それでいてわずかなよどみさえない、ゆるやかな動きで仕込みに手をのばしていく。スッと引き寄せて手元に立てると、仕込みの鯉口がかすかに音をたてた。
ふたたび静寂が訪れる——。
突然、ドアが開け放たれた。猫科の獣のような切れ長で光のきつい眼——その若い女の五右ェ門に向けられた視線は燃えたつように激しく、邪気がなかった。
だが、五右ェ門に動きはない。微動だにせず、沈黙を守っている。その表情には何の変化も見られなかった。
女はフッと拍子抜けした微笑を浮かべた。
「やっぱりダメね。上手くやったと思ったのに」
張りつめていたものがほぐれていく笑顔だった。

五右ェ門は瞑目していた目を片方だけ開けて女を見た。

女はもうすっかり緊張をといている。肌を覆っている部分が少ない活動的なチャイナ・ドレス、その腰に手をやって女が取り出したのは手紙だった。

「ハイ、あなた宛よ」

古い形式を踏襲した封書――それともう1通。

五右ェ門の眉が動いた。

双竜の紋章が示す通り、一方の封書は龍天了からのものである。そして、もう一方。五右ェ門の表情が不思議に変化した。

（ルパンか――）

黄色いカードのメッセージを追うにつれ、苦笑とも微笑ともつかぬものが浮かんでくる。そんな五右ェ門を女はちょっと驚いて見ていた。

「知ってる人？ あなたがそんな顔できるなんて考えたこともなかったワ」

ちょっぴりスネたような女の言葉には取り合わず、五右ェ門はおもむろに腰を上げた。あずまやの出がけに、ようやく口を開ける。

「お父上はいずこにおられるかな」

「父さんなら、ホールよ」

脇を通り過ぎる五右ェ門、それにつれて女は身体の向きを変えていく。五右ェ門の足の運びに変化はない。

「左様か……」

そう言い残して出ていく五右ェ門の後姿――それを見送る女の瞳には、刺すような輝きがきらめいていた。

大ホール――中国本朝の調度で装飾された広間である。見事な昇龍のレリーフがほどこされた円卓には、量より質の山海の珍味が並べられている。庭園を望むテラスを向いた位置に腰を据え、芳香ただよう鉄観音（ウーロン）茶を味わっている人物――彼はこの館の主人、金大人（たいじん）という。竜に見立てた人工の水流がささやかな流音をたてている。

右手を懐中、左手に仕込みを下げた五右ェ門がやってきたのはそんな折であった。席をすすめてから、茶器を円卓の上に下ろし、ゆっくりと向き直る。柔和な顔つきがますますやわらいでいた。

「どうかなさいましたかな？」

「大人、本日はいとまをもらおうと思う」

「ホッホッ……、これはまた急なことで」

変わらず笑顔を浮かべている大人の前に、五右ェ門は書状を置いた。その紋章を見た大人の顔がそのまま止まった。

「――時が来たようだ」

五右ェ門のイントネーションのあまりない口調からは、何の気負いも感じられない。大人はフッと短く息をついた。

「なるほど……。ですが、そうお急ぎになることもないでしょう。私どもは貴方を信じておりますよ」

「他意はない――」

大人はオヤという顔をした。

「拙者にも都合ができたのだ。明日にはここを発とうと思う。世話になった」

「知人知地、善哉善哉。貴方の御武運を……」

「決着は必ず――」

仕込みを引き寄せた五右ェ門の身体からは、静かな闘志が漂っていた。

２００余りの島々を数える香港近海は、特有の碧緑色をしている。その海上を行く一隻のボートがあった。

五右ェ門はボートの先端に立って、遙かな前方を見ている。目的地は西南端に位置する島――〝真天党〟の本山である大龍島であった。

龍天了――古拳法の流れを組む香港諸流派の中にあって、名実ともに最強を誇る真天党の総領。武者修業のために香港を訪れた五右ェ門の最後の相手だ。すでに真天堂の実力者と対決すること三度……五右ェ門はそのすべてに勝利をおさめて今回に臨んでいた。

大龍島の名にふさわしい凶々しい島影が近づいてくる。全体が切り立った崖ばかりで、船着き場らしい場所は見えない。

だが、ボートの接近につれて大水門が開いていくと、その内側は天然の入り江になっていた。ボートの背後で不気味な音をたてて大水門が閉じていく。

ボートは入り江の中央で止まった。船腹を叩く波の音だけが入り江にこだまする。

突然、遙か頭上の崖上から声が呼ばわった。

「ようこそ、石川五右ェ門殿！」

「お招きに預かり参上した！」

凜とした五右ェ門の声が応ずる。澄んだ残響が入り江の隅々にまで染み通っていった。

五右ェ門に呼びかけた男の合図で崖の上から足場が下ろされる。近づくボートをひとりの

Just Before 第0話

男が待ち受けていた。
「本山は刃物禁制。それを改めさせていただく」
無言のまま差し出された仕込みを、一礼して受け取り、男は目前に水平にかざした。鯉口を切り、ゆっくり刃身を引き出していく。
「こっ、これは……」男はそのまま絶句した。
五右ェ門は双眼を閉じたまま動かずにいる……。
仕込みは鞘におさめられ、五右ェ門に手渡された。儀式は終わった。いよいよ〝真天党〟本山に足を踏み入れる段である。
崖に刻みつけられた石段を登りつめた所に、巨大な楼閣がそびえ立っていた。幅10メートルはあろうという大廻廊――その奥深くに真天党の大武道場はあった。そして、その正面、高さ20メートルはあろうという双龍像を左右にしたがえた玉座に、龍天子はいた。玉座へと続く真紅の段通の両側には高弟たちが控えている。
広々とした道場の中央へ、五右ェ門はゆっくりと歩を進めた。向かい立つ二雄――しばしの沈黙が道場を打った。
まず行動を起こしたのは龍だった。
ゆっくりと玉座を降りる。2人はどちらともなく身仕度にかかった。龍は上衣を宙に投げた。ただでさえ見上げるほどの巨軀に加え、その全身は鍛え抜かれた筋肉の流れにつつまれている。五右ェ門はス……ッと身体を沈めると、その場に仕込みを置いた。片膝を立て、シュルッとたすきを掛ける。宙を舞っていた上衣がふわりと玉座に降りていった。草履をぬぐ。五右ェ門が最後の手甲をつけ終わるまで龍は待った。左手の結び目を口でキュッと締める。
五右ェ門はゆっくりと立ち上がり、2人は正面から向かい合った。
嵐の前の静寂であった。
2人は互いに相手を見据え、1歩も譲ろうとしない。
突如、銅羅の大音響が大武道場に響き渡った。それが試合開始の合図だった。
龍はゆるやかに歩を進め、五右ェ門との間合いを取りながら弧を描いていく。五右ェ門はといえば、足をこころもち開き、やや腰をおとし気味にして、右手は顔の前で斜めに構え、左手は腰にひきつける――その姿勢のまま瞑目して微動だにしない。
〝動〟と〝静〟。心気一体の妙がふたつながらにして対峙する。静穏だが、それゆえに熾烈な戦いでもあった。当意即妙、識行不和――龍の額に汗つぶが浮かぶ。五右ェ門のこめかみにも、ひとしずくの汗が光った。
時までも停止したかのように感じられる沈黙……現実にはどれほどの時間が経過したものか。その衡が破れる瞬間に向かって、ゆっくりと、しかしたゆむことなく大気は密度を凝縮させていく。緊張が頂点に達した瞬間、一陣の風が巻き起こった！
龍の巨体が翔ぶ。気力のすべてを一点に集中した必殺の一撃が襲いかかった！
五右ェ門の身体がス……ッと揺れる。風になびく葦のように体重というものをまったく感じさせない動き」だった。ガキッという音とともに、今まで五右ェ門のいた床に亀裂が走る！そして――5メートルの間隙をもって背中を向けて立つ2人から、ふたたびあらゆる動きが消え失せた。
嵐は去り、武道場に静けさが戻る。ゴホッという息の音がした。勝負は一瞬にして決していたのである。龍の巨体がゆっくりと傾いていった。
眼を伏せたまま、ゆっくりと背をのばす――五右ェ門の口元にはあのかすかな微笑がたたえられている。その背後で地響きをたてて龍が倒れた。
衿を正し、一礼する。五右ェ門は仕込みを取り上げて、玉座に背を向けた。
「……待て……！」息をふりしぼるような龍の声に、五右ェ門は足を止めた。
「早く手当てをした方がよい――」
「世界……クッ……最強は……我が真天党でなければならん……」
かろうじて立ち上がった龍の左右から、それぞれの得物を手にした門弟たちがバラバラッと飛び出してくる。
「五右ェ門さんっ！」
女の声――五右ェ門の眉がピクッと動いた。両腕をがっちりと押さえ込まれて引き出された女は、金の娘だった。五右ェ門の表情がこころなしかきつくなる。スッと引き寄せて構えた仕込みの刃身が小さく鳴った。
「コケおどしはよせ！ 竹光ならばこそ所持を許したのを忘れたか！」

構わず、五右ェ門の右手はゆっくりと柄へ向かう。
「この世界、それでは通用せん！　それがお主の甘さよ」
龍の手が大きくふられ、門弟たちが一斉に襲いかかった。
閃光一閃！
瞬く間に数人の男たちが床に倒れた。寸断されたヌンチャックの破片が転がって小さな音をたてる。鞘内をうたわらせて刃身をおさめると、鯉口がパチリと鳴った。
「……竹光で十分……！」
あたりが静まるまでに数呼吸――悠然と去っていく五右ェ門の後ろ姿を見送りながら、女はいつまでも立ち尽くしていた。

次元の場合

コンバット・マグナムの銃口から立ち上るひとすじの青白い硝煙――真深にかぶった帽子のひさしの奥にフッと微笑が浮かんだ。熟練した手並ですばやく装填を済ませ、キリ……ッとローリングさせてバック・ウエストのホルスターに収める。
そして――たった今目の前で起こったことが信じられないでいるギャラリーを他所に、次元は何もなかったようにその場を離れた。
射撃クラブを後にした次元の足は、メイン・ストリートをはずれ、自然に人通りの少ないダウン・タウンへと向かっていた。お決まりのコースと言えば言える。射撃練習と同じく、これも例のちょっとしたいざこざが一段落してからというもの、半ば日課のようになっていた。23番街・ダローム小路――この時間、まだ店は眠ってでもいるかのように静まり返っている。人気のないホールに、次元の靴音が妙に大きく響く。カウンター左端のスツールに腰をかける。この席はいつの間にか指定席のようになっていて、開店準備に余念がないとはいえ、バーテンはサッと磨かれたグラスとキープ・ボトルをこの早い客にあつらえた。
奥まっているためか、今にも暮れようとしている落日の残光もここまではは入ってこない。
女たちはまだ奥にいる……。
夜のざわめきがあたりを満たす前の、不思議に静かなひとときだ。シドニー、午後6時。
次元はゆっくりとグラスを傾けていた。そんな次元に、ドレスの裾がたてるかすかなきぬずれの音が近づいていく。
「……今日は早いのね」
どちらかといえば人を寄せつけないムードを持つ次元に、よりそうようにささやく柔らかい響きのしっとりした声――次元は肩越しにふりかえった。
「…………」表情を変えるでもなく、カウンター上のグラスに視線を戻す。
それでもマダムは淡く微笑むと、次元の隣りのスツールにスルリとすべりこんだ。
「どうしたの……？」小首をかしげて次元を見、返事を促す。そんな仕草がしっくりするところのある女だった。
次元はひさしの奥から片目で女を見、そしてフッと視線をはずした。「早目に切り上げたのサ」
つれない口調をマダムはさりげない微笑で受け流し、バーテンにサインしてサーヴさせた。白く細長い指先でカクテル・グラスをかかげ、その朱いくちびるにそっと近づけると、そのわずかな動きでグラスの中のオリーヴがかすかにゆれた。ちょっぴりすぼめたマダムのくちびるからホゥ……と甘い息がこぼれる。
それっきり言葉をかわすでもなく、次元とマダムはただグラスをみつめ、それぞれの酒を飲み続けた。流れゆく時間も2人の周囲だけは止まっているような――そんな錯覚も起こしそうな、ごく自然で密度のある雰囲気が

Just Before 第0話

あたりをつつんでいる。次元のいつものスタイルからはめずらしいことかもしれない。
そのうちにちらほらと客の数も増え、シートが埋まり、次第ににぎやかになっていく。そこここであがる女たちの笑い声、むせかえりそうな煙草のケムり、酒の芳香（フレーバー）、スパイスの刺激的なにおい——そんなものが一体混然となって夜に特有のムードを醸し出す。
そんな中で、次元は半ば飲み干したタンブラー・グラスを見るともなしに見ていた。残りを一息に空けて、カウンターの上にカタッと置く。グラスのふちに、シャンデリア・ライトの輝きが小さく映えた。無口のまま、次元は席を立った。
ひきずられて思わず立ち上がりかけたマダムだが、思い直したようにゆっくりとスツールに戻った。
「チェックだ」
レジスターがチーンと軽い音をたてる。マダムは視線をおとし、自分の指先の上に遊ばせている。その背で靴音が次第に遠くなっていく……。
「次元？」
靴音が立ち止まる。マダムはスツールの向きを変えて次元の後ろ姿を見た。女の様々な感情の入り混じった、それでいて一つのことだけを訴えている痛いほどの視線だった。
次元は帽子に手をやり、ほんの少し深目にかぶり直して——店を出るべくドアの方へと歩いていった。

街はずれのストリート——このあたりは半壊したボロ屋敷が数軒あるきりの見捨てられた区域だった。崩れかけたレンガ塀沿いの道に、次元の靴音が響く。ホテルとは反対方向だった。人が住まなくなって久しいこのあたりには、街灯もまばらにしかない。
（4人、5人……か）
今日1日じゅう次元をつけまわしていた男たちが、息を殺してジリジリと迫ってくる。あたりの気配を探りながら、次元は平然と歩き続けた。自分の位置が知られているのは承知の上だ。気にしていないようなものだった。
夜の静けさの中で殺意が異様に高揚していく。角を折れたところで次元は立ち止まった。ちょうど街灯の影にあたり、淡いトーンの次元のスーツは闇に溶け込んでしまいそうだ。ロング・サイズでもくしゃくしゃのペルメルを取り出して、火をつける。ライターの炎が次元の顔をぼんやりと照らし出した。
冴えた夜気の中にひとすじの煙が身をよじり、消え失せていく。瞬間。
マグナムが吼える！
突如として交錯する銃声！ 狙いすまされた一撃が街灯を襲う。あたりを支配した真の暗闇の中、特徴あるコンバットの発火光が一瞬だけ次元の姿を浮かびあがらせる。3発で3人。数ある銃器の中でトップ・クラスの破壊力とはいえ、物理的法則に従って威力は異なってくる。ドサッという音、短い呻き声、ガチャッという金属音——ちょっとした角度の違いが当面のところ、尾行者たちのラッキーとアンラッキーを分けていた。
それきり、マグナムは不気味な沈黙を守った。死のような静寂が残った者の頭上に襲いかかる。荒くなる息——追いつめられたケモノの用心深さで周囲の闇をうかがう男たちの視界に、挑発的な赤い光点が出現した。ペルメルの火——それが示すものめがけて2人は捨て身の攻撃を仕掛けた！
幽霊街（ゴーストタウン）にふたたび銃声が響き渡る。とどめをさすべく躍り出した男たちが見たもの、それは壁のヒビ割れに差し込まれたシガレットの吸いさしだった！
一瞬のスキに、背後で撃鉄を上げる重い音がした。男たちは凍りついた。次元は低い声で言った。
「動くんじゃねェ。大人しく銃（ガン）を捨てな」
ホテルの6F。次元は自分のルームにいた。黄色いメッセージ・カードと同封の航空券、それにサーロイン号の乗船券——一通り目を通して、次元はベッドにねそべったまま天井を見上げた。自然、口元がゆるんでくる。無二の相棒——あの人を食った笑顔が目に浮かぶようだ。
（チェッ……ルパン、お前サンはいつもこうなんだよな）
同窓会が聞いてアキれる。フッと口元をゆがませてベッドから起き上がった次元は、カ

ーテンをひいた。窓の外には夜空の星と街の灯が散らばっている。ポケットに左手を突っ込んで夜景をながめる次元――そこにはいつもの次元らしさのようなものが戻っていた。

同時刻、こちらはとあるビルの地下室。裸電球がらつの人影を浮かびあがらせていた。その内の1人が吐き捨てるように言った。

「オレは降ろさせてもらうぜ……！」

ボスとおぼしい男の目が光り、傷の痛みに顔をしかめている2人に負けない渋面になった。もう1人の負傷者が食を受ける。

「悪いがシンプソンさん、この仕事は割に合わねェ。あのヤローが相手じゃ命がいつくあっても足りねェよ……」

「また、ずいぶんと勇気じゃないか？」シンプソンの声は絞り出すように低くかすれていた。

「何とでも言って下さいよ。じゃ……」

2人はドアへ向かった。しかし、ドアを出ることは出来なかった。

咳込むようなマシンガンの銃声が狭い地下室一杯に響く！　シンプソンの左右の男たちが構えたレミントン・ハンディ・マシンガンからゆっくりと硝煙が立ち上るだけだった。シンプソンは押し黙ったまま表情を動かそうともしなかった。

町はやけに暑かった。

南半球の太陽がジリジリと照りつける中、これから起ころうとしていることを察しでもしたかのようにあたりは静まりかえっている。メイン・ストリートからは人気が絶えていた。広大な国土に応じて集中度は低いとはいえ、近代的なビルの立ち並んでいるこの街に、突如として開拓時代の荒々しいムードが復活する。

次元はビルに背をもたせかけていた。ギラつく大気の中でペルメルの煙が大気そうに宙へ溶けていく。

陽炎のゆらめくアスファルトの向こうに、3人の男が現われた。風がその足元に砂ボコリを舞い上げる。

次元は例によって帽子を真深にかぶったまま、顔を上げようとしない。

足音が止まった。

ようやくポケットから左手を抜いて、ゆっくりとひさしを押し上げる。シンプソンはこの暗色（ダーク・トーン）の男を見た。

（次元大介……）

彼の組織は事実上壊滅していた、たったひとりの男のために。元はと言えば、ひょっとしたことからチンピラが次元という男にからんだことが始まりだった。負け戦にしても小ぜりあいにすぎなかったものに組織が報復に出て、瞬く間に全面戦争となったのである。それも個人対組織――数の上で圧倒的に優位でありながら、組織は致命的な打撃を受けた。もはやシンプソンの採るべき道はひとつだった。

次元はゆっくりシンプソンたちに向き直った。ペルメルをつまみ上げて、声をかける。

「オレをこのまま行かせちゃあくれねェか。こっちにもチョイとばかり用事ができたんでね」

「そうは……いかんよ」

「どうしても？」

ひさしの奥で次元の目が鋭い光を放つ。

答えは早過ぎも遅過ぎもしないタイミングで返ってきた。

「ああ……」

砂ボコリがまた巻き起こる。

緊張の度合は次第に増していく。そんな中で、次元はペルメルを挟んだままの左手をゆっくりのばしていった。ヒジをのばしきった時、次元は吸いさしを指先で弾き飛ばした。それが合図だった。

シンプソンの両脇の男たちが飛び、マシンガンが咆哮する！　マグナムが応火する！

そして――ストリートには余韻が残った。

点々と弾痕を穿った壁の前に、次元は立っていた。右手の男がレミントンの銃口を上げた。チャキッという乾いた金属音がした。左手の男は腕を下ろし、ニヤリと笑った。そして、2人はバランスを失った。銃剣から細い硝煙が立ち上っていた。

次元は帽子の角度を直すと、改めて向き直った。シンプソンに動きはなかった。

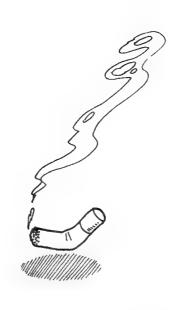
グリップから親指のつけねをはずし、トリガー！・キャップをポイントに半回転させて手の中に銃身をおさめ、ホルスターへ戻す。次元はそのままシンプソンに背を向けた。

遠ざかっていく次元の姿を見送りながら、シンプソンに初めて動きが出た。内懐のショルダー！・スリングからゆっくりとワルサーを引き出す。

Just Before 第0話

慎重この上ない手つきで、シンプソンはセーフティをはずしにかかった。カチ……という音がひどく大きくストリートに響き渡った。

「よしな」

次元はふりかえらなかった。その背中にシンプソンは狙いをつけた。トリガーにかかった人差し指にゆっくりゆっくりと力をこめていく——。

シドニーの街を1発の銃音が駆け抜けていった。

不二子の場合

世界最高のリゾート・シティ、ハワイ——その中でも超一流のホテル・トロピカル最上階に位置するスペシャル・ルーム。その広々としたベランダでシャワーを浴びた後の身体を風にあてながら、不二子は冷えたシャンパーニュ・ワインを口に含んでいた。

ワイキキの落陽。それはたとえようもなく豊潤な色彩でくりひろげられる自然の芸術だ。

あつらえられた籐のカウチ、ガラスとメタル・フレームで構成されたテーブル、そしてオードヴルがサーブされた洒落たワゴン。不二子は解放的なカジュアル・スタイルでくつろいでいた。

さわやかなそよ風が柔かい素材でできたスカートの裾をゆらす。まぶしいばかりの輝きとはじけんばかりの弾力をもつ素肌がこぼれた。

グラスを置き、スッと背のびをしてみる。

指をからめた両腕を差し上げ、喉をゆっくりとそらしながら上を向いていく——と、ひとりの男と視線が合った。ものすごいハンサムが親愛の表情を浮かべている。不二子はまっすぐに男の目をみつめた。男はカウチの背にもたれ、不二子をのぞきこむように見下ろしていた。口元にはかすかな微笑がにじんでいた。

不二子はフッと視線をそらせた。

男もカウチから離れて、不二子の向かい側の籐椅子に腰をかけた。用意されていたグラスにシャンパンをそそぐ。

「いきなりはいってくるなんて、ずいぶんネ」

不二子はやや伏せ目がちのまま言った。長い睫毛がことさらに魅惑的だった。

「そう言うなよ……」

黄金色の液体を一気にあおって、グラスをテーブルの上に置く。その横には昼間のネックレスとリングが無雑作に置かれていた。内ポケットから細長いケースを取り出して、男はそれに並べた。ケースの中には数百の宝石からなる細工で飾られたブレスレットが鮮かな光彩を放っていた。不二子はそのきらめきをみつめ、それから男に視線を移した。

「どうやら勝負は引き分けってところだな」

「そうね……」

さして気のない返事でも、セクシーな響きを帯びた甘いささやきには違いない。不二子はケースからブレスレットを取り上げ、手首にからみつかせた。そのまま目の高さにかざしてみる。

「意外に苦労したよ、夫人をおとすのは」

不二子はブレスレットをみつめたままだ。フ……といった鼻先の生返事をよこしただけでブレスレットの輝きにみいっている。

そんな様子を見て、男はスッと立ち上がり、ゆっくりと不二子に近づいていった。背後から抱きすくめるようにして身体に腕をまわしていく。不二子はさせるままにしていた。男は耳元にくちびるをよせてそっとささやいた。

「キミにプレゼントしてもいい……」

不二子は顔を上げて男を見た。かすかに目を細めて微笑んでみせる。抗いがたい魅力はこういうものであった。

男はすばやく不二子を抱え上げた。

微風にゆれるレースのカーテンの向こうに、ツインがそなえつけてあった。シーツが波のようにうねる広々としたベッド——その上に、スルリと服からぬけだした不二子の裸身が横たわる。

男もスーツをぬぎ捨てた。

「決着は本人同志でつけるとしよう——」

不二子の指の上を、男の指がすべる。

「……いいワ」

不二子の白い腕が別の生き物のように男の首へ巻きついていく。不二子のプロポーションはただただ美しく、なめらかで、しなやかに息づいている。男の顔が素肌へと近づいていき、その手は不二子の首の下に差し込まれた。不二子の右腕はゆっくり頭上へ向かっていく。

ピロウの上——ベッド・ボードにスイッチがあった。きれいにナチュラル・メイクされた指先が、それを押す。

「♂♀☆○×△……！」

男の目の前で火花が散った。ベッド・ボードから飛び出したパンチング・グローブがまともに顔に命中したのである。

ノビた男を他所に、不二子はゆっくり身体を起こした。人差し指と親指でブレスレットをつまみ上げる。不二子はクスッと極上の微笑を浮かべた。

とっつぁんの場合

埼玉県井中郡字大字奥地では、長年誠心誠意勤めていた駐在さんが突然あいさつもなく一人転任してしまったことについて、人情か不人情かがしばらく話題になった。

なぜか、これには立っていた杉柱が倒れたという噂がついてまわった。

END

※新作「ルパン三世爽颯登場」サイド・ストーリィ

ルパン三世FC・SYNDICATE

〝ワルサーP-38〟ルパンの場合のみ初出

1983.1.11
折原みと

最近　五右ェ門金魚が

水の表面に　顔出すようになったと思いません？…

Ai.　…OUTの読者以外の人　わかんなかったらごめんなさいっっっ

GOEMON……のつもり☆
1983.3.11
by

企画の断片シリーズ

by TOMICK.

Vo.1.3 ヤクとハジキ（THE DRUG & THE GUN）1時間56分. 実写

199X年… 日本… その都心部は'80年代のアメリカさながらであった。
主役は、ヤクとハジキ…退廃した夢と暴力の象徴だ。
"住みにくい世の中になりやがったぜ"
今、一条の光、ルパン・ザ・サード…。今、なお、彼は追われている… 銭形警部、二人とも老いた様子はない。もう一つ、日本の最大暴力団"麻怖威亜（マフィア）"ルパンは"麻怖威亜"の名支部を、たった一人でつぶしてまわっている… 見返りは、銃である… 彼のアジトには、数えきれないほどの銃が集まっている。
その頃… 主都がソドムとゴモラと名乗る二人の男にシティ・ジャックされた。小型の核爆弾を持っているという。要求は麻薬である…
"日本中にある麻薬を総て集めるのだ!!"前代未聞のシティジャックに、銭形警部も呼びもどされる… 麻薬の要求によって、警察は暴力組織を強制捜査、及強制没収を展回した。組織は、追いつめられ、自らの手でシティ・ジャックの犯人をしとめるべく、手練の者をくり出す… 機動隊特殊部隊、果ては空軍の参加によって死闘がくりひろげられる。都民は、おかまいなしだ…
そんな中、銭形警部のもとに現れる峰不二子。彼女の機転で都民の脱出が成功。不二子はシティ・ジャッカーのもとへ向かう… 多勢に押されつつ、必死にこらえるシティー・ジャッカー。ものすごい銃の腕前剣の腕前… 次元と五右ェ門だ… 不二子が加わり…奇妙な装置を組みたてはじめる… 誰もいない大都会… 近未来の軍隊、暴力組織…つみあげられた麻薬、そして轟音とともに降りてくる黒い輸送用ヘリ… ルパン三世… 麻怖威亜をつぶし… 日本中の銃をもってかけつけた…
"とっつあん… 単身、銭形が来る。これが現代だ!!"
銭形に奇妙な装置をほうる。シェルターである。
"やめろ!!"
シェルターは銭形をつかまえ、街角にいた犬をつかまえ・地に伏せる。
瞬間、閃光… 核爆発である… 総ての退廃が焼きつくされた…
"悪あがきだよ"
マグナムと斬鉄剣とワルサーが燃えずに残っていた… 弾は入っていなかった…

アニメーションでは表現できないテーマもある。社会派ドラマである。現実を踏まえ、現実につながれた範囲では痛快さはない、が、感動によく似た痛さがある。ルパン三世を実写でやるとしたなら、現実への告発といったあたりが、その本領ではないだろうか。
（尚、この場面の実写は、画面にフォーカス処理をした、いわゆる紗のかかった画面である… キャラクターイメージをこわさないためと、過激な描写、表現、及びテーマにオブラートをかけるためである。）

ぼくら都民です

Vol.4 WITH YOU（あんたも仲間だ!!）37分 短編 Vol.3 併映として.

"体験するアニメーション"
目を開けると、奴がのぞいていた。ルパン・ザ・サード。
"気がついたかい"
その横には次元の顔。
"まったく心配させやがる"
起きあがる。視界に五右ェ門が入る。こっちに… つまり、私にほほえむ… 視界はそのままスクリーンになる。私の目はカメラになった… 私の台詞は字幕にうつる。心の中で読むと、画面の奴等が答えてくれる。
演出の実験として、昔、考えた方法だ… カリオストロの城の大ジャンプ…をルパンと並んでだーっと走る。急転回する視界… クラリスを抱えて水中に迫る場面、視界には水面のみ。普通、一人称のカメラワークは観客の感情移入とアクセントとして使う…が、全編これで押し通してみるのも悪くない…。

私はルパン一味になって、奴等と走る…飛ぶ…とっつぁんをやりすごす…そして、再会を誓って別れるのである。去ってゆくメルセデスベンツを見送る…遠く、小さくなってゆく奴等、と、画面が濡れて見えなくなる…私の涙か…目をとじた…　映画館内は明るくなっていた…

Vol.5 俺のカリフォルニア

劇場作品　宮崎駿氏に捧ぐ。

…経済工作、核、軍隊、次は何ですか…　かかわるごとにつきあたる現代の壁…〝人類はバラの茎を杖にした不具者だ…握った手から血がにじみ…それでも手放せば倒れてしまうから…こらえているのだよ…〟　一瞬、その痛みを忘れさせてくれる。それで精一杯、せめて思い出して、心の支えにしてくれれば倖せ。いつのまにか、ルパンは妖精になっていた…　宮さん、今度は人種差別を扱ってはいかがですか。

ギリシャ神話の中に、トロイ戦争の原因となった黄金のリンゴの話がある。それを根底に置いたイメージで、所は南アフリカ。オレンジの農園品種改良の末、金色のオレンジを物にした。が、それが100年、一世紀に一度しか実を結ばない貴重品。悪徳農園領主は、一大オークションを開き、「ゴールド・オレンジ」をさばこうとする。横大な金が動く。そこにルパン登場。農園の地下水路を通って、オレンジの箱をかっさらう…　水路、オレンジの木箱にのって、次元と二人ゆっくり逃げる、…が…その木箱から金色の水影、色が落ちてくる…何だって。思っているうちに、目の前に光…滝だ!!　抵抗空しく落ちていく…あたりまでがオープニング。その落ちていく際、滝の水の陰から少女の声がしたと次元が言う。　まがいもののオレンジにこだわるわけでもないが、農園に再度挑戦…が、その農園がカリフォルニアに移転している。　舞台はカリフォルニア、ゴールドオレンジの副作用があったり、白人の人道主義者と黒人のストライキ組合が立ちあがったり、の節をからめ、次元と、農園主に親父を殺された美少女の、ささやかなラブストーリーがあって、敵の恐しいのはあぶ使いで…虐待される農民と、農園派一派との対決にルパン一味が加担し、不二子が副作用の方面からからみ、五右衛門は呼ばれて、とっつぁんはあいかわらず追ってきて、いつのまにか五人とも解放運動の片棒かついでいて…ラスト…オレンジ畑にねっころがってる五人…きついオレンジの香りの中、青い空見あげて…　そんなラスト描きたくって…思いをめぐらしてみた…思いっきり明かるい太陽の光も、たまにはいいんじゃないですか。

ハッピーエンドが好きです…それも、浮かれたのでなく、壮快な…。現実やら、モラルやら、背負った重い何かをひっくりかえす…そんな壮快なハッピーエンドが好きです。ルパンの肩には、重い、何かがある。重い何かをひきずっている…そんなルパンが重い何かをひっくりかえして見せてくれる…それが最高に壮快なんですね。だから…宮さん、そんなルパンを描いて下さい。奴は、あなたが、ただの泥棒ではなくしてしまったんだから。

。続有。

なのだろうか？TOMICK氏。

1983.1.10
M.ORIHARA.

1983.2.6

あー…あ〜 アニメコミックじゃ〜っ

ぬあにいっ
出掛けるって。ダイヤはどうしたんだよ。ダイヤはァ!!
ぱ。
こ〜んなんだぜ。お前も乗り気だったじゃないか!!
たか友!! いやいやもっと アレ いや ウ〜ム
あ。こら!!
じゃね
ガチャ。
あ…ろあ!!
バタンって……
バタム
クレジットの支払、どーすんべェ……
うんっ
疲れちまったよ…
どさっ
KARA…
チッ。
全権大使としてヨーロッパ貴族であり、慈善家としても著名なエベレット・ライチェス氏が選ばれ……
これに対して氏は…
このネームはスティクスのミスター・ロボットからラスカルがつけたもんでできとーなんです…ハッハッハーLe んたってうんぬん
でも、STYXの MR ROBOTO…仲々おもしろいよ。
一体…なにが……
気に入らねえんだよ……
ルパンよお…

by **RASCAL**

←一応伊武さんの声で話してると思ってちょ!
ジョドー君……
君は、あの男に妙な期待を抱いているのではないのかね?!
い、いえ!! 決して……そのような!
フ……マア良い……
私への忠誠心はそのうちわかる……
そのうちに……な
ククククク……
殺すっ!!
ほ…じこ…!!
ハァイ♡
ヨオ! 元気だったかあ!!
KUWN…
ウ〜〜ッ… どうも性に合わんナァ…
ゴ
青い目にブロンドだと思ってちょ!? J.フォンダみて〜
この後…ど〜なるオ… なんてまだ決めてなかったりして…
いっそ、殺しちまったら楽だナ〜
……もう……さよならは……言いません!
……と ゆるよろなァ話…
なのですっ
う〜 どんな話オ… わかんないだろいなァ… なにしろ はじめと ゆうしかまだ考えてね〜んだから
ガ
ぬうわああん にいもあっ! できてぬあい!!
ウウイ… 酒飲んでねちまお〜〜ん
ワハハ
MPKのちよわん ゲンコー メンゴ?
まっしろっ
う〜 手抜きじょあ〜

しょーもないイラストですみません

魔毛狂介 ろんぐ・とらべる

あなた

あなたってば

…

魔毛狂介さんと誕生日が同じの

浪花愛.

ほかに11月18日生まれには、森進一、古賀政男、「黄金バット」のナゾーで有名になってしまった犯罪学者のロンブローゾがおりまふ。(ろくな人おらんな)

それは… 私も
ある程度は
覚悟してましたわ
でも
このままじゃ
きこえてますの
あなた
せめて
食費
くらいでも
…
うるさい
学問の進歩に
比べれば
世俗のことなど
チリにすぎん
なによりも
今は…
パーパ
…せがれ
あのねえ
おにわにね
ちゅーりっぷ
さいてるよ
みて
みて
パパは
仕事中だ
あっちへ…
せめて
この子に
不自由
だけは
そうだ
こづかい
やろう
ほら
手を出せ

ママー
パパから
もらった―
……
罪悪感
ひし
ひし
ばさ
ばさ
ええと
タイムマシン…か
わが
時間研究の粋
もしこれが
完成したら
金の心配など
いらんのだが
すまん
ゆきえ
ガリ
ガリ
バキバキバキ
ゴキッ
そそ

なんだーっ
借金のかたにこの屋根もらってくよ
文句があるなら金返しなっ
ごん
なんたる…
ゆきえっ せがれっ
安全なところへ…
ゆ…
ジッタし坊さと区別がつかない…
ガラーン

魔毛狂介
一九三二年十二月十八日 うまれ
時間と空間の研究に
没頭し
六六年 発狂

その後
行方不明…

目 目の迷いでございます ナポレオン閣下
うーむ 冬将軍の見せる幻か
もくもく
資料完璧にさがしてるひまがない。うあぁんくろ
どぼぼ
ふん
めし処
ふん
だれか
ふん
ブーン
金はある
権力も暴力も俺の前には無力だ
もじもじもじ
どい

なにものだっ
なんだって あんた タイムパトロールよ
こまんのよねー 勝手に出入りされちゃ
ぼくは じえったたぁ 30せーきの たいむぱとろーるっ
みなれん形だな
2850年型かな？
おれのマシンにさわるなーっ
で名前は？
魔も？
そんなんいたか？
えーとだな
ぶつぶつぶつぶつ
あ これかな
2874年3月24日 最後の一人が死亡…
そうだそうだ
ルパン13世というのに殺されとる
そーすっと あんたは…
ん？
ビイイイイ…ン
どうした狂介

俺は妻も子も
血族なんてものに
縁のない
人間のはずだ
なにを
見る気なんだ
狂介……
ビュー
ビッ
←??
パパ
こういう時に限ってサイフに5円玉がないのっ

ゆきえー
せがれええ

ぼーぜん

なに…！

ルパン三世…？

今日新聞　昭和47年2月10日
ルパン三世
フランス秘宝展襲う
銭形警部
ルパン三世（?才）

そうか
そうだな
こいつを殺せば
わたしの子孫は
死なずにすむ
そうすれば
ふっ
ふっふっふっ
みておれ!!
…また
修理費が
かさむな……
るぱんー　ちらかすせ…
でも
それから　あとのことは
みんなが
よく知って
いる通り
…

今回のマンガ、全20頁を通してここしかルパン達が出てこない!!

見るものは見た
知らずにすむことも
知ってしまった

今はもう
命尽きても
かまうまい

…この
丘の上
だったな

はは
ゼー
ハー
死ぬ前に
死にそう…

だ…

だれ?

お母さん?

END.

太陽への讃歌
HIMNO AL SOL

Written by 留止。

Cut by JET.

BAXINGER DOUAISUKI! No HIKOKUMIN KONBI

JET.
83.3.16

冬の夜二時。そう聞いて身を縮めるのは日本人の観念であろう。世界は広く、実際にはそれにあたらぬ地域など枚挙にいとまがない。
そんな一地方にあって、尚体の震えを恋しく思う男があった。十三代目石川五右ェ門、その人である。いつもながら着物と袴一枚の軽装で、似つかわしくあるよう粗末な草履をつっかけている。それに接する素足のなまぬるさは彼の歩みをわずかながらも落としていた。
「ルパン。すまんが今宵の仕事はおろさせてもらいたい」
先頭のルパンが振り向いた。
「いーきなり何言うんだ五右ェ門。お宝まであと五百メートルってとこだぜ」
「癪でも起こしたのかい五右ェ門センセ」
次元と二人、口々に言う。怪訝な顔が月光に照らし出されていた。
「気のりが致さぬ」
足の裏が熱いから、では納得されなかろう。しかしそう考えて出した答えは不二子の柳眉を逆立てた。
「あきれた。まだこだわっていたの！古代インカ帝国の流れを今に受けつぐアレリ王国の国宝、だからどうだって言うの。あたしに言わせればただの金の塊よ。そうでしょ？ルパン」
「わっかんねーよォ。歴代の王サマの霊が宿ってて、手にとった途端バチがバチーン！なんてあたったりして……。イタそ」
「ルパン！」
「ちょい待ちなさいって！オレは降りるなんて言ってないでしょ。…で？五右ェ門さんよ。ノラない理由はやっぱりコレか？」
それもあるかも知れないと五右ェ門は思う。だから心身を奮い起たせる鋭い冷気がほしいのか、と。
「ま、国宝も国宝、王サマのあかし、しかも太陽の神からの授かりものだって言い伝えだ。オレだってあんまりゾッとしねえよ」
次元がルパンの推測をなぞった。
「だからって今さら帰ってもらっちゃ困るわ。人手が足りないじゃない」
目的の物がおさめられている王家の神殿から公道までは延々八キロメートルにわたる細道である。人がやっとすれ違える狭さで、車が入れる筈はなく、ヘリコプターが降りられるスペースもない。
「ひと抱えもある黄金のコンドル像だからな……。三人で運べっかな」
ルパンにそう言われては、
「致しかたない。見張り役だけなら手を貸そう」
我を張り通すこともできない。
「よォし、決イまったぜ！」
「本当に、見張りだけだ。前には出ぬ」
「ああ、わーった、わあったよ」
ルパンは言いながら五右ェ門の肩をポォンと叩いた。

南欧の王国、アレリ。地図にも載らぬ小国ではあるが、おしなべて国民は豊かである。観光収入と産出される幾許かの宝石を輸出して外貨を得ており、経済は安

定しているといえた。
その昔のインカ帝国から派を分かって以来、代々女王を頂いている。王家の女児は生まれて十日目に母に抱かれて神殿に入り、次期国王に適か不適かの裁定を受ける。すなわち、奉られた黄金のコンドル像の前に親子が額突いた時、像が太陽と同じ光を放てば王位継承権が認められるのである。それゆえ王は別名『太陽の巫女』と呼ばれ、生涯独身を義務づけられる。王が処女を喪失した場合、あるいは神託を受けぬ女性が王位に就く時、国は滅びると言い伝えられている――

腰にあたる石の冷たさが五右ェ門の心を静めていた。抱える斬鉄剣もようやく手に馴染んだ気がする。神殿の入口はそれよりはるか百二十五段上にあった。彼が座っている石段は下から数えて五つ目。
「月か」
四十五度見上げた上空に輝いている。
「いざよい、だな」
十五夜から一晩過ぎた月のことである。十六夜、と書く。誇らし気な満月より、わずかなかげりを見せるこの月の方が五右ェ門の性に合った。
しばらくはルパン達の事も忘れ、空を眺めた。自分が何故こうしているのかさえ忘れた。
「こんばんは」
それゆえいきなり耳へ飛び込んだ声は彼を飛び上がらせた。一瞬で身構え、刀の柄に手をかける。
「お月見ですか？」
しかし攻撃に出られない。声の主は五段下がった地上か

ら五右ェ門を見上げ、ニコニコと笑っているだけだったからだ。小柄な十七、八才。目がくりくりと丸く、まつげが長い。何より、明らかにこの国の人間とわかる風体ながら大和言葉を話した意外さがある。
「そなた何者だ」
「カタリーナ」
「ここで何をしている」
「お散歩」
「こんな時間にか」
「あなたといっしょ」
「何？」
「お月様が綺麗でしょ？」
その時、風が走った。少女の流暢な日本語の腑をすべり、石段に突き当たる。
「きゃあっ!!」
石の上に転がったのは短剣だった。見定める暇もなく、草かげから男が数人踊り出る。五右ェ門は石段を蹴って飛び、少女の傍に降り立った。ルパン二に危険信号を送る事も忘れてはいない。
「カタリーナ」
男の一人が呼ばわった。
「観念しろ。言う通りにするんだ」
「あかんべ」
五右ェ門は改めて少女、カタリーナを見た。
「そなた」
会話の内容はわからずとも状況の把握はできる。投げられた短剣の行き先は盗人である五右ェ門ではなかったのだと。
「こっち!!」
カタリーナは五右ェ門の袖をつれるほど引いた。短剣が山と飛んできている。銃を使わぬのは公に気取られぬ為であろうが、この気配の動き方ではそれも時間の問題である。そうなれば、五右ェ門の身とて危うい。
「頼む！」
今は少女を信じるしかない。五右ェ門はカタリーナを抱きかかえ、彼女の示す方角へ走った。
「逃がさないで！必ずつかまえるのよ」
追手のざわめきにヒステリックなアルトが突出しているのを五右ェ門は背中で聞いていた。
走ること二時間。空は白々と明け始め、小鳥の声がにぎやかになっていく。
五右ェ門とカタリーナの二人は農耕地の一角に建てられた小屋に身をよせていた。時期が違うのだろう、畑に作物は見当たらず、人の近づく様子はさらにない。
「そなた何者だ」
探し出した食料を火にかけるカタリーナへ、五右ェ門は昨夜と同じ質問を投げた。
「言ったでしょ？カタリーナ」
「名前ではない。身分だ」
「女の子よ」
「ただのおなごをあのように大勢で追い回すと言うのか」
「さあ知りません。あの人達に聞いて」
五右ェ門は溜息をついた。
「日本語がうまいが…」
「Muchas gracias どうもありがとう。家庭教師が日本人だったの」
「それだけか？」
「はい、それだけの理由です」
五右ェ門は全く釈然としない。カタリーナは笑っていた。なんとか仕上げたスープをテーブルに置く。

太陽への讃歌

「わたしにも聞かせて。あなたのお名前は？」
「石川五右ェ門」
「何を盗ろうとしていたの？　昨日」
「何？」
「泥棒なんでしょう？」
若い娘が楽し気に言うことではない。そうは思っても彼女の屈託なさについつりこまれる。
「黄金のコンドルだ。この国の宝とかいう…」
「…それで、持ち出せたの？」
「わからぬ。仲間の仕事次第さ」
「そう。…成功しているといいわね」
「何故」
「何故でも。あんな鳥、さっさと溶かされてのべ棒にでもなればいいのよ」
そう言うカタリーナは口調こそ同じだが白い頬から笑みが失せていた。

同じ頃。
市内の小さなホテルでルパン達が未だ戻らぬ五右ェ門の身を案じていた。
「つかまってはいないようね。報道がないわ」
「いや、そのへんはわからねえぜ」
「どういうこと？　次元」
「体面を重んじる王室が国宝を盗まれました、なんて世間に発表する筈はねえ。内密にとっつかまえ、内密にゴーモン、お宝を吐き出させたあとは闇へ葬る…」
「そんな！」

「ありえるよ」
カーテンをわずかに開け、表を伺っていたルパンが言った。
「おかしな奴らがうろついている」
「見つかったの!?　あたし達」
「でもないらしいな。草の根分けて探してるってカンジだ」
「どっちにしろ時間の問題だわ。欲しい物は手に入ったんだから早く逃げましょうよ」
「不二子！　てめえ何てこと言いやがる」
「何よ」
「ちったあ罪悪感でも感じてみやがれ！　気のすまねえやっこさんを無理に引っぱってったのはお前だろ！　なのに見捨てて逃げる気かこのアマ」
「お生憎。捕まる方がドジなのよ。…ねえルパン、コンドルは何処？　どこへ隠したの？」
「おーしえない」
「ル…ルパン—」
「ふ〜じこチャン。お土産はみんな揃ってからあげるモンでしょ」
ルパンの言葉は不二子の我慢を限界から引き上げた。
つかつかっとヒールが進み、電気スタンドが放り投げられるとドアが思いきり開き、力いっぱい閉まった。
「いってえ…。ちくしょう不二子の奴う…」
「ルパンよ。マジメな話、どうするんだ？」
「どオしようかあ…」
「あのなあ…」
次元は帽子のつばを引き下げた。肩までもすくめる。
「けどよ…」
「ん？」
ガラス窓の向うには善良な市民と、平凡な家並み、

その周りにうごめく人相の悪い幾人かの姿がある。
「五右ェ門は無事さ。無事だよ。信じようぜ、次元」
次元に異存のある筈はなかった。

これから先、どうするか。
それを悩む気持ちは五右ェ門の方が数倍強い！当然だった。
カタリーナから事情を聞こうとしてははぐらかされる。生来躾して尋ねるなど得手ではない！脅すのはたやすかろうが、それを境にカタリーナの態度は一変するだろう。
「やだあ五右ェ門！またからめちゃって」
迷いの対象は底抜けに明るく笑っている。薄桃色の唇から覗く並びの良い歯・清々しい。五右ェ門の目にはそう映る。
「拙者あやとりは苦手だ」
糸をほどくだけで大苦戦である。それを見てカタリーナはまた笑う。しかし、悪い気はしなかった。
「なら何が得意なの？お手玉？おはじき？まりつき？」
「それは皆おなごの遊びだ」
口元がほころぶ。目元もゆるんでしまう。このまま過ごせるだけ過ごしてみようか。ふとそんな思いにとらわれる。だが、それも長くはない。
「……五右ェ門…？」
「しっ」
昼過ぎから雨雲の立ち始めた表で五、六人の気配。それより気になるのは火薬の匂い、そして走る火の音。

太陽への讃歌

「逃げろ！」
叫ぶより早く五右ェ門はカタリーナを抱いて表へ飛び出した。駆けるだけ駆けて地面に伏す。地鳴り震動は時を待たずに起こり、二人がいた小屋は八方へ引き裂かれるように吹き飛んでしまった。
「…五右ェ門…」
五右ェ門の体の下からカタリーナが細い声を出す。振り仰ぐ丸い瞳も桜の唇も震えていた。
「カタリーナ…」
見下ろす五右ェ門の目は驚きと不思議さに見開かれていた。昨夜来狙われていたのは五右ェ門でなく、カタリーナの有する何かでもないことがはっきりした為である。
「何故…」
カタリーナの声はない。彼女は五右ェ門の広い胸に飛び込み、堰を切ったように泣き始めた。
そして天からはあたかも合わせたように冷たい雨が落ちてくるのだった。

不二子は出て行ったきり。次元も心当たりを探すと言って姿を消した。ホテルの一室、ルパンは一人である。
「はあい、どおなたァ？」
そんな折り、ドアにノックの音が響いた。
「失礼。こちらにネコが迷いこんできませんでしたか？」
開いたドアの向うに立っていたのは三十がらみの女だった。ニットのワンピースで体の線がはっきりと出ている。白い頬に泣きぼくろがひとつ。美人といえる。
「ま、ま、お入りになって。ネコちゃんて、どんなの？」
こと美女に関してルパンは無防備、そう見える。女は二ヤリと笑い、するりと体を翻して、彼の後ろをとった。
「血統書付きのメス…。まだ仔猫だわ。ご存知の筈よね？」
「じぇんじぇん！」
一応両手を上げている。せっかくつきつけたコルトに何の反応も示さないでは気の毒だ、そう思った故に。
「ふざけないで。誰の依頼を受けたか知らないけれど、カタリーナのことは私には逐一報告するように言ってあるのよ」
「かたりいなあ？」
しかし女の言葉は背中で聞くには難解すぎた。腕を下ろし、振り返ってしまう。
「かたりいなって、ダレ？」
「ふうん、おとぼけも筋金入りね」
女は銃口をルパンの胸元に押しあてた。だが、
「あっ…」
ルパンの手首が器用に回り、トリガーを引かせぬままに女の手をひねり上げた。
「なぞなぞもいいけどさ、今ちょっくら忙しかったりするのよ。で、ストレートに聞かせてほしいわけ。カタリーナって何者だ？」
音と共に銃はカーペットに落ちた。
「…あんた達がさらっていったものよ。夕べ…」
「へっ!?」
ルパンは女の手首を放してしまった。そのすきに彼女は後ろへ飛び、スカートをめくってナイフを出した。
「あらま、脳殺…」
「女の武器は一つじゃないのよ。覚えておくことね」
「ンなことわかってるって！ それはいいけっどもさ、おタクらあのタカの親分みたいなヤツをカタリーナって呼

んでるの？　ちょっとセンス悪すぎるぜぇ」
「タカの…親分!?」
今度はルパンが隙をつく。床のコルトを拾い、ナイフを構える手に投げつける。狙い通りナイフも銃も床へ散った。
「なんか微妙に行き違いをカンジるんだよな。あんたオレ様が誰だか知ってる？」
そう言われて彼女は虚をつかれたようにポカンと口をあけた。
「だ…誰だって言うの？」
「ルパーンさんせー」
「ルパン!?　ルパン三世ってあの、アルセーヌ・ルパンの三代目とか云う…」
「あれま、よくご存知で。メルシーボクゥ、マダム」
「マドもアゼルよ、これでも。じゃ、あんた泥棒!?」
「ウィ、ウィ。昨夜の獲物は黄金のコンドルでございまあす」
「じゃ、カタリーナは…」
「だァからさ、カタリーナってダレだっつーの!?」

そのカタリーナ。
降りしきる雨の中を五右ェ門と共に逃げ、巨木の空虚にひとまず身を隠していた。
「…今の王様は私の祖母で…私はそのあとを継ぐことになっているんです」
カタリーナの髪は額や首にはりつき、水滴が筋となって皮膚を伝わっている。五右ェ門も同様であった。
「現在の王家には私ともう一人、ルナという女性がいて…大臣の何人かはルナに王位を継いでもらいたがっているの。私はそれでいいって言ったんだけど、神託を受けぬ女を王にするわけにはいかないって皆が…」
「すると、そなたを追っているのはそのルナ派の者か」
「そうです。継承者が死んでしまえば言い伝えも何もないだろうってね」
「そなたを擁立する者達は守ってくれぬのか？」
「守ってくれますよ。完全防備の部屋に押し込めてね」
カタリーナは目線を彼方へ投げた。濡れそぼった白い足で初毛が金色に光っている。
「その部屋の中で私は王としての教育を受けたの。外国のお客様と話せるようにって各国の歴史と国の言葉。日本語もそう。　ねえ五右ェ門、私ユキが見たいわ」
「ユキ？　雪か」
「ええそう、雪よ。野も山も木も草もぜーんぶ真白にしてくれるなんてステキだわ」
「その中に立つとまるで世界に己れ一人しかいないような気になるぞ」
五右ェ門は脅しのつもりだった。だが案に相違してカタリーナの瞳は輝きを増す。
「すごいわ！　そんな気分、一度でいいから味わってみたい！　どこまでもまーっしろな丘の頂上に立って思いきり叫んでみたいわ」
「叫ぶ？　何と」
「『バカヤロー』」
「バ…」
二の句がつげない五右ェ門にカタリーナはぺろりと舌を出した。くりくりと回る瞳に邪気は少しも見当たらない。五右ェ門はいつの間にか破顔していた。

昼過ぎから降り出した雨は夜に入って勢いを増した。温暖なこの地域には珍しい寒気を伴なって降り注ぐ。
「氷雨だな」
空虚から手をのべ、五右ェ門は言った。
「寒いのか？」
歯の鳴る音が気にかかる。カタリーナは身を縮め、二の腕をさすっていた。
「どれ」
まさかと思いながら額にふれ、五右ェ門は顔色を変えた。
「ひどい熱だ」
「あ…やっぱり？ さっきからだるいなとは思っていたんだけど」
五右ェ門は急いで印籠を開けてみた。だが熱さましは切れている。
「このままでは肺炎を起こす」

険を浮かべて言った言葉に、
「わ、すごいドラマティック…」
カタリーナは嬉色を浮かべた。
「どこがだ!?」
「だって、小説の主人公みたいじゃない。病弱な薄幸のお姫様。カンドウだわ…」
言うそばから息が荒くなっていく。不謹慎をたしなめるのは後にして、五右ェ門は対策を考えた。
辺りに人家はない。従って医者もいない。おぶって走っても良いが、傘なしで行くには距離がありすぎた。
「う…」
唸いたきり、カタリーナの口からこぼれる声はなくなった。
身につけているのはびしょ濡れの服、五右ェ門とて同じである。暖をとろうとして火種はなく、あったところで薪がない。

「……」
五右ェ門は空虚の木肌に身を投げてしまったカタリーナを見つめ、ためらった。ためらってどうなるものでもないし、そんな場合ではないのだが。
「…致し方…ない」
自分自身に言いきかせるよう低く呟き、着物を脱いだ。ぐっしょりと重いそれをひとつところにたたむと、次はカタリーナの服を外しにかかった。こんな時男の指とは無器用そのもので、ボタン一つ外すのに恐しく時間がかかる。その末に得たカタリーナの小さな裸身を五右ェ門は目を閉じたまま抱きよせた。見えずとも肌は正直に感触を受け取る。震えがきていた。しかし、カタリーナの荒い息を耳許に聞いては抱く手をゆるめるわけにもいかない。
「あ…五右ェ門…」
五右ェ門は座禅でも組みたい心境だった。

「次の王位はカタリーナが継ぐべきなのよ。そうしなければアレリは滅びるわ」
先来の女はベッドの上。ルパンは傍らに在る。
「おーかしいじゃない！ そういうあんたがなんだって反対派の先頭に立ってカタリーナを追い回すんだ？ ルナ」
「私も王位を狙っている…そう思わせておけば暗殺計画がすべてわかる。カタリーナも安全なのよ」
「カタリーナは知らねえんだろ？ あんたが味方だってこと」
「その方がいいのよ、動きやすくて」
ルナはしらっと答えてシガーを口にした。

「で…五右ェ門が…オレ達の仲間がカタリーナちゃんと一緒ってのは間違いねえのか？」
「多分ね。私が見た後ろ姿はあなたの言った特徴に合っているわ」
「ふうん。…ってことは五右ェ門の命も危ねえわけだ」
「それもあるけど…。ねえルパン、五右ェ門ってスケベ？」
ルパンは枕につっ伏した。
「なんだってんだいきなり！」
くわえていた煙草は見事に丸まっている。
「重要なことなのよ。王位を継承する女はバージンでなければいけないんだから」
「それそれ！ ったくおタクの神サマはゼータクだぜ。人のお古は嫌だなんてよ。たーだでカワイコちゃんがもらえるだけ有難いと思えってんだ」
「…あなた何かカン違いしてるんじゃなくて…？」
好意半分のあきれ顔をかしげ、ルナは脱ぎ捨てたストッキングに腕を伸ばした。が、行程半ばでつっかかったように止まる。
「ルナ？」
「しっ…」
ルナは何かを聞き取る顔つきを呈している。ルパンには何も聞こえないのだが。
ややあって、
「カタリーナと五右ェ門の足取りをつかんだそうよ」
ルナが言った。
「へっ？」
彼女は体をひねり、怪訝そうなルパンへ耳朶に輝くルビーのピアスを示した。
「小型通信器！ …はあ、やるもんだ…」
「受信専用だけど。それより急ぎましょう。二人が危

太陽への讃歌

ないわ」
「ＯＫ。でもさ、場所教えて先行っちゃってくれる？」
尋ねるルナは早やレザーの上下で決めている。かついでいるのはマシンガン。
「ちょっくらヤボ用。すーぐ追いつくって！」
ルパンはウインクをひとつ。彼の頭は既に走り始めていた。

カタリーナと五右ェ門が出会ってから二度目の朝が訪れた。すなわち逃避行を始めて三日目という事になる。
事実に限って言えば昨夜の五右ェ門は清廉潔白だった。うら若き娘と裸身で抱き合って何もなかったという事に対し、修業のたまものと取るかカタリーナを案じてそれどころではなかったと取るか、はたまたどこか悪いのではないか、と考えるのは世間の勝手である。しかしそれは後の話で、今の彼にはどうやら熱の下がったカタリーナへの安堵感しかないのだった。
「五右ェ門の匂いがするわ」
頬に赤味の戻ったカタリーナが言った。五右ェ門は背を向け、まだ湿っぽい着物を手早く身につけている。
「私の腕や胸にね、残っているの。ねえ五右ェ門、あなたにも私の匂いがついている？」
「知らぬ」
五右ェ門は振り返りもしない。
「素っ気ないのね。一夜を共にした仲じゃないの」
「まぎらわしい言い方をするな！　人が聞いたら誤解する!!」
「その方がいいわ」

「な…」
振り向きかけ、五右ェ門はあわてて目を伏せる。カタリーナはまだ服を着ていない。
「ねえ五右ェ門　協力して。私が無傷で王位をルナに譲れるように」
「……」
「私は普通の女の子よ。何の取り得もないし頭がいいわけでもないの。遊ぶ事が好きで、お花が好きで、仔犬が好きで…。それだけのつまらない女の子なのよ」
五右ェ門は頷かない！　女性に熟知しているわけではないが、言葉通りとは思えないのである。
「きわめつけにつまらないところはね…　いつか優しい男の人が現われて、大きな胸に私を抱きしめてくれるんだ、そう思って待っていること」
五右ェ門の胸に何かが甘くつきささる。後悔とときめきがないまざった妙な代物。
「そんな私が…　王様なんてなれる筈ないじゃない？
……」
そこで言葉が途切れた。そのまま風が過ぎる。
さすがに気になって振り向いた五右ェ門へ、カタリーナはいきなり、
「そんな私が王様になんてなれる筈ないじゃない!!」
泣き声の叫びをぶつけてきた。
「できるわけないわ！　私は私一人が生きていくだけで精一杯なのよ。どうして何万人もの生活を考えられるの!?　どうしたら責任なんか持てるの!?　無理よ、できるわけないわよ!!」
丸い瞳が涙で揺れている。風邪ゆえのかすれ声が痛々しい。
「私が一つ間違えただけで国がつぶれてしまうかも知

れない…。子供達が飢えてしまうかも知れない…。
そんな心配をしながら一生暮らすの!?」
カタリーナはこちらを向いてはみたものの、言葉もない五右ェ門にしがみついた。小さな白い手で洗いざらしの着物を掴む。
「その向こうやって泣かせてくれる男の人の胸もないのよ…。たった一人でびくびく怯えて…。いや…いやよ……」
カタリーナの慟哭は続く。小刻みに震える真白な背中を見つめる五右ェ門の黒い瞳がやがてゆらりとゆれた。
「――――拙者政治向きの事はよくわからぬが…」
ポツリと呟いた言葉にカタリーナは顔を上げる。
「…どうすれば…良いのだ?」
そして続いた向いにわずかな明るさを帯びた。
「連れて出て下さい、この国を」
「そなたを?」
「そうです。日本へ連れて行って。あなたの国へ」
「日本へか」
「言ったでしょう? 雪が見たいって」
「――――ああ」
五右ェ門は再び背を向けた。
「考えてみる」
彼とて、迷いはあるのだった。

事態は急転直下する。
身仕度を整え、一応医者へ向おうとする二人の前に、ルナ派の一党が姿を現わした。
「よく今まで逃げおおせたもんだ。ほめてやるぜ」

太陽への讃歌

五右ェ門は目つき鋭く様子を伺う。相手は十人。それぞれ銃を構えている。倒せない数ではないが木に囲まれたこの場所での立ち回りはやや不安を感じる。

「だがここまでだ。仲良くあの世へ行ってもらうぜ！」

こんな時のセリフは古今東西共通である。気にもかけずに五右ェ門は飛びくる銃弾を小気味良い音と共に払いまくった。

「いよっ 十三代目！日本一!! やんややんや」

カタリーナである。五右ェ門は前にのめって危うく額を地面にぶつけそうになった。

「力の抜けるような声をかけるな！」

「ごめんなさい」

反省の色は更にない。不幸な事に次々と弾が飛んでくるので彼女の不謹慎をたしなめる暇はまたしてもなかった。ことごとく攻撃をかわされ、一党は思案したようだった。それが証拠にしばし銃撃が止む。無論五右ェ門達に油断はない。

「きゃあ!!」

だが均衡は思いがけぬ方向から破られた。どこをどう回ったものか、二人が背にした草むらからカタリーナが腕をつかまれた。

「カタリーナ！」

思わず振り向く五右ェ門。そのわずかな隙を相手は見逃さなかった。彼のこめかみにピタリと銃口があてられる。

「刀を捨てろ」

と身振りで伝えてくる。重い音と共に斬鉄剣は地に伏した。

「…ほう、こいつは凄え刀だ」

五右ェ門に銃をつきつけている男が拾い上げ、感嘆の声をもらした。傍らで五右ェ門は奥歯をかみしめる。そうするうちに、

「そうだ、こいつでカタリーナを殺ろう！」

男はさも名案、の態で言った。

「こいつはおととい黄金のコンドルを盗んだ奴らの仲間らしいし、それでなくても他国人だ。カタリーナに見とがめられて殺したとなりゃ国民へのしめしもつく！」

仲間からは歓声が上がる。五右ェ門はいぶかしく思い、カタリーナを見る。そして彼女が真青になっているのを知った。

「カタ…」

問い質す暇もなく一人が刀を振り上げる。それが彼女に向って下ろされると知るや、五右ェ門が己が身の危険など忘れ、地を蹴って飛んだ。

「きゃあああ!!」

少女の悲鳴。銃の音。すべては一瞬にして終った。

――と、思われた。

「ガツン」

時ならぬ鈍い音。刀を持っていた男はどっと倒れた。天から降ってきた物に脳天を一撃されたのである。しかもそれは、

「黄金の…コンドル!?」

盗まれた筈の国宝だった。驚きどよめき一同は空を見上げる。すると木々の枝をすかしてヘリコプターのプロペラ音が聞こえた。

「いやーわりィわりィ！落っことしっちゃった」

続いて聞こえる間の抜けた声。しかしそれは五右ェ門とカタリーナにとっては百万の味方を得たに等しいのだった。ほどなくその味方、ルパンは縄梯子を伝って降りて来た。女を一人連れている。

「五右ェ門！」

その顔を見てカタリーナは五右ェ門に走りよった。彼は地に手をついている。弾があたったらしく、くるぶしの辺りを血が伝っていた。
「五右ェ門、ルナよ！　あれがルナなの」
「何!?」
五右ェ門はルパンを見やる。
「どういうつもりだルパン。その女は…」
「あー言いたい事はわかってる。でも違うんだもんね、これが」
「何と？」
答えるようにルナが笑みを浮かべた。
「今までだましていて悪かったわカタリーナ。私はあなたの味方よ」
男達からざわめきが起こる。無理もなかった。
「信じないわ」
中でカタリーナは尚五右ェ門に寄添ったまま敵意の目を向けている。
「信じないわよルナ。あなたよく私に言ってたじゃない。『私が王になれるものならいろいろやってみたい事がある。レジャーランドを作って観光客をもっと呼びたい。研磨や土台作りの技術も取り入れてデザイナーを呼んで宝石産業をアクセサリー産業にまで引き上げたい』って…。もっといろいろ言ってたわ！」
「…へえ…」
ルパンである。意外そうな顔をしている。
「なれたなら…よ。かなわない夢よ。空想するのは私の勝手」
「嘘！　あなたはなりたいのよ、王様に！　私を殺してもなりたいのよ!!」
「カタリーナ」
五右ェ門が止めようとした。だがカタリーナはひかない。
「人を使って…卑怯よ！　なりたいなら正直に言えばいいでしょう!!」
ルパンはルナが笑って首を振ると思っていた。だが、
「…そうよ…」
発せられたのは肯定の答えだった。
「そうよなりたいわ！　人として生まれたんですもの、上を司って自分の思う通り指揮してみたいわ！　王になってやりたい事は山程あるわ!!　正直に言ったわよ。これでご満足!?」
ルナは激しい口調で一気にしゃべり、カタリーナを見すえた。
「ルナ…やっぱり…」
「ルナ、お前さんまさか…」
カタリーナとルパンが口々に言う。
「でもね…」
ルナはそこでつめた息をふうっと吐き、頭を振った。
「神に王として選ばれたのは…私じゃない」
「……ルナ」
「私は誰よりもこの国を愛しているわ。自分の望みの為にアレリを危うくするような…そんな馬鹿な真似はできないの…」
「……」
その時、
「やいやいやい！　さっきから黙って聞いてりゃ何だ何だ!?」
男達の一人がたまりかねたように叫んだ。
「結局は俺達を裏切るって言うのか!?　ルナ」
「裏切るというのはあたらないわね。始めからあんた達の味方のつもりはないんですもの」
「この…言わせておけば…やっちまえ!!」
声と同時の銃声。だが倒れていくのは反対派の男達ば

太陽への讃歌

かりである。ルナはマシンガン、ルパンはワルサー、五右ェ門も不自由な体ながら斬鉄剣を回した。

「はーい！お掃除おしまい」

全員が動かなくなったのを見てルパンが手をはたいた。五右ェ門、カタリーナ、そしてルナもホッとする。

しかし、

「安心するのは早かったようだぜ」

今までとは全く別の方向から声がする。いつの間に現われたものやら体格の良い男を先頭に新たな一団が、こちらへ狙いをつけていた。

「反対派の親玉よ。大蔵大臣」

「あれま…」

「ルナよ、馬鹿な仏心をおこしたもんだな。黙っていれば国王に祭り上げてやったものを」

先頭の男、大蔵大臣が葉巻を回しながらニヤニヤと言った。

「私、偏屈なのよね。お生憎様」

五右ェ門はその言い回しがひどくカタリーナに似ていると思った。血は争えない、と何故か安心する。

「まあいいさ。スペアはいくらでもいる」

「あら便利なのね！タバコのヤニ取りパイプみたい」

今度はカタリーナである。大臣は頭にきたらしい。

「用意！」

軍隊よろしく背後に命を下す。今度こそ、四人の進退はきわまったかに見えた。

「撃て！」

だが号令と共に吹き飛んだのは大臣軍の方だった。辺り一面もうもうたる硝煙、土けむり。それがようように晴れた所には、

「ふうじこちゃん!!」

バズーカを構えた不二子とマグナムを手にした次元の姿があった。

「来てくれたの！もーお大感激!! チューしてあげる。チュー」

「あんやだルパン、勘違いしないで。あたしはあなた達を助けに来たんじゃないわ。黄金のコンドルが欲しかったのよ」

不二子は言いながら先程地に降ったコンドル像へ走り寄ろうとした。

「だーめ」

その前にルパンが立ち塞がる。

「ん、どォしてェ!?」

「このトリさんはね、けなげにも一国をしょって立とうっつー健気な女の子に返してあげるの。ねー、カタリーナちゃん」

「え…っ」

カタリーナは困惑の表情を呈した。

その彼女へルナが歩み寄る。

「カタリーナ」

「ルナ、私…」

「カタリーナ。この国の王はね、太陽なの」

「太陽？」

「そう。誰もすぐ傍へは寄れない。けれど全ての人の上に立って光を与えるの。むろん影もできるけど、それはそれで必要なもの。そんな王様なのよ」

「でも私は…」

「王は太陽、人民は大地。どちらが消えてもいけないわ。ねえカタリーナ。あなたもこのアレリの国が好きなら、辛いでしょうけれど、上に立って頂戴」

カタリーナは目を伏せた。その後、五右ェ門の方へ向き直る。

「五右ェ門…」
その目とその呼びかけに一縷の望みが託されているのを、誰もが感じた。
「さっきのお願い…考えてくれた？」
「ああ」
「それで!? 連れて帰って下さる!?」
「だめだ」
五右ェ門は少女の甘い声をはね返した。
「なぜ…」
「女など足手まといだ」
「嘘」
「嘘ではない。ついてこられては迷惑だ」
短い言葉でつき放そうとする。が、それも長くは続かない。
「薄情者!! それが一夜を契った女に言うセリフ!?」
一同がギョッとする。ルナなどは驚く暇に五右ェ門の襟首をしめあげた。
「このドスケベ!! よくも一国の国王を手ごめにしてくれたわね!!」
「ちょ、ちょっと待て!! 拙者は何も…」
「問答無用!」
ルナは有無をも言わせず五右ェ門を袋叩きにしようとした。
「待ちなさいよ」
そんな彼女に不二子の声がかかる。黄金のコンドルが手に入らないと知ってふてくされていたのだが、見るに見かねたらしい。
「私が見る限りそのお嬢さんは未経験だわ。――
ねえ？次元」
「ま…そのようだな」
二人の言葉にルナは手を放した。

「それじゃ…本当のところはどうなのよ」
五右ェ門は仕方なくひとくさり話して聞かせた。もっとも、「その、なんだ」「つまり、アレだ」と云った不明瞭な言葉が大半を占めたのだが。
「ごめんなさい。――――でも、五右ェ門」
カタリーナが言う。
「私、あなたならいいと思ったのよ。抱かれてもいいって」
「…おなごが軽々しくそんな事を口にするものではない…。こういう事はもっと大切にするべきだ」
五右ェ門は頬を染め、立ち木と向いあってようやくそこまで言った。
「大切にしているわ。だから言うの。あなたならいいって。私、あなたが欲しいの」
「カ…」
「お願い。あなたとつながりたいわ。子宮がうずくの。ねえ五右ェ門!!」
べしゃっ、と音がする。五右ェ門が木に顔面をめり込ませていた。辺りも少なからずバランスを崩している。
「…おタクの性教育…いや、日本語教育ってそーとーな欠陥があるんじゃない？ ルナ」
「…再検討してみるわ…」
五右ェ門はようやく顔を引きはがした。その彼にカタリーナは尚いざり寄る。
「ね？ だから連れてって、日本へ。私…」
その言葉が済むか済まないか。五右ェ門は右の平手でカタリーナの頬を叩き飛ばした。
「あっ…」
勢いで地面に突っ伏す。皆が目を見張った。
「ご…」
カタリーナは頬に手をやり五右ェ門を見上げた。だが見えるのは広い背中でしかない。
「人には…持って生まれたさだめというものがござる…」
その背中が言った。
「役回りとも言う。皆がそれを果す事によってこの世はうまくなりたっている」
「でもこれは…」
「そなたは窮屈な暮らしから拙者へ逃げようとしているのだ」
カタリーナの肩がビクリと揺れた。
「そなたは自分をつまらぬ女だと言った。しかし、与えられた役を放り出すようではつまらぬ女にもなれまい。そんなそなたなら――――拙者は嫌いだ」
「……あ…」
それまで地面に座りこみ、五右ェ門の後ろ姿を見つめていたカタリーナはよろよろと立ち上がった。
「う…うっ…」
そしてあふれる涙を手の甲でぬぐいながら誰もいない方へと歩き出した。
「カタリーナ！ 待ってカタリーナ！」
ルナが慌てて後へ続いた。やがて二人の姿は木々の間に見えなくなり、かすかに声だけが戻ってくるのだった。
「――――帰りましょ、ルパン」
暫く無言で見送ったあと、不二子がルパンの肩を叩いた。
「こんな所にいつまでいたってしょうがないわ」
「…ああ。そりゃいいけっどもさ、あのデカイ鳥どーすんだ!?」
「知らないわ。くれるって言うなら運んであげてもいーけどォ？」
「そ、そ、それはだな…。うーん…」
そして一方、

「おい、歩けるか？」
次元が五右ェ門の腕を取り、肩に回してやった。
「かたじけない、次元」
「なんの。——大丈夫か？　もっとよっかかれよ」
「…すまぬ」

それから二日後。
時を合わせたように現国王が崩御し、新国王の戴冠式が急拠取り行なわれた。

新国王カタリーナ・ベルナール七世。神殿での式を済まれ、パレードに出る。大型のオープンカーに金のコンドル像と同乗し、市内中を走る。商店は全て閉店し、この若き国王の誕生を国民全てが祝福した。
「見ろよ。ルナが隣りに座ってる」
無人のカフェテラスを陣取るのはルパン一行。はるか遠くから向ってくるパレードを眺める。
「彼女、王様のたっての頼みで補佐官についたんですって」
「ふうん。しかしこうしてみるとカタリーナもサマになっているじゃねえか。なあ五右ェ門？」
「ああ…」
「イテっ」
彼の傷は全治三週間との事だった。
ふいにルパンは頭にぶつかる物を感じた。
「誰でえちくしょう！　ボールなんか投げやがって！」
「ルパン、それオープンカーから飛んできたのよ！」
「へ？…あれ、ホントだ」

太陽への讃歌

「見ろよ五右ェ門！カタリーナが手を振ってるぜ」
次元に促され、五右ェ門は目をこらした。よく見つけたと思うほど遠くからカタリーナは長手袋の腕を懸命に振っていた。
「手紙だ」
また、ルパン達はボールの中から丸められた手紙を見つけていた。
「なになに？『五右ェ門　ありがとう　がんばります　今度日本へ行きます　雪を見せて下さい　カタリーナ』だって！　ホレ読めホレ！」
「…ああ」
受け取り、短い文面に見入る。
「よかったな五右ェ門」
その耳許に次元が言う。
「ちゃんとわかってたぜお前が言ったこと。さすがお天道サマになるだけのコだ」
「ああ」
つかえていたものが外れたように、五右ェ門は暫くぶりの笑顔を見せて頷いた。
そして更に一週間。
「…三月も近いっていうのにひっでえ雪だなこりゃ。おー寒」
日本に帰った四人のうち、ルパンと不二子はヴァカンスと洒落て南洋の島へ旅立った。残った二人、次元と五右ェ門は雪の丘陵地へとやって来ている。
「おう、ここがいい」
五右ェ門は素足のままザクザクと雪の中を歩き、ひときわ高い場所へ立った。
「何する気だ？」
「叫ぶのさ」
「…何て？」
「バカヤロ――――ッ!!」
次元は吹溜に頭を突っ込んだ。
「なんだってんだ一体！」
「ふふ…」
笑いを返した五右ェ門は、目の端で何かの動きを捕えた。
「次元。あそこで動いている…あれは何だ？」
「ん？大方キツネかタヌキじゃねえのか？」
「…いや…翼がある」
そう五右ェ門が言った途端、蠢めく物はバッと大きく羽を広げ、大空へ向って舞い上がった。
「コンドルだ！」
五右ェ門が叫ぶ。
「馬鹿言え！日本の雪山にコンドルがいてたまっかよ！」
「まさか…そんな…」
しかしそういう次元の目にも鳶や鷹には映らなかった。
信じられぬまま見上げる二人の上をコンドルは三回旋回すると、遙かに遠い山並みへ消えて行った。

ちょうどその頃。
受け取る人もないルパンのアジトに一通のエアメイルが届けられていた。
『皆様
お元気でお暮らしでしょうか？アレリ王国のルナです。
あの時はありがとう。
実はカタリーナが亡くなりました。風邪をこじらせての肺炎です。就任後一月足らず、あまりにも早い崩御に外部への報道は控えています。
現在政務は私がとっています。カタリーナには悪いけれど、とてもやり甲斐があります。
けれど、太陽が沈み、月が昇るようではこの国も永くはないのではないか、そんなふうに思います…。
とりあえずお報らせまで　ごきげんよう…』

END

AKira
'83.1.15

トマスミングの墓
52ページだぜぃ!!!
ルパン三世番外
西海岸暇つぶし編
by 高師ひとみ
あら★
おかえりぃ
おもろい本は
めっかった?
バ
ひ
！

大したもんはなかったな
そのかわり
そのかわりって
あ
虫だなこりゃ
おもしろい話聞いてきた
ぴーん
ビーチで一番でっけえ敷地のフレミングって資産家のとこで目下相続争いだと
ひょっとして幻の砂漠の女王にお目にかかれるかも知んないぜ
確かにな一
西海岸は気候がいいし健康的だが
それにまあ増ーってする事がなくってな
おまえなそれは貧乏症というものだよ

けーどよー この条件 どう思ってみたって うますぎるぜー
ぶーぶー
それに"砂漠の女王"なんて実在も危い代物だしな
もったいぶってるけどねルパン君
ひとっ
毎日朝昼晩と水まきなんぞしてるのは誰だったかなーーーっ
ひーまなんでしょおぉーおっ
すいっ
わははははっ
じゃ まず設定を決める相続人候補とその後見人
すいすい
ほいっ!
どこより
いいな 長いうちをひいた者が相続人だ
ひよいっ
なーにやってんのよォ ロスくんだりまで来てェ
あら

来まり！不二子が主役
設定変更 相続人とその夫婦！
こういう事態を予側できなかった者としてはとーぜん
おるす番！
しぴっ
けどよくここがわかったもんだ
知りあいがハリウッドにね そのついでにいろいろ回っていただけ
こっちに来て2.3日はおとなしくしてたんだけど例によってまたふらーーーっとね
五ェ門はいっしょじゃないの？
ここがその富豪の屋敷？
…まー広いこた広いけどねー
不二子……
四方に安定してないってか…？
はっきり言っておかしな敷料ねー それこそ場所はねー一等地だけど
まー成金の趣味ってったらこんなとこか
少しだまっててくれた方が助かるんだけど
わかったわよ
誰か出てきた…
好きなもんものはかんけない！

はじめまして これからごやっかいに なります
もー 私の代になってもよろしくね
ごていねいにどうも
ようこそおいで下さいました 当屋敷の執事のジャカルと申します
私としましても 貴女の様な方にお仕えできれば幸せです
ま
いーのよ! 荷物なんて この人が持つんだから!
あんな~。
中へどうぞ
他の方々も すでにお集まりです
まあどう考えても 他人という方やら
今となっては 見わけ様もない 隠し子だという方も おいでですが…
キチンと 証拠の品を 持ってらっしゃる
それもまあ…
おふたかたですから 結構すんですけどねぇ

ほー
ちょっと キョロキョロして 何やってんの!?
え ちょっと 見つもり
あはは ごめん
これで9人と10人目だ
今度はどういう脚色をつけてきたんだろうね
あつかましいこと
あんたはどうだったの?

ではとりあえずこの部屋に
人手が足りなくてあとでそうじに来させます
えーこれだけのお屋敷なのに?
—はいそれもお言いつけでーて
お食事時にはお呼びいたします
はいどうも
では
さて困った召使いがいない
この前から退職金をやってほとんどやめさせてしまったし
通いだけではな—
かと言って御客人にくれぐれも無礼のなりよう言われているし…
何を考えていらっしゃるのか
ウィルさん!
今ね来る途中門の前でこの娘をひろったんだけど
なんかやとってほしいって言ってるよ
ご無理をいってすみません

で
どうするの これから
宝石かも おもしろいけど 砂漠の女王なんて ほんとにあるの?
人の口に登らなくなって何十年もたつわ
架空の宝石って説が有力よ
それを持つ者は王の運命をたどる魔力の宝石…ね
ま それが実際あろうとなかろうと
うまくやりゃあトマス・フレミングの全財産が手に入るんだ
そんだって大したもんだぜー!! 個人のシュミとかはともかくもー!っ
わかった わかった
失礼します
おっと
お部屋のそうじにまいりました
じゃあたしはとなりの部屋をやってくるからね
はい
わかんない事あったら聞きにおいで

くるっ
あ、…と いけなり コンセント
そこ! その右下のとこ
なに 君入った ばかりなの?
はい 今日から なんです
だったら 氏の孫娘とでも 名乗ればよかったのに、
は
んなこと しないで 左うちわ よー!・
……
おそうじの ジャマになる人は 表で遊んでなさいね
Hi
にっこり
Hi
にっこり
ずゞゞゞ

かけないけ?
ありがとう
カタ
ごあなたはどういう方なのかしら?
私はパム
こっちは主人のラルフ
氏と生き別れの息子というのが私の父だったわけで
つまり私は孫娘にあたるわね
あなたが?
シオドアの?
彼今どこにいるの
教えて!
ひと目でいいわ会いたいわ!
無理よ
死んじゃったんだもの
三年前に車の事故で…母もいっしょだったわ
そう…
…三年も前に…

シオドアとは
同い歳なのよ
わたし
恥ずかしい話よ
今じゃその父親の
世話になってるわ
トマス氏は
一代でこの財を
成した人でね
10歳のとき
母親に去され
父親はアル中で…
兄と二人ずっと
苦労してきたわ
そのあと
別々にひきとられ
でも小さなマーケットを
ここまでにしたのは
彼の力だわ
そのことがあって
よけい仕事に熱中
したあげくに
妻は別に男を作って
逃げられて
彼は誰も
信じなくなったの
シオドアが
出てったのも
その頃よ
…ずいぶんと
救いのない
人生
けれど兄さんというのが
事業に失敗すると
彼にすべてをかぶせて
雲がくれよ
夕食には
他の人も集まるわ
会ってみればあなたも
人間不信に
なるんじゃない?
特に
伏せってからは
執事にしか
会わないの

……
えーと　こっちが
十五ほど
歳のはなれた
いとこと女房
うげっ
弟(?)
男とにげた
女房が次の年
押しつけてきた
姉と……
夜逃げを
するとき
兄の拾っていった
娘とその亭主
氏の母親がその後
再婚して生んだ　妹の
孫になるという男
愛人だと言う
ミランダ
へー　かわった皿
つかってんだ
ところで
そちらの
見なれなりろは
氏のお孫だ
そうだけど
あとで
くすねようと
ほんと
立ちどころに
人間不信
おー
やだ

トーーッこり
ええーーーそうですわ
シオドアの指バムです
今はヒンクリーといいますが
何か証拠になる物をお持ち？
不二子
来たわねさっそく
今出します
どうぞお気のすむまでお確かめ下さい
バサッ
す
それ以上は失礼になりますよ
それだけおっしゃるならみなさんのネも見せて頂きたいものですが
納得しがたいが偽物ともいいがたい
でも写真だって細工できないことないわよ
し…ん。
静まりき返り
こっふぉっふぉっ

ああ
すまないが君たちは
席をはずしてくれないか
はい
それでは
一応
みなさまが
おそろいの
ところで
氏の意志を
お伝えします
都合により
私がこの通り
代弁させて
頂きますが
そんなバカな!
我々はここに来て
まだ一度も氏に
あってはいないんだぞ
いくら執事だからって
他人のあんたなんか
信用できますか!
お静かに
氏は面会は
なされません
それに私は
五十年間御主人に
仕えてまいりました
失礼ですが
この中のどなた
よりも
信用されている
つもりでおります
どす
ご不満の方は
即刻この場より
お立ち去り下さい

では——
その一 私の遺産は全て 私の血筋をひく 者の内一名だけに 与えるものとする
その二 すなわち その者は 屋敷内のいずれかに 隠しておく 家宝のルビーを 見つけ出した者 である
砂漠の女王だ!
その三 宝探しの期間は ただ今から 私の死後 二十四時間以内とする
これを過ぎた場合 一切は公共事業に 寄付される事と なっている
但し 例外を認める その三 先にあげた条件の 内から一部を外す場合 がある
——以上
ぱく
三つめのは 問題外だな
遺産の一部とは ルビーやこの屋敷また 事業に関する様な 物ではなく
その例外となる 特別な条件は 執事のウィルにだけ 教えてある
最後に一言 つけかえるならば
—ヒントは お前達一人一人 平等に 与えてある——

ヒントっ
てーたってなぁ
かいもく
見当
つかねーや
どすっ
ずっ
!!!
わーっ
ぶ
よー ネニ…
じゃねーんだパム!
何か手がかりは?
だーめよー
やっぱやみくもじゃ
あーやーとこ
シロウトだね
やっぱり

それにしてもここのあるじのシュミには感激しませんか？
他の奴らも同じらしいあっちこっちに潜ってる
見てよこれ
あんまりみたくない…
資料がないのでからじしをモデルにアレンジしました…
狛犬だろ
だからねーっ
何でこんなとこにあるかってことよーっ
ま 個人の趣味にケチをつけてもしょうがない
ポン
ボロッ…
ぱん
こまいぬっ あたまっ!!
何だよコリャ！
えー…つまり何だな
うん……いい趣味…ってことよ
なあ？
説明してもらおじゃねか

ちわ
大変だね 人手が 足りなくて
お昼ーは まーだかなー
まーだ 11時前ですよ
…ったく大の男が ヒマもてあましているなんて!
ん〜
この皿… 全部模様が ちがってる
あ…
この高さじゃ きついでしょ
怒られたからなー 少し手伝うか

そりゃそうですよ
組み皿なんて
全部そろって
意味があるんん
ですから
万が一…の可能性はあるな
なるほどね
これだったら
十人に
一人ブブ
確実にヒントが
あたってワケだ
もしもーし
次元ちゃんいるーーぅ？
ルパン!!?
あぁーなぁ！
人に留守番さしといて
連絡もできねーほど
あに遊んでやがったーーっ
悪かった
こばー！
あ、ちゃんと
水まき
してくれてる？
したわい
…四回もな

まーったく
こういう事だけ
俺んとこに
持ちかけやがって

パカ
よっと

割れもんばかり
だかんなーー
気ィつけんと
じっ
これか

じゃま
したな

なんで次元にまかせたの
まだ今は大人しーくしてるのが利口なやり口だと思ったからね
そりゃヒマんだから
実はこれがマジックミラー
一応ハンガーでなんとかなるけど
クリーニング
そいから盗聴器
ふ
海千山千ね
あとは次元にまかせて休みましょ
ぼふっ
どーせ明日もお宝さがしだもんね
ほんにねェ

どこも
あらかた
探してきた
みたりだな
一人として
何か見つけた
様子はなし
やっぱり
次元のじゃ
ないの？
何か
見つかった？
ずいぶん
いい場所に
いるじゃない
いーえなんも
今降りようと
したとこですわ
それは丁度
よかったわ
よかったら
お茶につきあわない？
ウォーレン！
あなたもどう
よっこらせ

あんだ このコ。
むっ
この陽中にシャベルなんか使ったら大汗よ
あとにしてヤーくらいつきあったら?
ミランダ あなたってどうしてそうゆったりしていられるの?
何もさがしてる様子はないし
こなりだから聞こうと思ってたんだけど

私は……
それには対象外だもの
ただここにいて
傍観するだけだわ
そうね…
私
何なの
かしら
赤の他人じゃないか!
結婚していた
ワケでもなし
子供を生んだ事もない
ただの囲われ者だ
今の内に
なんとかとりいって
遺言を書きかえて
もらう気か
それとも
今度は次の
主人の世話に
なるつもりか?
知ってるぜ
あんたシオドアとも
通じてたんだ
ウォーレン!
こんな事態になって
なお なんであんたが
ここにいる必要がある
自分がこの家に
いられる人間だと
思ってるのか!
やめて!
よさないか

私…ちょとあの
先に失礼していいかしら
大丈夫?気分が悪いんじゃない
いいえありがとう
傷ついたような顔をして
言葉をかけてくれるのをまってるんだ
都合よくじいさんが死んでくれたらもし息子が帰ってきたらよりをもどすつもりなんだ
あんな女他人に寄生して生きてるようなもんじゃないか
長くいる男と女ってのはそれだけじゃすまないのよ
それと
二十年以上も他の男の事を考えながら
今の男から金だけは巻き上げようと考えてる
ずいぶんとあんなってのを連発してたけど
あんななんて言うからには他にも誰かをさしてるんでしょう
自分自身を平気で売り物にできるんだ
いつまでもそれしかできないあんな女を信用するなんて奴はバカだね!
でもねウォーレンくん
不二子
さようまに昔の女か母親か今でも言えない暗い過去ってとこかしら

ザッ
おっちゃん おっちゃん
…
なんだ ぼーず
むっ
これ ヒゲのおっちゃんが わたしてくれってさ
ザン
はい ありがとさん 坊はかしこいねー
じっ
くれ
はーっはは
ザザ
こんの…
なんで しまさんの あのおっちゃんは 2ドルくれたぜ
ガラッ

こいつか…
それにしても
ん〜と
さぞかしヒマがつぶせたろ
ぷ
めんどくさいから かかないよ!
それと気になる事が一つ 一行がここに移ったのはごく最近らしい
錠 業者にあたったが皆 部分部分しかわかっていないようだ……が
どこか普通じゃないと一応に口をそろえて言うので
パサ
また何かあれば連絡する
屋敷中さがしたとはいえ
ガチ
しっかしこいつぁどこのカギなんだぁ?

だめだ
戸棚でもないし
何だってんだ
この辺になると
あかずの間
ばっかしだぜ
なんか
確信なくなって
きた……
考えてみりゃ
こいつも
オトリかも
知れないし
この部屋あたり
屋敷の中心に
なってるんじゃ
ないのか?
これでだめなら
別の手をさがす
しかないな
カチャン
!
あいたぁ!

はい
ごめな
Mr.トマス!?
こりつぁ
思ったより……
入ります

執事！
カチャ…
……
何をしてるんだ？
はあー
パラ
この場合にはどうするんだった⁉
とにかく…これの通りにするしかないが…

ふーん そういう事か
だろーな こんだけガキが来てちゃ
おまえ…
何てこった もう誰が本物か偽物か見わける人間はいないってことだ
何の事を言っている
あんたも偽物なのさ執事さん!
顔だけはうまく作っても
その手は20代か30代の手だ
変装をとってもらおうか
ぴ…
んふ
私はマクレディ弁護士だ

執事も氏とはりあう
ほどの歳だ中風になって
今は娘の家にいる
たのまれて
断わりきれなかった
ふーん
じゃあんたお宝の
ありかを知ってるワケ
そう思うか？
それについては
何も聞いていない
もーかーて……
いや多分
彼も知らされて
いなかったのかも
しれない
どちらだろうと
いい訳だ
氏は
今しがた
息を引きとった
私たちは出てゆく
これにある通り
彼の死と共に
使用人は解雇される
……は＊

とにかくも たどってみたら ここまで 来たんだ
よもやじーさん 自分の死に目に 会わせるためだけじゃ ないだろう
あの天井 あたり いかにも それ風だね
よっと
ほー
まっ暗
あかり あかりっ
ハシゴつきとは ごていねーに

――求むるはこの真下にあり
己が運命を見よ――

パンパンパン
なんだあんた まだいたのか
今夜は通夜だ みんなには今 話してきたから 後はよろしく頼む
あ! やっと見つけた
バタン
弁護士さんもいたんですか? 下で呼んでるので いってあげて下さい
なにかあったの?
ま…ね
そう でも今夜は動けないわね これじゃ
でもびっくりしたわー 弁護士だったなんてゆー 知らないだろうけどこっち ちょっとしたさわぎだったのよー
ズズ

一面鏡
ガッ
おーい!!
部屋を移すの
手伝ってくれ
女たちが
いやがってな
わーった
今いく!
バタバタ

ない
身につけているのか?
バッ
チャリーン!
あんたとは短いつきあいだったねえ
けど元気でね
名残りおしいほどいたわけでもないだろう
そうですね
いく所はないのか
ないからここへ来たんです

くかくか
え、
カタ.

何で いかせたのよ
笑うなよ
言うなれば "悪い予感"って やつさ

俺の見た "あれ"は 道標よりは 警告だった気がする
まあ そうでなくとも あいつらに一度くらい ぬかよろこびさして やってもいいだろう?
ザザー!!
やっぱ夜ふかしは ひえるよな トイレにいって くらぁ

う〜
よぉ 次元 夜中で すまなりな
じーさんが くたばってな
あ〜
そんなワケで よろしくたのまぁ

ん?

…? なんだあの音は
4時過ぎ か…

外じゃなくて中からだ
カチャ
あの娘の部屋じゃないか！
どうした？
バチッ
貸して！
これは…知ってるぞ
執事に昔の写真を見せてもらった覚えがある
…じゃこっちのだっこされてる子供は
う〜〜明けがたなんてきらいだっ！
ガチャ
よっと
ん

五ェ門！

アラスカ産

シャケだと思って下さい。

ほんと
ごくろうさま

思ったほど
せまくも
ないんだな
ふふ…

これで決まりだ
俺が この屋敷の当主か
ふふ… 笑いがとまらんぜ

どーもムリがあるなぁ…まわしゲリでもしたと思って下さい

ズギャン!
ギシッ
ギシッ
なんだ!
地震か?
きゃっ
気をつけろ! 大きいぞ!
うぅわ
な! 何なんだ急に!
グラッ
ゴゴゴ
ブギッ
ひぃ…
ガラガラ

外へ出ろ！
立ってなきゃ
何かにつかまって
走れ！！
バリャン！
キイッ
バ！！
こりゃあ…

くそっ
かなりの力が
加わってるらしい
はぁ
はぁ
はぁ
他に出口は
はぁ はぁ
どこも同じよ
窓はシャッターの
上からさらに
くずれてるし
はなれてろ!
五エ門!!
次元!

出番がとても少ないので特別にアップにしました！
！
おおっ見てみろ!!
あれは…？

〝砂漠の女王〟を
手にした者は
王（ファラオ）の運命をたどる
よくもまあ
まさかとは
思ったけど
完璧だぜよ
じーさん…

みなさま本日は当観光バスご利用まことにありがとうございます
正面にみえますこれが一夜にして姿を表わしたというピラミッドです
へーこれかー
なんまんだぶなんまんだぶ
ありがてぇこった
すごい人だわねぇ
ちょっとない見せ物だからな
それにしてもヒマ人だらけ…
残りの二人はついに見つからなかったそうね
地獄へ道づれか孤高の王はよほど寂しかったとみえる
ザワザワ
ワイワイ
おー……い
ワヤワヤ
ワイワイ
ザワザワ

やあUFOマン
無事だったんだね
ありにくと
それよりこの頭でよくおわかりになったこと
キャはっ
まーたよ
美人がとなりにいたからね
あれ…もしかしてメイドの…
ああ彼女
なんと正真正銘フレミング家の相続人だ
ここまで来たものの遺産めあてと思われるのがいやだったとか
えーっ

謙虚な人だったのねー
うん！そーだねー
彼は確かにこういう人間だったが…
家出した息子のことだけは気にかけてたらしい
遺言の中に例外があったのを覚えてるか？
ああ遺産の一部がどうとかー
ここからそう遠くない所に昔住んでいた家がそのまま残してある
万が一でも息子が帰ってきてくれたら一緒に住みたかったんだろう
あと有能な弁護士としては宿を失くした人たちに少しずつは援助がいくようにとりはからって
それでこの件はおしまいだ
パァー
彼女を送っていく途中だったんだ
ふーん
さっしがいいね さすがルパンさんだ
じゃ
フン！
なんでー
ワイワイ
ガヤガヤ
あのやろーわかってんじゃねーか
でもって俺たちだけもーけなしか
なーにが有能
美人といわれてキゲンがいい
まあまあ！のみくいもした

俺たちもぼちぼちいこーか
ああそうだな
そろそろ休みもあきたしな
くそ
そーよルパン日本に行けば銭形もいるし
上体そらし
埼玉県警
へくしっ!
これだけの出番の人
日本……とっつあん……
とっつあん……
そーだ!
俺にはそーゆー楽しみがあったんだっ
いい性格だ……
なにやってんだよ日本へ行くぜ!
たのしい仕事がまってるぜっ!
ひゃっほっ!
おわった…… ぜぇぜぇ…

Good Bear

私立ルパン大学

──入 学 案 内──

教　授　来生　翔
助教授　潮　藍

（歴史）
昭和46年にルパン三世を総裁として、ある場所に創設された。（地名は明かされていない。）
泥棒の根本に立脚して精神・技術をみがくことを目指している。
昭和52年に拡張され現在に至る。
わずか10数年という歴史にもかかわらず、多大な業績をあげている。

（施設）
世界一の蔵書を誇る大図書館・美術館・博物館・宝物館をもつ。他にも資料室
コンピューター室・武道場・射撃場などがある。

（学部展望）

◎盗学部
盗学部が本大学唯一の学部として本大学発展の原動力となってきたことは紛れもない事実である。現在、詐欺科・窃盗科・強盗科から成り、最高の教授陣は輝やかしい実績をもち、学生の指導に当たっている。
こうして輩出された人材は広く産業・政治・もちろん泥棒などにわたり活躍しており、地域的にも全世界に及んでいる。

・詐欺科
詐欺科の学生は一年次から一般教養課程とともに専門科目を受講し、二年次より結婚詐欺などを自由に専攻することになる。どれを専攻するにしても豊富な講座・実技が用意されている。

・窃盗科
最も多くの学生を世に送り出してきた。警察の向上に対抗し、研究法には常に最も新しい方法・技術を採用している。スリ専攻・あきす専攻など自由に専攻できる。

・強盗科
最も知名度の高くなりやすいこの科では、一日に入る収入が大きいので、危険性も高い。そのため非常にきびしい道が待っている。銀行強盗専攻など多岐にわたり、自分の能力に応じ、いくつでも専攻できるが、進級はむつかしい。

◎一般教養課程
現在の泥棒は、ただ単に盗みができれば良いというわけではない。ハイソエティな教養もまた泥棒には必要である。

◦文系課程
・語学専攻
世界を股にかけようと考えている者などは、特に必要である。ここでは最低五ヶ国語を徹底教授する。
・文学専攻
古典・神話なども重要である。何事も意外なところに真実が隠されているものだ。暗号解読にも役立つかもしれない。
・歴史専攻
歴史上の史実は重要である。特に裏舞台などは絶対に覚えるべきである。そうすれば、ニセ札の原版も手に入るかもしれない。

・地理専攻
逃走経路のためにも必要である。
・政経専攻
政治情勢を知らねば大きな仕事はできない。経済に関してもしかり。
・その他多数あり。

。理系課程
・地質学専攻
地質学の知識なくしては、油圧式の金庫は開けられない。
・化学専攻
魔術師と対抗するためにも、硫酸の中の宝冠を盗むためにも化学の知識は必要である。
・その他多数あり。

。体育課程
平生から体をきたえておかないと、いざという時に力が出ない。ここでは武道などの肉体の鍛練・座禅などの精神の鍛練をし、集中力を身につける。

。専門課程
・金庫破り専攻
泥棒のロマンともいうべき金庫破りを徹底追求する。世界中の金庫の見取図もあると思われる。
・変装専攻
自分の素顔がどうであるかすらわからないという変装の天才である総長自らが教授する。習っておくと非常に便利である。
・脱獄専攻
非常にユニークな教科である。特別名誉教授として銭形警部をむかえ、脱獄を実践教育する。なを、銭形教授には、御自身の立場を知らせていないため、手加減は一切なし、失敗すると刑務所にそのまま就職することになる。
・その他多くの専攻があり、自分の能力に応じいくつでも専攻できる。

（学費）
入学金
授業料
運営費
施設費
保釈金
} 詳細面談

（就職状況）
情報部・企業・自家営業・政治家・刑務所など。

（入試概要）
。受験資格
・当大学の精神をよく理解している者。
・能力のある者・またあると思われる者。
・警察関係でない者。
。入試
面接及び実技　　期日未定
。募集人員
50人

THE SHOT
RYOICHI OOKI
!
お前一体何投げたわけ…？
眩惑弾…のつもりだったんだけど……
なにぃ、お前ン処じゃ眩惑弾が爆発すんのかよ！
ちょっとォ！
あとで請求書まわすからね！
ぎくっ

なにしろなマグナムが効かねェ化物だ……

おめェのヤッパとこの――

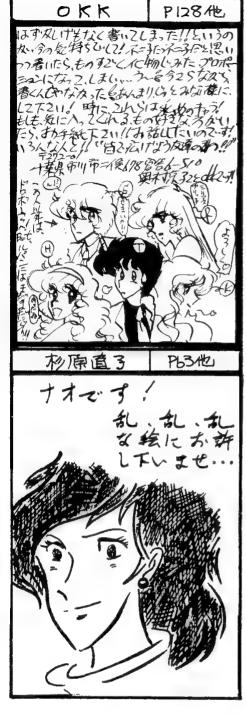
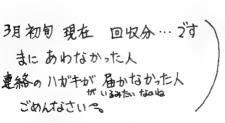
対戦車ライフルで……

どてっ!

ネ二子さん……
潮時が来たので
お別れをムムに来たの…
ネ二子さんあなた……
すごい芸をお持ちなんですね♡
どーやって一度にお脱ぎになるの♡
あのな～

ああ!
くっ
?
い〜〜
ガギガギ
ニラニラ!

1982/12.15日
Fr. BRown

こおき

古市雅樹	P125

ぐちゃぐちゃのイラストをかいてしまった。
ビビンバ古市です。
このイラストで初めてペンをとりました。
ルパンは小学生のとき(…だったかな?)本放映か再放映か忘れましたが旧ルパンでオートバイの女(不二子)のライダースーツが気に入りました。実は新ルパンって旧ルパンそのままの続き(つまりお蔵入り)とおもってました
↳アドバイス・おたより・いちゃもん・イラストのさそい ありましたら下記へ(あるかな?)
〒910 福井市上北野町中通87
古市雅樹

くまのまさこ	P28

見てのとうりぼくはくまです。人間のようにうまくイラストはかけません(今さら言いわけなどみぐるしい)申しおくれましたが「Don't look away.」をかいた熊のまさこです。別にぼくは伯しゃくのファンじゃないんだけど…なりゆきというか…そうなってしまったんです。うん あっ題には「Don't look away」としましたが、ぼくのページは見ないで下さい。目がくさりますよお。あ〜〜目がくさってるう――!!「サンフランシスコ大追せきで次元の「それがドロボウのてつがくってもんよ」っていうせりふ大好き!! どんなことでもいいから おはがきなどまってます ではぐっどばい
〒939-13
とやまけん となみし みやむら 286
くまのまさこ
・県内又は近県にLFC、次FCなんてありますう?(あったらはいりたいナ)

FIAT	P384他

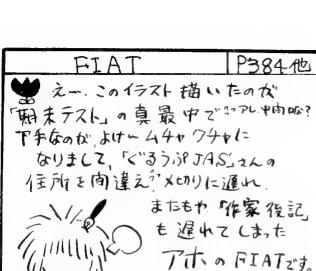
えー、このイラスト描いたのが「期末テスト」の真最中で（アレ、中間かな？）下手なのが、よけームチャクチャになりまして、「ぐるうぷJAS」さんの住所を間違え、メ切りに遅れ、またもや「作家後記」も遅れてしまったアホのFIATです。

個人的でスミマセンが、浦野晶子さん、これからもよろしゅうた

日向良	P126他

ど～も日向良ですぅ ヘタな絵ですみませんでした でもルパンを愛してるんです。彼らを心から愛しちゃっているのです。できれば感想などいただけるとうれしいです。ヘタッぴやめろなどなんでもいーですお送って下さい

〒239
横須賀市佐原1の19の13
小林方 日向良まで

寺沢永子	P127

陽のあたる大通りで
—II—
発行おめでとうございます♡

1Pイラストかいただけなのに こんなスペースをもらってしまってよいのでしょうか なにしろ後記なんて初めての経験ですので……
寺沢永子でした

Left	P191他

私はとってもめかおんちなのです
やっとでマグナムとかかけるくらいで（それもカタチにならんので今回は書いてません）
く…車があああっ…
ホワイトなんかもものすごいし、出来んでなかった…
笑ってやってくださいっ！
left

神本螢	P187他

はじめまして、神本螢です。いくら描いても似てくれないので、自己流でごめんなさい 実は、これが同人誌デビューでして… 今後、よろしくお願いします。
1983・2・25

4月から大学生だど～!!
映画みたい～！金がない～！
ヘルギさん愛してるよ～

朱鷺あつし	P387

ルパン大好き♡の一念で描いたものの、まったく似なかった。
ワォ～ン
ぶざまなモンさらしてスミマセンでした
でも…でも、想いだけはみんなにゃ負けないモン♡
by アホのあつし

愛用のハンテン

ゆいち・ぐた	P135他

はじめまして ゆいち・ぐたと申します 生まれてはじめてルパンを書きました。（イラスト2Pだけど）構想は、確か、物理の時間におもいついたと思います。学校は遊ぶところ♡
ちなみに私のモットーは三ムチ主義
"ムチ！無知！無恥！

レイと武門虎造さんと香さんが好き

時代劇大好き少女です。
春から どわいがくせい

小山美香	P58

ごめんなさい…
もうこれしか言えません。こんなにステキな本に載せてもらえるとは……感激です。
Mika

康直　P186他

康直
四月に高校生になる
予定です!

菊ちゃん　P64他

ルパンって何を考えてるか、わからない所がいいですネ!
それに とても中年には見えないところも!
とにかく いくつになっても好きになれるキャラクターです(どこの場面か、おわかりでしょうか?)

清野陽子　P38他

今思えば どーしよもない
へたっぴな絵を描いてしまったよーな気がする……。
貴重な資源を大切にしましょお。
えーー ところでシトロエン
2CVが欲しい今日この頃でございます。ムリな話だ…。
しょーがないっ! サンルーフ付のワーゲン、ピンクに塗装して代用しよーかな。えへえへっ
ルパンも次元も五右エ門もネコ子ちゃんもとっつぁんも好きだけどクラリスが♡♡

宇佐美魔夜　P446

お目汚しのイラストが採用になったばかりか 作家後記というビジャーものをかかせてもらった
宇佐美魔夜です。ども。
年くったせいか最近やっと旧作の良さがわかってきました。
再放送してほしい♥
初代五右エ門のお墓の場所を御存じの方は下記まで御連絡を。
〒5[illegible] 大阪市[illegible]1丁目[illegible]
大西方 宇佐美魔夜

FIN　P174

次元も 五右ェ門も
素敵だけど，ルパンが
時折り見せる あの顔
が たまらなく
好きなのです

BY. Fin
誰でしょう?
ウッ……

時幻流星　P237他

あ、あの…時幻流星です。
400Pもの本に、わたしのヘタなPOEM付イラストをのっけていただきまして本当にどーもありがとーございます。イメージがつぶれたという方、ごめんしてネ…
でも全然知らない人と一諸に、本をしかも"ルパン"のをつくれるなんて、とってもハッピーでした! 出来上がりがとっても楽しみです。
☆　☆　☆　☆　☆

F. May　P134他

「うぐいすがほえてる」、「油の火がない」(石油がないの意)と言いまちがう度に笑い者にされる。書きまちがうことも常、こんな字あったっけ?と"冗"をいっぱい書いて悩んだり… 変人に変人と呼ばれてる私はもう正常…のつもり。
ねーむれぬよーるは、
なーがくてつーらい
つらいわあ、つらい!
"陽のあたる大通りで"読んだらつらいのなおった……
F. Mayでした。Thanks.

魔笛良一　P297

Aiサマ♡のっけてくれてどうもありがとうございました♡

ひどいモンを投稿したよーなキオクがある…!

「ルパン三世」は描きづらかったの覚えてます。ハイ
とはいえ、好きだから…
描いてみたいしなー。
BUT、ホンットにあれ使ったンスか~~~?!
ひえええっ400ぺえじ?
め…めまいが……!
From. アニメーターのひよこ
魔笛★良一♡
(まふえ りょういち)

ルパン三世大っ好きや♡♡♡♡♡ルン♪

浦野晶子　P107

今回書く積りなんてなかったんです！本当なんです！信じて下さい！前回の創作集発行以来しばらく落ちこんでた。なんて言っても誰も信じてくれないんだもん くすん すん　大体、作家後記を書けなんて誰からも言われてないんだもん。そーなんだもん！そーだ そーだ、「陽の…」Ⅰをお読みになって、愚誌にお申し込み下さった皆様 本当にありがとうございました。もひとつ、ぎんさん、急に頼んじゃってごめんね——。

浦野

ぎん　P107他

わっはは一、どおせワシは♡みーはーだよ もんくある人はウラたんにどーぞ

ぱーぷーのぎん

錯魔乱　P298

誌上を汚してしまいまして、どうもすいません。

この作品、一番絵が乱れていた時に描いたもので、キタナイんですぅ。

今、もっと上手くなっていますんで、またこんな機会があったら、描いてみたいなどと、思っていたりして……

ぐるうぷ：メドゥーサの人〈錯魔乱〉でした。

高瀬言　P141

☆☆☆☆☆☆☆

☆〆切りまぎわの頃学園祭がありましてすったもんだ苦しんだ初めてのマンガです。ひどいもんだ。

☆But、愛さんの「うまい下手は関係なく」の言葉に何度救われた事か……うっうっ。

☆JASのみなさん、ありがとうございました。なまいき言ってすいません。ルパン命!!（高瀬言）

☆☆☆☆☆☆☆

大木良一　P571

☆わしは習字の時間とか美術のレタリングの授業が嫌いでの…なんせ、ホレわしの名前は単純な造りのくせに上手に書こうとすると難しくてな…でHAWKEYEちうP.N使うとったんやが、ニ―ヤーいヤつうすんもピンとこんのでな、しゃーないでここ当分は本名のままで通すけん、よろしゅうにな♡ところで何か仕事ありまへんかいな。わしに出来ることなら何でもしまっせ！アニメに出てくるGUNの解説なら お手のもんじゃき、こっちの方もよろしゅうにな♡

タバコ吸うよーになっちまったぜ

ニムムンクのパロのつもり!!……

174cm 54kg　いたって不健康！

六車博子　P244

旧ルパンが観たいよ〜!?

でもさー、理屈だと旧ルはあくまで「ルパン三世」であって新作の方を「新ルパン三世」とか「ルパン・2」（おお！ケーハク!!）とか呼ぶべきでないの？

ウララ〜つまらん事を……（しょーもないもんかいて落ちこんでる）

大いなるスランプ中の㊅でした。

アホ

潮功　P246他

えっ?! 作者後記〜〜一体何を書いたらいいんだろう一こまった〜〜とにかくヘタな絵でどうもすみませんでした… 本当にとんでもないものを描いてしまったと後悔しておりまする…ふにゃん？

潮功

GOEMON

水城涼　P72他

祝!! ルパン三世創作作品集PartⅡ完成＆発行!!　前にもこういうことをかいたようなっ

いやいやすごいですなァ〜!! PartⅠを上回らなければPartⅡを出すイミがないといいますがほんとですネ!! こんな本に出させてもらいまして ひたすら頭の下がる思いです。ともかくルパン三世が好きな私です。ですから今、とっても幸せです。ほんとうにありがとうございました。

水城涼でした♡

タナヘー　P124他

え〜、今回イラストとカットを少しばかりかかせていただいたタナヘーでございます
僕みたいな未熟者の絵を載せていただいてありがとうございます。技術がなさすぎて、どうしても手抜きに見えてしまう
でもこんな400頁ものりっぱな本ができるなんざルパンファンのパワーもすげェもんだぜ!!
日頃めだたないルパンファン、でもあのルパンも言うように、「粋にやろうぜ! 粋によ!!」
1982.12.15 タナヘー

バン!!

こんなりっぱな本をつくっていただいてありがとうよ

R・J　P192他

ど〜しよ〜もないもの 描いてしまいました
ごめんなさいっ
でも… いい記念になりました♡
ついでに、また病気が復活しました
ああ 普通の生活にもどりたい
—R・J—

い〜まさらしらじらしい

南水樹　P252他

はじめまして…♡
もう、しょーもないもの描いちゃって、すみません
ほんと、恐縮と思う次第でする あーはずかし
それに絵柄も大分変わっちゃったし…
どうも、おじゃましました。
南水樹

古谷むつみ　P308他

旧ルパン・カリ城大好き人間です
S37生まれのOL
おとマなかた
お手紙下さい
〒140
東京都品川区
東大井1-15-10
古谷むつみ

第1話だけビデオとりそこねた

最近やった旧ルパン再放送にやや不満
あのOPをかえして

だれかあの古き再放送ビデオにとった人見せて

SATO　P310他

お初に お目にかかります。大御病気人のSATOです。お見知りおきを♡ また マニパロ界に足をつっこんで1年にも満たぬ弱輩者です。没を覚悟で投稿(になるのだろうか?)させていただきました。ルパン大好き♪でも描いたのは初めて、似ないんだもの。いったい、どのシリーズをモデルにしたのかわかります?(すでに本人も不明になっている)
1983. Feb. BY: SATO

冬はモンペが最高だぜ

覇流空　P122他

私はクラリスよりも
不二子が好きじゃ!!
なんつっても不二子が
一番なのさ!!
覇流空

Father Brown　P105他

F.Brown

いやいやなんなんなな あっはっはっは
またもや人の顔をおっことしてしまいました
え〜〜。ごめんなさ〜〜い。
あたまがすっかりぼけてるだけっ。
いまさい、てつ夜で「1/2の三四郎」よむんでるなった なんて平和な就職浪人
う〜む、ぼけてというより あたまうたいね。
いないわ。何かいてるかわからんな
すんませ〜ん。
83.2.27

有紀零　P442

え〜っ!!うっそぉ!!
と、今だに信じられない有紀零です。なんせペン入れ初めての代物でして、完璧にページ汚しじゃあ!!と、ひたすら恐縮しております。ハイ。ルパンは、新旧映画版ひっくるめて愛しちゃってます。回想のシャドウを完全に理性を失ないます。最近カリ城完全版VTRソフトを共同購入いたしまして、ルンルンの毎日でーす。

クラリスにチョコ贈ったで!!

しかし、ぜんぜん後記になっとらんな…
1983.2.24 零

えんどう みちる、	P107

たわごと‥

私は長崎の裏に住んでます。
裏から3分でグラバー園です。
すぐ前は精神病院です。
となりは修道院です。
おととい6件先が火事でもえました。
「カリオストロあれこれ」は
そんなところでかいたわけです。

魅開 拓	P24

魅開 拓です！
どーもつまらん作品ですみません。
ジョーダンで、手抜きで描いたのに……
それがジョーダンにも載るんだから
まさにこれはジョーダンな本だ！
こんな訳の分からんもんが載るくらいだからきっと原稿量が少なかったんだろナ。おかげで当分の間知り合いに馬鹿にされそうだワイ。
17才を目の前にして早死にはイヤだよ～。

実物とほとんど違わぬ体型

あんなろう〜〜	P239

京の都 嵐山電車沿線の赤い星：あんなろう——
ペンネームのいわれを説明しようとすると長くなるのでやめ。
少々P.ホイモンの歌詞とちがうところがありますが勘弁しておくれやす。もとはノートの落書でおましたので…。カンケイないことなんですが、大学で政治活動家とノンポリ学生の狭間にいていじめられています。この可哀想な小市民的書生に愛の手を下さい。私のかけないカリ城の不二子のイラストを下さい。
(はんのこっちゃ？)
秋山さん、えんどーさん
謝々您

留 止	P499

あたしはね——
あたしはね——
あたしはね——っ
佐馬チャンが好きな

…と書けい！と愛サンとJETさんに~~脅され~~すすめられましたので…
いーのよ どーせ佐馬には地位も名誉も財産もまつげもないのよーだ！ くすん みんみん
外は雪でもおつむは晴天の留っちゃん
Re 1983年2度目！

Gelar	P54

えっ！
作家後記?! あんなものを載せてもらっていーのでしょうか？
(ひえーっ!! 石を投げないで下さい…)
しっかし、陽のあたる大通りで一Ⅱ一B5で400ページだなんてすごい!!

ゆーびんです！

ルパンしか描けん ふこーかけん
○○南郵便局のおじさん
Gelar

Rasha	P139他

ルパンのデッサン描けない…不二子しか描けん！どーしよ!!
片輪じゃ。くらい!!
全体的なストーリーうかばん。どーやってつなげよ…
そんなこんなでやっとでけた！見てやって下さい！
Rasha

Ray Guy	P34

ごめんなすって。Ray Guyでござんす。老舗の戯作本屋のJAS屋さんのご本にのっけて戴いたご恩は一生忘れやいたしやせんが、どうか絵師のなさけ、行かしてやっておくんなせえ。あっしゃあ、コミケじゃあ生きられねえんで、こう年をとっちゃあ、このごろはやりの戯作・翻案にゃ、ついちゃあいけねえ。どうせしがない根なし草さ。枕の旅の絵師、憂き世の海の浮草の波の間に間に浮き沈み。海原はるかにかよふ恋の旅路にふみまよひ、うまし国にもあきつ島。浮き世のいその荒波高くとも、冥途の飛脚と旅ゆく先は、海の彼方、地の果て、自由のうぶ声あげし街、いとしき街よフィラデルフィア。恋のみちゆきナイヤガラ音頭。
かくもはかなき人の世なれど矢立ての筆に身をまかせ、描(書)くほどに、憂き身の想いもはれなむことをこそ。ご無礼お許し下せえまし。
Thank you, Love you, So long! xx.

郁乃誠	P355

ごめんなさい ごめんなさい 多分私がドンケツです 愛さん許して下さい くっすんが おまけにワケのわからん話でごめんなさい とばすだけとばした私を笑って下さい 言いわけばかりでなさけない 郁乃誠でした

須良朱	P140他

ありゃ失敗、こりゃまた失敗ほれちょんぼ…という具合で原稿があがった時ぁ切りばりの嵐でもとの紙の面積よりも切って張った所の面積のほーがひろいという悲惨な状態…!
ああ・あぁあ〜!

次元さま
幼稚園からお慕い申しておりまする…須良朱!

鹿野真理	P111

うその白!
WALTHER P.38 COMMERCIAL
モデルガンを借して下さったいとこはスライドを引いたとこ ろがマニアにゃうけると言ったが私の技術がついていけなかった!(須良朱ごめんよぉ…コンバットマグは描けなかったんだぁ…)

まや かおる	P15他

あんまり、ルパンのキャラって、人様に見せたこと、ないんですが……
——うん、
実は次元が好きなんです。
まや かおる。

S.J	P397他

この本はステキです。本当です。ステキです。
P.S. 4本とも2〜5年前の作品でして、しっかりハジを知りました。(でも出すのよね!)
愛さん、今回もまともにできなくてゴメン!
じゃ、またね♡
"静岡の若隠居"コト
S.J

Lady	P386

ロットリングと、サインペンって、とーっても便利なものですねー♡
今まで Gペンしか使った事無いから——。
え、編集後記で?!
いーじゃないですか、後悔記になってしまうもの
ルパン命の Lady でした。

緑	P66他

イラスト&清書の必殺手伝人、縁(ゆかり)です。
次元さんと Bed-in したいなと思う今日この頃であります。
おっとー、ゴエさんを描くつもりが…♡

林美奈子	P.8

クラリスちゃん、もっとかわいく書いてあげたかったのに、似てなくてごめんなさい
頭に
ハルマゲドン
が激突!!の林

小林祐子	P60

わっ私のイラストが…載るなんて!ひえええ!
私はなんてかほー者なんでしょう!うっうれしい!
そのうえこのスペースをかりてしっかりCMまでするなんて…なんてずーずしい人間なんでしょう!
'83夏 KOBAと薬月蘭がムボーにも合同誌をだします。A5 70ページ前後。60円切手同封で下記まで。案内書送ります♡どうぞよろしくねっ!
とってもかほー者のKOBAでした♡ありぐぁとぉおっ!!

〒980
仙台市通町1の4の16 北ニ小林荘2F 小林祐子♡

樋口 紀美子　P.36他

情ないことに
穴うめイラストとも
何ともつかない
ものっきゃ描けませんでした。うえええん。
あのイラストは去年観た映画、グリフィン・オニール☆主演の「マジック・ボーイ」のダニーのイメージが『BOYS』のルパンのそれと重なって、なんとなく描いてみたものです。Rさま、まきぽんさま断わりもなしにすみません。ルパンはえらくガキになってますますにくたらしくなるし元の作品のスマートさをハデにギャバンダイナミックで破壊してしまいました（何を言ってるのだ私は）。もうぶってぶって。
ぶってついでにどなたか背景処理のし方教えて下さい。

めいっぱい悪い子★の
樋口紀美子

RASCAL　P.482

えと……ども、裸婦可流です……
毎度のことながら、完結しませんでした☺
まァ…下描きはボチボチやってるんですけど……
マ…早い話、これはもう、マスターベーション以外の何者でもないわけで……（こら、そこの娘あんましひらたく考えないよ〜た…♀）ど〜なることやら……マ、色々と今年は大変そ〜で、ウんム……ってェ処だけど、持病の突発性至福症と、酒と、○○ちゃんがいれば怨いものなしさっ！

どこが作家後記じゃ〜
愛…ブウッサリ切りました…（マア、切られたとゆーかも）耳の部分をくり抜くヘアースタイルは小学校以来でいっ…
へっへっへ〜 オレは硬派なんだすうぇ〜っ
たこつっやや♡

1983.2.15. AM 11:23.

しつこいなと思いはにも練絡とれなかった人ごめんなさい…

次頁から　CMです。

プリンス・ハイネ　P.334他

話し合い愛しあって
結局別れなければならない人もいる
そんな中で
あなたに、あえましたね。

だから
想いを
たくして…

五右で門のページです。

また五右で門かかせてね。

高師 ひとみ　P.39他

たのまれ画。

Ai.

緑陽社さん　印刷。

印刷屋だって人間だ!!
たまには早く帰りたい、眠たい、子供に会いたい、家でおいしい御飯も食べたい
（夕食はほかほか亭ののり弁当ばかりじゃ!?）
呪殺「愛」様

愛さんがもうしわけないという気持で書き添えた らしい手抜きカット

次回も、
次次回も、次次次回も、そして、ず〜〜っと緑陽社を利用して下さい。どんな無理にも耐えます。（注 らしいは気持ちにかかる）

浪花 愛　P.389他

わりこみ　わりこみ♫

なんで中年おじさんの話を２つも書くきになってしまったんだろう…。
なんで仕事のいっちゃん忙しい時に同人誌がくいこんでしまったんだろう…。
今回マモーが書けなかった　くすん〜

銀河旋風ブライガー特集号。
（3月下旬発行予定）

ぷらいがぁ

我がいとしきキッド、ボウィー、お町
ザクさんは… あたしんとこじゃ放送
してないのよ――っ!! でもブライガー
好きな奴らが集って。（そーでないのもいる
けど…）いとしき奴らを一冊の本に…

A5. 45P前後（テコみ）￥400

〒036 弘前市金属町2-19アパートA-3
福士方 森 志保ちゃん
まで。
よろしくぅ★ コビコビ

執筆者サマ★（順不同・敬略）
神谷悠生♥ かずたあゆこ♥
しいのみのぶ、海波静香、
宮崎恭、森志保、
遠海風、とやまのくずりうり 他…

￥400の無記名小為替でね♥

愛サマ、スペースありがとうございます！

本当は春出る予定だった2冊目の

KKK VARIENCE

たぶん夏までには出ます!!
見棄てずにお待ち下さいませ♡
A5版 100P前後
（価格は未定です。）

執筆人：Shimon-kei、塩沢ケイ
SATO、葛城まひと、彦姫
桃李遊、竹城麻衣子
槙村ゆうり、ゆう子、
紫藤真也 ―サマ方

興味のある方は、
60円切手同封の上
下記まで御一報を♡
〒332 埼玉県川口市西青木
2-11-9 霜越方 KKK

本を出さないいけないスタッフ達こらしめちゃうぞっ!!
およしなさいキッドちゃん!! みんなうれしがるだけよ♡
SATO 1983 Feb

アニメーションサークル

ルパン三世ファンクラブ

OFFICE GELAR

えーどもどもども… はじめまして！
発足してやっと1年というサークルです。
ルパンならなんでもあつかっていまして
3ヵ月ごとに会誌VISION（オフセット）
不定期に会報Animate（コピー）を発行しています。
詳しくは 〒830
久留米市御井町2438-7
O・G内
本村敬介まで…

会員さん募集中！

一部で大変好評を博した「カリオストロの城・ゆーびんやさん編」なんてのもあるんです。お知りになりたい方は上記までハガキ or 手紙にて…

うわ――っ！インクが散るよ――

Gelar

ルパン三世関連商品 販売セール!!

郵便振替をご利用したい方は…
東京1-67538
ルパン三世F.C事務局
こちらまでよろしく!!

1. 1983年版・カレンダー（B5版 1月～12月まで）折原みと氏，聖月秋氏他の作品で構成!!
2. Windless Blue II（B5版 120ページ・ルパン三世onlyの作品集）浪花燐氏，様好可奈氏，他。
3. ポスター各種（クラリス2種類：B4版，カリ・城・ラムダ＆マキ・旧ルパン2種類：B5版）
4. 1971（旧ルパン三世の本 B5版 40ページ）

｛以上4種類の商品を販売いたします。皆さん助けると思って買って下さいませ～～っ
で方法ですが品物代金はカワセにて！送料は切手にて下記の住所まで送って下さい。｝

〔代金〕 〔重量〕
1. 200円 ―― 60g（1セット）
2. 700円 ―― 260g（1冊）
3.（B4版サイズ）
1枚100円 ―― 15g（1枚）
（B5版サイズ）
2枚で50円 ―― 15g（2枚）
4. 300円 ―― 90g（1冊）

〔送料〕
100gまで170円
250gまで240円
500gまで350円
1kgまで700円

〔書籍小包〕
250gまで200円
500gまで250円
1kgまで300円

各商品のグラム数を名記しましたので それにあった送料を探しだして下さい。本だけの場合は書籍小包にてお送りします。尚，封筒は10gほどありますんで そのへんのところも考えて下さいネ。それではよろしくお願いしまァ～す!!
〒315 石岡市国府1-6-4
村田敦子 マデ!!

アニメFC『スペースXI（エックスワン）』会員募集中！

アニメーションの事について語りませんかっ?! 良い所は良い、悪い所は悪い、とはっきり言えるサークル♪
詳しくは60円切手同封の上、下記住所の「スペースX1」まで ヨロシクッ♥

ひらきなおって バクシンガー♡

アニメSTORY創作サークル

ぐるうぷ神出鬼没★ 隊士募集！

アニメ、まんが、小説、TVドラマetc.…の外伝を、又は、イメージやキャスティングをかえて描いちゃおう♡というサークルです。
楽しくおちょくるもよし、まじにシリアスで迫るもよし、読むだけって人も大歓迎!!（別冊でオリジナル集も発行予定です♡）詳しくは、60円切手同封の上、下記住所、「ぐるうぷ神出鬼没★」まで♡
2つ共、魔笛★良一が会長やっとります。
よろしくねっ♪

1983.2.25 BY.魔笛★良一

連絡先

〒260 千葉市千草台 2-2-13-409 行木方

アプリル・RASPBERRY

おまたせいたしました♡
ラズベリィ・シリーズ第2段！
くさいくらいに劇的に
ハリケーンしょって この夏参上!!

愛の仕掛人
ヤロール・あおい夢羽・F.BROWN♡
中原新也・藤原義人・石橋永盛.
知ったるものは思はず笑え、この恥知らずメンバー。

スペシャル・ゲスト♡ S.T さん

B5判オフセット 60ページ ¥650（送料と50円切手）

鉄郎とモモ便せんな おまけなんだと♡

〒154 世田谷区下馬4-8-11 さつき荘B
加藤 順子 まで♡

1983.2.27 F.BROWN

夏はサラシマン するのらねえっ♡

アニメ && マンガサークル♡Concerto☆
パロディ特集号っ♡

ORCHSTRA
ーオーケストラー

去年秋発行！などといいつつ、早5ヶ月…
つ…ついに出します。今春発行っ!!
とまあ、何だかんだとありましたが、100ページを超え、
内容も豊富なこの1冊っ!! アニメだけでなくマンガまでもパロッてしまった。多数のゲストをお迎えして、にぎにぎしく おおくりします♡

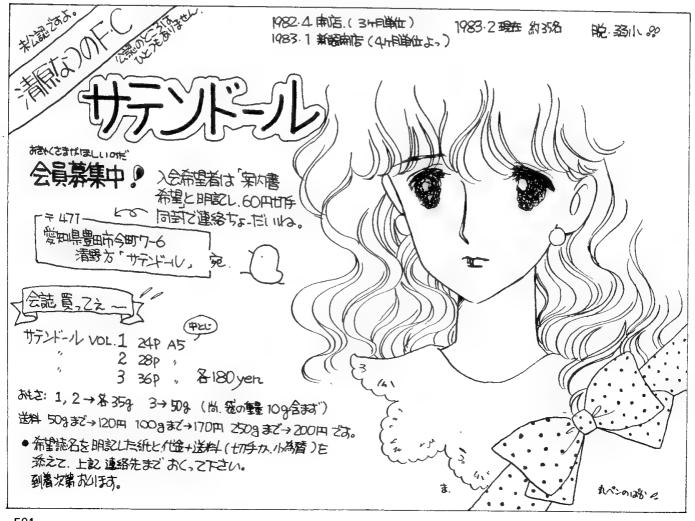
詳しい事は、
〒036 青森県弘前市城南3丁目1の7.
水木 伸子まで、60円切手同封の上で。
どうか よろしくっ♡

どーせ主役じゃないもん？

何故か カリ城ネタが 多かったっ♡

タツノコ＆アニメサークル

MARIN SATAN

なつかしの

ガッチャマンを中心としたサークルです。
最近は他アニメにも手を伸したりして。
モットーは『好きならいいじゃない♪』

VOL.6 —4月発行予定—
予価 600円（〒込み）

VOL.5 オフセット 74P
700円（〒込み）

どうぞよろしく♡
お申込みはこちらまで——

〒132 江戸川区江戸川6-25-1
江戸川ハイツ202号
林 美奈子

クラッシャー☆

あーもーいいかげんな字だっ

映画公開にあわせて3月末発行！
クラッシャージョウonlyの本（になるハズだったのに…ℓ でもクラッシャーがメインよっ！）
B5版 120ページ前後の予定，〒込み800円！
執筆者は 浪花愛，三条裕，まなみ翔，C.P. Ganlic，五月草，辻由美，のりこしたかし，上原あつよ，砂場金太郎，野々宮ミン，栃木県人，他，有名無名とりまぜての豪華メンバー♡
クラッシャー・ジョウファンのあなた！ この春見のがせない一冊ですよっ♡
今すぐ，無記名定額小為替同封の上，
〒202 保谷市北町5-1-10 大内アパート2号
辻由美まで，申し込んで下しゃんせっ♡
お待ちしてますす〜〜♡

愛くんありがとっ♡

ⅡG Comic　オリジナル・ストーリィズ！　（創作サークル"ⅡG"発行）

A5サイズ・90P程度　4月＆10月発行

〈執筆メンバー〉潮藍、薮功利、樋口紀美子、高師ひとみ、安積永盛、滝まさし＆S・J 他

コブラ　コブラ大好きクラブが送るオール・コブラの創作集♡

B5サイズ・100P程度　10月発行予定　（CDC発行）

〈執筆予定〉樋口紀美子、杉野まお、滝まさし、潮藍、S・J 他豪華メンバー♡

しりあすっ！　…S・Jのアニパロ集大成なんですよ、コレが☺　全7本立

A5サイズ・120P程度　10月発行予定　ズミマセン、遅れました☺

長編「カリオストロの城」と「イデ消滅」に燃えてます。イラストには多彩なゲストをお迎えする予定です♥
"嬉し恥ずかしヤオイ本"のオマケ付♡「貴方にも書ける!!クソ真面目!!ヤオイ話講座」がついてます。

予約受付中

申し込み用紙を御希望の方は60円切手を同封の上、
（〒420）静岡市伝馬町17-9 高野一 まで
実はおネダンがまだ決まってなかったりするっ☺ 用紙の発送は4月から開始しますので、もうしばらくお待ち下さい。どうぞヨロシク♡（文中、順不同・敬称略）

絵、絵がないっ☺

明るい我家の必需品「どれにしようかな」

むかあしむかし、私は「長崎加利帳FC」をつくりましたが皆知らんと、で、その後「昔のTVをなつかしむ会」をつくり友人、知人をひっぱり込み会長、副会長にしたてたものの会長は動く気配なし… が、ある日「マンガも入れて…」で、出来てみると昔のTVをなつかしむぺえじ（特撮番組とその他一般）よりオリジナル or パロディ小説、マンガetcの方が多かった…

「必殺とあしたのジョーどっちが暗いか」「太陽にほえろ！殉職刑事で誰が一番明るい死に方をしたか」などというバカな企画を出しましたのでみなさん意見下さい、その前に会員さんになってちょ。
海外文通したいけど相手が…という方も御連絡下さい。
何せうちはごちゃまぜサークルだから。

コリーシェルティの写真ゆずります。珍しい短毛のコリーの写真もあります。（うちで飼ってるんだもん）
本物のわんこがほしい方、会員さんには安くおゆずりします。
日本全国どこでも。
（Green Angel Kennel.）

ブルーのシェルティほしいなぁ。名前はもう決めてあるんだ。「ランジー」キャー。　by May.

〒766 香川県仲多度郡満濃町吉野下1233-1 下家真由美

PUSSE・CAFE'

世紀の恥かきペア 羽根けいこと盾乃誠
の合同誌なのです
「キャラクターみんな幸せでいてほしいね♡」という
思いをたてまえた 四苦八苦の1冊です★
83年6月末発行予定
A5版 100P以上★ 〒込み 800円★★
酔狂な方は上金額のカワセにて

〒921.金沢市平和町2-26-6,32-25
東元方
羽根けいこ
まで
どうぞよろしくしてやって下さいまし♡

BY makoto

烈 BAXINGAR!

Let's BAXINGER!

—Because of J9 II—

「キャーッ バクシンガー大好き！」のお人は無論,「ばくしんがあ?何じゃそりゃ」の御仁にも是非御覧あれ。内容充実 風味重厚ボリューム満点迫力絶大… とにかく！楽しめる1冊です まっことまっこと。

執筆陣 浪花愛・ひびき真里・三条裕・盾乃誠・竜あきら・神谷悠生
志生・滝・やぎざわ梨穂・あさくら真希・潮藍・萩原和幸
Blue-Lettuce・菊池一宏・諸羽鹿乃子・栄果・砂城優香・R
紫瀬澄水・橋口楔・河野小次郎 他

仕掛人&請合人 JET・留止
B5判 200~250P 送込1200円 8月発行予定
[お申し込みは郵便振替口座「横浜6-9769 留止」へ
月末日までにお近くの郵便局よりお振り込み下さい]
◎この夏は"烈! BAXINGAR!"で共に騒ごうぜ,YEAH！◎

JET

3冊めという声もあるが1.5はここでは忘れよう。

すくらんぶる はとるろいやる Seat.2

——浪花愛・JET. 合同誌——

♫ 本も二度めなら 少しは上手よ… のわんちって 合同誌も回を重ねて 2冊目、このたびは 内容も一新… するのだろーか。例によって ブライガー、バクシンガー &ルパンと 共通嗜好♡の 作品の他に今回は なんと! オリジナルなんてもんが 登場します♡ その他 原作とりかえっこ ストーリー、2人の 対比表なんつー わけのわからん バラエティも含めて 大増 120頁(B5版)! 7月末まで予約受付いたします♡

一冊 ¥700(送料込)、お申し込みは 郵便振替のみにて

東京4−91297 ぶらいがあFC いえいっ! まで……

なお お問いあわせは 〒167 杉並区本天沼1−3−5 まで 60円切手を貼った封筒つきで お願いいたします♡

(きゃ〜っ ≋ 書きわすれてたわ 通信欄に「すくばと○号」と 銘記して下さいねっ≋)

それでは You make me groovy 共にさわごうぜぃっ!… でございます。

(イモさがとりえよ ほっほっほっ)

せんでん CM

プリントショップ **緑陽社**

〒187 小平市上水本町1434 (桜堤バス停前)

☎0423-25-1947

この電話帳マンガを印刷した印刷屋でございます。
次回は広辞苑マンガに挑戦!……
したくないス;

毎度のことながら入稿が遅れに遅れて
錯乱状況に陥った緑陽社3人組

目次③

☆目的の作家がいる人のために☆

✩目的の作品がある人のために✩

イラストは省略します…

目次④

文…小説　マ…マンガ　エ…エッセイ　バ…バラエティ（楽しいな）

編集者 顧記…

総頁数 604、参加者 総勢（お手伝いの人も含め）106名。… これが 今回「陽のあたる大通りでII」の 結果です。参加人数の方は 今 頭パァだから 数えまちがい しているかも しれませんが、頁数の方は たぶん 変化しないことでしょう（印刷屋さんに 台風の直撃でも こない限りは）。こられてたまるか――っ!!

ほんとうに 有難うございました。

明日を 最終 版入日に控え、今これを 綴っておりますが 書きたいことが うんと沢山 あったはずなのに いざこうしてみると 何も書けません。いつも こうなんですよね。パァなんだから……

この本は、おそらく 同人誌としては（たぶん、今のところ）最高の厚さでしょう。ライターの 数も 一番多いのではないかと 思います。 600÷100＝6。 多く下さった方もいます。 それでも、ひとりひとりの方々が 文字通り 1頁1頁、積み重ねて下さった 結果なのです。 ちりも積もれば 何とやら。この本を ちりと 見るかは 貴方次第…… いかがでしょう。 よろしければ 御感想を下さいませ。心から お待ち申しあげております。もちろん、ライターの方宛にも 是非どうぞ。 なにせ この本 作りあげるのに 丸々一年 かかったのですからね。なあんにも 言ってもらえにゃ かいがない……

閑話休題。

今年…（あるいは去年） 全国的に かなりの規模で ルパンの再放送が ありましたね。御覧に なられた方も おられる ことでしょう。 … いえ… こんな お手紙を 何通か いただきました。 ―― 何年ぶりかで オープニングを 再び目にした時、不覚にも 涙が 流れるのを 押さえることが できませんでした… 自分は こんなにも ルパンが 好きだったのかと 自分自身に 驚いています…――。

別に 私は 彼らあての 手紙を司どる マネージャーでも 何でも ありません。それどころか おそらく ルパン 愛好者（ファン）に なったのも この本の 人々の内 誰よりも 遅い ことでしょう。そして、ルパン自身が 感極っての 男泣きなんて なぁんか 気持ちわりーよと 言ってます。

新のあの黄金の大砲の時。五右ェ門さんが 沖田総二の子孫と たちまわりしたでしょ？ うっ複雑。

それでも、今回だけは ルパンに 勘弁してもらいたい。そして 伝えてみたいです。 ―― 聞こえますか。 私たちは こんなにも あなたたちが 好きなのです―― ……

…

書くことで 何が 伝わるのでしょう。何が 残るのでしょう。 … そんなこと

JAS 決済☆（58年3月現在の予定）

支出

項目	金額
印刷費（見積）	（1200部刷） 1,620,000,―
袋代（発送用特製）	（@50×1200） 60,000,―
作者分送料	（@350×110） 38,500,―
雑 送料（見積）	（コミケ、地方コミケ等） 20,000,―
雑費（コピー等 ㊫含む）←見当!	20,000,― もっと多いな〜…
合計	1,758,500,―

収入（110部 作者用、90部 事故用予備）

領価 ¥1700×1000部

1,700,000,―

差引 △58,500,―

赤字でおま。完売できたとしても…

（ルパンの本だから 売れんだろーなー）

考えてみても仕方のないことなのかもしれません。それでも、私は声を出してみたいと思いました。
クラリスにはなれないけれど手紙は書けます。106名の、(違う数かも〜)男も女も、中学生も社会人も、北海のほとりの人も南の山の人も、みなそれぞれに思った方法で書いてみた手紙。客観視した時拙いうまいだけが目についてしまうかもしれません。それでも、…思います。黙って記憶のすみにおしやるよりは唖でも叫んだ方がいい。そのまま風に消されてしまっても。
ただ綴じるだけの作業をさせて頂いた私ですが、つくづく皆様のお心尽しを有難く思います。こんな私の勝手な言い分に、これだけの心を寄せて下さいましたこと。
うまく言えません。ただ、ありがとうございました。もし、誰か、私より先にルパン達とすれ違ったら言ってやって下さい。とんでもない奴だよあんたは、こんなにたくさん足跡残して…って。

── こまかいこと・・・

……くどいようですが、ごめんなさい〜 えーっと、創作集その3のことですが、これは皆様(通信販売でIを買われた方のみ…ですが〜)に配りましたチラシにも書きました通り出ません。なぜかと言いますに先に書きました、あの光々しいまでの赤字がまず決済できるとは思えないからです。大体(こんなとこに書くべきことじゃないけど)売れる同人誌、売れない同人誌というのは確かにあるわけでして、その6割までが選んだ作品で決定されるわけ。で、ルパンというのは、はっきり言って売れない!!のです。完売さえすれば赤字も万単位ですみますが、正直なところそれも危ぶんでおります。それで何で1200部も刷るのかといいますと、単価を下げるためです。小部数で同じ単価でも、多分赤字は増すだけでしょう。… あとは本の山に埋もれて死ぬだけよ ふん〜 いいんです。お金でカタがつくことならばひらき直ればすむことだもの。…… でも、さすがに③を出す余力はないような気がする…
水樹涼さんの「ルパン連邦共和国」というサークルでほぼ定期的に創作集を出していますから余力のある方、或いは志を続けられたい方はどうぞそちらへ声をかけてみて下さい。(ごめん〜勝手にCMしちゃった)また、「自分達でやってみたい」と思う方は、どうぞ頑張ってやって下さい。無責任な発言にとれるかもしれませんがここでつられて「また出しますよー」なんて言うのはもっと無責任だもの。
… まぁ、一年かけて創作集のIが850部完売できただけでも感動ものですものね。
そういう同人誌界(とこ)だから…‥
それとこの本には生まれてはじめて絵を描いた(多分学校の授業以外に)という人が何人かいらっしゃいます。同人誌界の引退表明後の人もおられます。ごめんねー〜 かなりのハードなスケジュールを押しつけるはめになってしまった人も、書いて送ったはいいけどその後印刷されるまでかなりの間待たされた人も(大多数がそう)〜… みんなみんなごめんなさいっ!!〜
この恥もこれがラストです。長い長い読書を御苦労さま。
また なにかで互いにめぐりあうチャンスのある時まで……

浪花愛 拝 58年3月.

不二子「もし桃(タイムマシン)がみっかったら どこへ行く気!?」

ルパン「そうだな オレの誕生日をさがしに過去にでも行くか…!!

五右ェ門!! お前えならどうする!!」

五右ェ門「かんたんだ!! オレを身ごもった瞬間のオフクロに会って こういうだろうな…

『オレを生まないでくれ』…って!!」

ルパン「次元は!?」

次元「…いいたかねェ」

ルパン「不二子ちゃんは」

不二子「ぜったいに未来よ!!

そしてアナタ達の死にざまをこの目でとっくりと拝見したいわ」

ルパン「なるほど一番ユニークだ がははは」

——単行本 新ルパン三世㉑
バッド・シティ篇より

…それでも私達はいつまでも待ってるよ
年年歳歳 私達の人生を生きながら…

ルパン三世 創作作品集「陽のあたる大通りで」II
昭和58年4月2日 発行
ぐるうぷ JAS
(発行責任者 浪花愛)
〒167 杉並区本天沼 1-3-5
印刷・緣陽社
Tel 0423 (25) 1947

あ…
わり
ニセ
1000
ニセ札
by
旧
series
10話より
1000
ニセ札
ニセ札